茨城県教育財団文化財調査報告第159集

中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ

中原遺跡 2
（下　巻）

平成12年3月

都市基盤整備公団茨城地域支社
財団法人　茨城県教育財団

210231
Ts66
2-2
NK

茨城県教育財団文化財調査報告第159集

中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ

中原（なかはら）遺跡 2
（下　巻）

平成12年3月

都市基盤整備公団茨城地域支社
財団法人　茨城県教育財団

寄贈
歴史・人類学系
平成　年　月　日

00605677

目　　次

―下　巻―

3　奈良・平安時代の遺構と遺物 ……373
(1)　竪穴住居跡 ……373
(2)　掘立柱建物跡 ……401
(3)　土坑 ……460
(4)　柱穴列・柱穴群 ……477
(5)　遺構外出土遺物 ……483
4　その他の遺構と遺物 ……485
(1)　掘立柱建物跡 ……485
(2)　土坑 ……487
(3)　柱穴群 ……516
(4)　溝 ……521
(5)　遺構外出土遺物 ……523
第4節　まとめ ……523
中原遺跡遺構一覧 ……534
写真図版

挿　図　目　次

第274図　第218号住居跡実測図 …… 374
第275図　第218号住居跡出土遺物実測図 …… 375
第276図　第219号住居跡実測図 …… 376
第277図　第219号住居跡出土遺物実測図 …… 377
第278図　第220号住居跡実測図 …… 378
第279図　第220号住居跡出土遺物実測図 …… 379
第280図　第221号住居跡実測図 …… 382
第281図　第221号住居跡出土遺物実測図 …… 383
第282図　第222号住居跡実測図 …… 384
第283図　第222号住居跡出土遺物実測図 …… 385
第284図　第223号住居跡実測図 …… 386
第285図　第223号住居跡出土遺物実測図 …… 387
第286図　第224号住居跡実測図 …… 389
第287図　第224号住居跡出土遺物実測図(1) …… 391
第288図　第224号住居跡出土遺物実測図(2) …… 392
第289図　第225号住居跡実測図 …… 394
第290図　第225号住居跡出土遺物実測図 …… 395
第291図　第226号住居跡実測図 …… 396
第292図　第226号住居跡出土遺物実測図 …… 397
第293図　第227号住居跡実測図 …… 397
第294図　第227号住居跡出土遺物実測図 …… 398
第295図　第228号住居跡実測図 …… 398
第296図　第228号住居跡出土遺物実測図 …… 399
第297図　第300号住居跡実測図 …… 400
第298図　第42号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …… 401
第299図　第42号掘立柱建物跡実測図 …… 402
第300図　第43号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …… 403
第301図　第43号掘立柱建物跡実測図(1) …… 404
第302図　第43号掘立柱建物跡実測図(2) …… 405
第303図　第44号掘立柱建物跡実測図 …… 406
第304図　第44号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …… 407
第305図　第45号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …… 407
第306図　第45号掘立柱建物跡実測図(1) …… 408
第307図　第45号掘立柱建物跡実測図(2) …… 409
第308図　第46号掘立柱建物跡実測図 …… 410
第309図　第47号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …… 411
第310図　第47号掘立柱建物跡実測図 …… 412
第311図　第48号掘立柱建物跡実測図 …… 413
第312図　第49号掘立柱建物跡実測図 …… 415
第313図　第50号掘立柱建物跡実測図 …… 416
第314図　第52号掘立柱建物跡実測図 …… 417
第315図　第53号掘立柱建物跡実測図 …… 419
第316図　第54号掘立柱建物跡実測図 …… 420
第317図　第55号掘立柱建物跡実測図 …… 422
第318図　第56号掘立柱建物跡実測図 …… 423
第319図　第57号掘立柱建物跡実測図 …… 424
第320図　第57号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …… 425
第321図　第58号掘立柱建物跡実測図 …… 426

第322図　第59号掘立柱建物跡実測図 …… 427
第323図　第60号掘立柱建物跡出土遺物実測図 … 428
第324図　第60号掘立柱建物跡実測図 …… 428
第325図　第61号掘立柱建物跡実測図 …… 430
第326図　第61号掘立柱建物跡出土遺物実測図 … 431
第327図　第62号掘立柱建物跡出土遺物実測図 … 431
第328図　第62号掘立柱建物跡実測図(1) …… 432
第329図　第62号掘立柱建物跡実測図(2) …… 433
第330図　第62号掘立柱建物跡実測図(3) …… 434
第331図　第63号掘立柱建物跡実測図 …… 435
第332図　第64号掘立柱建物跡実測図 …… 436
第333図　第64号掘立柱建物跡出土遺物実測図 … 437
第334図　第65号掘立柱建物跡出土遺物実測図 … 437
第335図　第65号掘立柱建物跡実測図(1) …… 438
第336図　第65号掘立柱建物跡実測図(2) …… 439
第337図　第66号掘立柱建物跡実測図 …… 440
第338図　第66号掘立柱建物跡出土遺物実測図 … 441
第339図　第67号掘立柱建物跡出土遺物実測図 … 441
第340図　第67号掘立柱建物跡実測図 …… 442
第341図　第68号掘立柱建物跡実測図 …… 443
第342図　第68号掘立柱建物跡出土遺物実測図 … 444
第343図　第69号掘立柱建物跡実測図 …… 445
第344図　第70号掘立柱建物跡実測図 …… 446
第345図　第71号掘立柱建物跡実測図(1) …… 448
第346図　第71号掘立柱建物跡実測図(2) …… 449
第347図　第72号掘立柱建物跡実測図 …… 450
第348図　第73号掘立柱建物跡実測図 …… 451
第349図　第75号掘立柱建物跡出土遺物実測図 … 452
第350図　第75号掘立柱建物跡実測図 …… 452
第351図　第76号掘立柱建物跡実測図 …… 453
第352図　第77号掘立柱建物跡実測図 …… 454
第353図　第77号掘立柱建物跡出土遺物実測図 … 455
第354図　第78号掘立柱建物跡実測図 …… 456
第355図　第79号掘立柱建物跡実測図 …… 457
第356図　第79号掘立柱建物跡出土遺物実測図 … 458
第357図　第80号掘立柱建物跡出土遺物実測図 … 458
第358図　第80号掘立柱建物跡実測図 …… 459
第359図　第417号土坑実測図 …… 461
第360図　第417号土坑出土遺物実測図(1) …… 462
第361図　第417号土坑出土遺物実測図(2) …… 463
第362図　第419号土坑・出土遺物実測図 …… 464
第363図　第443号土坑実測図 …… 465
第364図　第443号土坑出土遺物実測図 …… 466
第365図　第602号土坑出土遺物実測図 …… 467
第366図　第602号土坑実測図 …… 467
第367図　第606号土坑実測図 …… 468
第368図　第606号土坑出土遺物実測図 …… 469
第369図　第615号土坑・出土遺物実測図 …… 470
第370図　第623号土坑実測図 …… 470
第371図　第623号土坑出土遺物実測図 …… 471
第372図　第631号土坑・出土遺物実測図 …… 472
第373図　第633号土坑・出土遺物実測図 …… 473
第374図　第635号土坑実測図 …… 473
第375図　第635号土坑出土遺物実測図 …… 474
第376図　第720号土坑実測図 …… 475
第377図　第720号土坑出土遺物実測図 …… 476
第378図　第640・652・653・656～658・
670・681号土坑実測図 …… 477
第379図　第１・３号柱穴列実測図 …… 478
第380図　第２号柱穴列実測図 …… 479
第381図　第４号柱穴列実測図 …… 480
第382図　第４号柱穴列出土遺物実測図 …… 480
第383図　第３号柱穴群実測図 …… 481
第384図　第４号柱穴群実測図 …… 482
第385図　遺構外出土遺物実測図
(奈良･平安時代－１) …… 483
第386図　遺構外出土遺物実測図
(奈良･平安時代－２) …… 484
第387図　第74号掘立柱建物跡実測図 …… 486
第388図　その他の土坑実測図(ⅡＢ区－１) …… 487
第389図　その他の土坑実測図(ⅡＢ区－２) …… 489
第390図　その他の土坑実測図(ⅡＢ区－３) …… 491
第391図　その他の土坑実測図(ⅡＢ区－４) …… 492
第392図　その他の土坑実測図(ⅡＢ区－５) …… 493
第393図　その他の土坑実測図(ⅡＢ区－６) …… 494
第394図　その他の土坑実測図(Ⅲ区－１) …… 495
第395図　その他の土坑実測図(Ⅲ区－２) …… 496
第396図　その他の土坑実測図(Ⅲ区－３) …… 497
第397図　その他の土坑実測図(Ⅳ区－１) …… 499
第398図　その他の土坑実測図(Ⅳ区－２) …… 501
第399図　その他の土坑実測図(Ⅳ区－３) …… 503
第400図　その他の土坑実測図(Ⅳ区－４) …… 504
第401図　その他の土坑実測図(Ⅳ区－５) …… 505
第402図　その他の土坑実測図(Ⅳ区－６) …… 506
第403図　その他の土坑実測図(Ⅴ区－１) …… 507
第404図　その他の土坑実測図(Ⅴ区－２) …… 509
第405図　その他の土坑実測図(Ⅴ区－３) …… 510
第406図　その他の土坑実測図(Ⅴ区－４) …… 511
第407図　その他の土坑実測図(Ⅴ区－５) …… 512
第408図　その他の土坑実測図(Ⅴ区－６) …… 513

第409図　その他の土坑実測図(Ⅴ区－７) …… 514
第410図　その他の土坑出土遺物実測図 …… 515
第411図　第１号柱穴群実測図 …… 516
第412図　第５号柱穴群実測図 …… 517
第413図　第６号柱穴群実測図 …… 518
第414図　第６号柱穴群実測図 …… 519
第415図　第７号柱穴群実測図 …… 520
第416図　第12･13･15～17･21～25号
　　溝土層断面図 …… 522
第417図　遺構外出土遺物実測図(中･近世) …… 523
付　　図　中原遺跡(ⅡＢ～Ⅴ区)全体図

表　目　次

表８　住居跡一覧表 …… 534
表９　掘立柱建物跡一覧表 …… 536
表10　土坑一覧表 …… 537
表11　柱穴列・柱穴群一覧表 …… 541
表12　溝一覧表 …… 542

写真図版目次

ＰＬ１　旧石器時代出土遺物(1)
ＰＬ２　旧石器時代出土遺物(2)，縄文時代出土遺物（石器）
ＰＬ３　縄文時代出土遺物（縄文土器）
ＰＬ４　第91号住居跡竈遺物出土状況，第92号住居跡
ＰＬ５　第94号住居跡竈遺物出土状況，第93・96号住居跡
ＰＬ６　第97・98号住居跡
ＰＬ７　第94・99・102号住居跡
ＰＬ８　第104・105号住居跡
ＰＬ９　第106号住居跡竈遺物出土状況，第107号住居跡竈遺物出土状況
ＰＬ10　第108・109号住居跡
ＰＬ11　第110・118号住居跡，第111号住居跡
ＰＬ12　第112号住居跡，同竈遺物出土状況
ＰＬ13　第113・115号住居跡
ＰＬ14　第117・119号住居跡
ＰＬ15　第90・120号住居跡，第121号住居跡
ＰＬ16　第123・124号住居跡
ＰＬ17　第126・127号住居跡
ＰＬ18　第128・130号住居跡
ＰＬ19　第131・133号住居跡
ＰＬ20　第134号住居跡，第136・137・144号住居跡
ＰＬ21　第138・139号住居跡
ＰＬ22　第145・146号住居跡
ＰＬ23　第146号住居跡竈遺物出土状況，第149号住居跡
ＰＬ24　第151・153号住居跡
ＰＬ25　第154号住居跡，同竈遺物出土状況
ＰＬ26　第155号住居跡，同竈遺物出土状況
ＰＬ27　第157号住居跡，第158号住居跡竈遺物出土状況
ＰＬ28　第161・162号住居跡
ＰＬ29　第164号住居跡竈西袖遺物出土状況，同竈東袖遺物出土状況
ＰＬ30　第165・166号住居跡
ＰＬ31　第167・168号住居跡
ＰＬ32　第169号住居跡，第170・171号住居跡
ＰＬ33　第171号住居跡遺物出土状況，同銅鋺出土状況
ＰＬ34　第172号住居跡，第174号住居跡・第48号掘立柱建物跡Ｐ５
ＰＬ35　第175号住居跡，第177号住居跡竈遺物出土状況Ｐ５
ＰＬ36　第178・180号住居跡
ＰＬ37　第183・184号住居跡
ＰＬ38　第185号住居跡，同竈遺物出土状況
ＰＬ39　第188・190号住居跡
ＰＬ40　第201・204号住居跡
ＰＬ41　第205号住居跡，同竈遺物出土状況
ＰＬ42　第206・207号住居跡
ＰＬ43　第207号住居跡掘り方完掘状況，第208号住居跡
ＰＬ44　第208号住居跡竈遺物出土状況，第211号住居跡
ＰＬ45　第212号住居跡・竈遺物出土状況
ＰＬ46　第213号住居跡・竈遺物出土状況
ＰＬ47　第214号住居跡・遺物出土状況
ＰＬ48　第215号住居跡竈遺物出土状況，第216号住居跡
ＰＬ49　第217号住居跡竈遺物出土状況，第220号住居跡

ＰＬ 50　第220号住居跡竈遺物出土状況，第223号住居跡竈遺物出土状況
ＰＬ 51　第223号住居跡竈遺物出土状況，第224号住居跡
ＰＬ 52　第224号住居跡遺物出土状況，第225号住居跡
ＰＬ 53　第42号掘立柱建物跡柱痕確認状況，第43・44号掘立柱建物跡
ＰＬ 54　第45・48号掘立柱建物跡柱痕確認状況，第46号掘立柱建物跡
ＰＬ 55　第50号掘立柱建物跡柱痕確認状況，第52・53号掘立柱建物跡
ＰＬ 56　第53号掘立柱建物跡柱痕確認状況，第55～57号掘立柱建物跡
ＰＬ 57　第59・60号掘立柱建物跡，第60号掘立柱建物跡柱痕確認状況
ＰＬ 58　第62号掘立柱建物跡柱痕確認状況，第62・63号掘立柱建物跡
ＰＬ 59　第64～66号掘立柱建物跡
ＰＬ 60　第66・68号掘立柱建物跡柱痕確認状況，第68号掘立柱建物跡
ＰＬ 61　第60～70号掘立柱建物跡，第71号掘立柱建物跡柱痕確認状況
ＰＬ 62　第73・74号掘立柱建物跡，第75号掘立柱建物跡柱痕確認状況
ＰＬ 63　第76～78号掘立柱建物跡，第78号掘立柱建物跡柱痕確認状況
ＰＬ 64　第417・443・625・720号土坑，第417・623号土坑遺物出土状況
ＰＬ 65　第４号柱穴列・遺物出土状況，第３号柱穴群，第12・13・15・21・24号溝
ＰＬ 66　第91・92号住居跡出土遺物
ＰＬ 67　第92・94・96・97号住居跡出土遺物
ＰＬ 68　第98・104～107号住居跡出土遺物
ＰＬ 69　第108～110・112号住居跡出土遺物
ＰＬ 70　第115～119号住居跡出土遺物
ＰＬ 71　第120・121・123・128・129・131・134号住居跡出土遺物
ＰＬ 72　第134～137号住居跡出土遺物
ＰＬ 73　第137～140・143・145・146号住居跡出土遺物
ＰＬ 74　第147・148・153・154号住居跡出土遺物
ＰＬ 75　第157・160～162号住居跡出土遺物
ＰＬ 76　第163～165号住居跡出土遺物
ＰＬ 77　第167～169・171・174号住居跡出土遺物
ＰＬ 78　第175・177・180・183・185号住居跡出土遺物
ＰＬ 79　第185・188・192・193・200・201号住居跡出土遺物
ＰＬ 80　第201・204・205号住居跡出土遺物
ＰＬ 81　第206・207号住居跡出土遺物
ＰＬ 82　第207・208号住居跡出土遺物
ＰＬ 83　第208・209号住居跡出土遺物
ＰＬ 84　第209・210号住居跡出土遺物
ＰＬ 85　第210～212号住居跡出土遺物
ＰＬ 86　第212号住居跡出土遺物
ＰＬ 87　第213～215号住居跡出土遺物
ＰＬ 88　第217・218号住居跡出土遺物
ＰＬ 89　第219～221・223・224号住居跡出土遺物
ＰＬ 90　第224～227号住居跡出土遺物
ＰＬ 91　第61・68号掘立柱建物跡，第417・419・443号土坑出土遺物
ＰＬ 92　第443・606・631・633・635・720号土坑出土遺物
ＰＬ 93　第720号土坑，遺構外出土遺物
ＰＬ 94　出土石製品（紡錘車）
ＰＬ 95　出土石製品（砥石）
ＰＬ 96　出土石製品（砥石）
ＰＬ 97　出土石塊
ＰＬ 98　出土土製品（紡錘車・土玉・土錘）
ＰＬ 99　出土土製品（支脚）
ＰＬ100　出土土製品（支脚）
ＰＬ101　出土金属製品（短刀・刀子）
ＰＬ102　出土金属製品（短刀・刀子）
ＰＬ103　出土金属製品（短刀・刀子・手鎌）
ＰＬ104　出土金属製品（手鎌・鋸・鉸具・鉈尾・火打金・銅鋺）
ＰＬ105　出土金属製品（紡錘車・鉄斧・閂・釘・簪）
ＰＬ106　出土金属製品（鉄鏃）
ＰＬ107　出土金属製品（不明鉄製品）
ＰＬ108　出土金属製品（不明鉄製品）
ＰＬ109　出土金属製品（不明鉄製品・不明金銅製品・椀状滓）
ＰＬ110　出土瓦
ＰＬ111　出土瓦
ＰＬ112　出土瓦
ＰＬ113　出土瓦，馬歯，炭化種子
ＰＬ114　出土瓦

3　奈良・平安時代の遺構と遺物

（1）竪穴住居跡

第218号住居跡（第274・275図）

位置　調査Ⅲ区の西部，Ｄ７h6区。

重複関係　本跡が第219号住居跡を掘り込んでいることから，本跡が新しい。また，第217号住居と第24号溝に掘り込まれていることから，いずれよりも本跡が古い。

規模と平面形　長軸5.92m，短軸5.66mの方形である。

主軸方向　N－4°－E

壁　壁高は22～35cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　北壁を除き巡っている。上幅16～24cm，下幅２～12cm，深さ10～22cmで，断面形はU字形である。

床　全面が平坦で，中央部がよく踏み固められている。西半分が12cmほどロームを掘り残して盛り上がり，ベッド状を呈している。

竈　北壁中央部に，壁外へ102cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部まで158cm，両袖幅180cmである。火床部は，床面を４cmほど掘りくぼめている。火床面は火熱を受け，煙道部奥にかけて，赤変硬化している。煙道は緩やかに外傾して立ち上がる。第275図６の須恵器鉢が西袖の補強材として使用されている。

竈土層解説

1	にぶい赤褐色	焼土粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量
2	暗赤褐色	焼土粒子少量，炭化粒子・粘土小ブロック微量
3	にぶい赤褐色	焼土粒子中量，粘土粒子少量，炭化粒子微量
4	暗赤褐色	炭化粒子中量，焼土粒子少量，粘土粒子微量
5	にぶい赤褐色	焼土大ブロック・灰多量，焼土粒子中量，炭化粒子少量
6	にぶい黄褐色	粘土粒子中量
7	黄褐色	砂・粘土粒子少量
8	にぶい黄褐色	粘土粒子中量，炭化粒子・焼土粒子少量
9	褐　色	焼土小ブロック・砂少量
10	褐　色	焼土中ブロック・砂少量
11	にぶい赤褐色	焼土粒子中量，炭化粒子少量
12	赤褐色	焼土中ブロック中量，炭化粒子少量
13	灰褐色	焼土小ブロック少量，炭化粒子・砂微量

ピット　２か所（Ｐ1・Ｐ2）。Ｐ1とＰ2はそれぞれ長径67cm・76cm，短径61cm・70cmの楕円形で，深さ50cm・62cmである。竈の両袖手前に位置していることから，主柱穴と考えられる。

ピット土層解説

1	暗褐色	焼土粒子微量
2	暗褐色	焼土粒子少量，炭化粒子微量
3	褐　色	ローム粒子微量
4	褐　色	ローム小ブロック少量

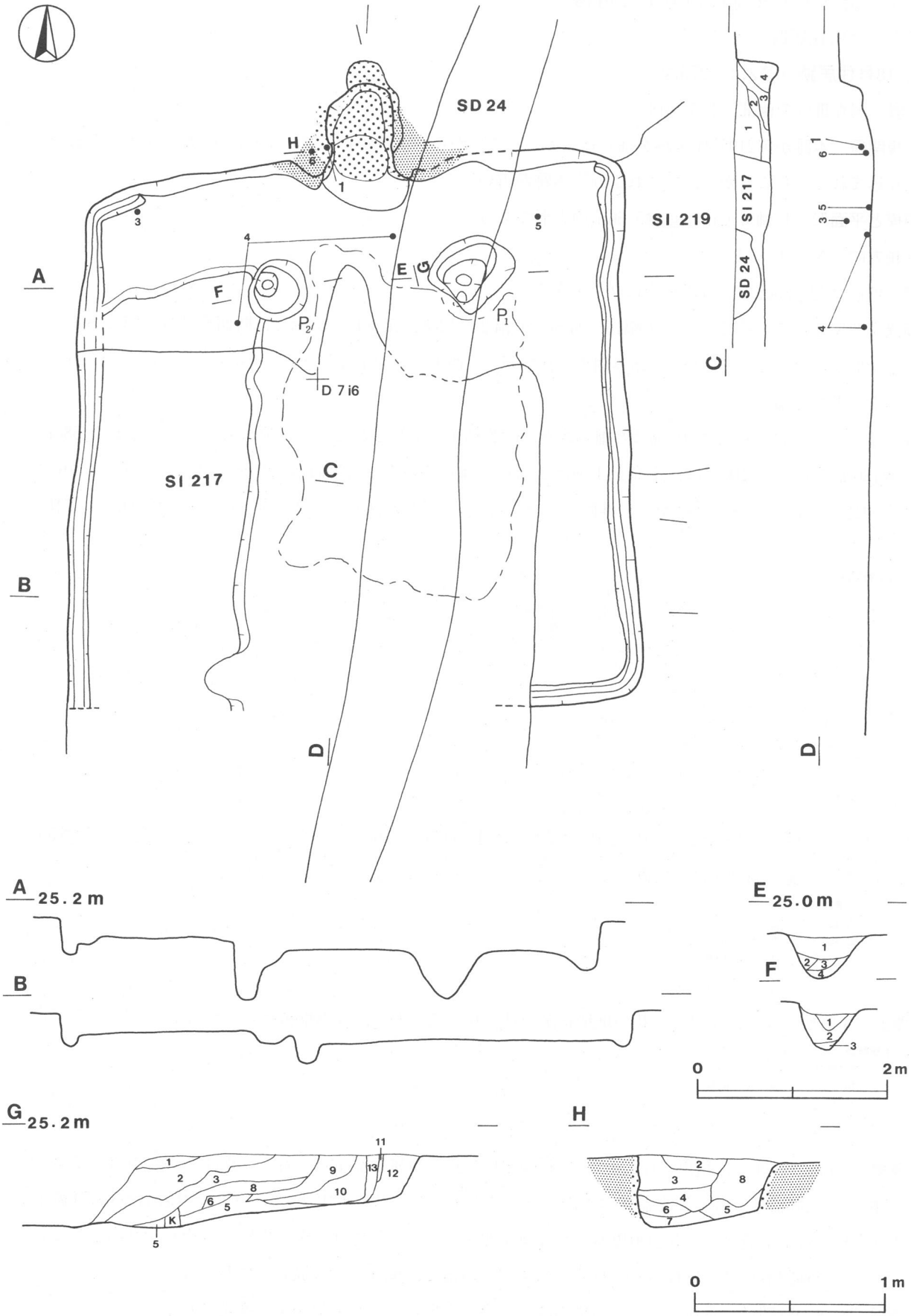
覆土　４層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と思われる。

土層解説

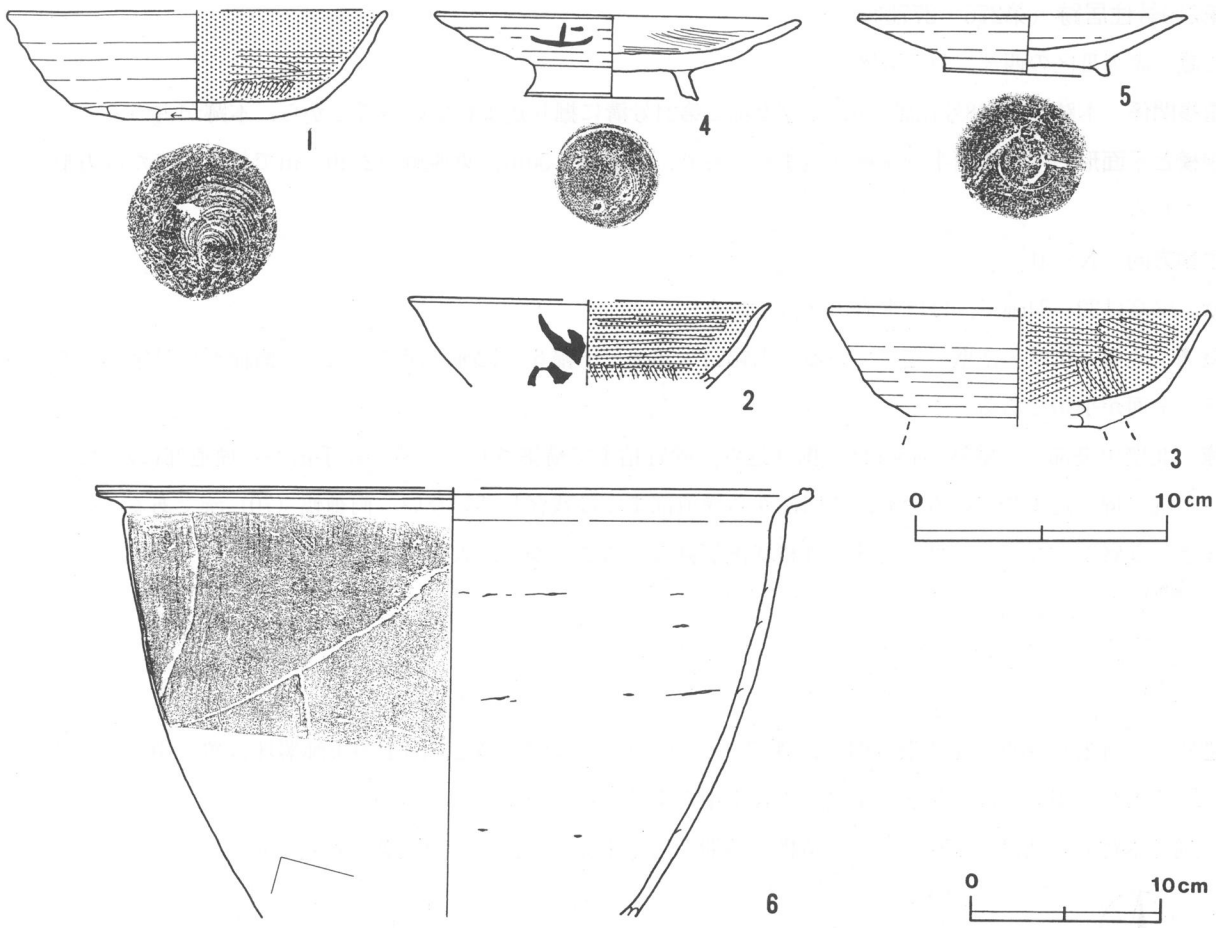
1	暗褐色	ローム粒子少量
2	褐　色	焼土粒子微量
3	暗褐色	ローム小ブロック・焼土粒子微量
4	褐　色	ローム小ブロック少量

遺物　土師器片400点，須恵器片220点，灰釉陶器片１点，金属製品１点（釘），鉄滓２点が出土している。第275図１の土師器坏と６の須恵器鉢は竈内から，２の土師器坏は覆土中から，４の土師器高台付皿は竈手前と西壁寄りの覆土下層から，５の須恵器高台付皿は北東コーナー部寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。出土した灰釉陶器片は，猿投窯産（折戸53号窯式）の椀で，撹乱による混入と思われる。

時期　本跡の時期は，重複している遺構の時期と出土土器から，９世紀後葉と推定される。



第274図　第218号住居跡実測図



第275図　第218号住居跡出土遺物実測図

第218号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第275図 1	坏 土師器	A [14.8] B 4.3 C 5.8	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がり，わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位手持ちヘラ削り。体部から底部内面ヘラ磨き。底部回転糸切り痕を残す手持ちヘラ削り。内面黒色処理。	長石　雲母　砂粒 にぶい橙色 普通	30%　P644 竈内
2	坏 土師器	A [14.2] B (2.4)	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がり，わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。口縁部から底部内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	雲母　砂粒 にぶい黄橙色 普通	10%　P658 体部外面墨書・ 判読不能 覆土中
3	高台付坏 土師器	A [14.8] B (4.6)	底部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がり，外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。口縁部から底部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。高台貼り付けの痕跡有り。内面黒色処理。	石英　雲母　砂粒 にぶい橙色 普通	30%　P659 覆土下層 (北西コーナー部)
4	高台付皿 須恵器	A 14.2 B 3.2 D 6.8 E 1.2	高台部から口縁部の破片。高台は長く，「ハ」の字状に開く。体部から口縁部にかけ，内彎気味に開き，わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。口縁部から底部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け，ロクロナデ。内面黒色処理。	雲母　砂粒 褐色 普通	60%　P660　PL88 口縁部・体部外面墨書 「上」 覆土下層 (竈手前,西壁寄り)
5	高台付皿 須恵器	A 12.8 B 2.6 D 6.5 E 0.6	体部と口縁部の一部欠損。高台は短く，「ハ」の字状に開く。体部から口縁部にかけ，直線的に開き，わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け，ロクロナデ。	石英　砂粒　礫 灰黄色 普通	80%　P661　PL88 覆土下層 (北東コーナー部)
6	鉢 須恵器	A [37.4] B (22.3)	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反し，つまみ上げられ，棒状工具による凹線を巡らす。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面平行叩き，下位ヘラ削り。体部内面輪積み痕。	長石　石英　雲母 砂粒 にぶい橙色 普通	30%　P662 竈内 (西袖内)

第219号住居跡（第276・277図）

位置　調査Ⅲ区の西部，Ｄ７h7区。

重複関係　本跡は第218号住居，第679号土坑と第24号溝に掘り込まれていることから，本跡が古い。

規模と平面形　本跡の西半分を掘り込まれており，南北軸3.50m，東西軸（2.40）mで長方形または方形と推定される。

主軸方向　Ｎ－０°

壁　壁高は32～34cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　北壁・東壁・南壁を巡っている。上幅24～36cm，下幅６～12cm，深さ４cmで，断面形はＵ字形である。

床　全面が平坦である。

竈　北壁中央部に，壁外へ45cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。竈手前から煙道部にかけ，第679号土坑に掘り込まれているため，焚口部から煙道部までは残存していない。両袖幅（70）cmである。

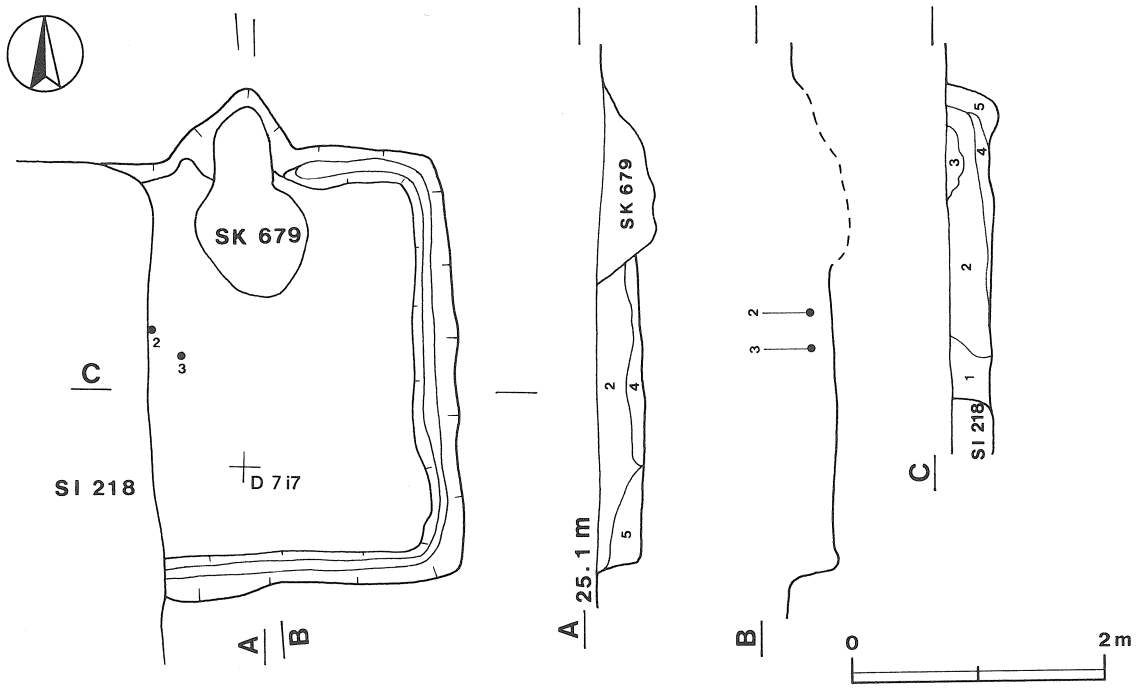
覆土　５層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と思われる。

土層解説

1　暗褐色　焼土粒子中量
2　褐　色　ローム小ブロック少量
3　暗褐色　ローム粒子微量
4　暗褐色　ローム小ブロック微量
5　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量

遺物　土師器片76点，須恵器片64点，鉄滓３点が出土している。第277図１の土師器坏は覆土中から，２の須恵器坏と３の須恵器高台付坏は中央部の覆土中からそれぞれ出土している。

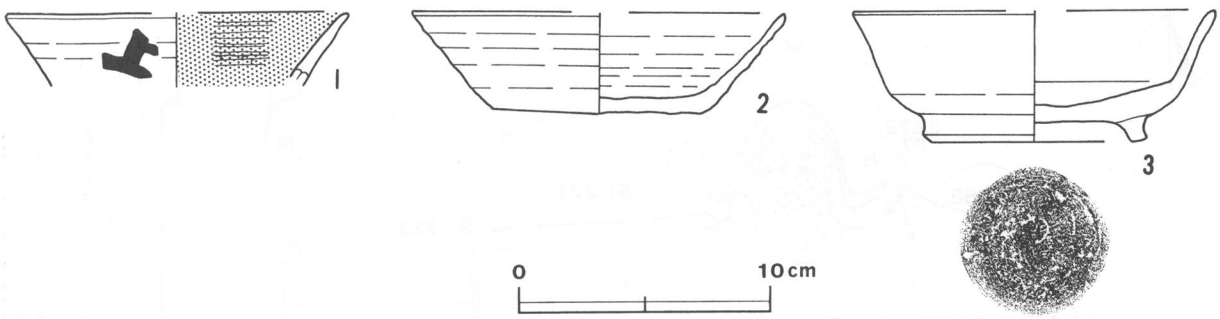
時期　本跡の時期は，重複している遺構の時期と出土土器から，８世紀後葉と推定される。



第276図　第219号住居跡実測図

第219号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第277図 1	坏 土師器	A［14.0］ B（2.6）	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がり，わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	石英　砂粒 橙色 普通	５％　P663　PL89 口縁部・体部外面墨書「上」 覆土中
2	坏 須恵器	A［14.4］ B　4.0 C　8.4	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	石英　雲母　砂粒 暗灰黄色 普通	40％　P664 覆土中層 （中央部）



第277図　第219号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第277図 3	高台付坏 須　恵　器	A [14.2] B　5.2 D　8.0 E　1.1	高台部から口縁部の破片。高台は長く，「ハ」の字状に開く。体部から口縁部にかけ，直線的に立ち上がり，わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け，ロクロナデ。	長石　石英　砂粒 灰色 普通	60%　P665 覆土中層 (中央部)

第220号住居跡（第278・279図）

位置　調査Ⅲ区の西部，Ｅ７a5区。

重複関係　本跡が第221・223号住居跡，第79号掘立柱建物跡，第652・657・658・670・681号土坑を掘り込んでいることから，本跡が新しい。また，第654号土坑，第24号溝に掘り込まれていることから，本跡が古い。

規模と平面形　長軸4.38m，短軸4.27mの方形である。

主軸方向　Ｎ－５°－Ｗ

壁　壁高は20～30cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　南壁と西壁沿いを巡っている。上幅20～28cm，下幅４～11cm，深さ10cmで，断面形はＵ字形である。

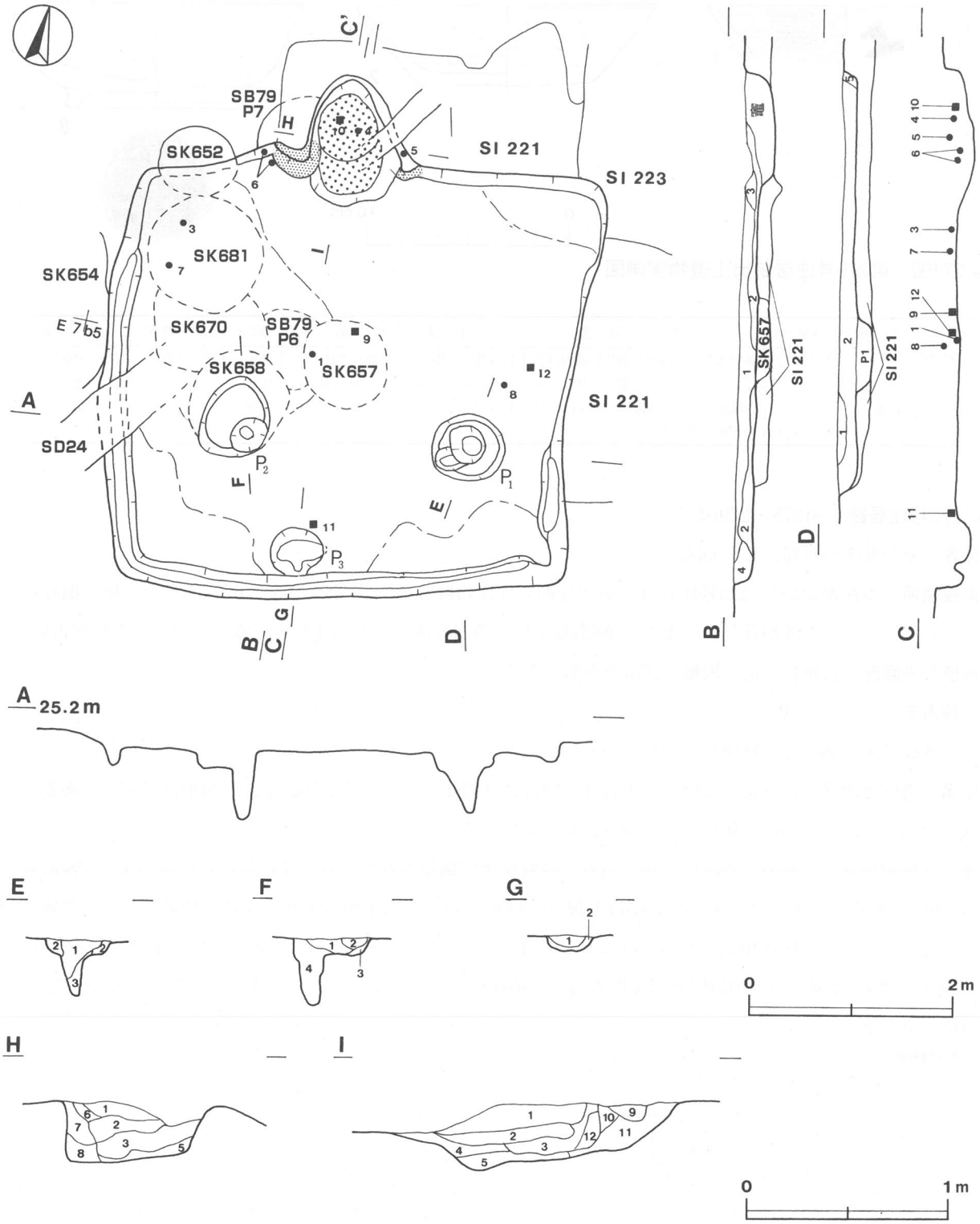
床　全面が平坦で，四隅を除いてよく踏み固められている。

竈　北壁中央部に，壁外へ72cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部まで128cm，両袖幅150cmである。火床部は，床面を13cmほど掘りくぼめている。火床面は火熱を受け，煙道部にかけて赤変硬化している。この火床部中央やや西寄りにＰＬ97-10の雲母片岩を埋め込み，支脚として使用している。また，東袖部には第279図５の土師器置き竈を埋め込み，補強材として使用している。煙道は緩やかに外傾したのち，垂直に立ち上がる。

竈土層解説

1	暗 褐 色	粘土小ブロック中量，焼土中ブロック少量
2	オリーブ灰色	灰多量
3	赤 褐 色	焼土大ブロック多量，炭化粒子微量
4	暗赤褐色	炭化粒子・焼土中ブロック少量
5	極暗褐色	ローム中ブロック・粘土粒子少量
6	明黄褐色	粘土粒子多量
7	赤 褐 色	焼土中ブロック多量
8	暗 褐 色	ローム小ブロック少量
9	明赤褐色	焼土粒子多量，焼土中ブロック微量
10	暗 褐 色	焼土粒子微量
11	暗赤褐色	焼土粒子多量
12	明赤褐色	焼土粒子中量，焼土中・小ブロック少量

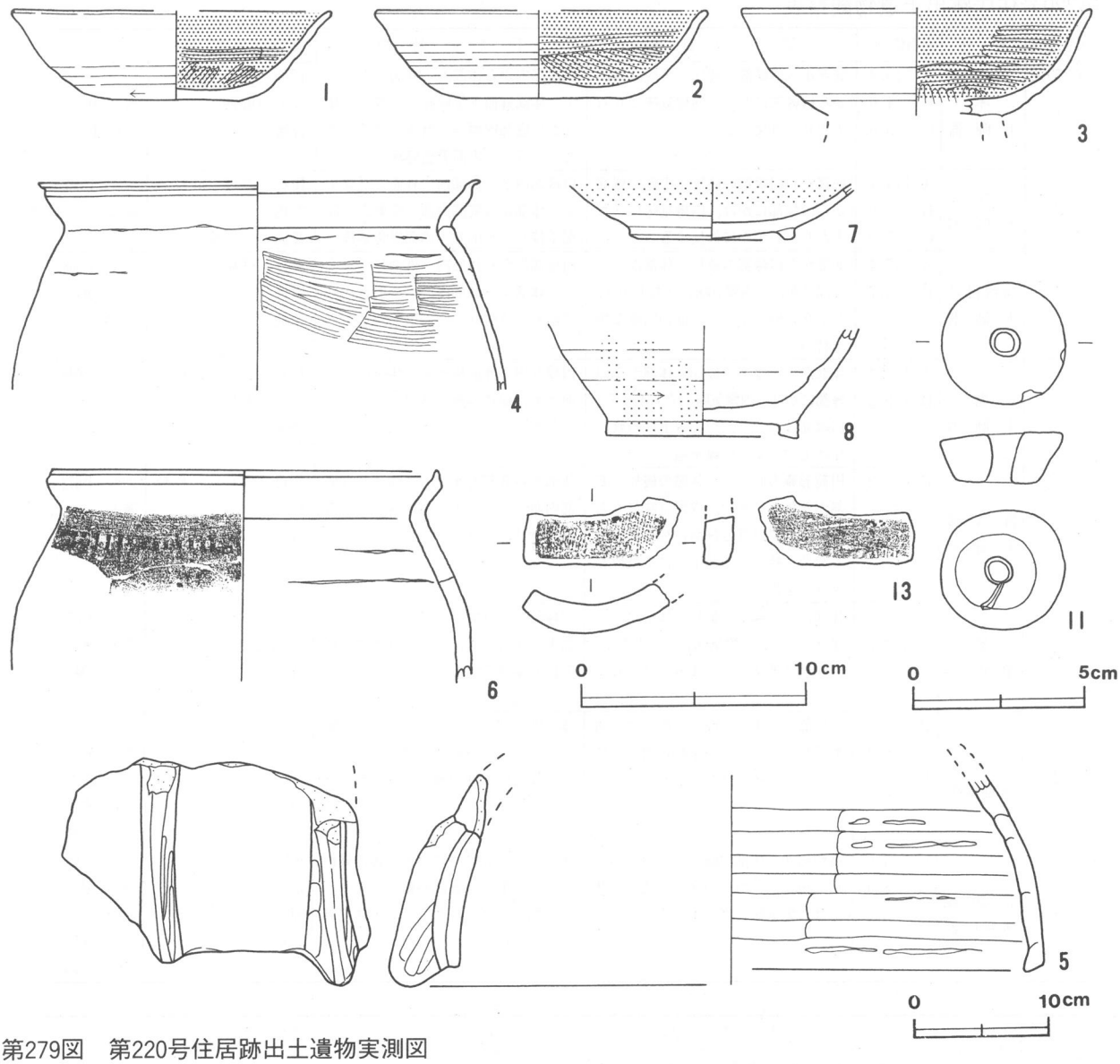
ピット　３か所（Ｐ1～Ｐ3）。Ｐ1とＰ2は長径72cm・82cm，短径67cmの円形および不整楕円形で，深さ64cm・69cmである。いずれもコーナー部寄りに位置しており，主柱穴と考えられる。Ｐ3は長径52cm，短径47cmの不整楕円形で，深さ17cmである。南壁寄りに位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。



第278図　第220号住居跡実測図

ピット土層解説

P1	1	暗褐色	ローム中ブロック・焼土粒子微量
	2	暗褐色	ローム小ブロック微量
	3	褐　色	ローム粒子少量
P2	1	明褐色	焼土小ブロック・粒子中量
	2	褐　色	焼土粒子微量
	3	暗褐色	ローム粒子少量
	4	暗褐色	焼土粒子少量
P3	1	暗褐色	焼土粒子微量
	2	褐　色	ローム中ブロック・粒子少量



第279図　第220号住居跡出土遺物実測図

覆土　5層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と思われる。

土層解説

1	褐　色	ローム粒子・焼土粒子少量
2	にぶい赤褐色	焼土小ブロック中量
3	暗褐色	焼土小ブロック少量
4	褐　色	ローム中ブロック中量，ローム粒子微量
5	にぶい黄褐色	粘土大ブロック多量

遺物　土師器片432点，須恵器片128点，灰釉陶器片5点，石製品1点（紡錘車），瓦1点（平瓦），石塊3点（雲母片岩），鉄滓1点が出土している。第279図1の土師器坏，ＰＬ97−9の石塊は中央部の，3の土師器高台付坏は北西コーナー部の，6の須恵器甕は竈西袖脇の，7の灰釉陶器椀は西壁寄りの，11の紡錘車は南壁寄りの，ＰＬ97−12の石塊は東壁寄りのそれぞれ覆土下層から出土している。2の土師器坏，4の土師器甕，5の土師器置き竈，ＰＬ97−10の石塊は竈内から出土している。10は支脚として使用されたため，火熱を受け，もろくなっている。8の灰釉陶器長頸瓶は東壁寄りの覆土上層から，13の平瓦は南西部の覆土上層からそれぞれ出土している。灰釉陶器片5点の内訳は，猿投窯産（黒笹90号窯式）の椀が2点，猿投窯産（折戸53号窯式）の長頸瓶が2点，二川窯産の長頸瓶が1点である。

所見　本跡の時期は，重複している遺構の時期と出土土器から，10世紀前葉と推定される。

第220号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第279図 1	坏 土師器	A [13.9] B 4.0 C 5.6	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がり，外反する。	口縁部内から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。体部から底部内面ヘラ磨き。底部手持ちヘラ削り。内面黒色処理。	石英 雲母 砂粒 にぶい黄色 普通	50% P666 覆土下層 (中央部)
2	坏 土師器	A [14.4] B 3.9 C 7.0	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がり，わずかに外反する。	口縁部内から体部内・外面ロクロナデ。体部から底部内面ヘラ磨き。底部手持ちヘラ削り。内面黒色処理。	長石 雲母 砂粒 橙色 普通 二次焼成	40% P667 竈内
3	高台付坏 土師器	A [15.4] B (4.7)	底部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がり，わずかに外反する。中位に明瞭な稜を持つ。	口縁部内から体部内・外面ロクロナデ。体部から底部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。	雲母 砂粒 橙色 普通	40% P668 覆土下層 (北西コーナー部)
4	甕 土師器	A [19.4] B (9.2)	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し，つまみ上げられ，棒状工具による凹線を巡らす。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ，輪積み痕。体部内面一部ヘラナデ。	長石 石英 砂粒 にぶい黄橙色 普通	10% P669 竈内
5	置き竈 土師器	B (15.2)	円筒形竈の底部から体部の破片。基部から体部にかけ，内彎気味に立ち上がる。焚口部と側面に長さの異なる突帯を持ち，基部下方に空気取り入れ口を作る。	体部から底部外面ナデ。体部から底部内面ロクロナデ，輪積み痕。突帯貼り付け，ヘラナデ。	雲母 スコリア 砂粒 橙色 普通	20% P672 PL89 竈内 (東袖内)
6	甕 須恵器	A 17.0 B (9.2)	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し，つまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面上位平行叩き，一部ヘラナデ。体部内面輪積み痕	雲母 砂粒 黄灰色 普通 二次焼成	20% P670 覆土下層 (竈西袖脇)
7	椀 灰釉陶器	B (2.5) D 6.4 E 0.5	高台部から体部の破片。高台は三角形で短く，「ハ」の字状に開く。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け，ロクロナデ。体部内・外面施釉，刷毛塗り。底部内面使用痕。	砂粒 灰白色 釉 灰オリーブ色 良好	30% P673 覆土下層 (西壁寄り) 猿投窯産 (黒笹90号窯式)
8	長頸瓶 灰釉陶器	B (4.9) D 8.4 E 0.7	高台部から体部の破片。高台は四角形で短く，「ハ」の字状に開く。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位ヘラ削り。底部回転ヘラ切り。高台貼り付け，ロクロナデ。体部外面・高台部釉。	砂粒 灰白色 釉 暗オリーブ色 良好	20% P671 覆土上層 (東壁寄り) 二川窯産 (黒笹90号窯式と並行)

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
PL97 9	石塊	35.5	14.7	8.7	—	6787.3	雲母片岩	覆土下層(中央部)	Q108 写真のみ掲載
PL97 10	石塊	24.9	13.8	12.5	—	5487.1	雲母片岩	竈内(火床部)	Q109 支脚転用 火熱痕 写真のみ掲載
第279図11	石製紡錘車	径3.6	—	1.4	1.0	26.0	滑石	覆土下層(南壁寄り)	Q110
PL97 12	石塊	23.5	17.2	6.2	—	2850.0	雲母片岩	覆土下層(東壁寄り)	Q124 写真のみ掲載

図版番号	器種	計測値				器形・手法の特徴	備考(台帳番号,出土位置,色調など)
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第279図 13	平瓦	(3.0)	(6.9)	2.1	(28.7)	凸面ヘラナデ。 凹面布目痕。	T106 PL111 覆土上層(南西部) 内外面 明褐色

第221号住居跡（第280・281図）

位置　調査Ⅲ区の西部，Ｅ７a5区。

重複関係　本跡が第225号住居跡，第79号掘立柱建物跡を掘り込んでいることから，本跡が新しい。また，第220・222・223号住居，第657・658・670号土坑，第24号溝に掘り込まれていることから，本跡が古い。

規模と平面形　長軸4.12m，短軸4.07mの方形である。

主軸方向　Ｎ－８°－Ｅ

壁　壁高は25～33cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　北壁と西壁の一部を除いて巡っている。上幅11～29cm，下幅４～12cm，深さ４～11cmで，断面形はＵ字形である。

床　全面が平坦で，中央がよく踏み固められている。

竈　北壁中央部に，壁外へ82cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部まで107cm，両袖幅154cmである。焚口部手前に深さ14cmほどの円形の掘り込みがある。火床部は，床面を13cmほど掘りくぼめている。火床面は火熱を受け，煙道部にかけて赤変硬化している。この火床部中央西寄りと東寄りの２か所に，第281図１や３の土師器坏などの土器片を重ね，支脚として使用している。支脚は２か所で使用されており，掛け口は２つであったと考えられる。煙道は緩やかに外傾したのち，垂直に立ち上がる。

竈土層解説

1	褐　色	粘土中ブロック中量，焼土小ブロック少量
2	赤褐色	灰多量
3	にぶい黄色	焼土中ブロック少量，灰微量
4	暗赤褐色	炭化粒子中量，焼土小ブロック少量
5	赤褐色	ローム中ブロック・粘土粒子少量
6	赤褐色	粘土粒子多量

ピット　２か所（Ｐ1・Ｐ2）。Ｐ1とＰ2はそれぞれ長径67cm・80cm，短径47cm・64cmの楕円形で，深さ15cm・26cmである。Ｐ1は南壁沿い，Ｐ2は中央部に位置している。性格は不明である。

ピット土層解説

Ｐ1	1	褐　色	ローム小ブロック・粘土小ブロック少量
	2	褐　色	ローム中ブロック多量
Ｐ2	1	褐　色	ローム中ブロック・焼土小ブロック・粘土小ブロック少量
	2	褐　色	ローム中ブロック少量
	3	褐　色	ローム中ブロック中量

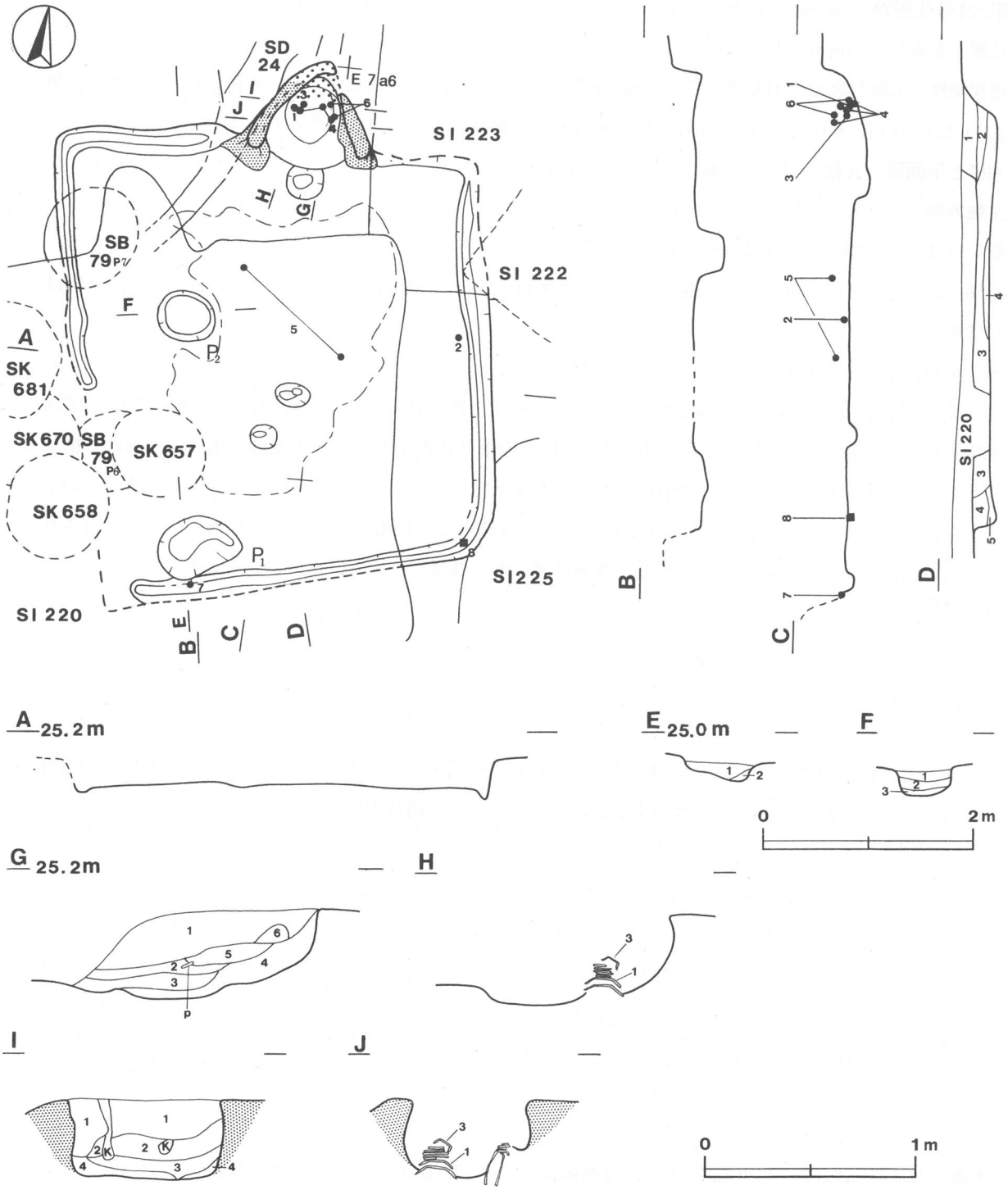
覆土　５層からなり，ブロック状の堆積状況が見られ，粘土ブロックを含む層が多くあることから，人為堆積と思われる。

土層解説

1	黄褐色	粘土中ブロック中量，焼土小ブロック少量
2	黄褐色	粘土大ブロック多量，焼土中ブロック中量
3	褐　色	焼土中ブロック・粘土中ブロック少量
4	黒褐色	粘土中ブロック少量
5	褐　色	ローム小ブロック中量

遺物　土師器片320点，須恵器片108点，緑釉陶器片１点，石器１点（砥石），炭化物が出土している。第281図１の土師器坏，３の土師器小形甕，４の土師器甕，６の須恵器小形鉢は竈内から出土している。２の土師器高台付坏は東壁寄りの，７の緑釉陶器椀は南壁寄りの覆土下層から出土している。５の須恵器皿は中央部と北東部の覆土中層から，８の砥石は南東コーナー部の床面直上からそれぞれ出土している。７の緑釉陶器椀は猿投窯産（黒笹90号窯式）と考えられ，撹乱による混入の可能性が高い。

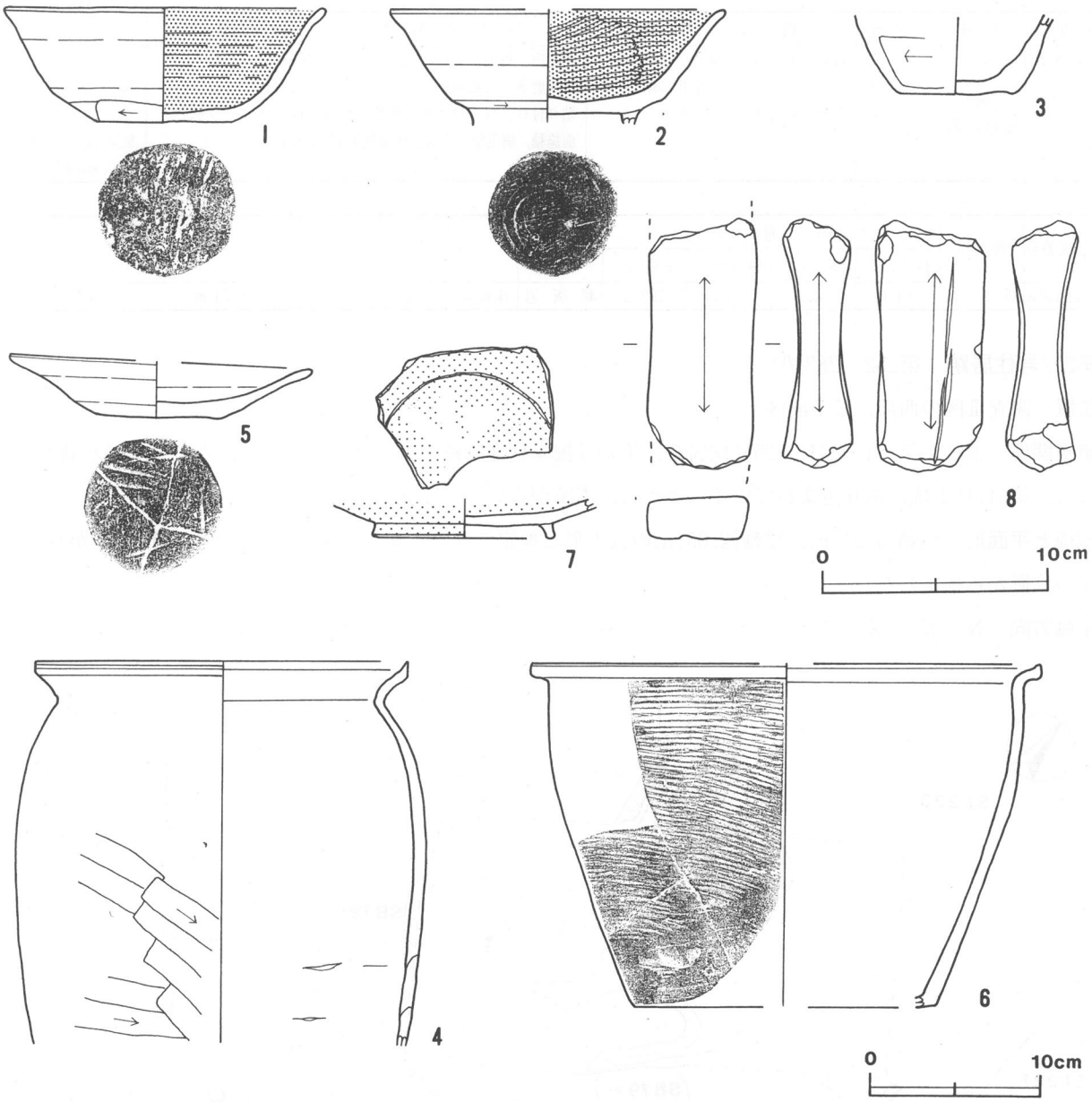
所見　本跡の時期は，重複している遺構の時期と出土土器から，９世紀中葉と推定される。



第280図　第221号住居跡実測図

第221号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　考
第281図 1	坏 土　師　器	A　13.8 B　5.0 C　6.0	口縁部の一部欠損。平底。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がり，外反する。中位に明瞭な稜を持つ。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。内面黒色処理。	長石　石英　雲母 砂粒 橙色 普通	90%　P674　PL89 竈内
2	高台付坏 土　師　器	A　[14.7] B　(5.1) E　(0.9)	高台部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がり，外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ削り，口縁部から底部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ切り痕を残す一方向の手持ちヘラ削り。高台貼り付け。内面黒色処理。	石英　雲母　砂粒 スコリア にぶい黄橙色 普通	60%　P675 覆土下層 (東壁寄り)



第281図　第221号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第281図 3	小形甕 土師器	B (3.6) C 5.2	底部から体部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ナデ。体部外面下位ヘラ削り。底部ナデ。	長石　石英　雲母 砂粒 灰褐色　普通	30%　P678 竈内
4	甕 土師器	A [21.6] B (22.3)	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し，つまみ上げられ，棒状工具による凹線を巡らす。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部外面中位から下位にかけヘラ削り。内面輪積み痕。	長石　石英　雲母 砂粒 にぶい橙色 普通	30%　P679 竈内
5	皿 須恵器	A [13.3] B 2.9 C 5.4	体部と口縁部の一部欠損。平底。体部から口縁部にかけ，直線的に開き，わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちヘラ削り。	雲母 スコリア 砂粒 明赤褐色 普通	70%　P676 覆土中層 (中央部， 北東部)
6	小形鉢 須恵器	A [29.2] B 19.8 C [17.4]	底部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反し，つまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面上位平行叩き，下位ヘラ削り。	長石　石英　雲母 砂粒 灰色 普通	30%　P677 竈内

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第281図 7	椀 緑釉陶器	B（1.7） D［7.8］ E　0.6	高台部から体部の破片。高台は四角形で短く，「ハ」の字状に開く。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け，ロクロナデ。体部内・外面施釉，刷毛塗り。底部内面使用痕。	砂粒 灰白色 釉　オリーブ灰色 良好	20%　P680　PL89 覆土下層 (南壁寄り) 猿投窯産 (黒笹90号窯式)

図版番号	種　別	計　測　値				石　質	出　土　地　点	備　　考
		長さ(cm)	幅　(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第281図8	砥　　石	(10.1)	4.9	3.1	(193.2)	凝　灰　岩	床面直上(南東コーナー部)	Q111　PL96

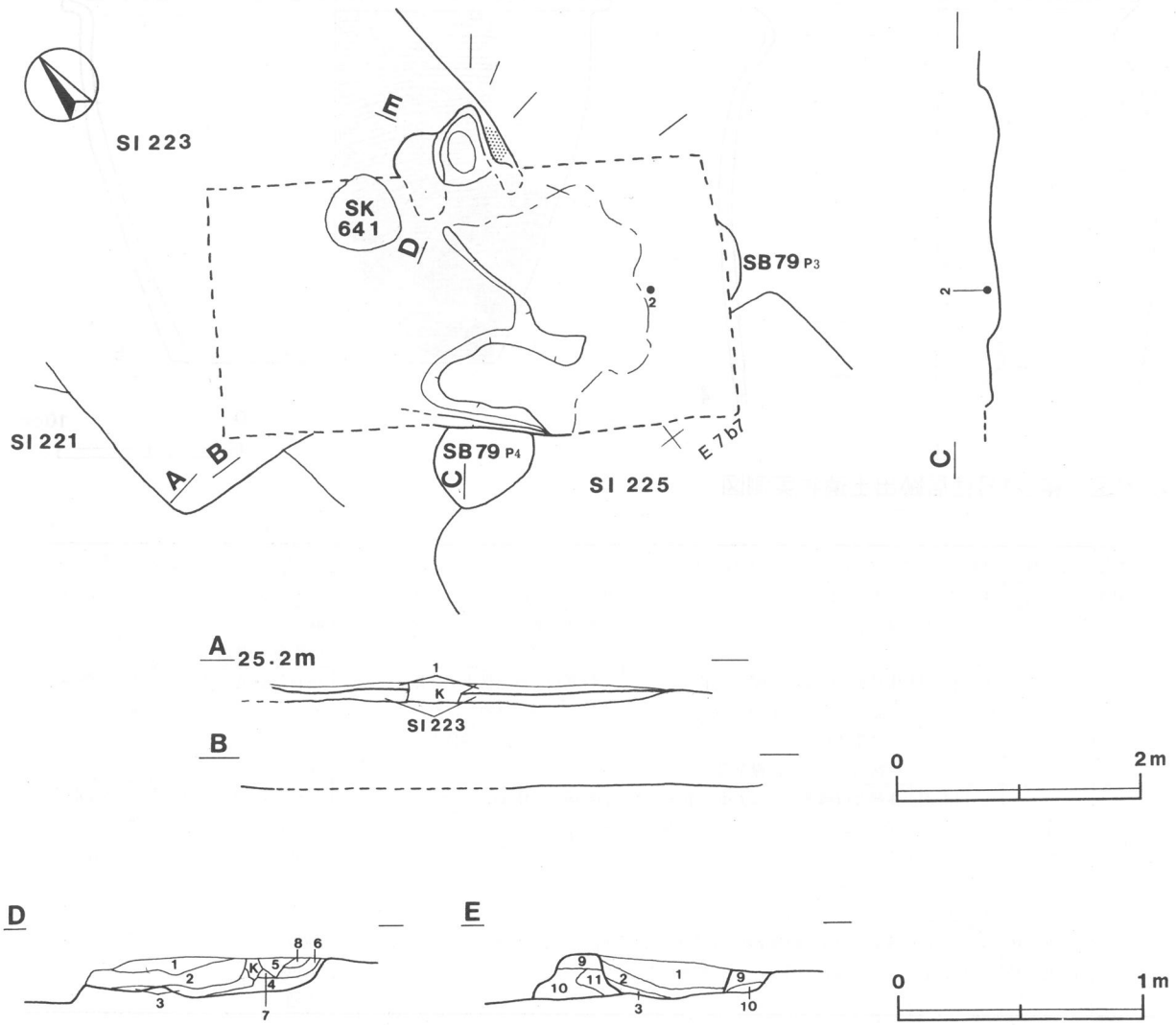
第222号住居跡（第282・283図）

位置　調査Ⅲ区の西部，E 7 a6区。

重複関係　本跡が第221・223・225号住居跡，第79号掘立柱建物跡を掘り込んでいることから，本跡が新しい。また，第641号土坑に掘り込まれていることから，本跡が古い。

規模と平面形　長軸[4.21]m，短軸[2.05]mの長方形と推定される。覆土が薄く，主として床面の広がりや，竈の位置から推定した。

主軸方向　N－37°－E



第282図　第222号住居跡実測図

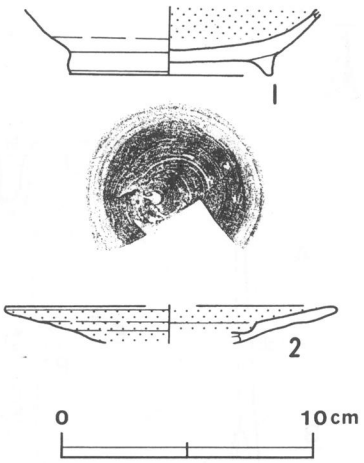
壁・壁溝　不明である。

床　凹凸である。中央部はよく踏み固められている。

竈　北東壁中央部に，壁外へ50cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部まで67cm，両袖幅[100]cmである。火床部は，床面を８cmほど掘りくぼめている。火床面は火熱を受けているが，ほとんど赤変硬化していない。煙道は緩やかに外傾して立ち上がる。竈の覆土は８層（第１～８層）に，袖部は３層（第９～11層）に分けられた。

竈土層解説

1	暗 褐 色	ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子微量
2	暗赤褐色	焼土粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量
3	暗赤褐色	炭化物・焼土粒子少量
4	暗赤褐色	炭化物少量，焼土粒子微量
5	暗 褐 色	粘土粒子少量，炭化粒子・焼土粒子微量
6	暗赤褐色	炭化粒子・焼土粒子少量
7	にぶい黄褐色	粘土粒子中量，焼土粒子微量
8	にぶい赤褐色	焼土粒子中量，炭化粒子微量
9	明赤褐色	砂質粘土
10	暗 褐 色	ローム小ブロック・焼土小ブロック微量
11	明赤褐色	ローム小ブロック中量



第283図　第222号住居跡出土遺物実測図

覆土　単一層で，自然堆積か人為堆積かは不明である。

土層解説

1	褐　　色	ローム中ブロック中量

遺物　土師器片24点，須恵器片18点，灰釉陶器片２点，緑釉陶器片１点，金属製品１点（刀子），石塊１点（雲母片岩）が出土している。第283図１の灰釉陶器椀は，本跡の北西部覆土中層から出土したものと第206号住居跡の覆土中から出土した破片が接合したものである。２の緑釉陶器段皿は東壁寄りの覆土中から出土している。出土した灰釉陶器片は１の椀と手付長頸瓶の体部片である。椀は二川窯産，手付長頸瓶は猿投窯産（黒笹90号窯式）である。また，２の緑釉陶器段皿は猿投窯産（黒笹90号窯式）である。

所見　本跡の時期は，重複している遺構の時期と出土土器から，10世紀前葉と推定される。

第222号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第283図 1	椀 灰釉陶器	B（ 2.5） D　7.9 E　0.9	高台部から体部の破片。高台は三角形で短く，「ハ」の字状に開く。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け，ロクロナデ。体部内面施釉，刷毛塗り。	長石，砂粒 灰黄色 釉　オリーブ灰色 良好	40%　P541 覆土中層(北西部) ＳＩ206覆土中 二川窯産 (折戸53号窯式と並行)
2	段　皿 緑釉陶器	A［13.1］ B（ 1.4）	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけ，内彎気味に開き，わずかに外反する。中位に段を持つ。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。口縁部から体部内・外面施釉，刷毛塗り。	砂粒 灰白色 釉　オリーブ灰色 良好	10%　P687 覆土中(東壁寄り) 猿投窯産 (黒笹90号窯式)

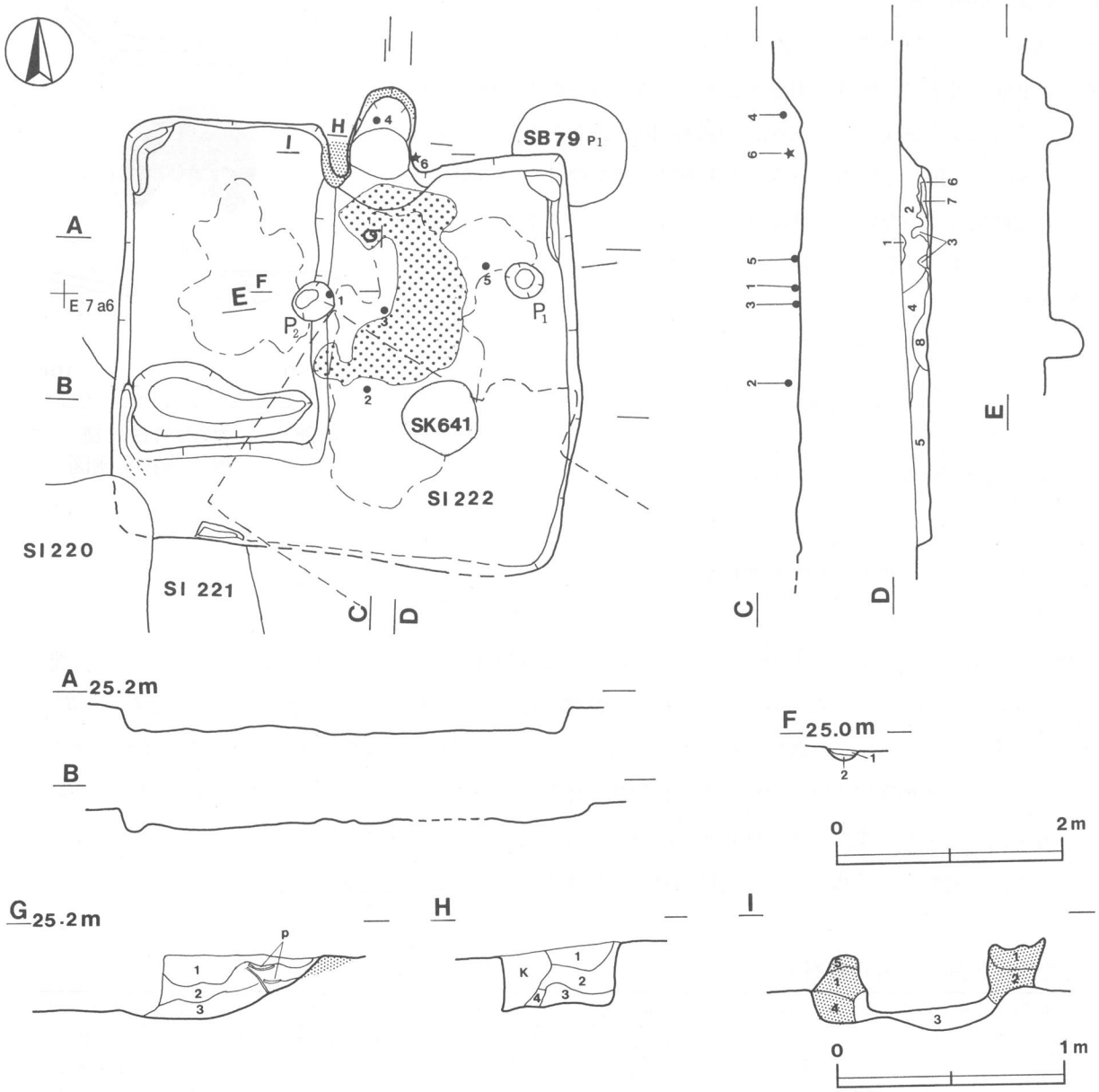
第223号住居跡（第284・285図）

位置　調査Ⅲ区の西部，Ｅ７a6区。

重複関係　本跡が第221号住居跡，第79号掘立柱建物跡を掘り込んでいることから，本跡が新しい。また，第220・222号住居，第641号土坑に掘り込まれていることから，本跡が古い。

規模と平面形　長軸3.83m，短軸3.62mの方形である。

主軸方向　Ｎ－５°－Ｅ



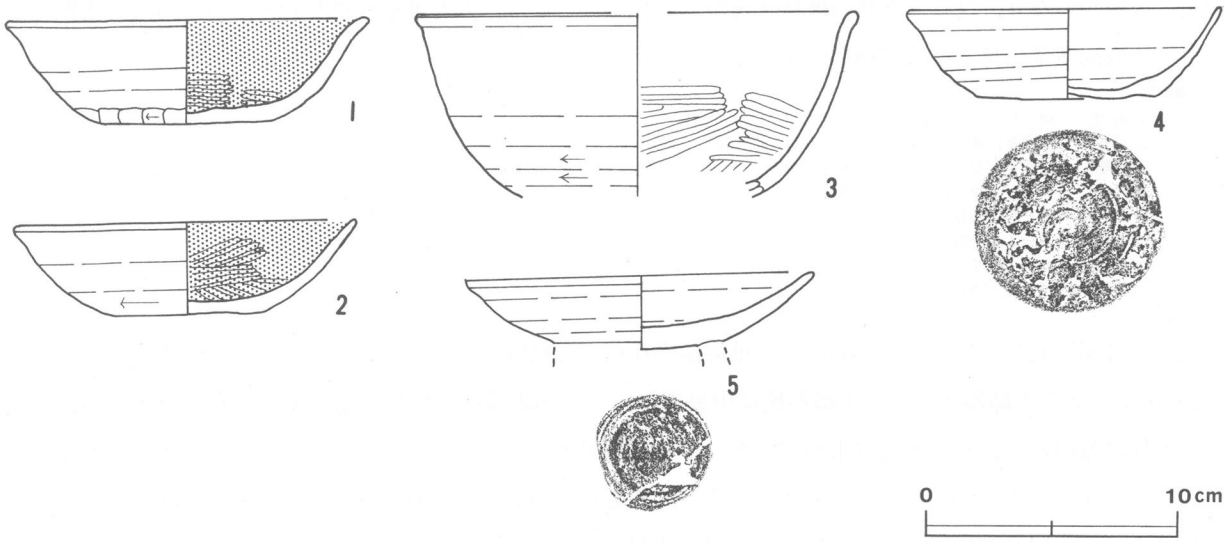
第284図　第223号住居跡実測図

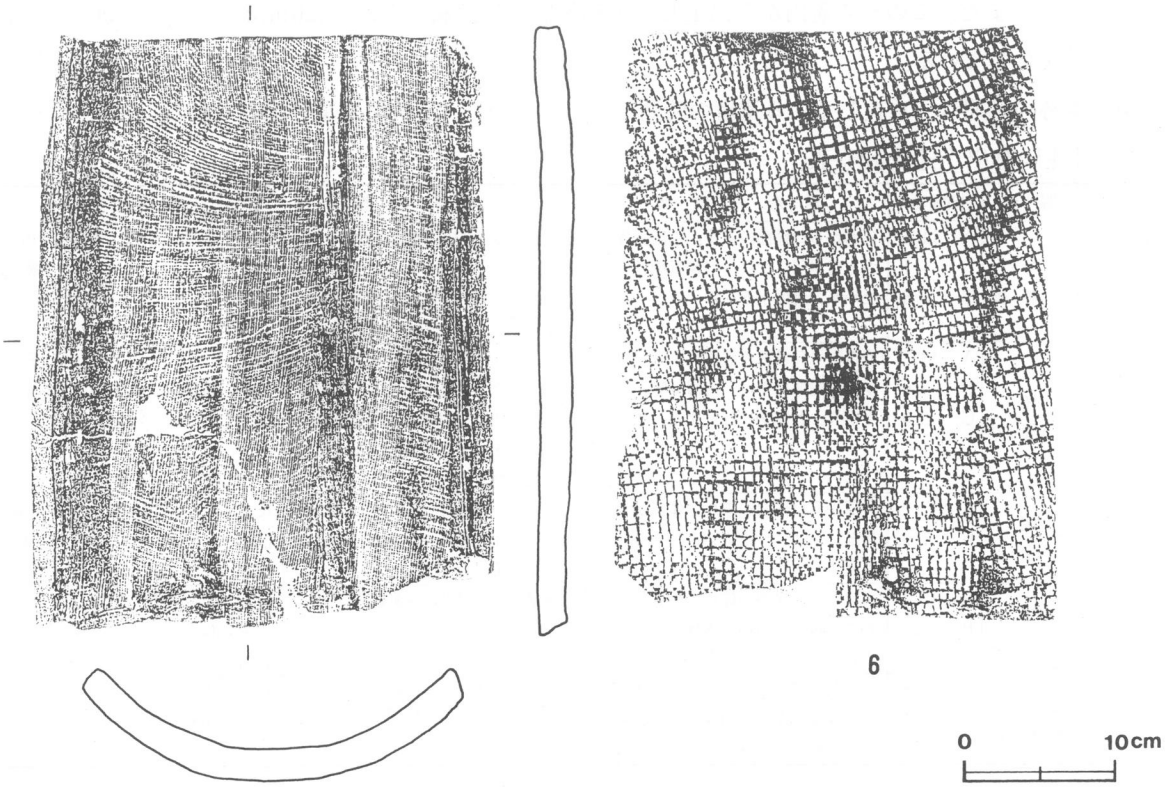
壁　壁高は12～22cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　北東・北西・南西コーナー部付近に巡っている。上幅12～24cm，下幅４～８cm，深さ４cmで，断面形はU字形である。

床　全面が平坦で，中央がよく踏み固められている。西半分が10cmほどロームを掘り残して盛り上がり，ベッド状を呈し，その上面中央も踏み固められている。

竈　北壁中央部に，壁外へ34cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部まで107cm，両袖幅124cmである。火床部は，床面を14cmほど掘りくぼめたのち，褐色土を貼っている。深さは４cmほどである。火床面は火熱を受けてはいるが，赤変硬化していない。東袖部に第285図６の平瓦を埋め込み，補強材として使用している。煙道は緩やかに外傾したのち，階段状に立ち上がる。竈の覆土は４層に，袖部と掘り方の覆土は５層に分けられた。





第285図　第223号住居跡出土遺物実測図

竈土層解説

1	暗赤褐色	焼土粒子微量
2	にぶい赤褐色	灰少量，炭化粒子・焼土粒子微量
3	褐　色	ローム粒子少量，炭化粒子・焼土粒子微量
4	褐　色	焼土粒子微量

竈袖部・掘り方土層解説

1	褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
2	暗褐色	炭化粒子少量，焼土粒子微量
3	褐　色	ローム大ブロック中量，ローム粒子少量
4	暗褐色	炭化粒子微量
5	暗褐色	炭化粒子少量，焼土粒子微量

ピット　2か所（P1・P2）。P1とP2はそれぞれ長径34cm・36cm，短径28cm・31cmの楕円形で，深さ22cm・30cmである。P1は東壁沿い，P2は中央部に位置している。性格は不明である。

ピット土層解説

P2	1	暗褐色	ローム小ブロック少量
	2	暗褐色	ローム中ブロック中量

覆土　8層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と思われる。竈手前から南壁にかけて，比較的多量の焼土を含む層が広がっている。

土層解説

1　暗褐色　焼土粒子・灰微量
2　にぶい赤褐色　灰多量，焼土中ブロック・粒子中量，炭化物・粒子少量
3　にぶい赤褐色　焼土中ブロック多量，炭化粒子・焼土小ブロック・焼土粒子中量，灰少量
4　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子少量
5　暗褐色　焼土粒子微量
6　暗褐色　ローム粒子微量
7　褐色　ローム粒子中量
8　暗褐色　炭化粒子微量

遺物　土師器片414点，須恵器片200点，灰釉陶器片6点，緑釉陶器片3点，瓦1点（平瓦）が出土している。第285図1と2の土師器坏，3の土師器椀は中央部の，5の須恵器高台付坏は東壁寄りの覆土下層から，4の須恵器坏は竈内から，6の平瓦は東袖部内からそれぞれ出土している。出土している灰釉陶器と緑釉陶器椀はすべて猿投窯産（黒笹90号窯式）と考えられる。それぞれの内訳は，灰釉陶器が，長頸瓶の口縁部片1点と体部片2点，椀の口縁部片1点と体部片1点，皿の体部から口縁部片1点，緑釉陶器が，皿の体部から口縁部片3点である。また，このうち竈内から出土した灰釉陶器の長頸瓶1点は，120m離れている第96号住居跡出土の破片と接合している。

所見　本跡の時期は，重複している遺構の時期と出土土器から，9世紀末葉と推定される。

第223号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第285図 1	坏 土師器	A 14.0 B 4.1 C 6.6	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がり，外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位手持ちヘラ削り，体部から底部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り後，ナデ。内面黒色処理。	長石　雲母　砂粒 スコリア 橙色	50%　P681 覆土下層 (中央部) 普通
2	坏 土師器	A [13.2] B 3.6 C 6.0	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がり，わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。口縁部から底部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ切り痕を残す手持ちヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒 にぶい橙色 普通	30%　P682 覆土下層 (中央部)
3	椀 土師器	A [17.2] B (7.2)	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がり，外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。体部から底部内面ヘラ磨き。	長石　スコリア　砂粒 橙色 普通	30%　P684 覆土下層(中央部) 覆土中
4	坏 須恵器	A 12.4 B 3.6 C 7.1	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	石英　雲母　砂粒　礫 にぶい橙色 普通	60%　P683　PL89 竈内
5	高台付坏 須恵器	A 13.8 B (2.7)	高台部と口縁部の一部欠損。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がり，わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	石英　雲母　砂粒 にぶい黄橙色 普通	90%　P685　PL89 覆土下層 (東壁寄り)

図版番号	器種	計測値				器形・手法の特徴	備考(台帳番号,出土位置,色調など)
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第285図 6	平瓦	(40.0)	(25.9)	2.5	(4042.7)	凸面格子叩き。 凹面布目痕。一部ヘラナデ。	T107　PL114 竈内(東側袖部内)　竈補強材 黒褐色

第224号住居跡（第286～288図）

位置　調査Ⅲ区の西部，E7b7区。

重複関係　本跡が第225号住居跡，第72号掘立柱建物跡を掘り込んでいることから，本跡が新しい。また，第633号土坑に掘り込まれていることから，本跡が古い。

規模と平面形　長軸3.36m，短軸3.32mの方形である。

主軸方向　N－11°－E

壁　壁高は40～45cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　東壁と西壁に巡っている。上幅18～35cm，下幅２～８cm，深さ３～10cmで，断面形はU字形である。

床　全面が平坦で，四隅を除いてよく踏み固められている。中央部から西壁にかけ，焼土塊が広がっており，中から獣骨と思われる骨が出土している。

竈　北壁中央部に，壁外へ32cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部まで99cm，両袖幅136cmである。火床部は，床面を16cmほど掘りくぼめた後，暗赤褐色土を貼っている。深さは10cmほどである。火床面は火熱を受け，赤変硬化している。煙道は緩やかな階段状に立ち上がる。竈の覆土は６層（第１～６層）に，袖部は２層（第７・８層）に分けられた。

竈土層解説

1	褐　色	焼土粒子中量
2	褐　色	焼土小ブロック中量，粘土小ブロック少量
3	褐　色	粘土小ブロック中量，炭化物・焼土粒子少量
4	褐　色	炭化物中量，灰少量，焼土粒子微量
5	暗赤褐色	焼土中ブロック中量
6	褐　色	焼土小ブロック・粘土小ブロック少量
7	褐　色	ローム粒子中量，焼土小ブロック・粘土小ブロック少量
8	黄褐色	粘土大ブロック多量

ピット　２か所（P1・P2）。P1は径36cmの円形で，深さ28cmである。南壁寄りに位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。P2は北西コーナー部に位置し，長径52cm，短径43cmの楕円形で，深さ12cmである。性格は不明である。

ピット土層解説

P1	1	暗褐色	焼土粒子微量
	2	明褐色	ローム粒子少量，焼土粒子微量
P2	1	褐　色	焼土粒子・砂微量
	2	褐　色	ローム粒子微量

覆土　３層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と思われる。

土層解説

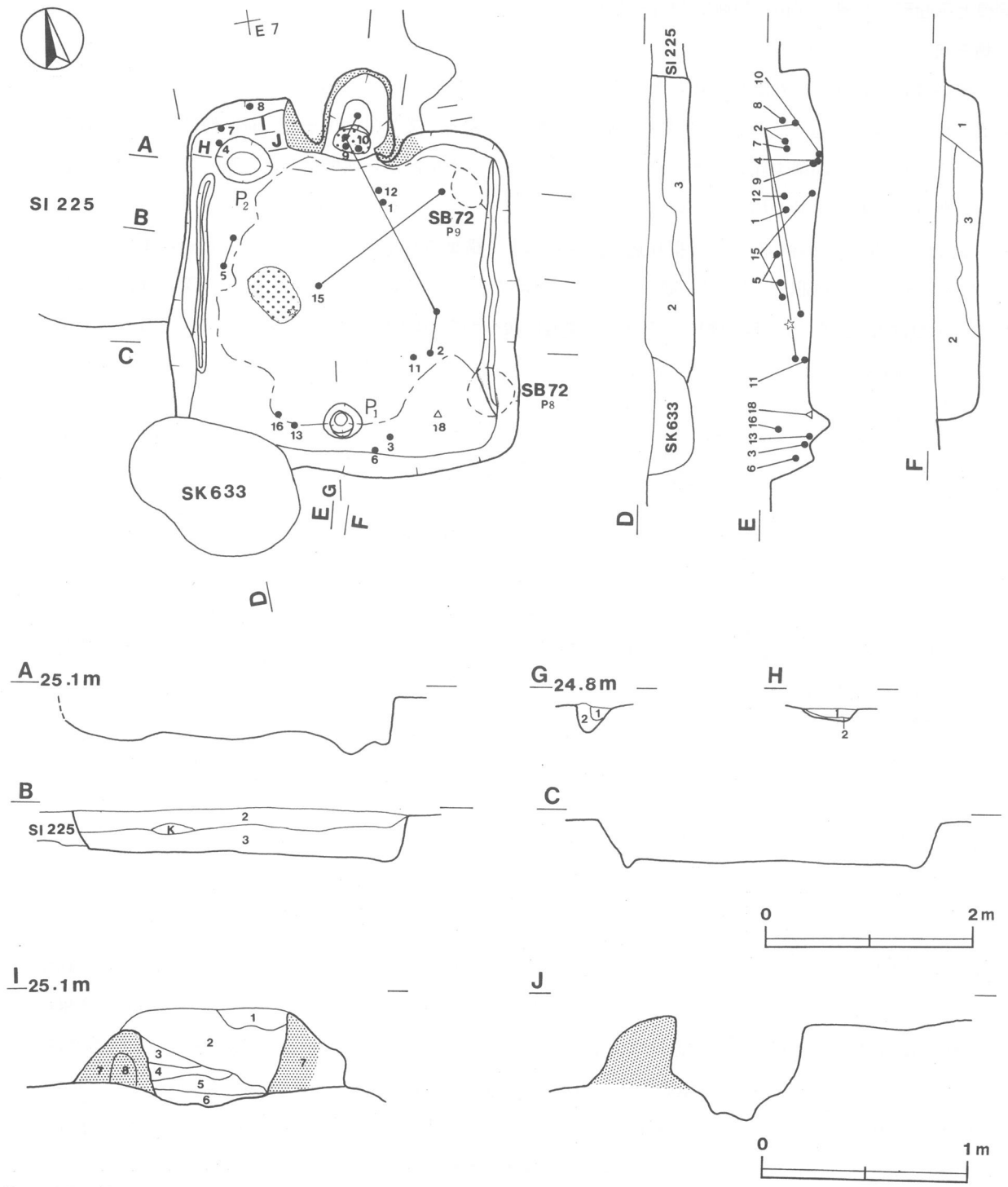
1	褐　色	ローム粒子・焼土粒子微量
2	暗褐色	焼土粒子微量
3	暗褐色	炭化粒子微量

遺物　土師器片584点，須恵器片483点，灰釉陶器片１点，土製品２点（不明土製品），金属製品２点（鉄鏃），礫４点，獣骨片，炭化物が出土している。第287図１の土師器小形甕は竈手前の，14の須恵器高盤は南東部の，第288図16の須恵器壺と17の灰釉陶器椀は南壁寄りの覆土上層から出土している。第287図２の土師器甕は竈内と東壁寄りの覆土下層から，３の須恵器坏と13須恵器盤は南壁寄りの，４の須恵器坏は北西コーナー部の，11の須恵器高台付坏は東壁寄りの，第288図18の鉄鏃は南東コーナー部の覆土下層から出土している。第287図９と10の須恵器坏は竈内から出土している。また，17の灰釉陶器椀は猿投窯産（黒笹90号窯式）と考えられることから，後世の撹乱による混入と思われる。

所見　本跡の時期は，重複している遺構の時期と出土土器から，９世紀中葉と推定される。

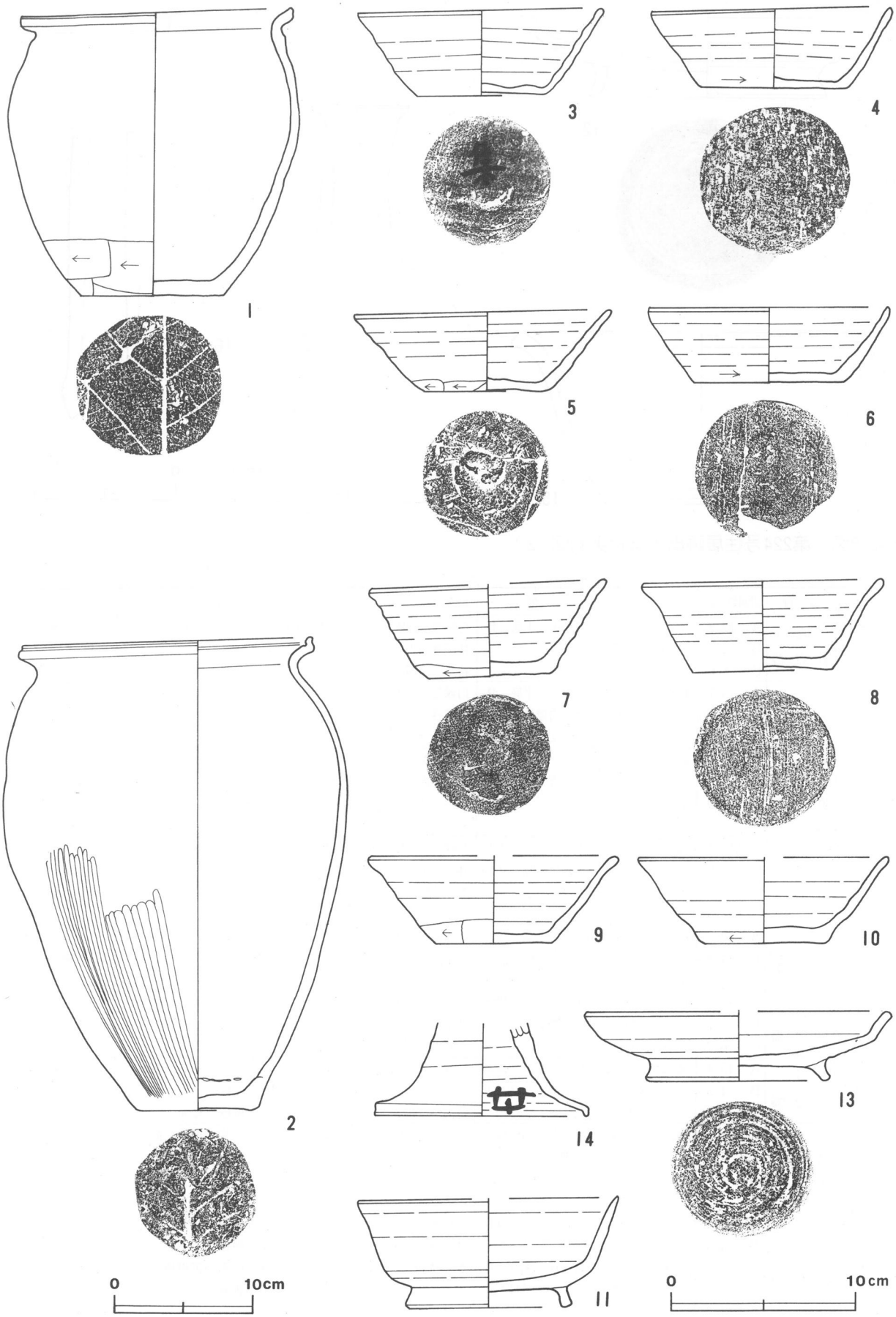
第224号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第287図 1	小形甕 土師器	A 14.4 B 15.4 C 7.8	体部と口縁部の一部欠損。平底。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し，つまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部外面下位ヘラ削り。底部ナデ，木葉痕。	長石　石英　雲母 砂粒 にぶい橙色 普通	90%　P700　PL90 覆土上層 (竈手前)

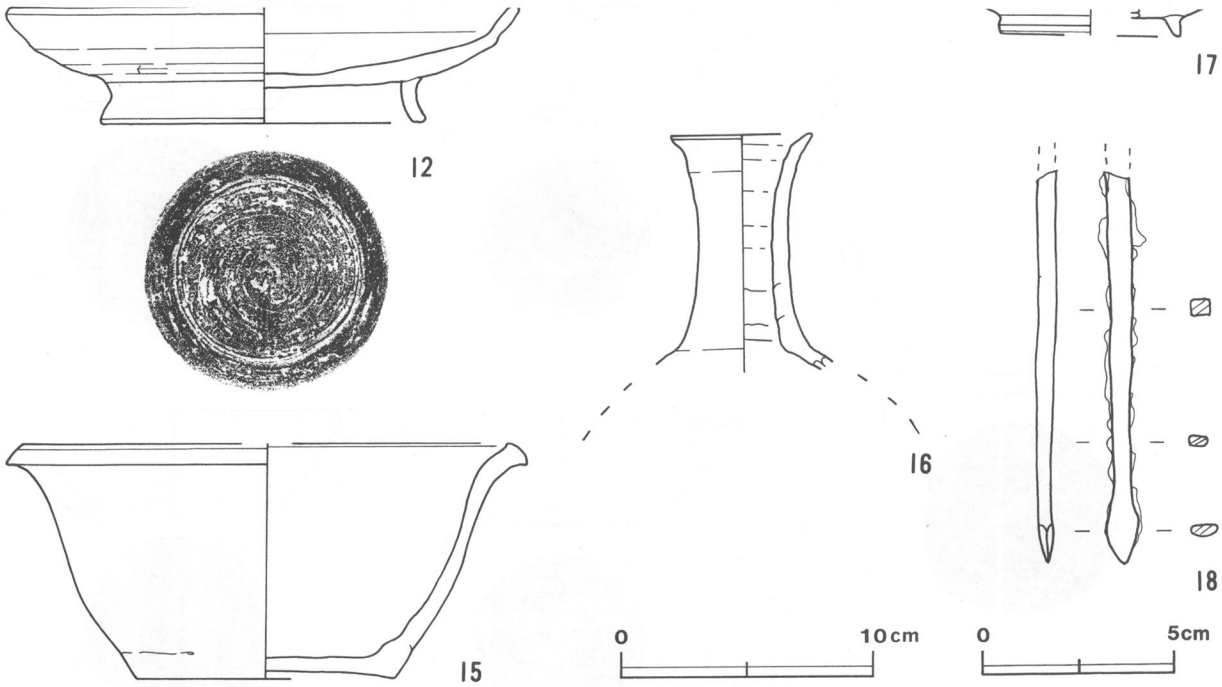


第286図　第224号住居跡実測図

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
2	甕 土　師　器	A　20.3 B　33.5 C　8.0	体部と口縁部の一部欠損。平底。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し，つまみ上げられ，棒状工具による凹線を巡らす。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部外面中位から下位にかけヘラ磨き，内面輪積み痕。底部ナデ，木葉痕。	長石　石英　雲母 砂粒 にぶい黄橙色 普通	90%　P701　PL90 竈内 覆土下層 (東壁寄り)
3	坏 須　恵　器	A　13.1 B　4.7 C　7.0	平底。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がり，わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石　雲母　砂粒 スコリア 灰色 普通	100%　P688　PL90 底部外面墨書「集」 覆土下層 (南壁寄り)



第287図　第224号住居跡出土遺物実測図（１）



第288図　第224号住居跡出土遺物実測図（２）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第287図 4	坏 須恵器	A 12.9 B 4.4 C 8.0	体部と口縁部の一部欠損。平底。体部は直線的に立ち上がる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石　石英　雲母 砂粒 灰色　普通	80%　P689　PL89 覆土下層 (北西コーナー部)
5	坏 須恵器	A 13.7 B 4.3 C 6.7	体部と口縁部の一部欠損。平底。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がり，わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り。	石英　砂粒 灰色 普通	70%　P690 覆土上層 (西壁寄り)
6	坏 須恵器	A 12.8 B 4.0 C 8.0	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り痕を残す，手持ちヘラ削り。	長石　石英　雲母 砂粒 灰色 普通	60%　P691 覆土中層 (南壁寄り)
7	坏 須恵器	A [12.4] B 4.9 C 6.6	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がり，わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り痕を残す，手持ちヘラ削り。	長石　石英　雲母 砂粒 灰黄色 普通	60%　P692 覆土上層 (北西コーナー部)
8	坏 須恵器	A 12.8 B 4.8 C 7.6	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がり，外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り痕を残す，手持ちヘラ削り。	長石　雲母　砂粒 黄灰色 普通	50%　P693　PL89 覆土上層 (北西コーナー部)
9	坏 須恵器	A [13.2] B 4.7 C 6.2	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がり，わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石　雲母　砂粒 褐灰色 普通	50%　P694 竈内
10	坏 須恵器	A [13.4] B 4.6 C 6.6	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ，直線的に立ち上がり，わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石　石英　雲母 砂粒 橙色　普通	40%　P695 竈内
11	高台付坏 須恵器	A [13.8] B 5.9 D 8.9 E 1.2	高台部から口縁部の破片。高台は長く，「ハ」の字状に開く。体部から口縁部にかけ，直線的に立ち上がる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け，ロクロナデ。	石英　雲母　砂粒 灰色 普通	50%　P696 覆土下層 (東壁寄り)
第288図 12	盤 須恵器	A [19.8] B 4.6 D 12.8 E 1.7	高台部から口縁部の破片。高台は長く，「ハ」の字状に開く。体部から口縁部にかけ，内彎気味に開き，中位に明瞭な稜を持つ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け，ロクロナデ。	長石　石英　雲母 砂粒 にぶい黄橙色 普通	60%　P697 覆土上層 (竈手前)

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第287図 13	盤 須恵器	A [16.3] B 3.7 D 9.8 E 1.2	高台部から口縁部の破片。高台は長く，「ハ」の字状に開く。体部から口縁部にかけ，内彎気味に開き，わずかに外反する。中位に明瞭な稜を持つ。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け，ロクロナデ。	石英　雲母　砂粒 スコリア 黄褐色 普通	50%　P698　PL90 覆土下層 (南壁寄り)
14	高盤 須恵器	D 11.4 E (5.0)	裾部から脚部の破片。脚部はラッパ状に開く。裾部は平坦に広がり，屈曲し垂下する。	脚部から裾部内・外面ロクロナデ。	石英　砂粒 灰色 普通	10%　P703 裾部内面朱墨書 「芊」 覆土上層(南東部)
第288図 15	鉢 須恵器	A [19.0] B 9.2 C 10.2	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部内・外面輪積み痕。底部ナデ。口縁部外面から底部外面一部自然釉。	石英　砂粒 灰色 釉　灰白色 普通	30%　P699 覆土上層(中央部) 覆土下層 (北東コーナー部)
16	長頸壺 須恵器	A 5.6 B (9.3)	頸部から口縁部の破片。頸部から口縁部にかけ直立し，外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ。内面輪積み痕。	砂粒 灰色 良好	30%　P702 壺G類 覆土上層 (南壁寄り)
17	椀 灰釉陶器	B (1.6) D [7.0] E 0.8	高台部から体部の破片。高台は三角形で短く，「ハ」の字状に開く。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け，ロクロナデ。体部から底部内面施釉，刷毛塗り。	砂粒 灰白色 釉　灰オリーブ色 良好	10%　P704 覆土上層 (南壁寄り) 猿投窯産 (黒笹90号窯式)

図版番号	種　別	計　測　値				出　土　地　点	備　　考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第288図18	鉄　鏃	(10.4)	(1.0)	0.4	(13.6)	覆土下層(南東コーナー部)	M89　PL106　茎部

第225号住居跡（第289・290図）

位置　調査Ⅲ区の西部，Ｅ７b6区。

重複関係　本跡が第79号掘立柱建物跡を掘り込んでいることから，本跡が新しい。また，第221・222・224号住居に掘り込まれていることから，本跡が古い。

規模と平面形　長軸3.67m，短軸3.20mの長方形である。

主軸方向　Ｎ－６°－Ｅ　第１号竈を通る軸線を主軸と考えて計測した。

壁　壁高は24～30cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　西壁から南壁にかけて巡っている。上幅20～26cm，下幅６～12cm，深さ４cmで，断面形はＵ字形である。

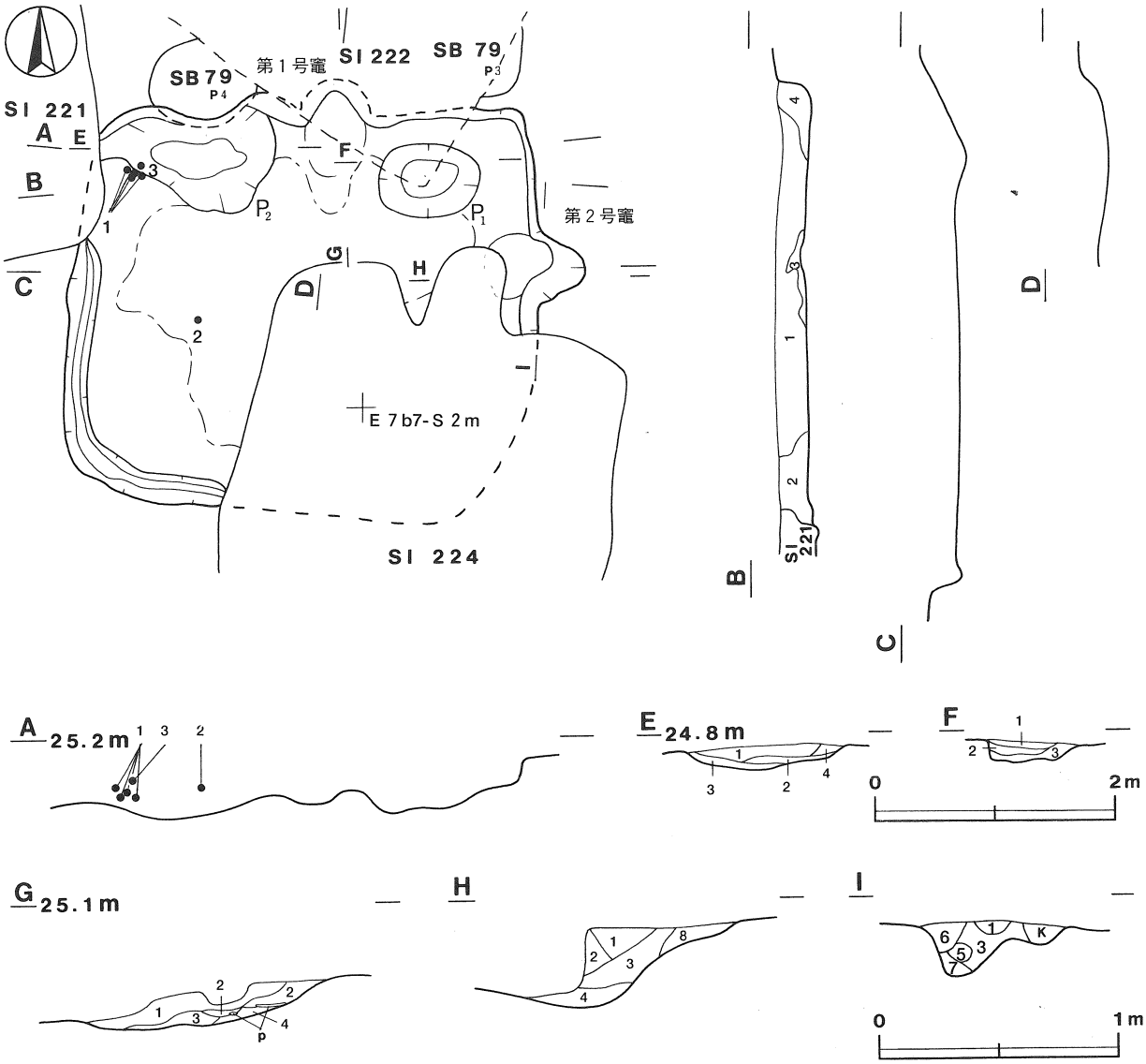
床　全面が平坦で，中央がよく踏み固められている。

竈　北壁と東壁の２か所で確認された。２か所とも遺存状態が悪く，竈の使用順序など，詳細は不明である。よって，便宜上，北壁のものを第１号竈，東壁のものを第２号竈として記述する。

第１号竈は北壁中央部に，壁外へ30cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。袖部の張り出しは少なく，焚口部から煙道部まで82cm，両袖幅80cmである。火床部は，床面を８cmほど掘りくぼめている。火床面は火熱を受けてはいるが，赤変硬化してはいない。煙道は緩やかに外傾して立ち上がる。竈の覆土は４層に分けられた。

第１号竈土層解説

1　黄褐色　粘土焼土大ブロック中量
2　暗褐色　焼土粒子中量，焼土中ブロック少量
3　にぶい赤褐色　焼土中ブロック中量，炭化物少量
4　灰褐色　炭化粒子・灰少量，焼土粒子微量



第289図　第225号住居跡実測図

第２号竈は東壁中央部に，壁外へ33cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。袖部の張り出しは少なく，焚口部から煙道部まで87cm，両袖幅65cmである。火床部は，床面を12cmほど掘りくぼめている。火床面は火熱を受けてはいるが，赤変硬化してはいない。煙道は緩やかに外傾して立ち上がる。

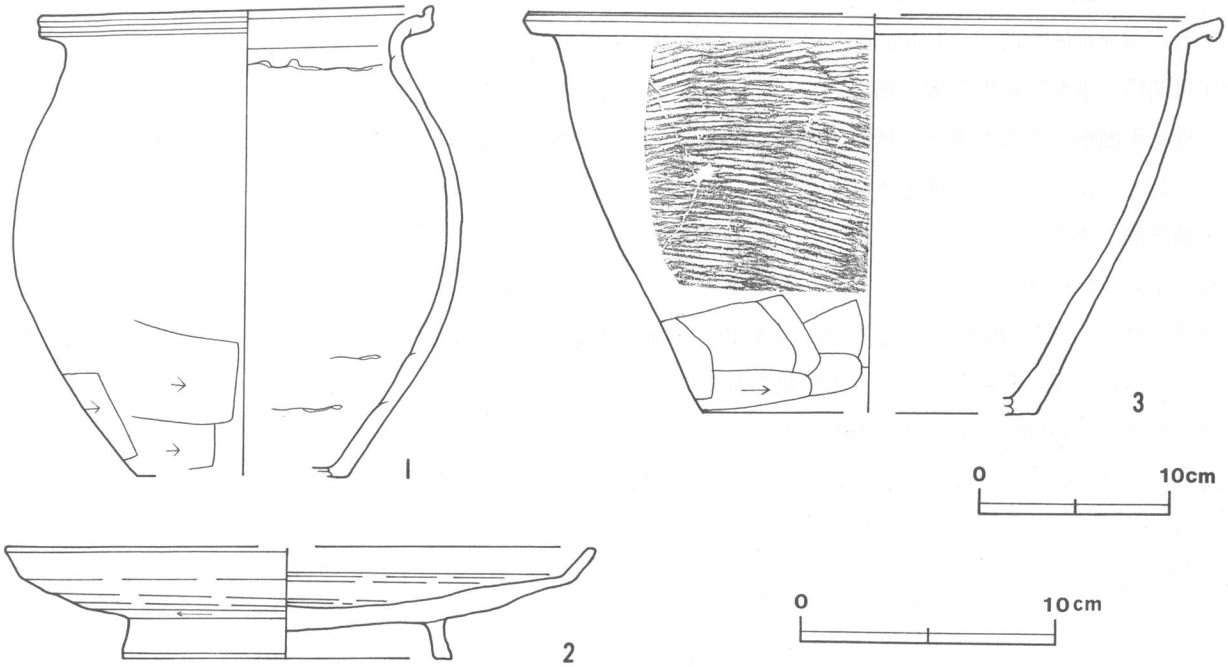
第２号竈土層解説

1	暗赤褐色	焼土粒子微量
2	にぶい赤褐色	炭化粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量
3	にぶい赤褐色	焼土粒子・灰少量
4	にぶい赤褐色	炭化粒子・焼土粒子微量
5	明赤褐色	焼土大ブロック多量
6	灰 褐 色	焼土粒子少量，炭化粒子微量
7	暗赤褐色	焼土粒子中量，炭化粒子少量
8	褐　　色	焼土粒子微量

ピット　２か所（Ｐ1・Ｐ2）。Ｐ1は長径84cm，短径62cmの楕円形で，深さ16cmである。Ｐ2は長径124cm，短径72cmの不整楕円形で，深さ22cmである。Ｐ1は北東コーナー部，Ｐ2は北西コーナー部に位置している。いずれも性格は不明である。

ピット土層解説

1	暗赤褐色	焼土大ブロック・粘土大ブロック中量
2	褐　　色	ローム中ブロック中量，粘土中ブロック少量
3	褐　　色	ローム中ブロック少量
4	褐　　色	ローム小ブロック・焼土小ブロック少量



第290図　第225号住居跡出土遺物実測図

覆土　4層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と思われる。

土層解説

1　褐　色　炭化粒子・焼土中ブロック中量，ローム中ブロック少量
2　褐　色　ローム小ブロック少量，焼土粒子少量
3　灰　色　粘土大ブロック多量
4　暗褐色　焼土中ブロック中量，粘土中ブロック少量

遺物　土師器片136点，須恵器片80点，灰釉陶器片1点が出土している。第290図1の土師器甕は北西コーナー部の覆土下層から，2の須恵器盤は西壁寄りの覆土下層から，3の須恵器鉢は北西コーナー部の覆土中層からそれぞれ出土している。灰釉陶器片は皿の体部から口縁部片で，猿投窯産（黒笹90号窯式）で，撹乱による混入と考えられる。

所見　本跡の時期は，重複している遺構の時期と出土土器から，8世紀後葉と推定される。

第225号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第290図 1	小形甕 土師器	A 15.3 B 18.5 C 8.2	体部と口縁部の一部欠損。平底。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し，つまみ上げられ，棒状工具による凹線を巡らす。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部外面下位ヘラ削り，内面輪積み痕。底部ナデ。	長石　石英　雲母 砂粒　礫 にぶい橙色 普通	70%　P707　PL90 覆土下層 (北西コーナー部)
2	盤 須恵器	A [22.9] B 4.4 D 12.9 E 1.5	体部と口縁部の一部欠損。高台は長く，「ハ」の字状に開く。体部から口縁部にかけ，内彎気味に開き，わずかに外反する。中位に明瞭な稜を持つ。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け，ロクロナデ。	長石　石英　砂粒 灰色 良好	40%　P705 覆土下層 (西壁寄り)
3	鉢 須恵器	A [35.6] B 15.7 C [17.4]	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反し，つまみ上げられた後，下方に折り返されている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面上位から中位平行叩き，下位ヘラ削り。	長石　石英　雲母 砂粒 黄灰色 普通	20%　P706 覆土中層 (北西コーナー部)

第226号住居跡（第291・292図）

位置　調査Ⅲ区の北部，Ｄ８g3区。

重複関係　本跡は第25号溝に掘り込まれていることから，本跡が古い。

規模と平面形　北部が調査区域外のため，調査したのは南側の一部分である。東西軸3.50m，南北軸（1.50）mで長方形または方形と推定される。

主軸方向　不明

壁　壁高は19～29cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　東壁・南壁・西壁に巡っている。上幅19～22cm，下幅12～18cm，深さ７～９cmで，断面形はU字形である。

床　全面が平坦で暗褐色土の貼り床が施されている。

竈　調査した範囲では確認されなかった。

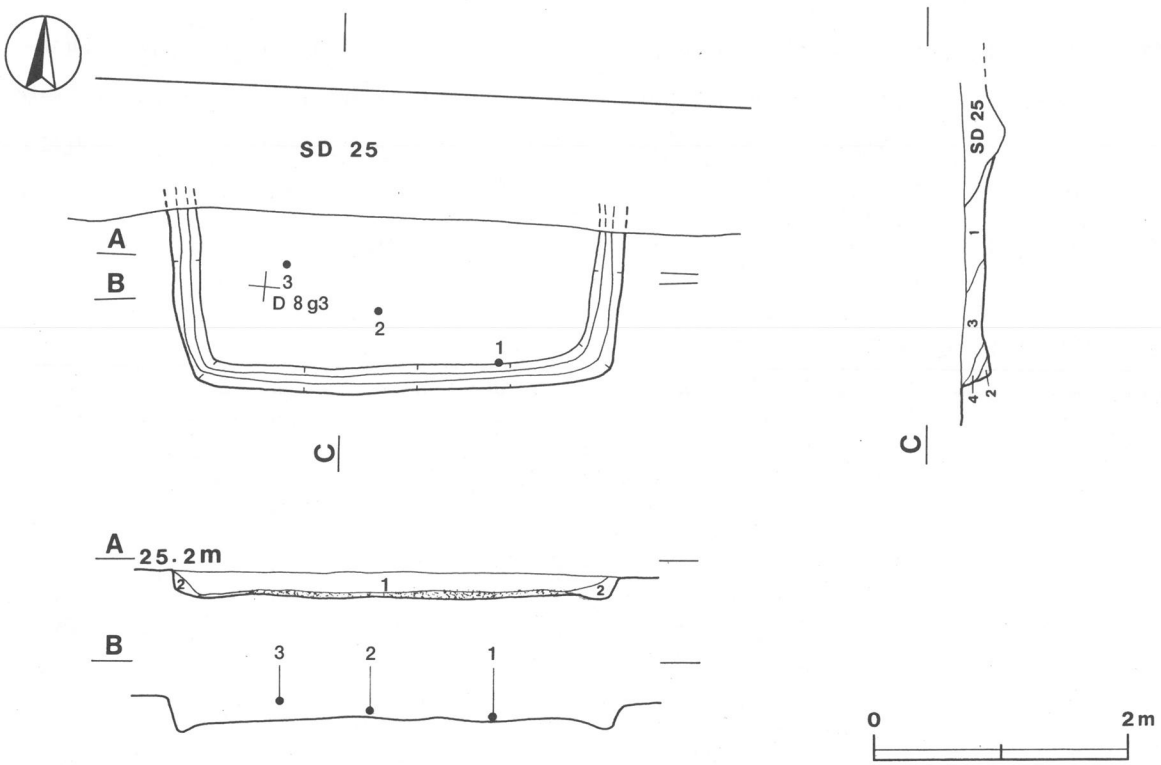
覆土　４層からなり，レンズ状の堆積状況が見られることから，自然堆積と思われる。第２層は壁溝の覆土である。

土層解説

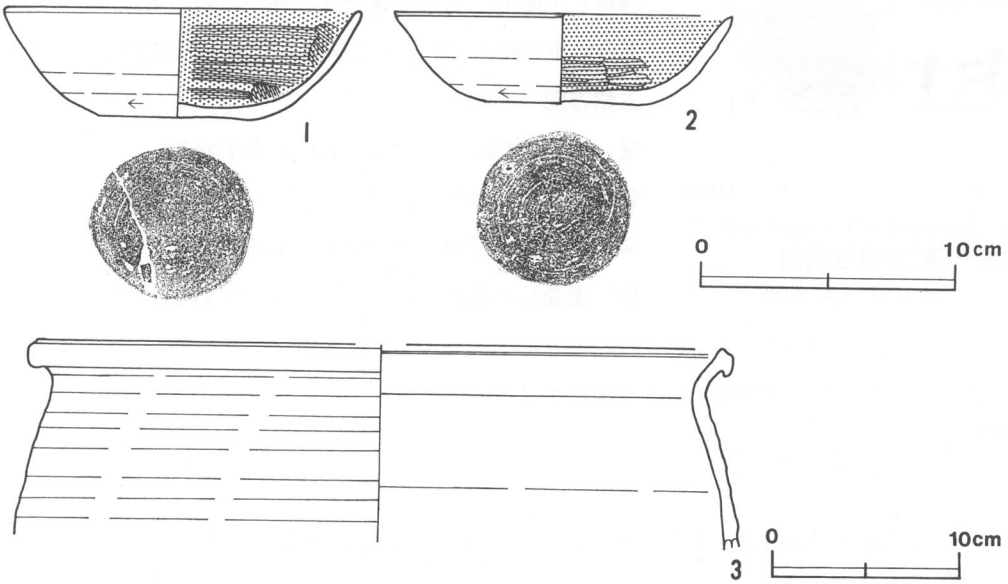
1	暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム粒子微量
2	褐　色	ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
3	暗褐色	ローム中ブロック中量，焼土粒子少量
4	暗褐色	ローム粒子少量

遺物　土師器片248点，須恵器片44点，灰釉陶器片１点，鉄滓１点，礫１点が出土している。第292図１と２の土師器坏は南壁寄りの覆土下層から，３の須恵器甕は西壁寄りの覆土上層からそれぞれ出土している。出土した灰釉陶器片は猿投窯産（黒笹90号窯式）の椀である。

所見　本跡の時期は，重複している溝と出土土器から，10世紀前葉と推定される。



第291図　第226号住居跡実測図



第292図　第226号住居跡出土遺物実測図

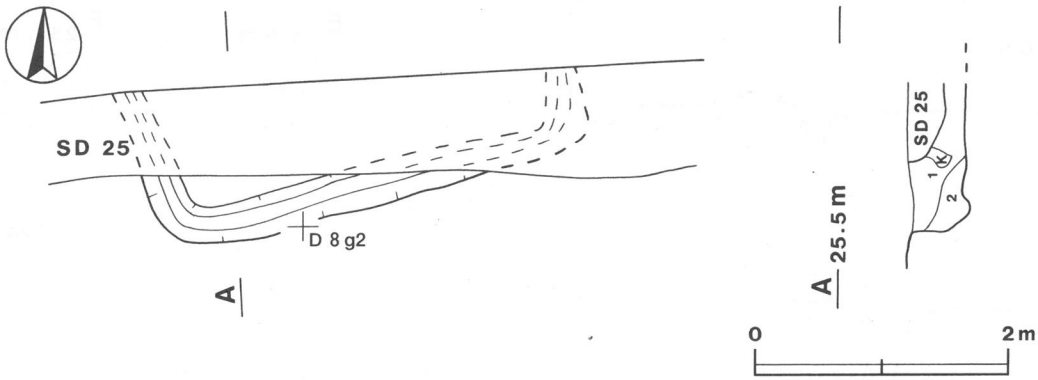
第226号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第292図 1	坏 土師器	A 13.9 B 4.4 C 6.2	平底。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がり，わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。口縁部から底部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り後，ナデ。内面黒色処理。	雲母 スコリア 砂粒 黄褐色 普通	100% P708 PL90 覆土下層 (南壁寄り)
2	坏 土師器	A 13.3 B 3.6 C 6.0	体部と口縁部の一部欠損。平底。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がる。	口縁部体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。体部から底部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒 にぶい橙色 普通	70% P709 覆土下層 (南壁寄り)
3	甕 須恵器	A [35.4] B (10.3)	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し，つまみ上げられた後，下方に折り返されている。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 灰黄色 普通	20% P710 覆土上層 (西壁寄り)

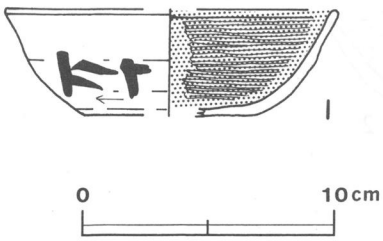
第227号住居跡（第293・294図）

位置　調査Ⅲ区の北部，D 8 f2区。

重複関係　本跡は第25号溝に掘り込まれていることから，本跡が古い。



第293図　第227号住居跡実測図



第294図　第227号住居跡
出土遺物実測図

規模と平面形　北部が調査区域外のため，調査したのは南側の一部分である。東西軸3.51m，南北軸(1.27)mで長方形または方形と推定される。

主軸方向　不明

壁　壁高は45cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　東壁・南壁・西壁を巡っている。上幅24～34cm，下幅6～12cm，深さ8cmで，断面形はU字形である。

床　調査した範囲では，全面が平坦である。

竈　調査した範囲では確認されなかった。

覆土　2層からなるが，自然堆積か人為堆積かは不明である。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子少量

遺物　土師器片41点，須恵器片32点，礫1点が出土している。第294図1の土師器坏は覆土中層から出土している。

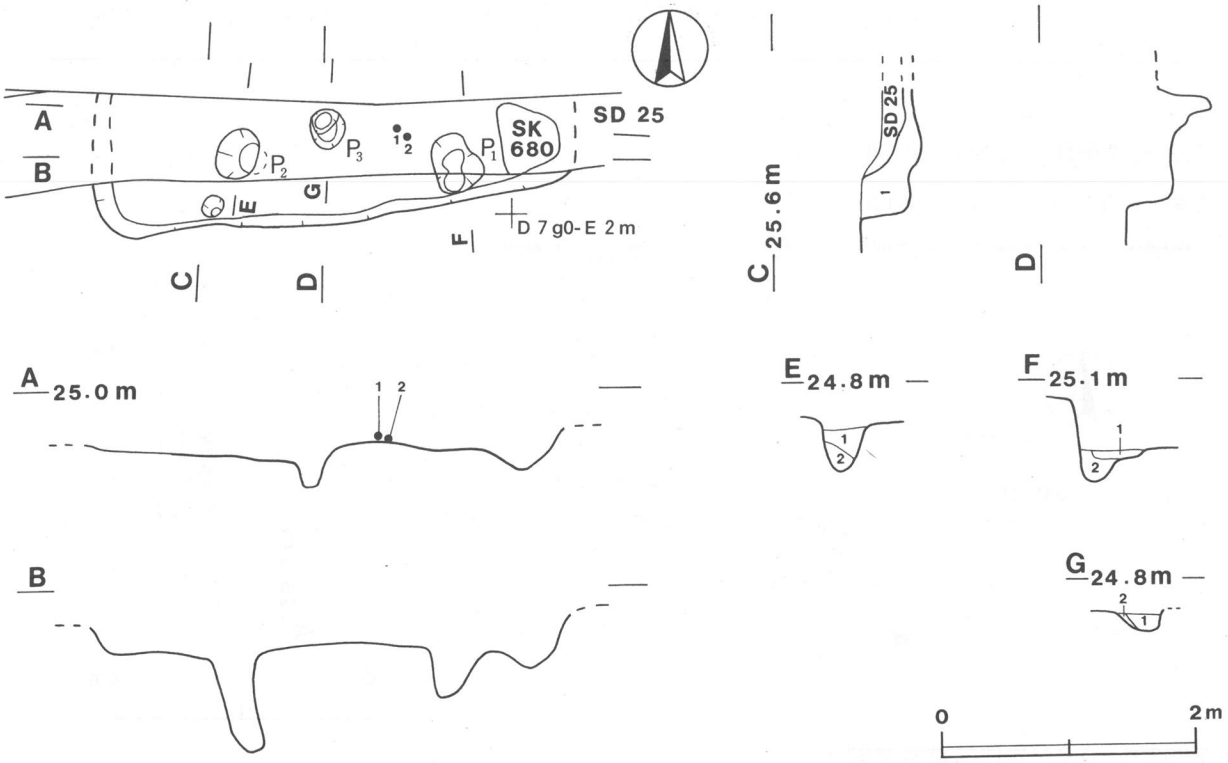
所見　本跡の時期は，重複している溝と出土土器から，9世紀中葉と推定される。

第227号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第294図 1	坏 土師器	A [13.0] B 4.2 C [6.8]	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がり，わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。口縁部から底部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。	雲母　砂粒 橙色 普通	10%　P711　PL90 体部外面墨書「万□」 覆土中層

第228号住居跡（第295・296図）

位置　調査Ⅲ区の北部，D7f0区。



第295図　第228号住居跡実測図

重複関係　本跡は第680号土坑と第25号溝に掘り込まれていることから，本跡が古い。また，切り合いはないが10世紀前葉の第80号掘立柱建物跡と重複している。

規模と平面形　北部が調査区域外のため，調査したのは南側の一部分である。東西軸3.80m，南北軸（1.50）mの長方形または方形と推定される。

主軸方向　不明

壁　壁高は20～37cmで，外傾して立ち上がる。

床　調査した範囲では，全面がほぼ平坦である。

竈　調査した範囲では確認されなかった。

ピット　3か所（P1～P3）。P1とP2はそれぞれ長径42cm・49cm，短径31cmの楕円形で，深さ43cm・78cmである。P1は南東コーナー部に，P2は南西コーナー部寄りに位置していることから，主柱穴と考えられる。P3は長径32cm，短径29cmの楕円形で，深さ30cmである。南壁寄りに位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

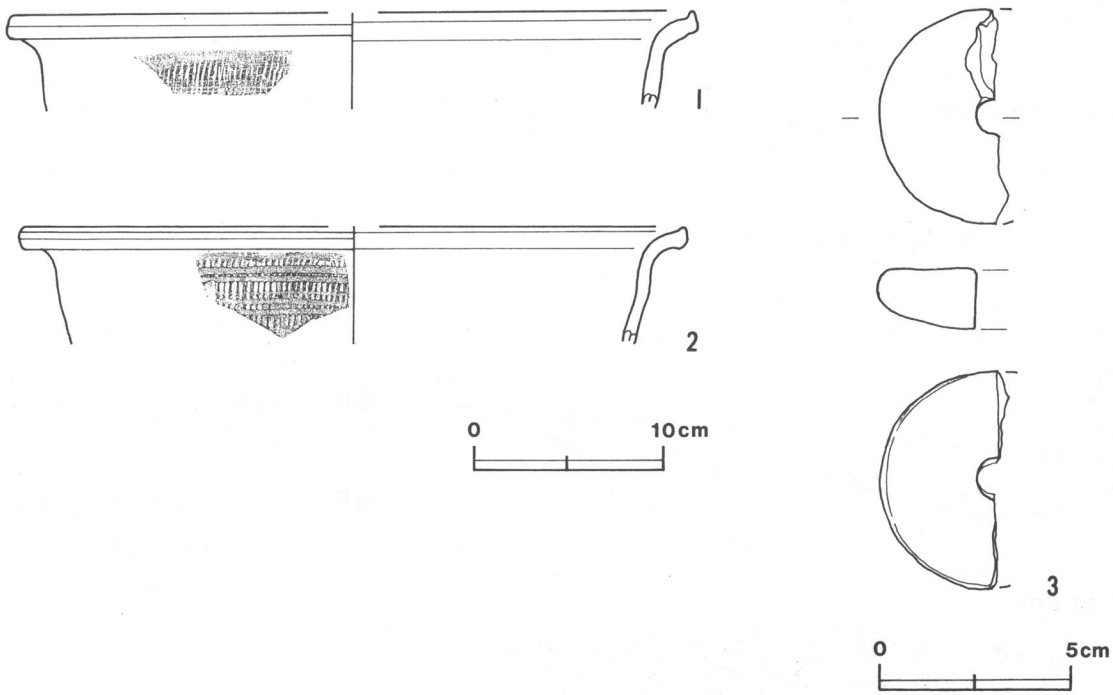
ピット土層解説
1　暗 褐 色　炭化粒子・焼土粒子微量
2　暗 褐 色　炭化粒子微量

覆土　単一層で，自然堆積か人為堆積か不明である。

土層解説
1　暗 褐 色　焼土粒子微量

遺物　土師器片3点，須恵器片10点，土製品1点（紡錘車）が出土している。第296図1と2の須恵器鉢は南壁寄りの覆土下層から，3の紡錘車は床面直上からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，重複している溝と出土土器から，9世紀後葉と推定される。



第296図　第228号住居跡出土遺物実測図

第228号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第296図 1	鉢 須恵器	A [35.2] B (5.0)	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反し，つまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面平行叩き。	長石 石英 砂粒 褐灰色 普通	5% P712 覆土下層 (南壁寄り)
2	鉢 須恵器	A [34.2] B (6.1)	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反し，つまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面平行叩き。	石英 雲母 スコリア 砂粒 にぶい橙色 普通	5% P713 覆土下層 (南壁寄り)

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第296図3	土製紡錘車	5.3	1.6	1.0	(30.4)	床面直上	DP107

第300号住居跡（第297図）

位置　調査Ⅳ区の北部，F 8 h4区。

規模と平面形　北側が調査区域外のため，調査したのは南壁際の部分である。東西軸4.25m，南北軸（0.50）mである。平面形は不明である。

主軸方向　不明である。

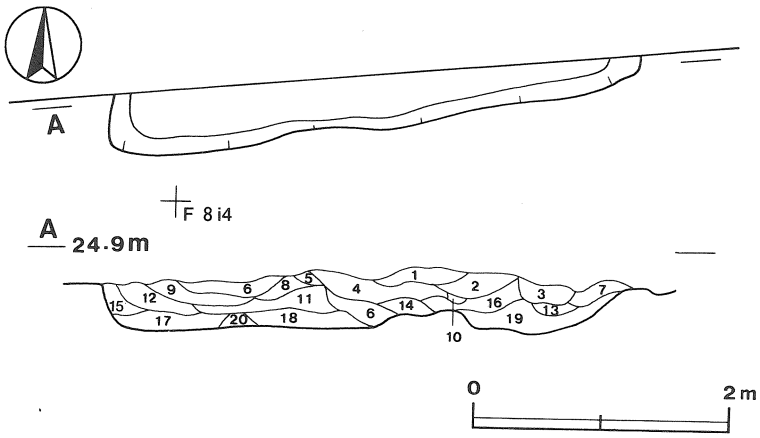
壁　壁高は35cmで，外傾して立ち上がる。

床　凹凸である。

覆土　20層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と思われる。

土層解説

1 褐色　ローム粒子微量，粘性が弱い
2 褐色　焼土粒子微量
3 褐色　ローム粒子少量
4 暗褐色　焼土粒子微量
5 褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
6 黒褐色　焼土粒子微量
7 暗褐色　焼土粒子少量，粘性が弱い
8 暗褐色　ローム粒子・焼土粒子微量
9 暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
10 暗褐色　ローム粒子少量
11 暗褐色　焼土粒子少量，ローム粒子微量
12 暗褐色　ローム粒子・焼土粒子少量
13 暗褐色　ローム小ブロック・焼土粒子微量
14 暗褐色　焼土粒子少量，硬く締まっている
15 暗褐色　焼土粒子・粘土粒子少量
16 暗褐色　焼土粒子・粘土粒子微量
17 褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
18 褐色　ローム中・小ブロック・粒子少量
19 暗褐色　ローム粒子微量
20 褐色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・粒子少量



遺物　土師器片17点，須恵器片４点が出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器が少ないことから，詳細は不明である。

第297図　第300号住居跡実測図

（２）掘立柱建物跡

今回の調査で，掘立柱建物跡38棟が確認された。これらの建物跡は出土土器が少なく，時期を限定することは困難であったが，柱穴の配列や他の遺構との重複関係から，奈良・平安時代の掘立柱建物跡37棟，時期不明の掘立柱建物跡１棟に分けることができる。ここでは，奈良・平安時代の掘立柱建物跡について，その特徴を記載する。

第42号掘立柱建物跡（第298・299図）

位置　調査ⅡＢ区の中央部，Ｅ４i7区。

規模　桁行３間（平均5.93m），梁行２間（平均3.62m），柱間寸法は桁行1.92～2.14m，梁行1.58～1.92mで，面積は21.46m²である。柱穴は10か所（Ｐ1～Ｐ10）で，側柱構造の建物跡である。柱穴は，平面形が長径0.72～0.84m，短径0.60～0.78mの楕円形である。断面形は逆台形状を呈し，深さは42～64cmである。柱の抜き取り痕はＰ1～Ｐ3・Ｐ6～Ｐ10で認められ，柱は径16～24cmと推定される。

桁行方向　Ｎ－17°－Ｗ

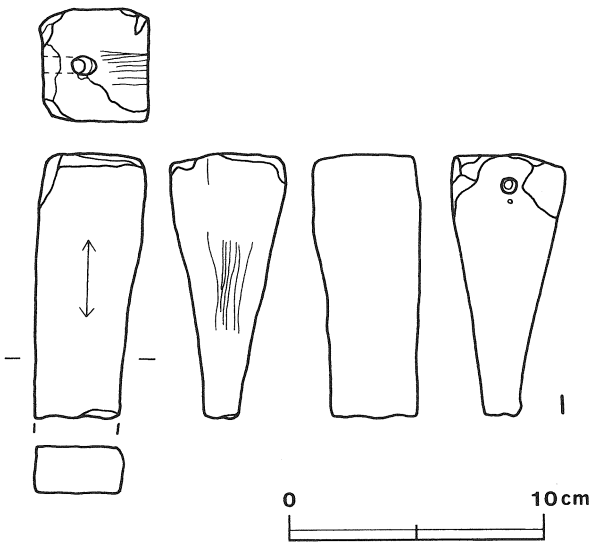
覆土　Ｐ1・Ｐ6～Ｐ9で，暗褐色土と褐色土を互層に埋土しているのが確認された。土層断面図中，第１層は柱の抜き取り痕である。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量，粘性は弱い
2	暗褐色	ローム中ブロック少量，よく締まっている
3	褐色	ローム小ブロック中量，よく締まっている
4	暗褐色	ローム小ブロック微量，よく締まっている
5	暗褐色	ローム粒子微量，よく締まっている
6	明黄褐色	ローム小ブロック多量，ローム粒子少量
7	褐色	ローム粒子中量
8	黒褐色	ローム粒子少量，粘性は弱く締まりはない
9	黒褐色	ローム粒子中量，ローム中・小ブロック微量，粘性は弱く，締まりはない
10	褐色	ローム小ブロック・粒子中量
11	黒褐色	ローム小ブロック・粒子多量，ローム大・中ブロック中量
12	暗褐色	ローム小ブロック・粒子多量
13	黒褐色	ローム小ブロック・粒子中量，ローム中ブロック微量，よく締まっている
14	黒褐色	ローム小ブロック・粒子中量
15	暗褐色	ローム中・小ブロック・粒子中量

遺物　土師器片14点，須恵器片11点，石器１点（砥石）が出土している。第298図１の砥石は，Ｐ3の柱の抜き取り痕から出土している。

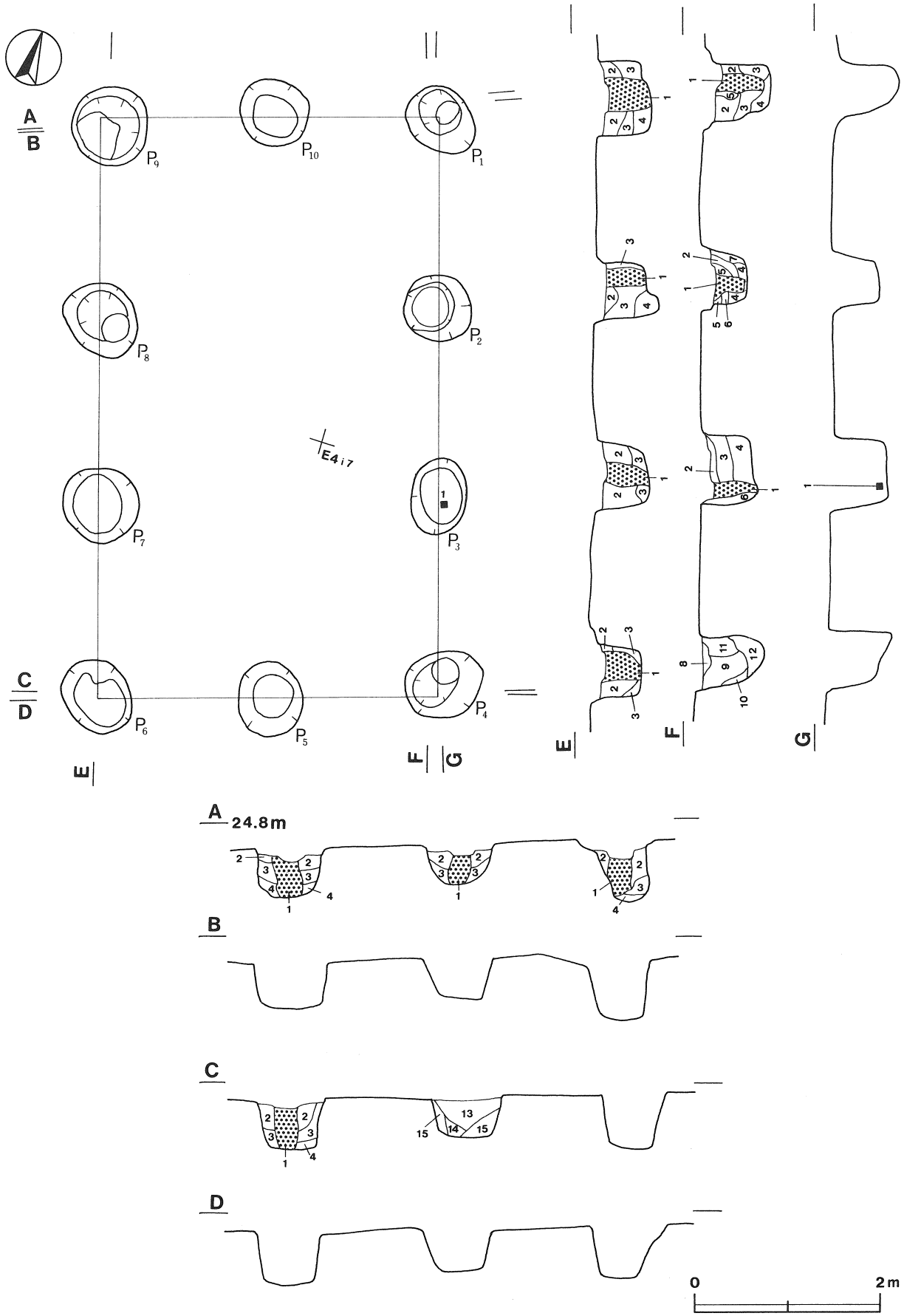
所見　柱穴の深さは不規則であるが，柱穴の規模と柱間寸法はほぼ規則性が認められる。また，本跡の桁行方向が，隣接する第105号住居跡の主軸方向とほぼ一致することから，同時期に一連の施設として機能していた可能性がある。時期は，第105号住居跡との関連から，９世紀前葉と推定される。



第298図　第42号掘立建物跡出土遺物実測図

第42号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第298図1	砥石	(10.4)	4.3	4.4	(232.0)	凝灰岩	Ｐ3中(柱の抜き取り痕)	Ｑ16　穿孔している



第299図　第42号掘立柱建物跡実測図

第43号掘立柱建物跡（第300～302図）

位置　調査ⅡＢ区の北西部，Ｅ３d9区。

重複関係　Ｐ5～Ｐ7・Ｐ16が第111号住居跡を掘り込んでいる。

規模　桁行５間（平均10.64m），梁行２間（平均4.28m），柱間寸法は桁行1.32～3.82m，梁行1.90～2.28mで，面積は45.53m²である。柱穴は16か所（Ｐ1～Ｐ16）で，側柱構造の建物跡である。柱穴は，平面形が長径0.65～1.20m，短径0.58～0.89mの隅丸長方形または楕円形である。深さは30～55cmで断面形は逆台形状を呈す。一部は丸くくぼんだ二段掘り状である。柱の抜き取り痕はＰ1・Ｐ13で認められ，柱は，径18～22cmと推定される。

桁行方向　Ｎ－74°－Ｅ

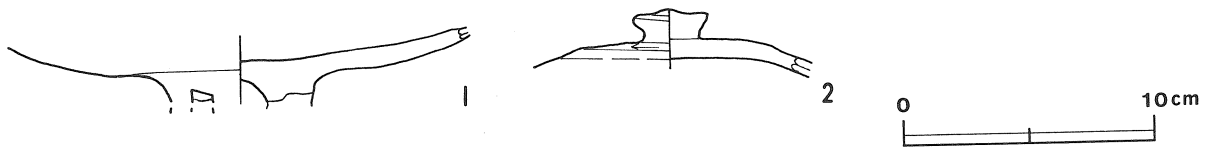
覆土　土層断面図中，第８層は柱の抜き取り痕で，第１～７・９～22層は埋土である。

土層解説

1	褐　色	砂粒中量，ローム小ブロック・粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量，粘性は弱く，締まりはない
2	褐　色	ローム粒子中量，炭化粒子少量
3	褐　色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，炭化粒子微量
4	褐　色	ローム粒子・炭化粒子少量，よく締まっている
5	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック微量
6	褐　色	ローム小ブロック・粒子・炭化粒子中量，ローム中ブロック微量，粘性を帯び，よく締まっている
7	褐　色	ローム中・小ブロック・粒子中量，炭化粒子微量，よく締まっている
8	暗褐色	炭化粒子少量，ローム粒子微量，粘性を帯び，よく締まっている
9	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック微量，粘性を帯び，よく締まっている
10	褐　色	ローム小ブロック・粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量，粘性は弱く，よく締まっている
11	褐　色	ローム粒子・炭化粒子少量，粘性を帯び，よく締まっている
12	褐　色	ローム粒子中量，炭化粒子微量
13	暗褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量
14	暗褐色	ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量，よく締まっている
15	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
16	褐　色	ローム小ブロック・粒子・炭化粒子少量
17	褐　色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，炭化粒子微量
18	暗褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
19	暗褐色	ローム小ブロック・粒子中量，炭化粒子微量
20	暗褐色	ローム粒子微量，粘性を帯びている
21	褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
22	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量

遺物　土師器片16点，須恵器片18点が出土している。第300図１の須恵器高盤，２の須恵器蓋は，Ｐ12中から出土しているが，混入と思われる。

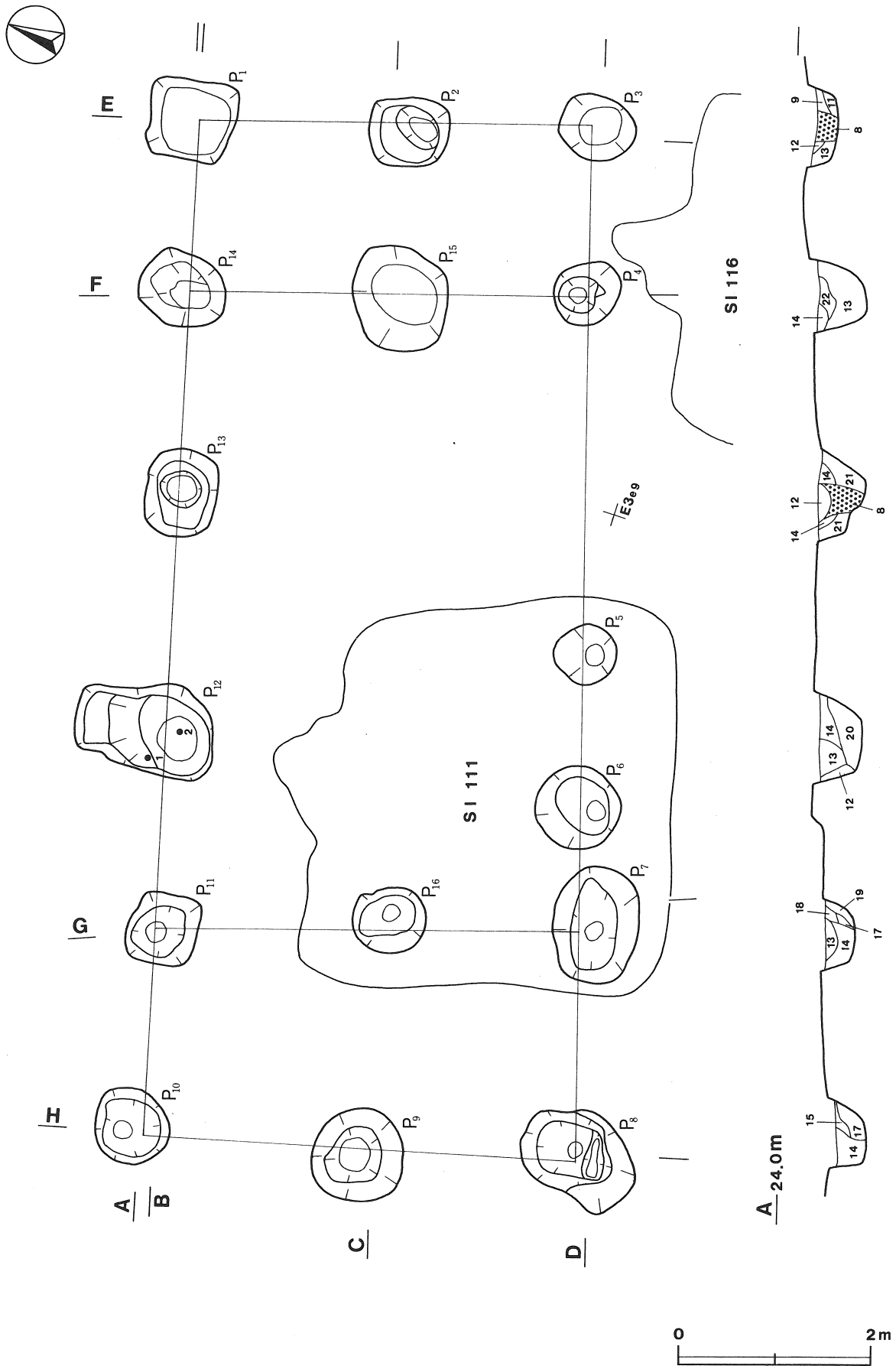
所見　柱穴は，断面形・深さともに不ぞろいで，柱間寸法についても規則性に乏しい。当遺跡からは本跡のような構造の掘立柱建物跡は確認されていない。時期は，第111号住居跡との重複関係から，10世紀以降の平安時代と推定される。



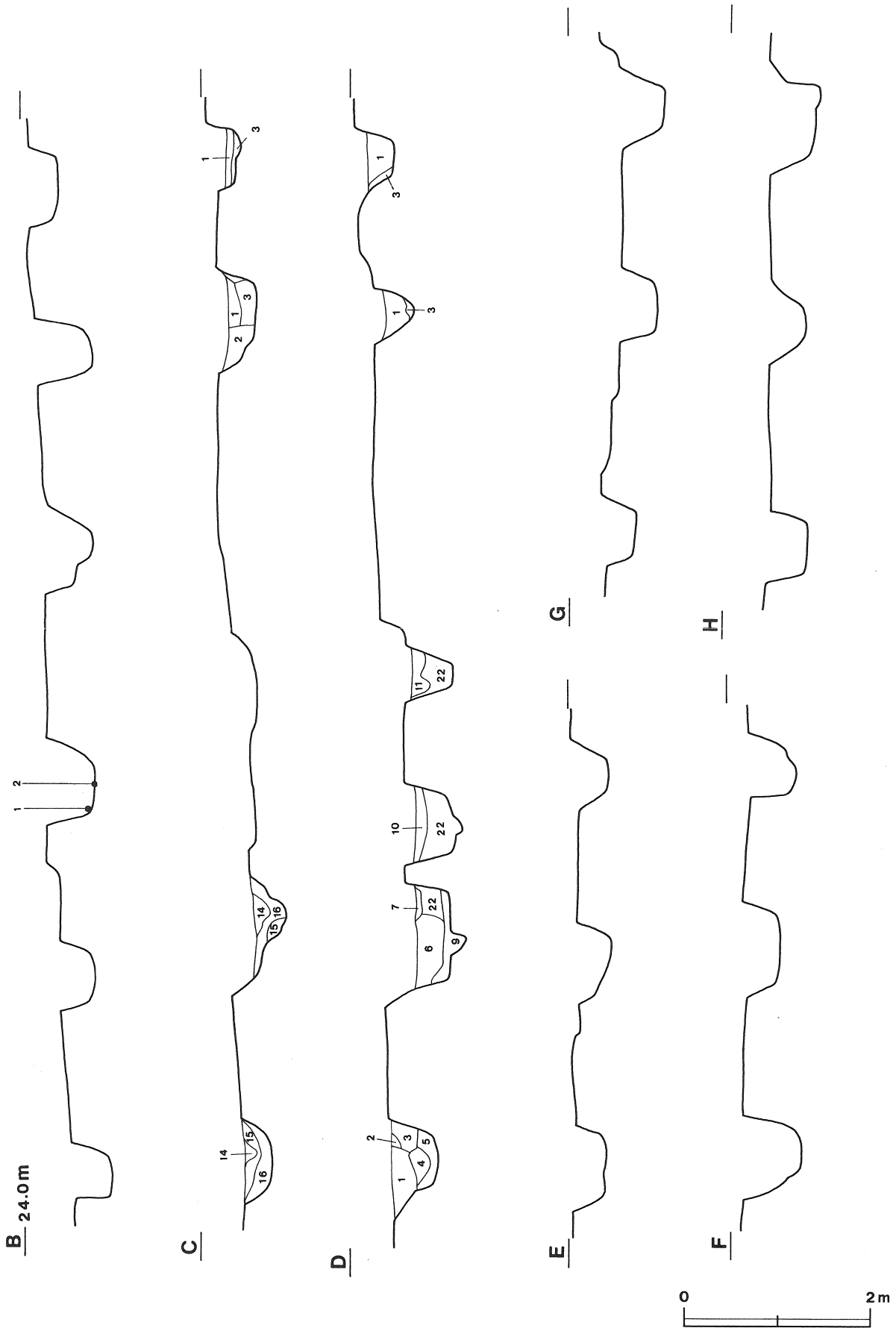
第300図　第43号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第43号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第300図 1	高盤 須恵器	B（2.5）	底部から体部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。	砂粒　雲母 灰白色 普通	10%　P212 P12中
2	蓋 須恵器	B（2.6） F　3.0 G　1.1	天井部から外周部にかけての破片。天井部は頂部が平坦で，外周部はなだらかに下降する。つまみは腰高の擬宝珠状。	天井頂部回転ヘラ削り。外周部ロクロナデ。ロクロ目は弱い。	砂粒　長石　石英 黄灰色 普通	20%　P213 P12中



第301図　第43号掘立柱建物跡実測図（１）



第302図　第43号掘立柱建物跡実測図（２）

第44号掘立柱建物跡（第303・304図）

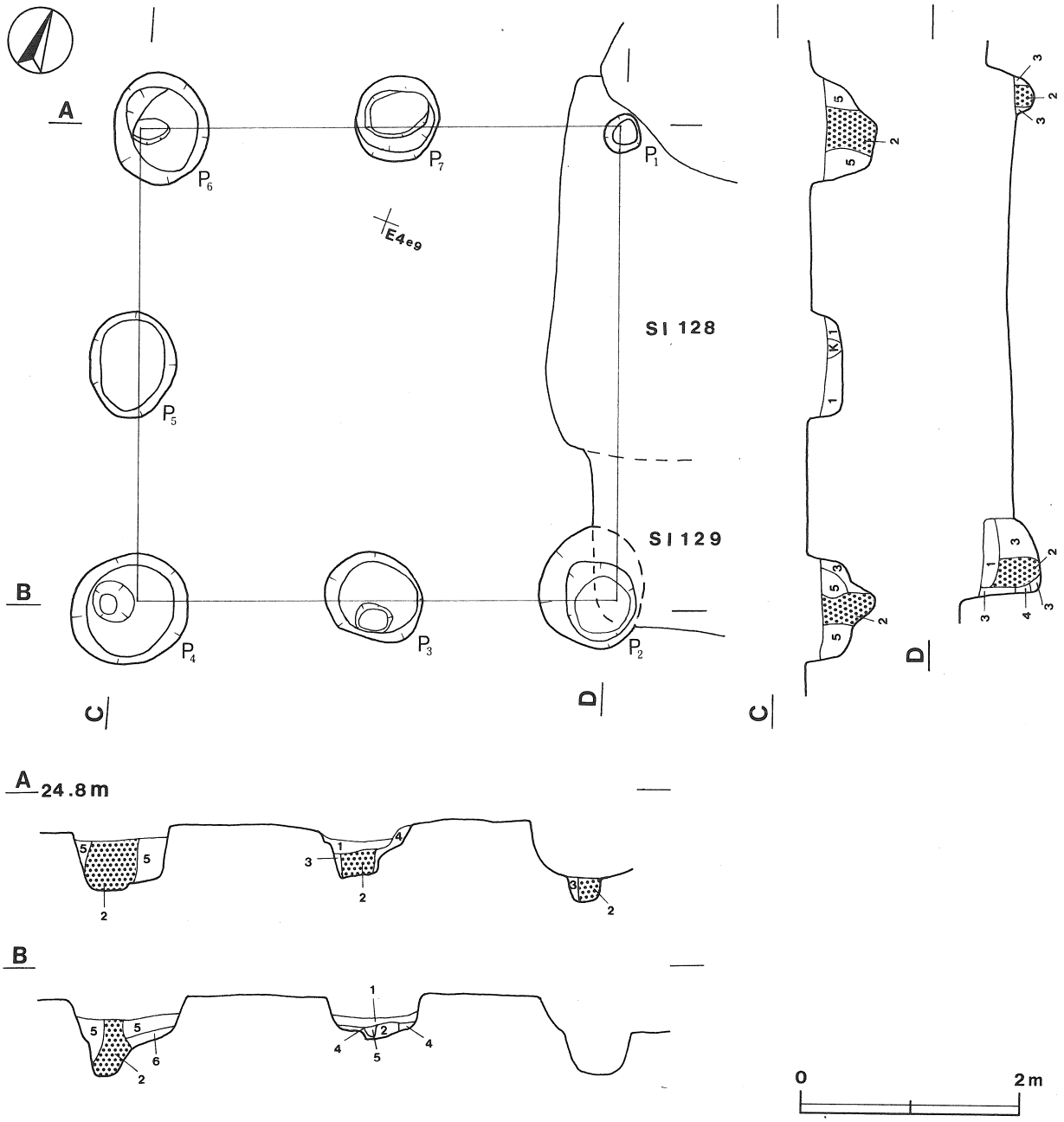
位置　調査ⅡＢ区の西部，Ｅ４e9区。

重複関係　第128・129号住居に掘り込まれている。

規模　桁行２間（平均4.50m），梁行２間（平均4.20m），柱間寸法は桁行1.64～1.86m，梁行1.64～1.82mで，面積は18.90m²である。柱穴は第128号住居に掘り込まれていると思われる１か所を除いて７か所（Ｐ1～Ｐ7）が確認できた。側柱構造の建物跡である。柱穴は，平面形が径0.36～0.98mの円形である。断面形は逆台形状を呈し，一部は底面が丸くくぼんだ二段掘り状で，深さは31～74cmである。柱穴は，４隅のＰ1・Ｐ2・Ｐ4・Ｐ6が他よりも深くなっている。柱の抜き取り痕はＰ1・Ｐ2・Ｐ4・Ｐ6・Ｐ7で認められ，柱は径24～32cmと推定される。

桁行方向　Ｎ－78°－Ｅ

覆土　土層断面図中，第２層は柱の抜き取り痕である。第３～６層は埋土で，つき固められている。



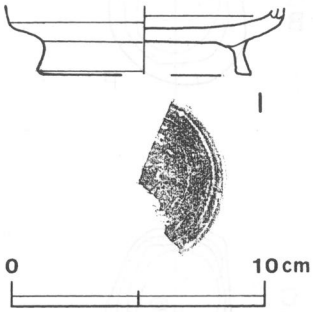
第303図　第44号掘立柱建物跡実測図

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
3　褐　色　ローム中・小ブロック・粒子中量，よく締まっている
4　暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量，炭化粒子微量，よく締まっている
5　褐　色　ローム小ブロック・粒子中量，ローム中ブロック少量，よく締まっている
6　暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量，炭化粒子微量

遺物　土師器片17点，須恵器片12点が出土している。第304図１の須恵器高台付坏は，Ｐ7中から出土している。

所見　柱間寸法に規則性が認められる。時期は，当遺跡で確認された奈良・平安時代に比定される，桁行２間，梁行２間の側柱建物跡と，柱穴寸法がほぼ一致することと，第128・129号住居に掘り込まれていることから，８世紀と推定される。



第304図　第44号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第44号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　考
第304図 1	高台付坏 須　恵　器	B（ 2.7） D［ 8.2］ E　 1.3	高台部から体部にかけての破片。体部は下位に稜を有する。高台は「ハ」の字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け，ナデ。	砂粒　雲母　長石 灰黄色 普通	10%　P214 P7中

第45号掘立柱建物跡（第305～307図）

位置　調査Ⅳ区の南部，Ｈ９f3区。

規模　桁行３間（平均7.00m），梁行２間（平均4.73m），柱間寸法は桁行2.10～2.52m，梁行2.30～2.47mで，面積は約33.11m²である。柱穴は10か所（Ｐ1～Ｐ10）で，側柱構造の建物跡である。柱穴は，平面形が長径0.87～1.30m，短径0.81～1.02mの楕円形または円形である。断面形は二段掘り状または逆台形状を呈し，深さは20～97cmである。柱の抜き取り痕はＰ1～Ｐ6・Ｐ9で認められ，柱は径15～24cmと推定される。

桁行方向　Ｎ－４°－Ｗ

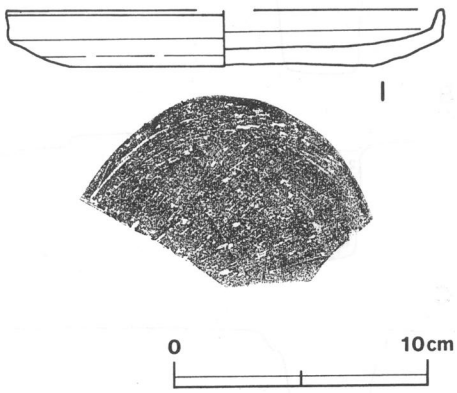
覆土　第１層は柱の抜き取り痕で，第２～８層は埋土である。

土層解説

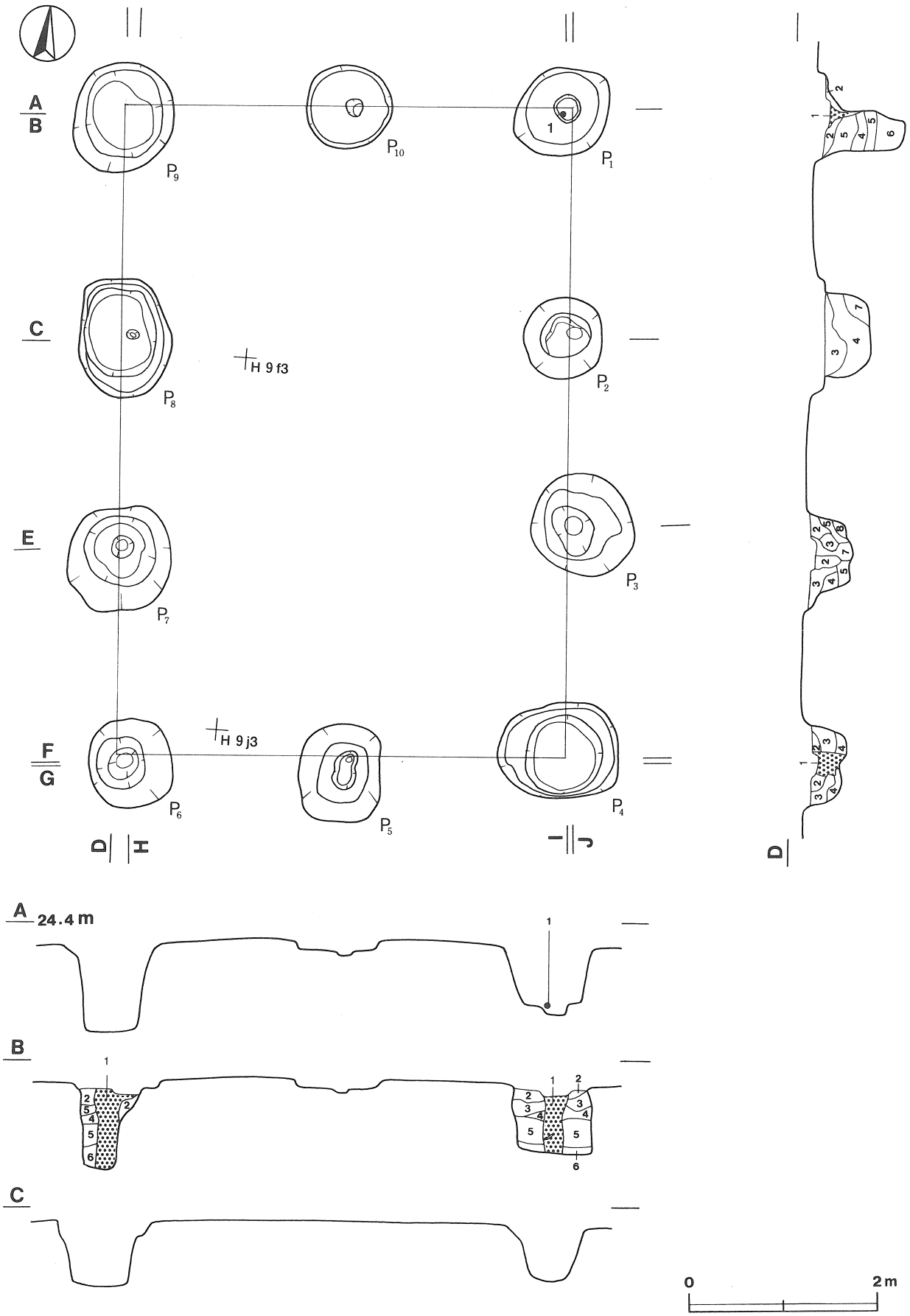
1　極暗褐色　炭化粒子微量
2　明赤褐色　ローム中ブロック多量
3　褐　色　ローム小ブロック中量
4　褐　色　ローム小ブロック多量
5　黄褐色　ローム粒子少量
6　暗褐色　ローム粒子微量
7　褐　色　ローム中ブロック少量
8　褐　色　ローム中・小ブロック・炭化粒子少量

遺物　土師器片13点，須恵器片７点が出土している。第305図１の須恵器盤はＰ1の第１層下部から出土している。

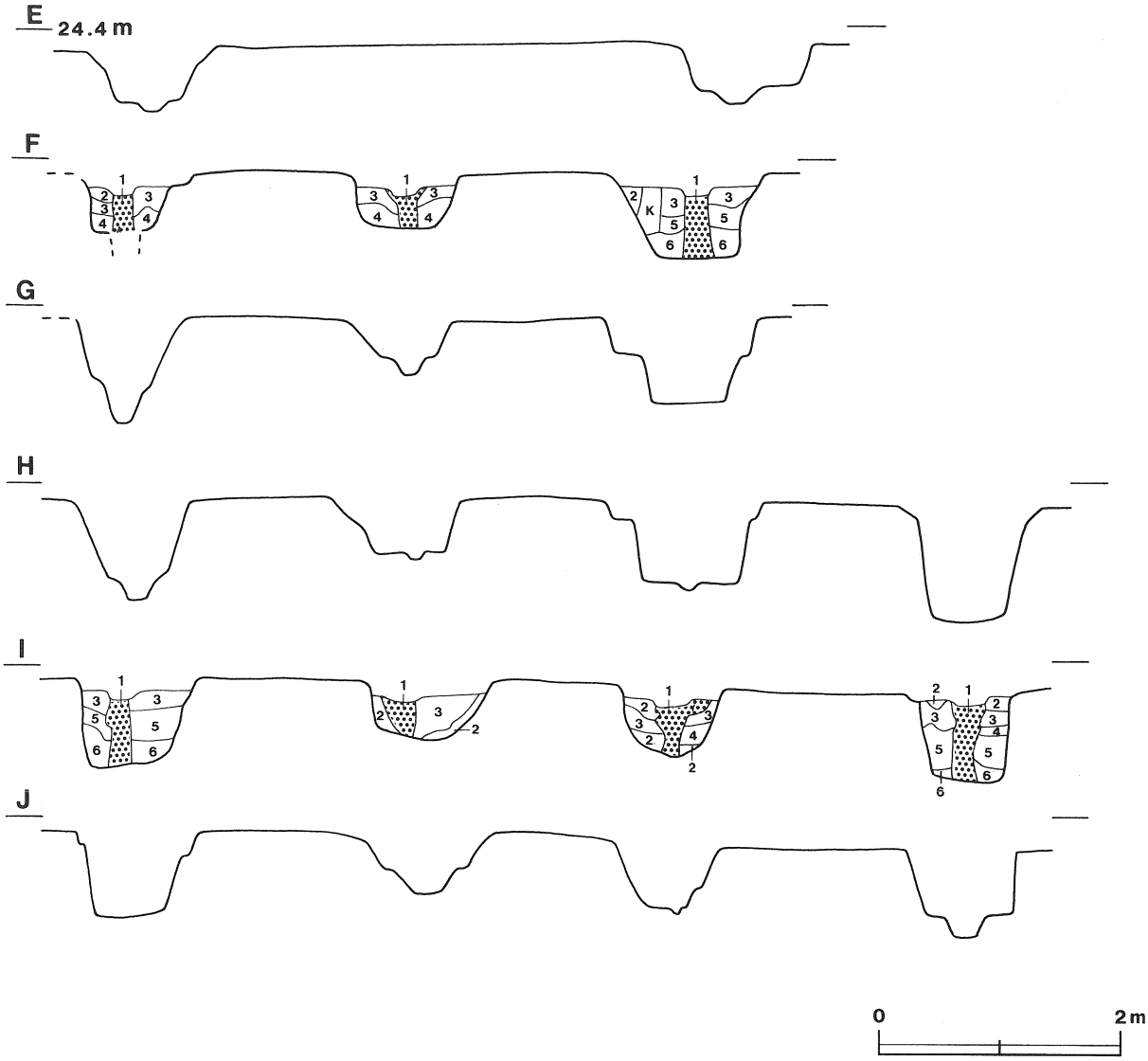
所見　柱穴の深さは不規則であるが，柱間寸法は規則性が認められる。５m北側に隣接する第46号掘立柱建物跡とは桁行方向と構造で違いがあるものの，他の掘立柱建物跡は周囲に確認されておらず，同時期に一連の施設として機能していた可能性がある。また，第48・57号掘立柱建物跡とは構造が同じで，桁行方向がほぼ一致することから，同時期の可能性もある。時期は，出土土器から，９世紀中葉と推定される。



第305図　第45号掘立柱建物跡出土遺物実測図



第306図　第45号掘立柱建物跡実測図（１）



第307図　第45号掘立柱建物跡実測図（２）

第45号掘立柱建物跡出土遺物観察表

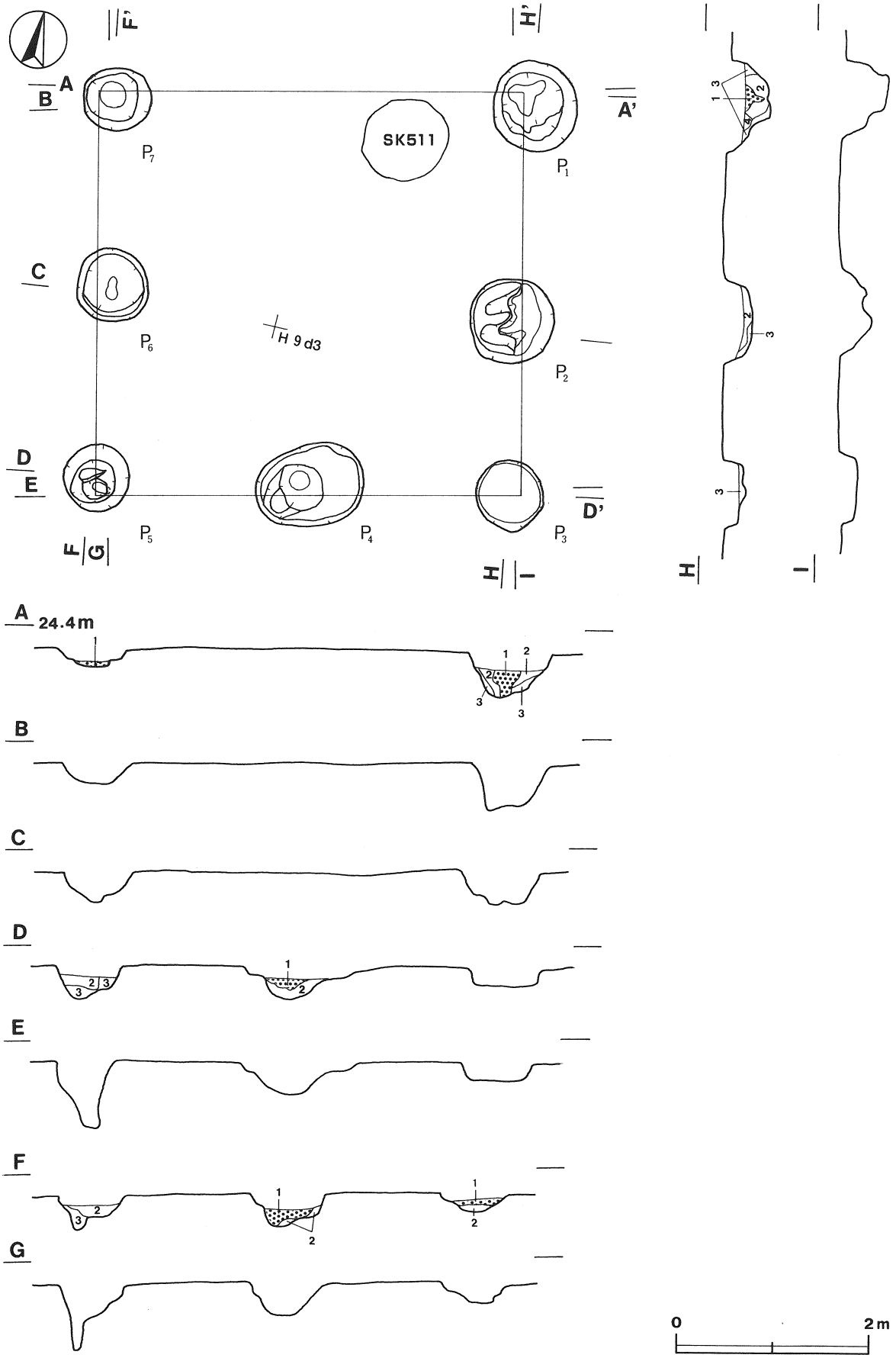
図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第305図 1	盤 須　恵　器	A ［17.4］ B　2.2 C　12.4	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ，直線的に立ち上がり，わずかに外反する。中位に明瞭な稜を持つ。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちヘラ削り。	長石　雲母　砂粒 灰黄色 普通	40%　P894 P1抜き取り痕下部

第46号掘立柱建物跡（第308図）

位置　調査Ⅳ区の南部，Ｈ９c3区。

重複関係　第511号土坑と重複しているが，切り合いがないことから，新旧関係は不明である。

規模　桁行２間（平均4.39m），梁行２間（平均4.20m），柱間寸法は桁行1.97～2.23m，梁行1.85～2.37mで，面積は約18.44m²である。柱穴は７か所（Ｐ1～Ｐ7）で，側柱構造の建物跡である。柱穴は，平面形が長径0.70～1.14m，短径0.65～0.86mの楕円形または円形である。断面形は二段掘り状，逆台形状またはＵ字状を呈し，深さは24～72cmである。抜き取り痕はＰ1・Ｐ4・Ｐ6・Ｐ7で認められ，柱は径19～25cmと推定される。



第308図　第46号掘立柱建物跡実測図

桁行方向　N－80°－E

覆土　第１層は柱の抜き取り痕で，第２～４層は埋土である。

土層解説

1　暗褐色　ローム小ブロック少量
2　褐　色　ローム小ブロック中量
3　明褐色　ローム大ブロック中量
4　暗褐色　ローム中ブロック中量

遺物　土師器片９点，須恵器片４点が出土している。土器は細片のため図示できなかった。

所見　構造，柱穴の深さ，柱間寸法ともに不規則である。P4に対応する北側のピットは確認されていない。同じ構造の掘立柱建物跡は，当遺跡のこれまでの調査では検出されていなく，他の掘立柱建物跡との関連は不明である。５m南側に隣接する第45号掘立柱建物跡とは桁行方向と構造で違いがあるものの，周囲に掘立柱建物跡がないことから，同時期に一連の施設として機能していた可能性は考えられる。時期は，遺物が少なく特定できないものの，９世紀と推定される。

第47号掘立柱建物跡（第309・310図）

位置　調査Ⅳ区の東部から調査Ⅴ区の西部，Ｈ９a5区。

規模　本跡は調査Ⅳ・Ⅴ区にまたがって位置する。中央部に農道が走り調査区域外になるため，梁行の間数は確認できなかった。桁行は２間（平均4.48m）である。柱穴は６か所（Ｐ1～Ｐ6）確認できた。柱穴は，平面形が長径0.68～0.86m，短径0.60～0.72mの楕円形である。断面形は逆台形状を呈し，一部は底面が丸くくぼんだ二段掘り状で，深さは24～52cmである。柱の抜き取り痕はＰ1・Ｐ2・Ｐ4・Ｐ5で認められ，柱は径18～22cmと推定される。

桁行方向　N－18°－W

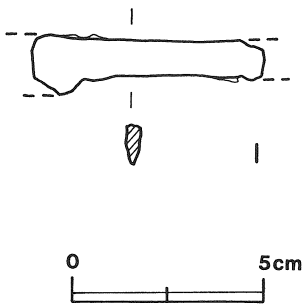
覆土　土層断面図中，第１層は柱の抜き取り痕である。第２～５層は埋土で，つき固められて硬くなっている。

土層解説

1　暗褐色　ローム小ブロック・炭化物少量，締まりはない
2　褐　色　ローム小ブロック中量，よく締まっている
3　黄褐色　ローム大ブロック多量，よく締まっている
4　褐　色　ローム小ブロック少量，粘性は弱く，よく締まっている
5　極暗褐色　ローム粒子多量，炭化粒子中量，よく締まっている
6　暗褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック少量，締まりはない
7　暗褐色　ローム中ブロック中量，焼土粒子少量，よく締まっている

遺物　土師器片19点，須恵器片17点，金属製品１点（刀子）が出土している。第309図１の刀子は，Ｐ1中から出土している。

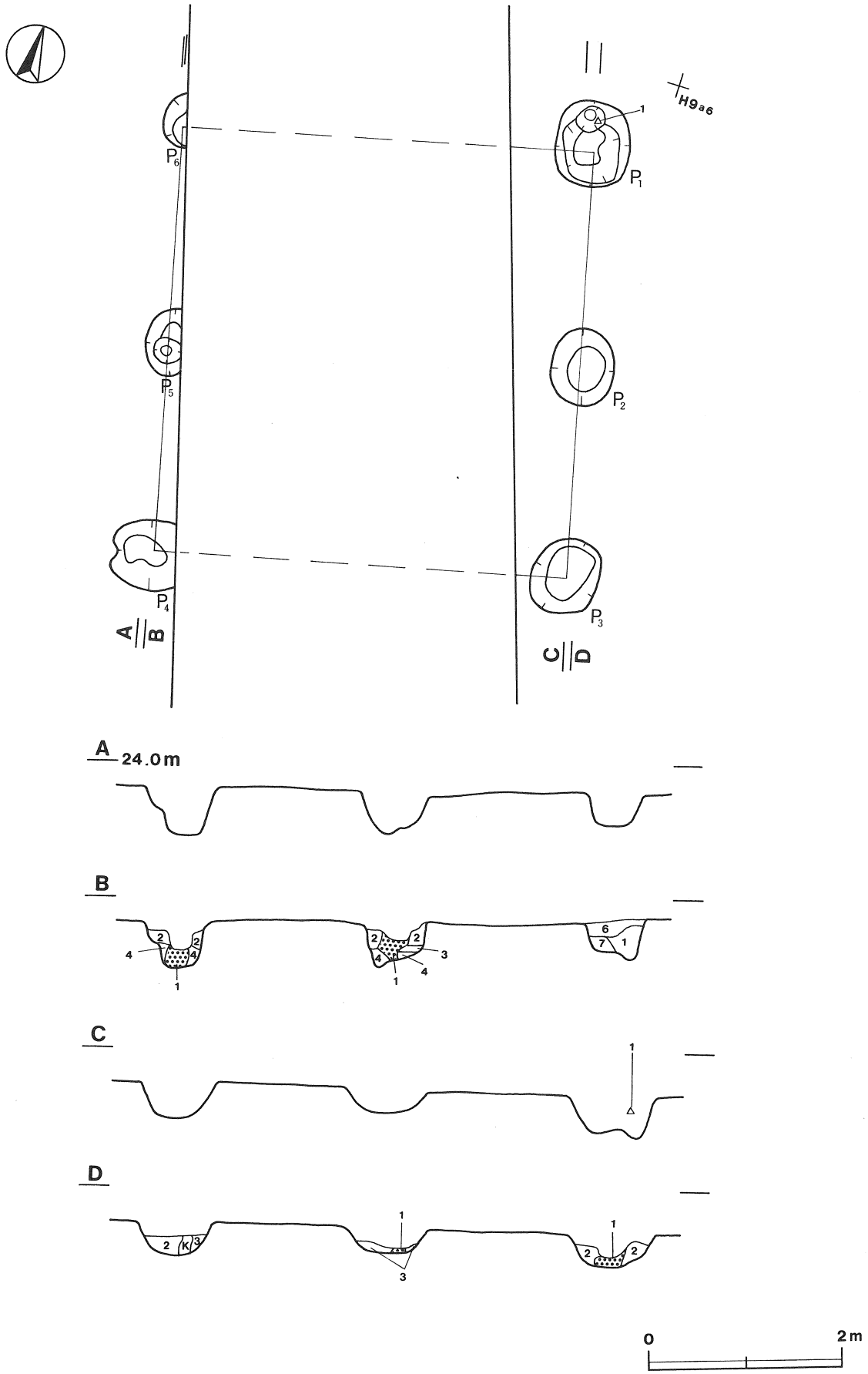
所見　柱穴の規模と深さに規則性が認められるが，柱間寸法は不規則である。隣接する他の掘立柱建物跡との関連は不明であるが，第46号掘立柱建物跡と桁行方向がほぼ一致しており，同時期に一連の施設として機能していた可能性は考えられる。時期は，出土土器が細片のため特定できないものの，９世紀と推定される。



第309図　第47号掘立柱建物跡出土遺物実測図

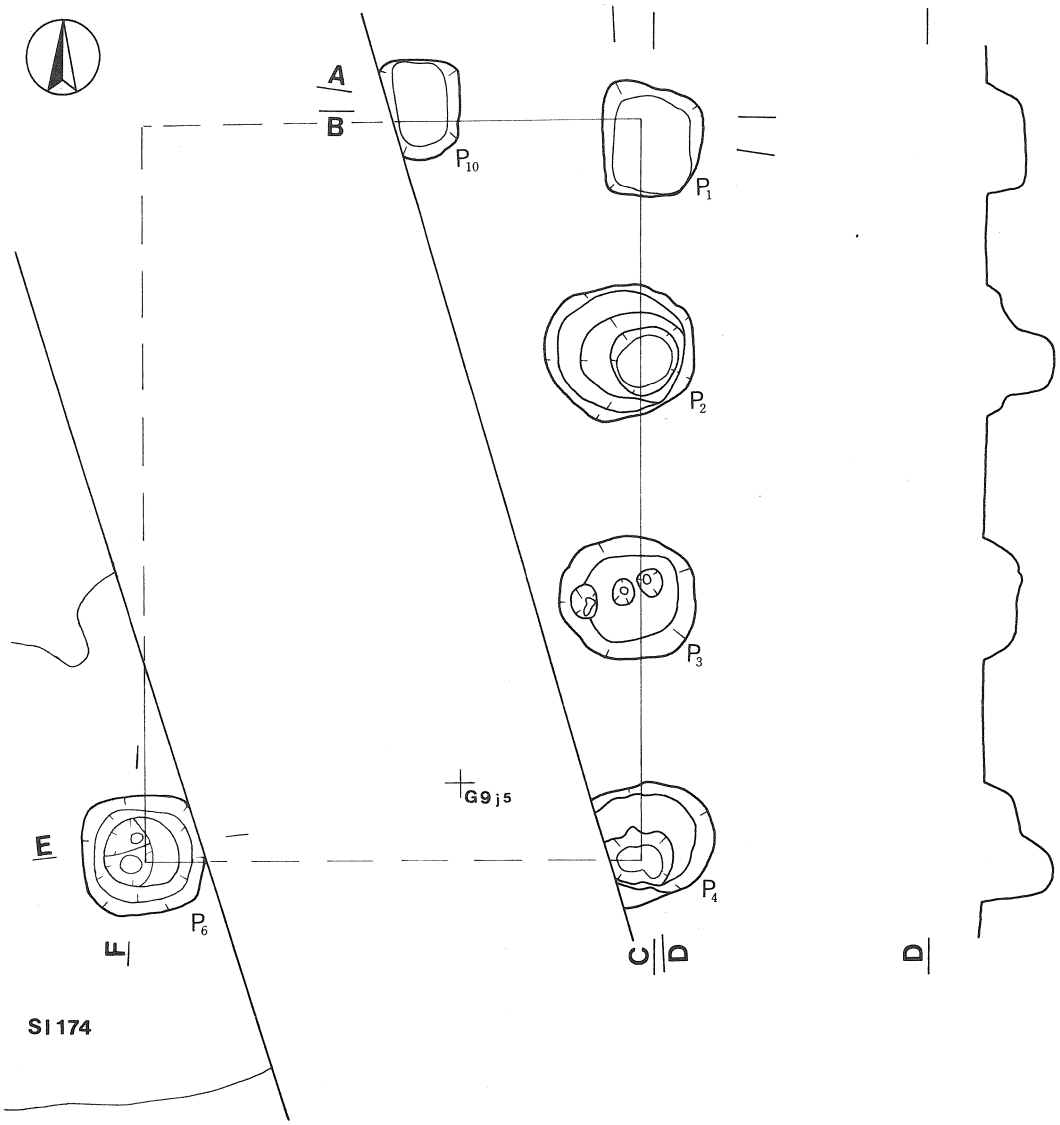
第47号掘立柱建物跡出土遺物観察表

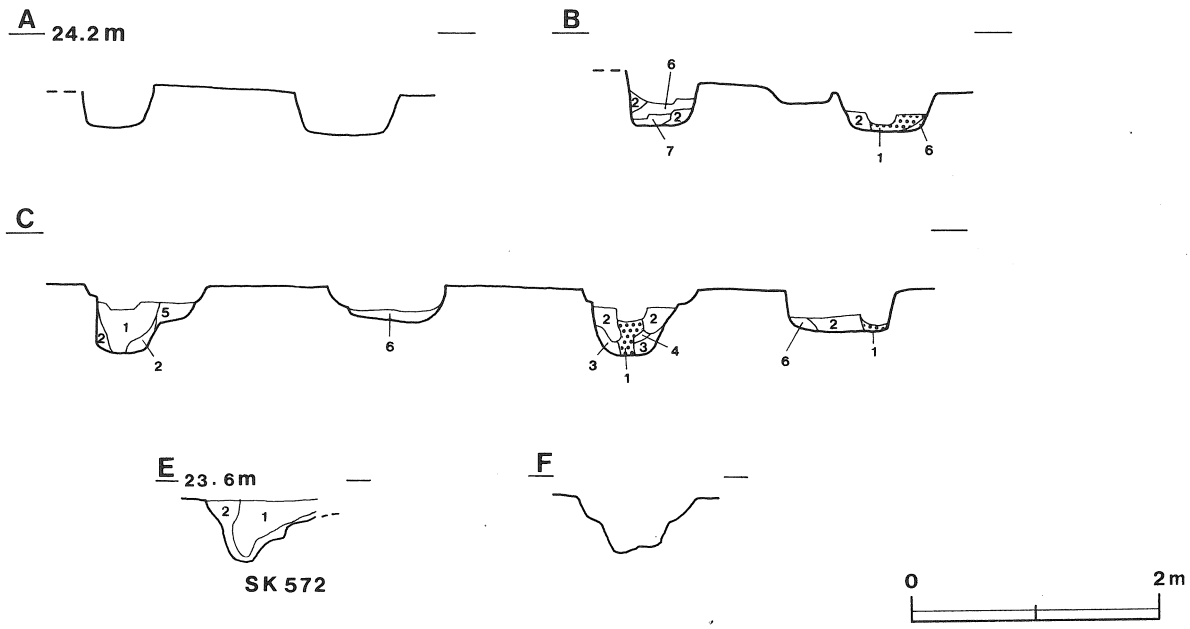
図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第309図1	刀子	(6.2)	1.6	0.4	(7.0)	P1中	M90　PL103



第310図　第47号掘立柱建物跡実測図

第48号掘立柱建物跡（第311図）





第311図　第48号掘立柱建物跡実測図

位置　調査Ⅳ区の東部から調査Ⅴ区の西端部，Ｇ９i5区。

規模　本跡は調査Ⅳ・Ⅴ区にまたがって位置する。本跡の北西部は，農道が走り調査区域外になるため確認できなかった。桁行３間（平均5.70m），梁行２間（平均3.98m），柱間寸法は桁行1.68～2.20m，梁行1.98mである。面積は［12.68］m²である。柱穴は６か所（Ｐ1～Ｐ4・Ｐ6・Ｐ10）確認できた。柱穴は，平面形が長径0.82～1.24m，短径0.82～1.04mの隅丸長方形または不整円形である。断面形は逆台形状あるいはＵ字状を呈し，深さは，32～52cmである。柱の抜き取り痕はＰ1・Ｐ2で認められ，柱は径12～18cmと推定される。

桁行方向　Ｎ－０°

覆土　土層断面図中，第１層は柱の抜き取り痕で，第２～７層は埋土である。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量
2	褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，よく締まっている
3	暗褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック微量，よく締まっている
4	褐色	ローム小ブロック・粒子中量
5	褐色	ローム小ブロック・粒子少量，ローム中ブロック微量，よく締まっている
6	暗褐色	ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
7	褐色	ローム粒子中量

遺物　土師器片12点，須恵器片17点が出土している。いずれも細片のため図示できなかった。

所見　柱穴の深さは不規則であるが，柱穴の規模と柱間寸法は，ほぼ規則性が認められる。本跡と構造及び桁行方向が一致する掘立柱建物跡は第45・57号掘立柱建物跡であるが，本跡と第57号掘立柱建物跡は約32m離れており，同時期に一連の施設として機能していたかどうかは不明である。時期は，第45号掘立柱建物跡との関連と出土土器から，９世紀中葉と推定される。

第49号掘立柱建物跡（第312図）

位置　調査Ⅳ区の南部，Ｇ９j2区。

重複関係　本跡が，第157号住居に掘り込まれていることから，本跡が古い。

規模　桁行２間（平均4.20m），梁行２間（平均4.00m），柱間寸法は桁行2.07～2.22m，梁行1.75～2.27mで，面積は約16.80m²である。柱穴は６か所（Ｐ1～Ｐ6）で確認されたが、第157号住居に掘り込まれており，構造は不明である。柱穴は，平面形が長径 0.80～1.24m，短径0.72～1.17mの楕円形，円形または不定形である。断面形は二段掘り状，逆台形状またはＵ字状を呈し,深さは25～53cmである。柱痕および柱の抜き取り痕は確認できなかった。柱の寸法は不明である。

桁行方向　Ｎ－７°－Ｗ

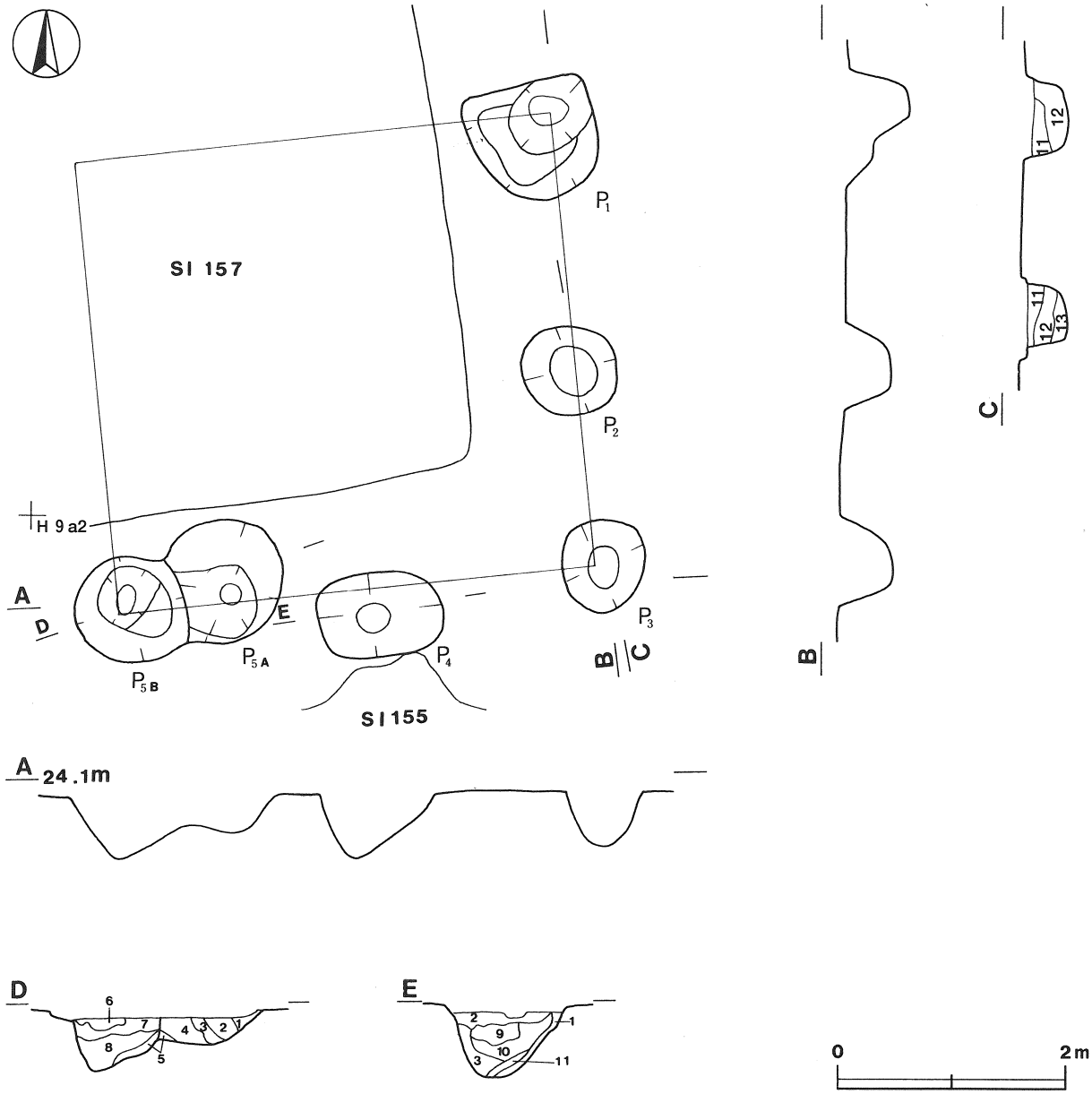
覆土　第１～13層は埋土である。

土層解説

1	褐色	ローム小ブロック・粒子中量，ローム中ブロック少量，炭化粒子微量
2	褐色	ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・粒子少量，炭化粒子微量
3	暗褐色	炭化粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック・粒子少量，ローム中ブロック微量
4	暗褐色	ローム小ブロック・粒子少量，ローム中ブロック・炭化粒子・焼土粒子微量
5	褐色	ローム小ブロック・粒子中量，ローム中ブロック少量，炭化粒子微量
6	暗褐色	炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
7	黒褐色	炭化粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
8	暗褐色	ローム中・小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
9	暗褐色	ローム中・小ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
10	褐色	ローム中・小ブロック少量，炭化粒子・焼土粒子微量
11	暗褐色	ローム小ブロック・粒子中量，ローム中ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
12	黒褐色	炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
13	黒褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量

遺物　土師器片４点，須恵器片３点が出土している。土器は細片のため図示できなかった。

所見　第157号住居に掘り込まれているため，構造は不明である。桁行２間，梁行２間の建物跡であると推定されることから，７m南東側に隣接する第47号掘立柱建物跡，５m北東側に隣接する第55・56号掘立柱建物跡



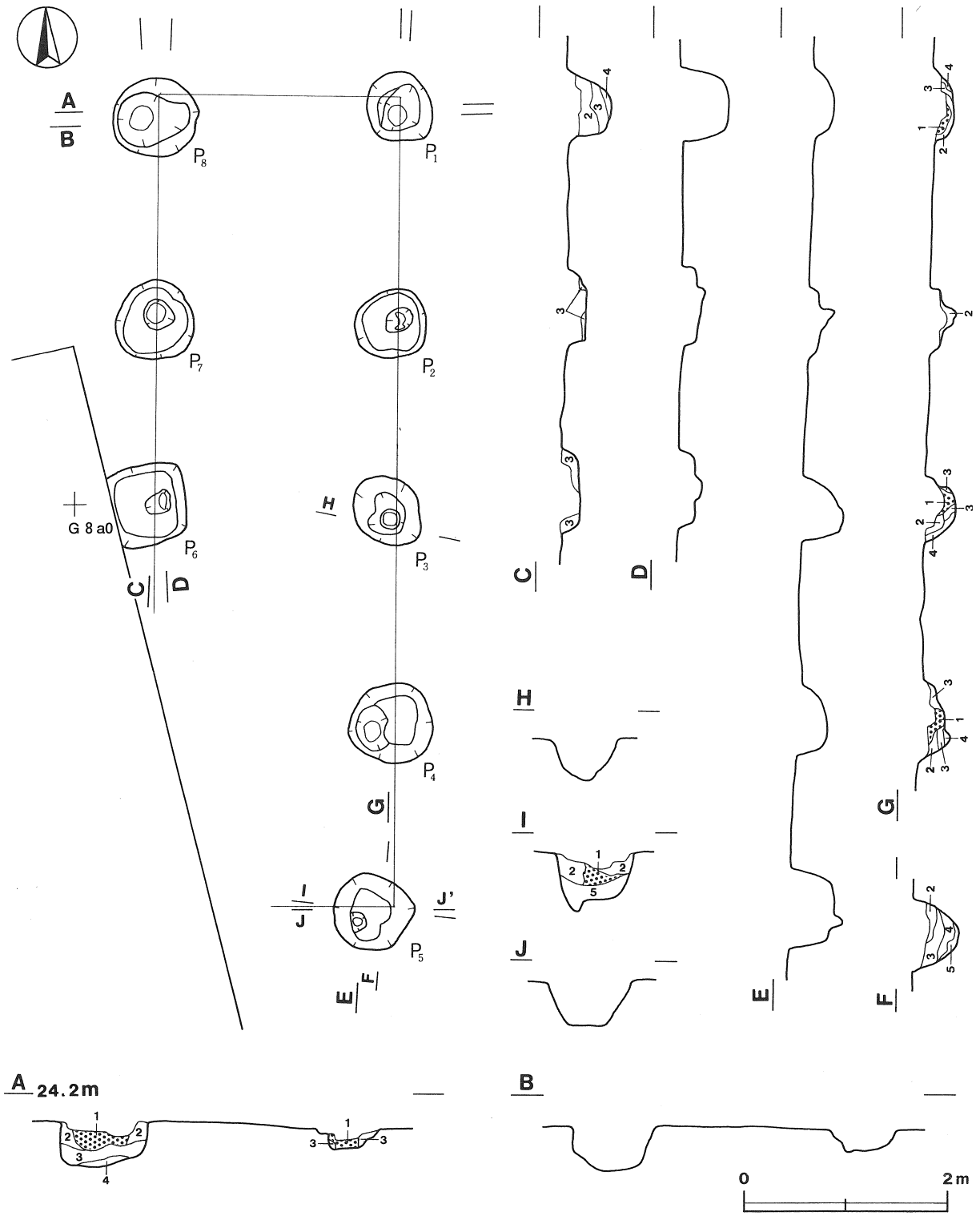
第312図　第49号掘立柱建物跡実測図

と同じ側柱構造の建物である可能性が高い。特に，第55・56号掘立柱建物跡はほぼ桁行方向が等しく，面積も同じと考えられる。その関連は不明であるが，同じ用途の施設として別時期に機能していた可能性がある。柱穴の深さ，柱間寸法は，ともに不規則である。時期は，重複している住居跡の時期と出土土器から，８世紀前葉から中葉と推定される。

第50号掘立柱建物跡（第313図）

位置　調査Ⅳ区の中央部，Ｇ８a0区。

規模　南西部が調査区域外のため，調査した範囲では桁行４間（平均7.84m），梁行１間（平均2.41m）である。柱間寸法は桁行1.90～2.14m，梁行2.30～2.54mで，面積は約[18.89]㎡と推定される。柱穴は８か所（Ｐ1～Ｐ8）確認され，側柱構造の建物跡である。柱穴は，平面形が長径（軸）0.72～0.84m，短径（軸）0.62～0.80mの楕円形，円形または方形である。断面形は二段掘り状，逆台形状またはＵ字状を呈し，深さは22～63cmである。柱の抜き取り痕は Ｐ1・Ｐ4・Ｐ5・Ｐ8で認められ，柱は径18～24cmと推定される。



第313図　第50号掘立柱建物跡実測図

桁行方向　N－1°－E

覆土　第1層は柱の抜き取り痕で，第2～5層は埋土である。

土層解説

1　暗褐色　炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子微量
3　褐　色　ローム粒子少量
4　暗褐色　焼土粒子微量
5　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量

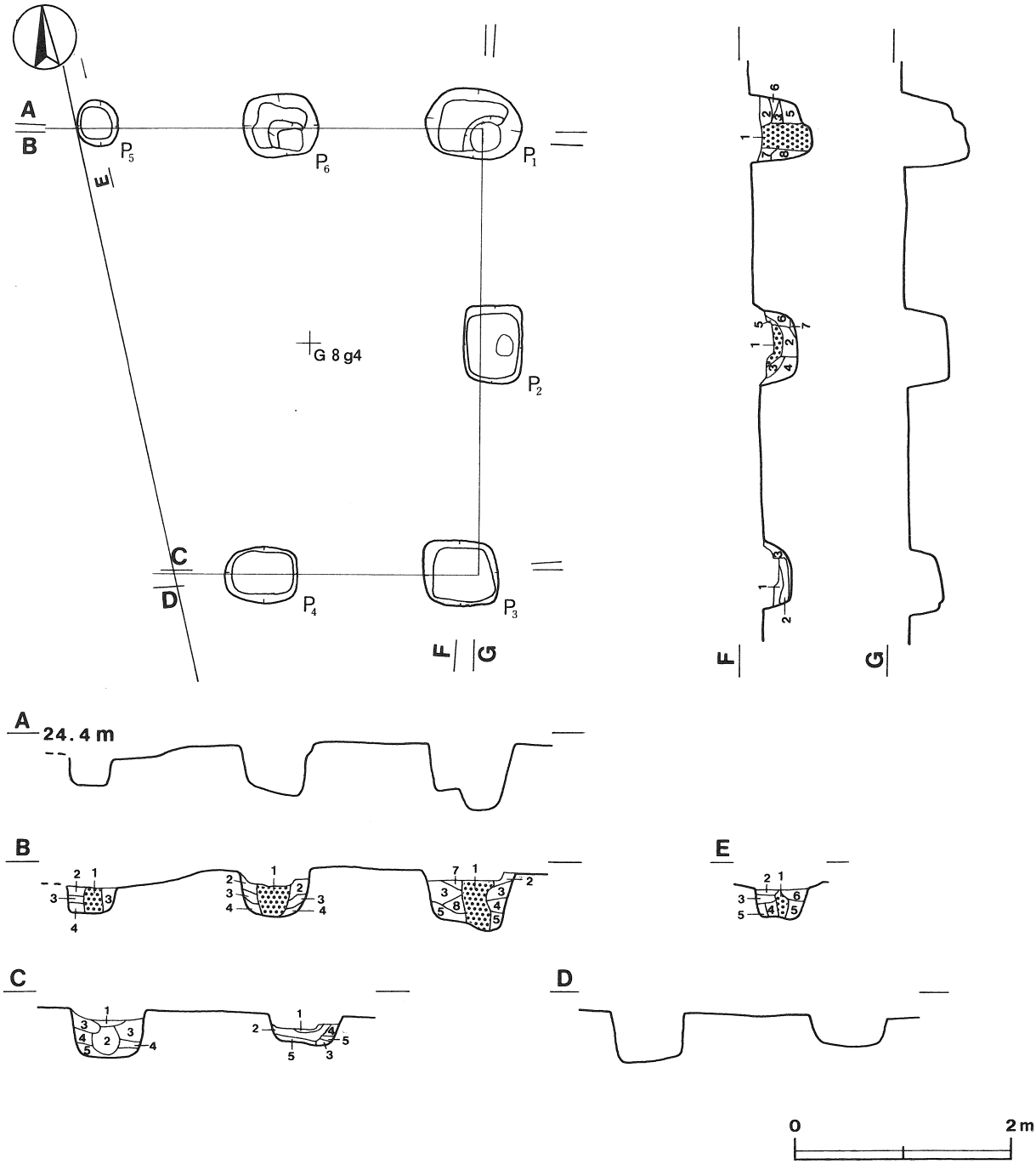
遺物　土師器片8点，須恵器片8点が出土している。土器は細片のため図示できなかった。

所見　柱穴の深さは不規則であるが，柱間寸法は規則性が認められる。同じ構造の掘立柱建物跡は，当遺跡のこれまでの調査では検出されていなく，他の掘立柱建物跡との関連は不明であるが，２m東側に隣接する第１・３号ピット列と方向がほぼ同じであることから，同じ時期に機能していたと考えられる。時期は，出土土器から，９世紀前葉から中葉と推定される。

第52号掘立柱建物跡（第314図）

位置　調査Ⅳ区の中央部，Ｇ８h3区。

規模　西部が調査区域外のため，調査した範囲は桁行２間（平均4.14m），梁行（２）間（平均3.58m），柱間寸法は桁行2.00～2.54m，梁行1.58～2.00mである。面積は約（14.82）㎡である。柱穴は６か所（Ｐ1～



第314図　第52号掘立柱建物跡実測図

P6）確認され，側柱構造の建物跡である。柱穴は，平面形が長径（軸）0.43～0.89m，短径（軸）0.38～0.63mの楕円形，円形または方形である。断面形は二段掘り状または逆台形状を呈し，深さは27～58cmである。柱の抜き取り痕はP1・P2・P5・P6で認められ，柱は径16～23cmと推定される。

桁行方向　N－0°

覆土　P1・P2・P5・P6の第1層は柱の抜き取り痕で，他の層は埋土である。P3とP4はすべて埋土である。

土層解説

P1	1	黒褐色	ローム小ブロック・粒子中量
	2	褐色	ローム小ブロック少量，ローム粒子微量
	3	暗褐色	ローム小ブロック・粒子少量，ローム中ブロック微量
	4	褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
	5	褐色	ローム粒子中量
	6	黒褐色	ローム粒子多量，ローム中・小ブロック少量
	7	褐色	ローム小ブロック・粒子中量，焼土粒子微量
	8	暗褐色	ローム小ブロック・粒子少量
P2	1	黒褐色	ローム粒子中量，ローム中・小ブロック少量
	2	暗褐色	ローム粒子中量，ローム中・小ブロック少量
	3	暗褐色	ローム小ブロック・粒子中量，ローム中ブロック少量
	4	暗褐色	ローム小ブロック・粒子中量，ローム中ブロック微量
	5	暗褐色	ローム小ブロック・粒子中量
	6	暗褐色	ローム小ブロック・粒子中量，焼土粒子微量
	7	褐色	ローム粒子中量
P3	1	褐色	ローム粒子中量，ローム大ブロック微量
	2	黒褐色	ローム小ブロック・粒子多量，ローム中ブロック中量
	3	褐色	ローム小ブロック多量，ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
	4	褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
	5	黒褐色	ローム小ブロック・粒子中量，ローム中ブロック微量
P4	1	褐色	ローム小ブロック・粒子少量
	2	黒褐色	ローム小ブロック・粒子多量，ローム中ブロック微量
	3	暗褐色	ローム小ブロック・粒子多量，ローム中ブロック少量
	4	暗褐色	ローム小ブロック中量，ローム粒子多量
	5	褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
P5	1	暗褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック微量
	2	褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
	3	暗褐色	ローム小ブロック・粒子中量
	4	黒褐色	ローム小ブロック・粒子少量，焼土粒子微量
	5	褐色	ローム小ブロック・粒子中量，ローム中ブロック微量
	6	暗褐色	ローム小ブロック中量，ローム中ブロック微量
P6	1	暗褐色	ローム中・小ブロック・粒子中量，焼土粒子微量
	2	暗褐色	ローム小ブロック・粒子多量，ローム中ブロック中量
	3	暗褐色	ローム粒子多量，ローム中・小ブロック少量
	4	褐色	ローム小ブロック・粒子少量，ローム中ブロック微量

遺物　土師器片18点，須恵器片5点が出土している。土器は細片のため図示できなかった。

所見　柱穴の深さ，柱間寸法ともに不規則である。西部が調査区域外のため，構造が不明であるが，当遺跡から検出されている掘立柱建物跡の多くが，桁行2間，梁行2間，または桁行3間，梁行2間の構造であることから，同様の構造の可能性が高い。6m南側に隣接する第54号掘立柱建物跡と桁行方向がほぼ同じであることから，同時期に機能していたことも考えられる。時期は，出土土器から，9世紀と推定される。

第53号掘立柱建物跡（第315図）

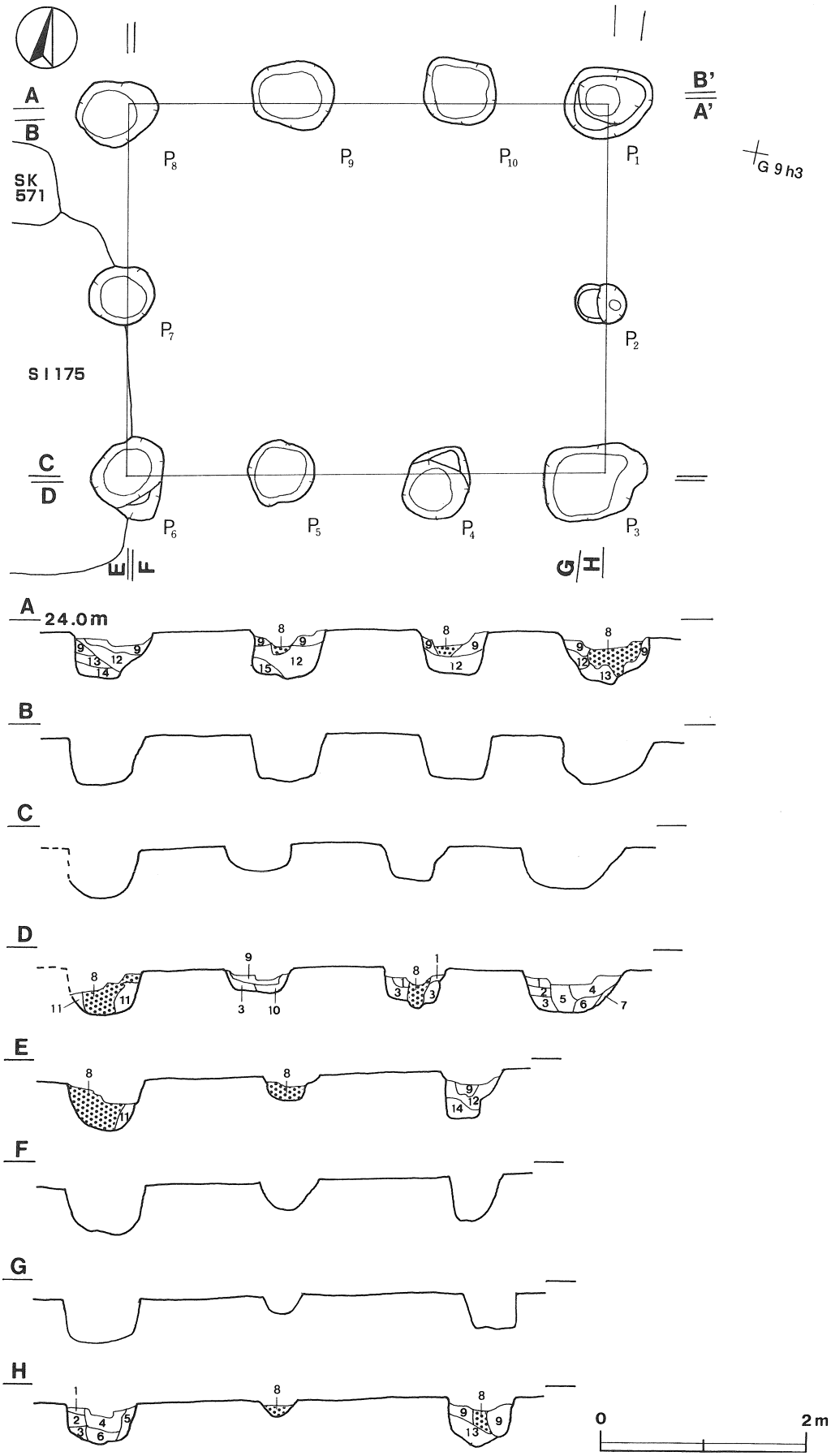
位置　調査Ⅳ区の中央部，G9h2区。

重複関係　本跡は第175号住居跡を掘り込んでいることから，本跡が新しい。

規模　桁行3間（平均4.69m），梁行2間（平均3.60m），柱間寸法は桁行1.45～1.70m，梁行1.64～1.95mで，面積は約16.89m²である。柱穴は10か所（P1～P10）で，側柱構造の建物跡である。柱穴は，平面形が長径（軸）0.38～0.90m，短径（軸）0.20～0.70mの楕円形，円形または方形である。断面形は二段掘り状または逆台形状を呈し，深さは22～51cmである。柱の抜き取り痕はP1・P2・P4・P6・P7・P9・P10で認められた。柱は径18～32cmと推定される。

桁行方向　N－81°－E

覆土　第8層は柱の抜き取り痕で，他の層は埋土である。



第315図　第53号掘立柱建物跡実測図

土層解説

1	褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
2	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
3	褐　色	ローム小ブロック・粒子少量
4	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子微量
5	暗褐色	ローム小ブロック・粒子微量
6	暗褐色	ローム粒子微量
7	褐　色	ローム小ブロック・粒子中量
8	暗褐色	ローム中・小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
9	黒褐色	炭化粒子中量，ローム粒子微量
10	暗褐色	ローム粒子少量
11	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
12	褐　色	ローム中・小ブロック・粒子少量，ローム大ブロック微量
13	暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
14	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
15	暗褐色	ローム小ブロック・粒子少量

遺物　土師器片24点，須恵器片20点が出土している。土器は細片のため図示できなかった。

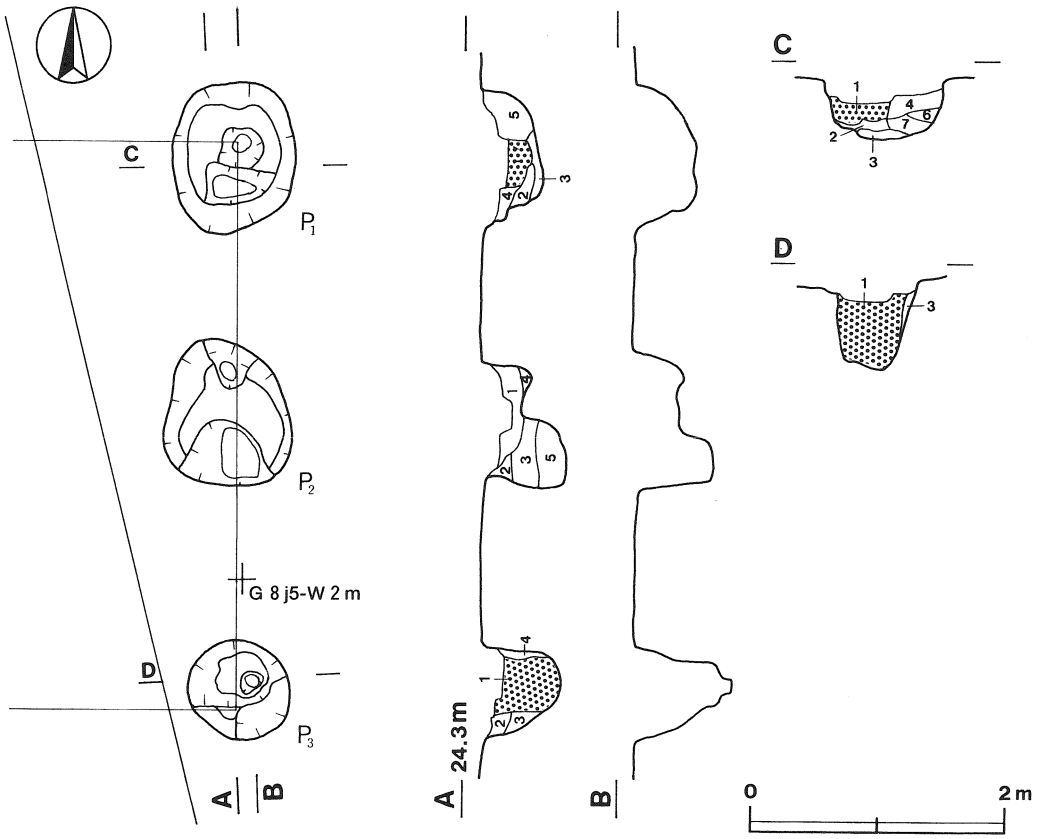
所見　柱穴の深さ，柱間寸法ともにほぼ規則性がある。特に，四隅に位置しているP1・P3・P6・P8は他の柱穴に比べて深くなっている。周辺から検出されている桁行3間，梁行2間の側柱構造のものと比べて，桁行方向が異なる。2.5m東側に隣接する第55号掘立柱建物跡と桁行方向がほぼ等しいことから，同時期に，関連のある施設として機能していたことが考えられる。時期は，第175号住居跡が9世紀前葉と考えられることと出土土器から，9世紀中葉と推定される。

第54号掘立柱建物跡（第316図）

位置　調査Ⅳ区の中央部，G8i4区。

規模　西部が調査区域外のため，調査できた範囲は，南北2間（平均4.28m），柱間寸法は1.92～2.34mである。面積は約（4.50）m²である。柱穴は3か所（P1～P3）確認され，構造は不明である。柱穴は，平面形が長径0.83～1.18m，短径0.74～1.03mの楕円形である。断面形は二段掘り状を呈し，深さは49～80cmである。柱の抜き取り痕はP1・P3で認められ，柱は径20～30cmと推定される。

方向　不明であるが，柱穴の並んでいる方向はN－0°である。



第316図　第54号掘立柱建物跡実測図

覆土　P1・P3の第1層は，柱の抜き取り痕で，他の層は埋土である。P2はすべて掘り方の埋土である。

土層解説

P1	1	極暗褐色	ローム中ブロック・粒子中量，ローム大・小ブロック・炭化粒子少量
	2	暗褐色	ローム粒子多量，ローム中・小ブロック中量
	3	褐色	ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
	4	暗褐色	ローム小ブロック・粒子多量，ローム中ブロック少量
	5	黒褐色	ローム粒子多量，ローム中・小ブロック中量
	6	褐色	ローム大ブロック多量
	7	褐色	ローム粒子多量，ローム大・小ブロック少量
P2	1	暗褐色	ローム中ブロック・粒子多量，ローム小ブロック中量
	2	褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
	3	極暗褐色	ローム小ブロック・粒子多量，ローム大ブロック中量
	4	暗褐色	ローム粒子中量，ローム大ブロック少量
	5	褐色	ローム粒子多量，ローム中ブロック少量
P3	1	黒褐色	ローム小ブロック・粒子中量
	2	黒褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
	3	褐色	ローム粒子少量
	4	暗褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック少量

遺物　土師器片2点，須恵器片3点が出土している。土器は細片のため図示できなかった。

所見　柱穴の深さ，柱間寸法ともに不規則である。西部が調査区域外のため，構造が不明である。当遺跡から検出されている掘立柱建物跡の多くが，桁行2間，梁行2間，または桁行3間，梁行2間の構造であることから，同様の構造と考えられるが，P1・P2とP3の掘り方に差があることから，2つの別の遺構の可能性も考えられる。6m北側に隣接する第52号掘立柱建物跡の桁行方向と柱穴の並ぶ方向がほぼ同じであることから，同時期に機能していたことも考えられる。時期は，出土土器から，9世紀と推定される。

第55号掘立柱建物跡（第317図）

位置　調査Ⅳ区の中央部，G9h3区。

重複関係　本跡は第510号土坑に掘り込まれていることから，本跡が古い。第56号掘立柱建物跡と重複するが，新旧関係は切り合いのないことから不明である。

規模　東部が調査区域外のため，調査できた範囲は，南北2間（平均4.00m），東西（1）間（平均1.95m），柱間寸法は南北1.85～2.12m，東西1.85～2.05mである。面積は約（12.36）m^2である。柱穴は5か所（P1～P5）確認され，側柱構造の建物跡である。柱穴は，平面形が長軸0.78～0.88m，短軸0.53～0.82mの隅丸方形である。断面形は二段掘り状または逆台形状を呈し，深さは30～50cmである。柱の抜き取り痕はすべての柱穴で認められ，柱は径12～20cmと推定される。

方向　不明である。

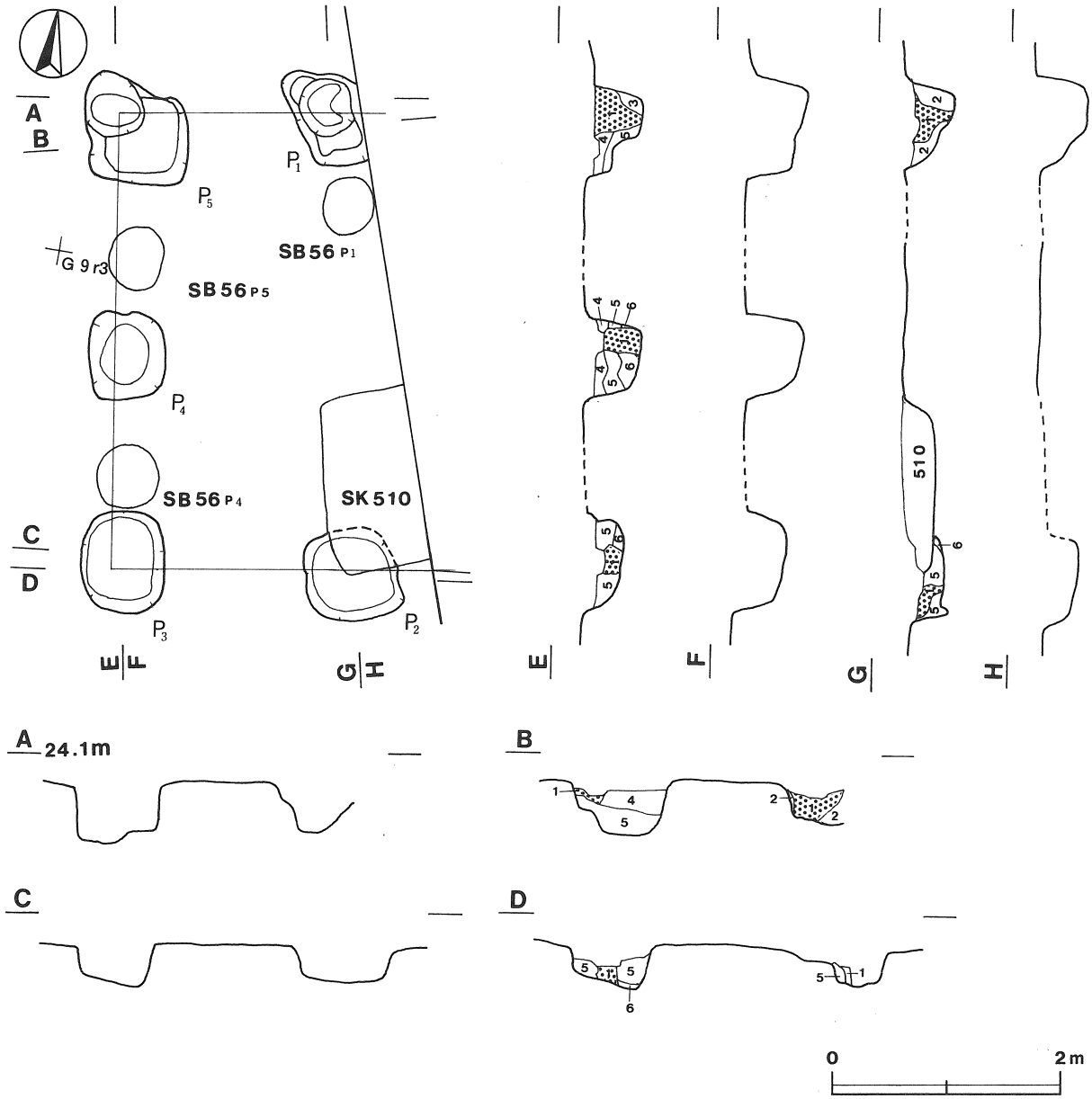
覆土　第1層は，柱の抜き取り痕で，他の層は埋土である。

土層解説

1	極暗褐色	ローム小ブロック少量
2	暗褐色	ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
3	暗褐色	ローム粒子微量
4	黒褐色	ローム小ブロック少量
5	褐色	ローム中ブロック多量
6	褐色	ローム大ブロック中量

遺物　土師器片2点，須恵器片5点が出土している。土器は細片のため図示できなかった。

所見　柱穴の深さ，柱間寸法ともにほぼ規則性がある。東部が調査区域外のため，詳しい規模は不明であるが，当遺跡から検出されている掘立柱建物跡の多くが，桁行2間，梁行2間，または桁行3間，梁行2間の構造であることから，同様の構造の可能性が高い。2.5m西側に隣接する第53号掘立柱建物跡の桁行方向と本跡北側と南側の柱穴の並ぶ方向がほぼ同じであることから，同時期に機能していたことも考えられる。また，重複している第56号掘立柱建物跡とは掘り方が異なることから，本跡の方が古いことも考えられる。時期は，出土土器から，9世紀前葉から中葉と推定される。



第317図　第55号掘立柱建物跡実測図

第56号掘立柱建物跡（第318図）

位置　調査Ⅳ区の中央部，Ｇ９h3区。

重複関係　本跡は第55号掘立柱建物跡，第510号土坑と重複するが，新旧関係は切り合いのないことから不明である。

規模　東部が調査区域外のため，調査できた範囲は，南北２間（平均3.86m），東西１間（平均2.00m），柱間寸法は南北1.90m，東西1.94～2.06mである。面積は約（7.72）㎡である。柱穴は５か所（Ｐ1～Ｐ5）確認され，側柱構造の建物跡である。柱穴は，平面形が長軸0.54m，短軸0.44～0.54mの楕円形または円形である。断面形は逆台形状またはＵ字状を呈し，深さは46～66cmである。柱の抜き取り痕はすべての柱穴で認められ，柱は径14～21cmと推定される。

方向　不明である。

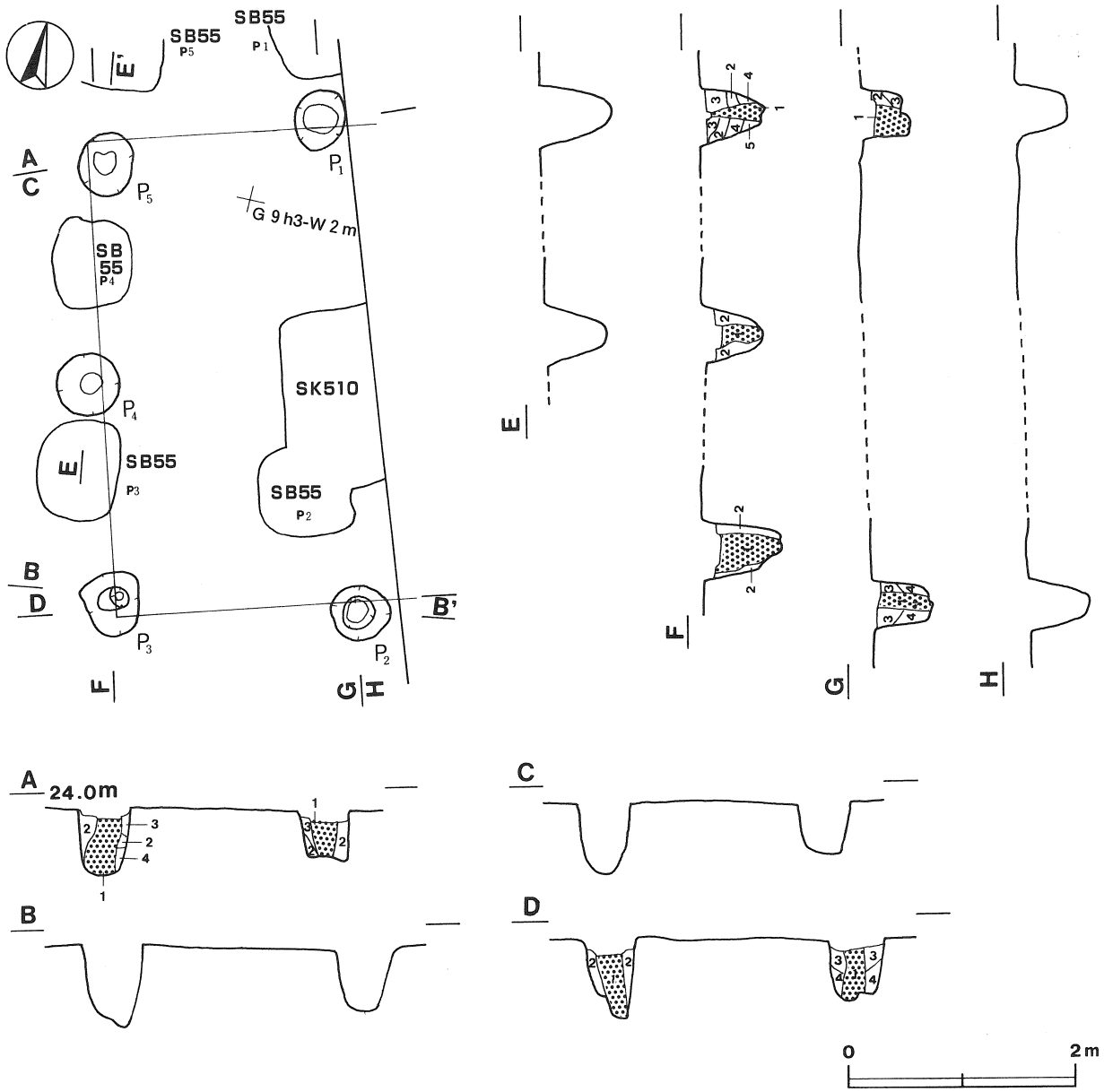
覆土　第１層は柱の抜き取り痕で，他の層は埋土である。

土層解説

1　黒褐色　ローム粒子微量
2　褐　色　ローム中ブロック少量
3　暗褐色　ローム中ブロック少量，ローム粒子微量
4　褐　色　ローム中ブロック中量
5　褐　色　ローム小ブロック中量

遺物　須恵器片１点が出土している。土器は細片のため図示できなかった。

所見　柱穴の深さは不規則であるが，柱間寸法はほぼ規則性がある。東部が調査区域外のため，詳しい規模は不明であるが，当遺跡から検出されている掘立柱建物跡の多くが，桁行２間，梁行２間，または桁行３間，梁行２間の構造であることから，同様の構造の可能性が高い。重複している第55号掘立柱建物跡とは掘り方と西側のピットの並ぶ方向が異なることから，本跡の方が新しい可能性がある。時期は，９世紀中葉以降と推定される。



第318図　第56号掘立柱建物跡実測図

第57号掘立柱建物跡（第319・320図）

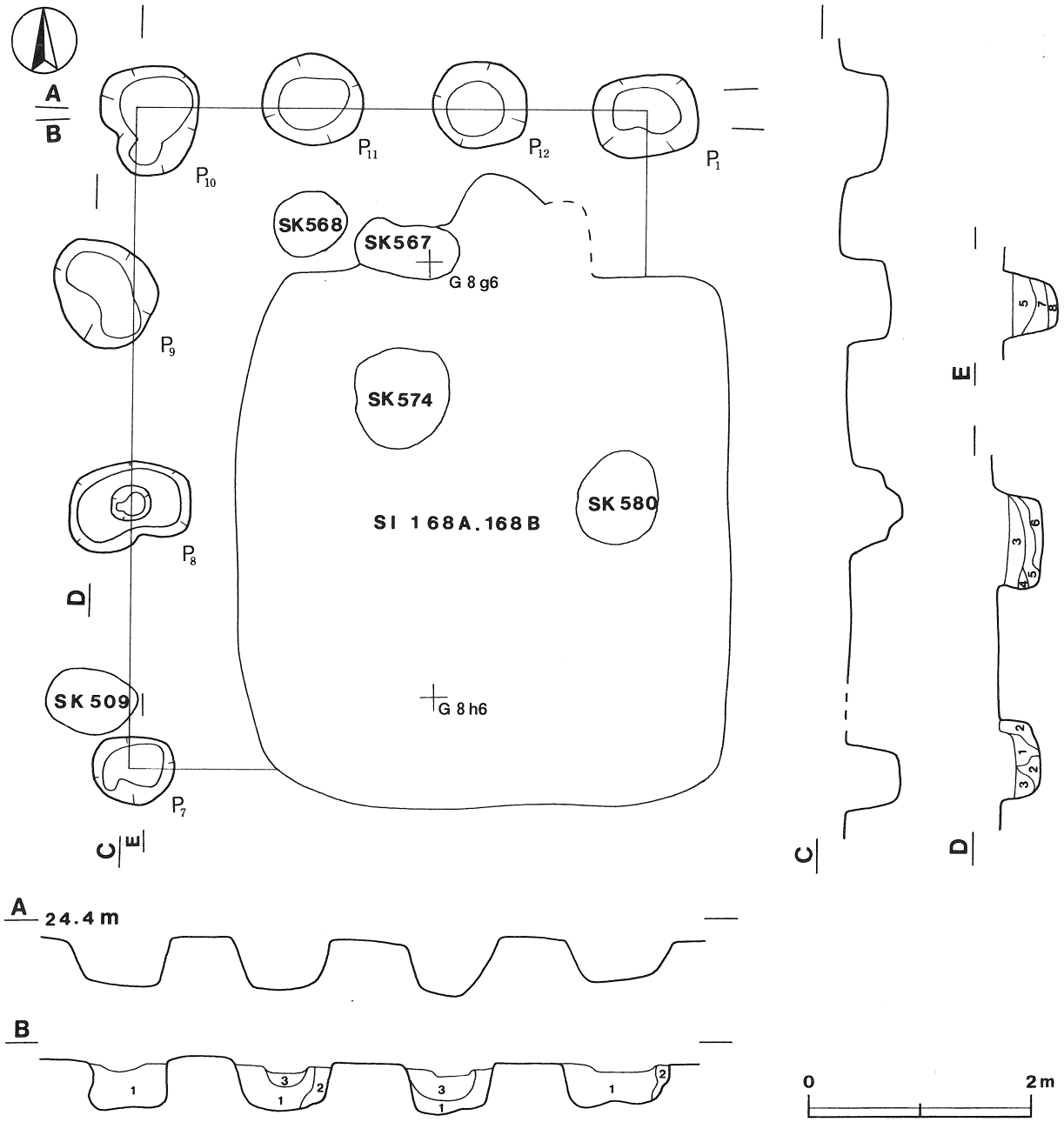
位置　調査Ⅳ区の中央部，Ｇ８g5区。

重複関係　本跡は第168A号住居に掘り込まれていることから，第168A号住居，第567・574・580号土坑よりも本跡が古い。また，第168B号住居跡，第509・568号土坑と重複するが，新旧関係は切り合いのないことから不明である。

規模　一部第168A号住居に掘り込まれているが，桁行3間（平均6.00m），梁行3間（平均4.62m），柱間寸法は桁行1.72～2.38m，梁行1.50～1.62mで，面積は約［27.72］㎡と推定される。柱穴は7か所（P1，P7～P12）で，側柱構造の建物跡である。P2～P6は確認されていないが，構造上存在した思われる。柱穴は，平面形が長径0.73～1.10m，短径0.60～0.88mの楕円形または不整楕円形である。断面形は二段掘り状または逆台形状を呈し，深さは40～51cmである。柱痕または柱の抜き取り痕は確認できなかった。柱の寸法は不明である。

桁行方向　N－0°

覆土　第1層～5層は埋土である。

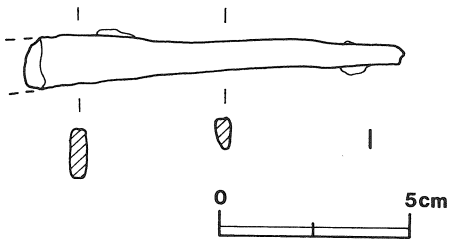


第319図　第57号掘立柱建物跡実測図

土層解説

1　黒褐色　ローム大ブロック少量
2　褐　色　ローム中ブロック中量
3　暗褐色　ローム小ブロック少量
4　褐　色　ローム小ブロック中量
5　暗褐色　ローム粒子少量
6　暗褐色　ローム中ブロック中量
7　にぶい黄褐色　ローム中ブロック中量
8　褐　色　ローム小ブロック中量

遺物　土師器片15点，須恵器片１点，金属製品１点（短刀）が出土している。第320図１の短刀がＰ8中から出土している。



第320図　第57号掘立柱建物跡出土遺物実測図

所見　柱穴の深さ，柱間寸法ともにほぼ規則性が認められる。第168Ａ号住居に掘り込まれていることから，構造が不明である。桁行３間，梁行３間の側柱構造と考えられるが，これまでの調査で同じ構造のものは検出していない。他の掘立柱建物跡との関連は不明であるが，４ｍ西側に隣接する第52号掘立柱建物跡とは同じ桁行方向であり，１ｍ東側に隣接する第２号ピット列とは方向に差がみられる。時期は，第168Ａ号住居跡の時期から，９世紀前葉と推定される。

第57号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	種　別	計　測　値				出　土　地　点	備　　考
		長さ(cm)	幅　(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第320図１	短　　刀	(10.2)	1.4	0.5	(14.6)	Ｐ8中	M91　PL103　関部～茎部

第58号掘立柱建物跡（第321図）

位置　調査Ｖ区の西部，Ｇ９e4区。

規模　桁行２間（平均3.74ｍ），梁行２間（平均3.52ｍ），柱間寸法は桁行1.80～2.04ｍ，梁行1.60～1.88ｍで，面積は13.16m^2である。柱穴は８か所（Ｐ1～Ｐ8）で，側柱構造の建物跡である。柱穴は，平面形が径0.42～0.52ｍの円形である。断面形は逆台形状を呈し，深さは5～20cmである。柱の抜き取り痕はＰ1で認められ，柱は径14cmである。

桁行方向　Ｎ－12°－Ｗ

覆土　土層断面図中，第１層が柱の抜き取り痕で，第２～４層が埋土である。

土層解説

1　黒褐色　ローム小ブロック少量，炭化粒子微量，粘性を帯び，締まりはない
2　暗褐色　ローム小ブロック・炭化粒子微量
3　褐　色　ローム小ブロック少量，よく締まっている
4　褐　色　ローム小ブロック・炭化粒子少量，ローム中ブロック微量，よく締まっている

遺物　遺物は出土しなかった。

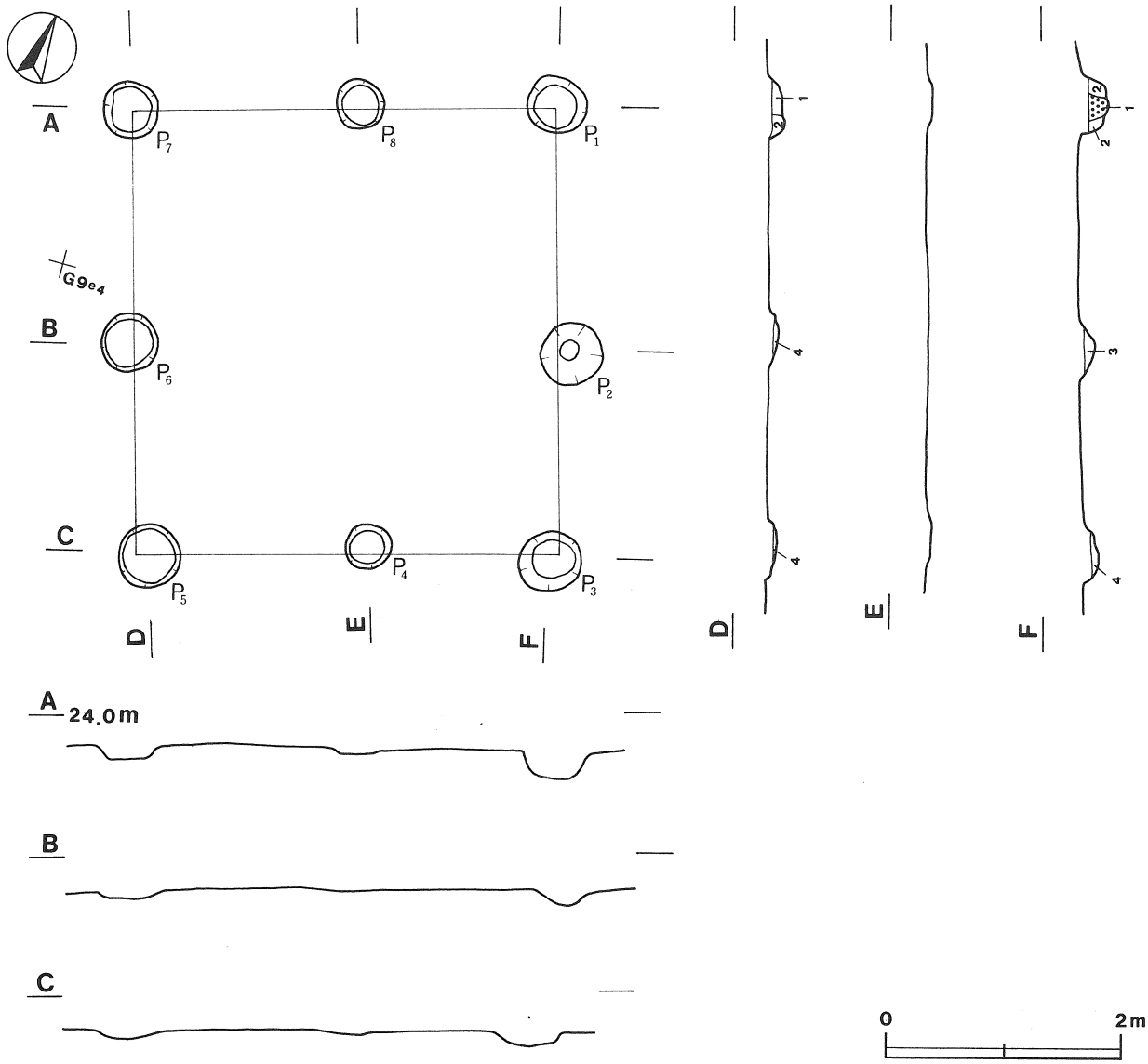
所見　柱穴の深さは不規則であるが，柱間寸法については，ほぼ規則性が認められる。また，隣接する第59号掘立柱建物跡と同軸上に並び，第73・75・76号掘立柱建物跡と桁行方向がほぼ一致することから，同時期に一連の施設として機能していた可能性が高い。時期は，出土土器がなく特定できないものの，第59・73・75・76号掘立柱建物跡と同時期で，９世紀前葉と推定される。

第59号掘立柱建物跡（第322図）

位置　調査Ｖ区の西部，Ｇ９c4区。

重複関係　第592・593号土坑と重複しているが，切り合いがないため，新旧関係は不明である。

規模　桁行２間（平均4.25ｍ），梁行２間（平均4.04ｍ），柱間寸法は桁行1.45～２.60ｍ，梁行1.90～2.08



第321図　第58号掘立柱建物跡実測図

mで，面積は17.17m²である。柱穴は８か所（Ｐ1～Ｐ8）で，側柱構造の建物跡である。柱穴は，平面形が径0.44～0.50mの円形である。断面形は逆台形状を呈し，深さは34～54cmである。柱痕及び柱の抜き取り痕は確認できなかった。

桁行方向　Ｎ－12°－Ｗ

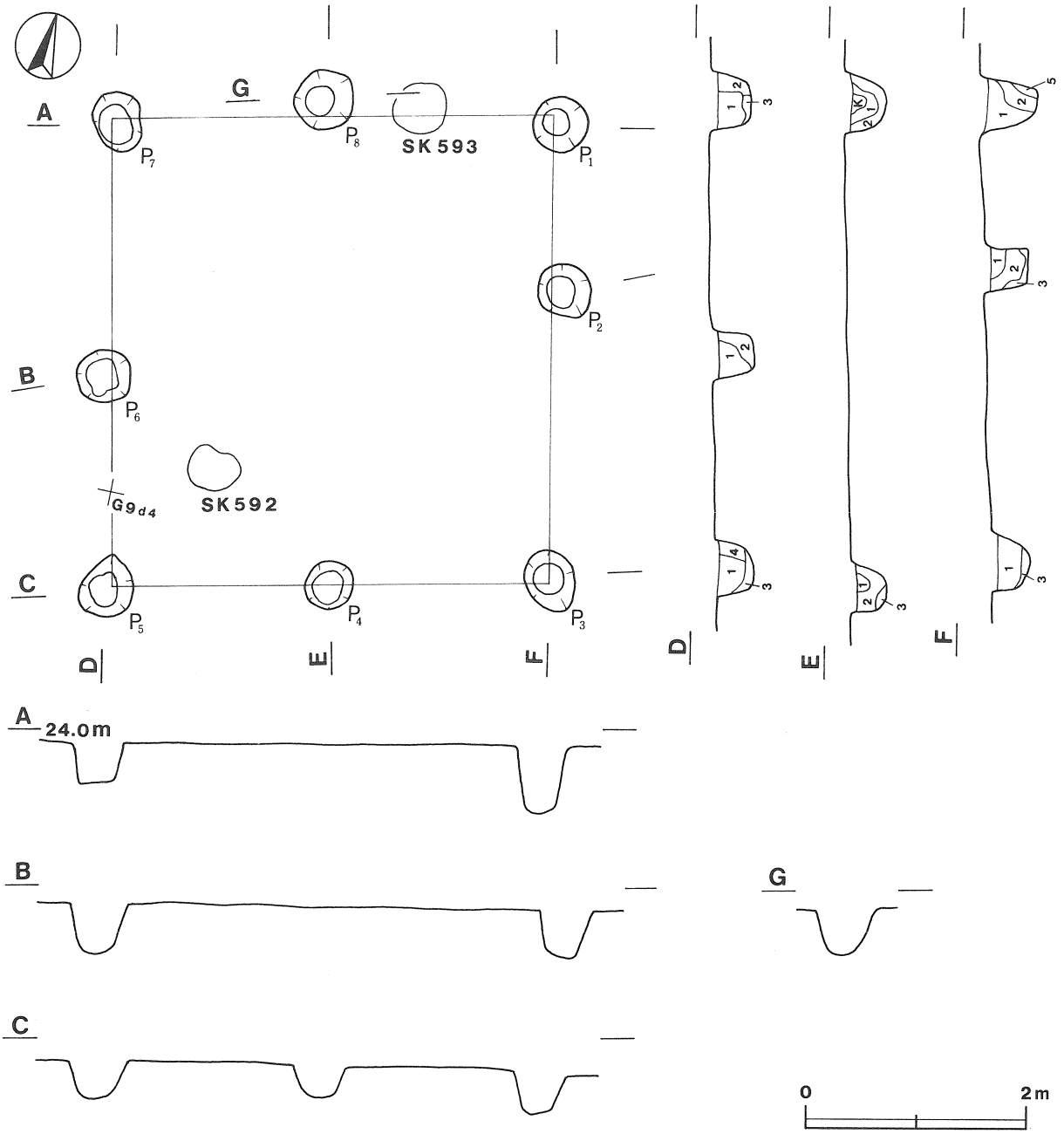
覆土　土層断面図中，第１～５層が埋土である。

土層解説

1	暗 褐 色	炭化粒子少量，ローム粒子微量，よく締まっている	4	褐　　色	ローム小ブロック・粒子中量，ローム大・中ブロック少量，粘性を帯び，よく締まっている
2	黒 褐 色	炭化粒子中量，ローム大ブロック少量			
3	暗 褐 色	ローム小ブロック少量，炭化粒子微量	5	暗 褐 色	ローム粒子微量，締まりはない

遺物　遺物は出土しなかった。

所見　柱間寸法については規則性に乏しい。隣接する第58号掘立柱建物跡と同軸上に並び，第73・75・76号掘立柱建物跡と桁行方向がほぼ一致することから，同時期に一連の施設として機能していた可能性が高い。時期は，出土土器がなく特定できないが，第58・73・75・76号掘立柱建物跡と同時期で，９世紀前葉と推定される。



第322図　第59号掘立柱建物跡実測図

第60号掘立柱建物跡（第323・324図）

位置　調査Ⅲ区の南部，Ｅ８c1区。

重複関係　本跡が第62・64号掘立柱建物跡を掘り込んでいることから，本跡が新しい。また，第67号掘立柱建物跡については，他の遺構との切り合い関係から，本跡が新しい。

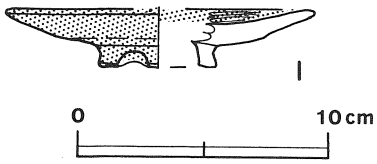
規模　桁行３間（平均5.10m），梁行２間（平均3.60m），柱間寸法は桁行1.82～1.90m，梁行1.80～1.95mで，面積は約18.36㎡である。柱穴は10か所（Ｐ1～Ｐ10）で，側柱構造の建物である。柱穴は，平面形が長径0.34～0.96m，短径0.29～0.84mの楕円形または円形である。また，断面形は二段掘り状またはU字状を呈し，深さは40～66cmである。柱の抜き取り痕はすべての柱穴で認められた。柱は径16～32cmである。

桁行方向　N－90°

覆土　第３層が柱の抜き取り痕で，他の層は埋土である。

土層解説

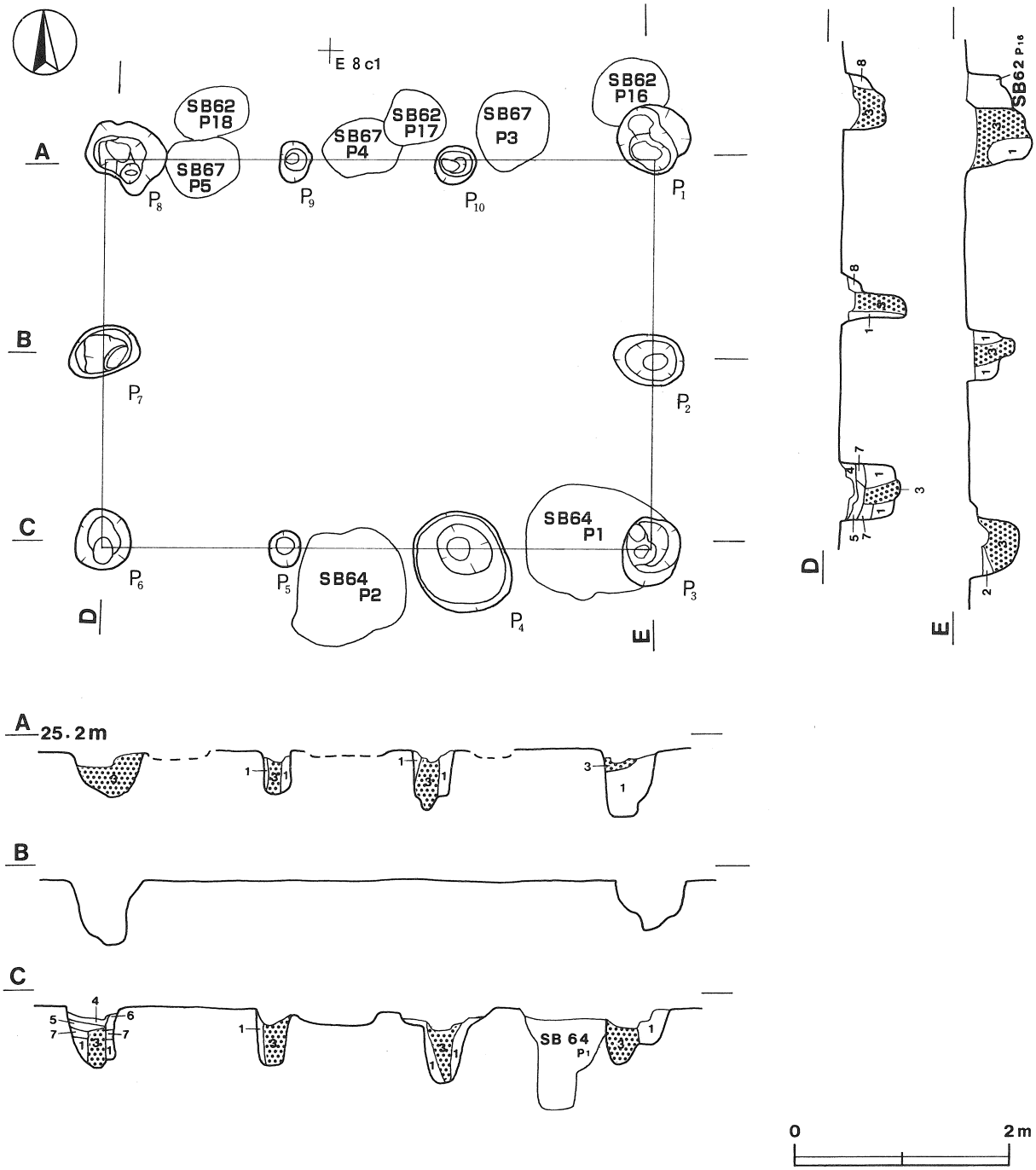
1	褐　色	ローム小ブロック・粒子少量	
2	褐　色	ローム小ブロック・粒子少量，ローム中ブロック微量	
3	暗褐色	ローム粒子微量	
4	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	
5	暗褐色	ローム小ブロック・粒子微量	
6	褐　色	ローム小ブロック・粒子少量	
7	暗褐色	ローム粒子少量	
8	褐　色	ローム小ブロック・粒子中量	



第323図　第60号掘立柱建物跡出土遺物実測図

遺物　土師器片24点，須恵器片18点が出土している。第324図１の土師器高台付皿はＰ9中から出土している。

所見　柱穴の深さ，柱間寸法は，ともにほぼ規則性がある。桁行方向の中間に位置する柱穴が他に比べて小さい。重複している第67号掘立柱建物跡と同じ構造で，桁行方向がほぼ等しいことから，同じ機能を持った



第324図　第60号掘立柱建物跡実測図

施設の可能性が考えられる。時期は，第62号掘立柱建物跡が９世紀前葉，第64号掘立柱建物跡が８世紀後葉から９世紀前葉と考えられることと出土土器から，９世紀中葉と推定される。

第60号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第323図 1	高台付皿 土　師　器	A ［13.2］ B　2.3 D ［4.6］ E　0.7	高台部から口縁部の破片。高台は短く，指圧による透しを持ち，「ハ」の字状に開く。体部から口縁部にかけ，直線的に開き，わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。口縁部から底部内面ヘラ磨き。高台貼り付け，ロクロナデ。内・外面黒色処理。	雲母　砂粒 灰褐色 普通	10%　P714 P9中

第61号掘立柱建物跡（第325・326図）

位置　調査Ⅲ区の南部，Ｅ８b2区。

重複関係　本跡が，第205号住居と第62号掘立柱建物に掘り込まれていることから，本跡が古い。また，第65号掘立柱建物跡とは，切り合いがないことから，新旧関係は不明である。

規模　桁行３間（平均7.59m），梁行２間（平均4.50m），柱間寸法は桁行2.27～2.65m，梁行2.02～2.70mで，面積は約34.16m²である。柱穴は10か所（Ｐ1～Ｐ10）で，側柱構造の建物である。柱穴は，平面形が長径0.77～0.91m，短径0.68～0.82mの楕円形または円形である。また，断面形は二段掘り状，逆台形状またはＵ字状を呈し，深さは44～73cmである。柱の抜き取り痕はＰ2・Ｐ3・Ｐ6～Ｐ10で認めることができた。柱は径17～20cmである。

桁行方向　Ｎ－17°－Ｗ

覆土　第５層が柱の抜き取り痕で，その他の層は埋土である。

土層解説

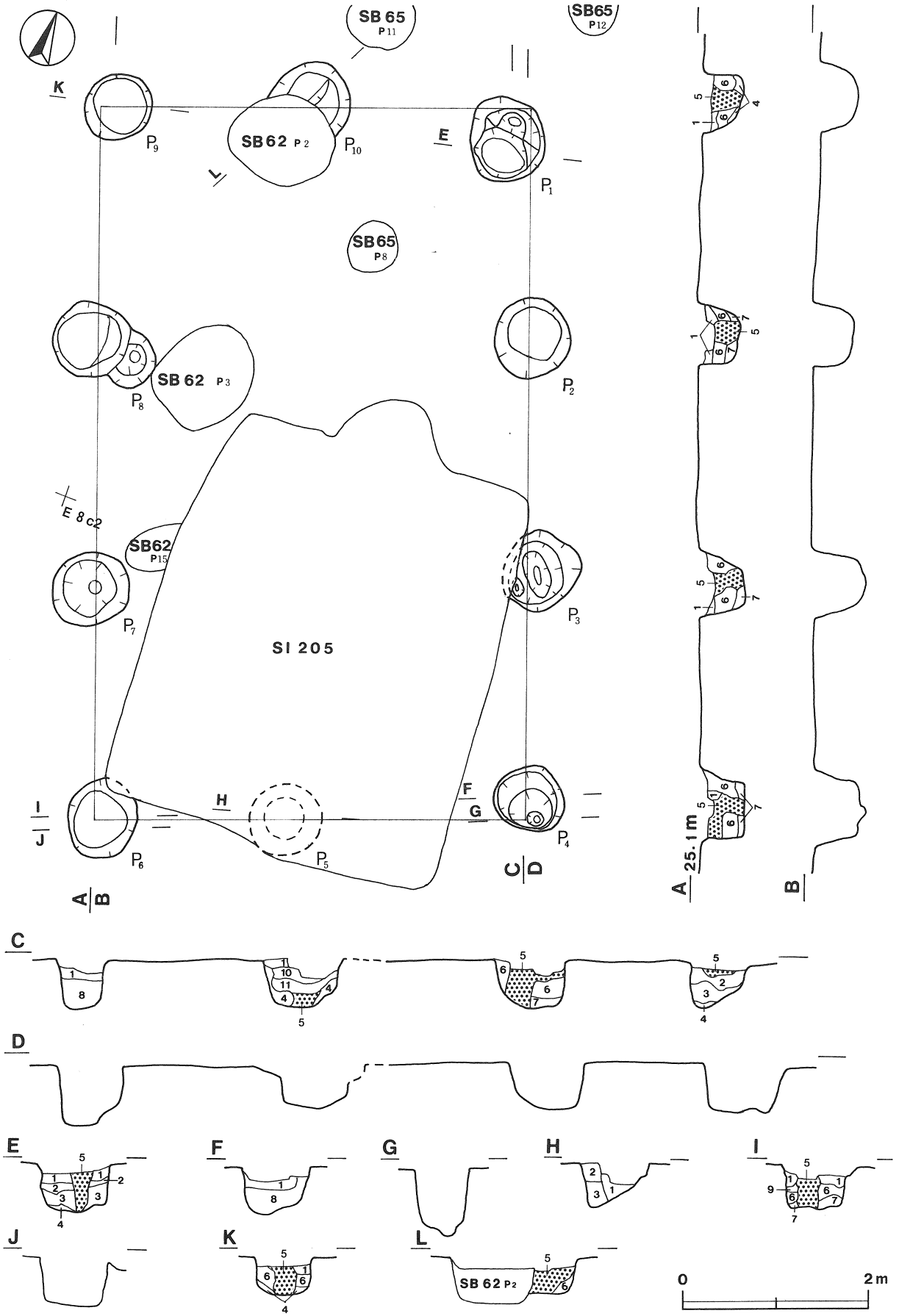
1　暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　褐　色　ローム小ブロック・粒子中量，ローム中ブロック少量
3　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
4　褐　色　ローム小ブロック・粒子中量
5　黒褐色　炭化粒子少量
6　暗褐色　ローム小ブロック・炭化粒子微量
7　暗褐色　炭化粒子微量
8　暗褐色　ローム小ブロック・粒子微量
9　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・粒子少量
10　暗褐色　炭化粒子微量
11　暗褐色　ローム粒子微量

遺物　土師器片31点，須恵器片27点が出土している。第326図１の須恵器坏はＰ5中から，２と３の須恵器坏はＰ10中からそれぞれ出土している。ともに切り合いのある柱穴であることから，混入の可能性がある。

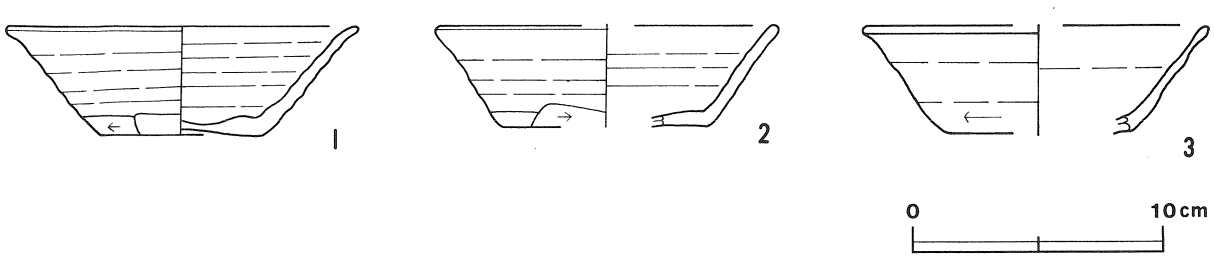
所見　柱穴の深さ，柱間寸法ともにほぼ規則性がみられる。掘立柱建物跡が混在する場所に構築されており，他の掘立柱建物跡との関連は不明であるが，一連の施設として機能していたと考えられる。時期は，重複している第205号住居跡が９世紀中葉，第62号掘立柱建物跡が９世紀前葉であることと出土土器から，９世紀初頭と推定される。

第61号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第326図 1	坏 須　恵　器	A　13.8 B　4.3 C　6.4	平底。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がり，外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り。	長石　石英　雲母 砂粒 灰黄色　普通	100%　P715　PL91 P5中
2	坏 須　恵　器	A ［13.2］ B　4.0 C　8.0	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がり，わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り。	長石　石英　砂粒 褐灰色 普通	40%　P716 P10中
3	坏 須　恵　器	A ［13.6］ B　4.2 C　7.2	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部かけ，内彎気味に立ち上がり，わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。	長石　石英　雲母 砂粒 にぶい黄橙色　普通	20%　P717 P12中



第325図　第61号掘立柱建物跡実測図



第326図　第61号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第62号掘立柱建物跡（第327～330図）

位置　調査Ⅲ区の中央部，Ｅ７a0区。

重複関係　本跡は第61・67・68号掘立柱建物跡と第640号土坑を掘り込んでいることから，本跡が新しい。また，第205・212号住居と第60号掘立柱建物に掘り込まれていることから，本跡が古い。第70号掘立柱建物跡と第７号柱穴群については，切り合いがないことから，新旧関係は不明である。

規模　桁行５間（平均10.97m），梁行２間（平均5.23m）の庇付の側柱構造の建物跡である。柱穴は20か所（Ｐ1～Ｐ20）で，柱間寸法は桁行1.90～2.40m，梁行2.50～2.80mで，身舎の面積は約57.30m²（庇を含めた面積は79.53m²）である。平面形は長径0.95～1.34m，短径0.68～1.09mの楕円形または円形である。庇部の柱穴は，平面形が長径0.54～1.04m，短径0.52～0.90mの楕円形または円形である。断面形は逆台形状またはＵ字状を呈し，深さは身舎部で32～78cm，庇部で42～68cmである。柱の抜き取り痕はＰ2・Ｐ4・Ｐ5～Ｐ8・Ｐ10～Ｐ12・Ｐ17・Ｐ19・Ｐ20で認めることができた。柱は径22～32cmと推定される。

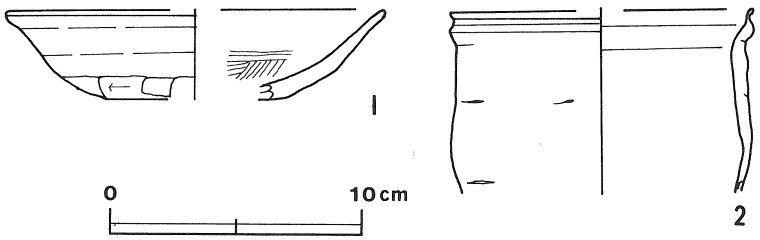
桁行方向　Ｎ－90°

覆土　第１層が柱の抜き取り痕で，その他の層は埋土である。

土層解説

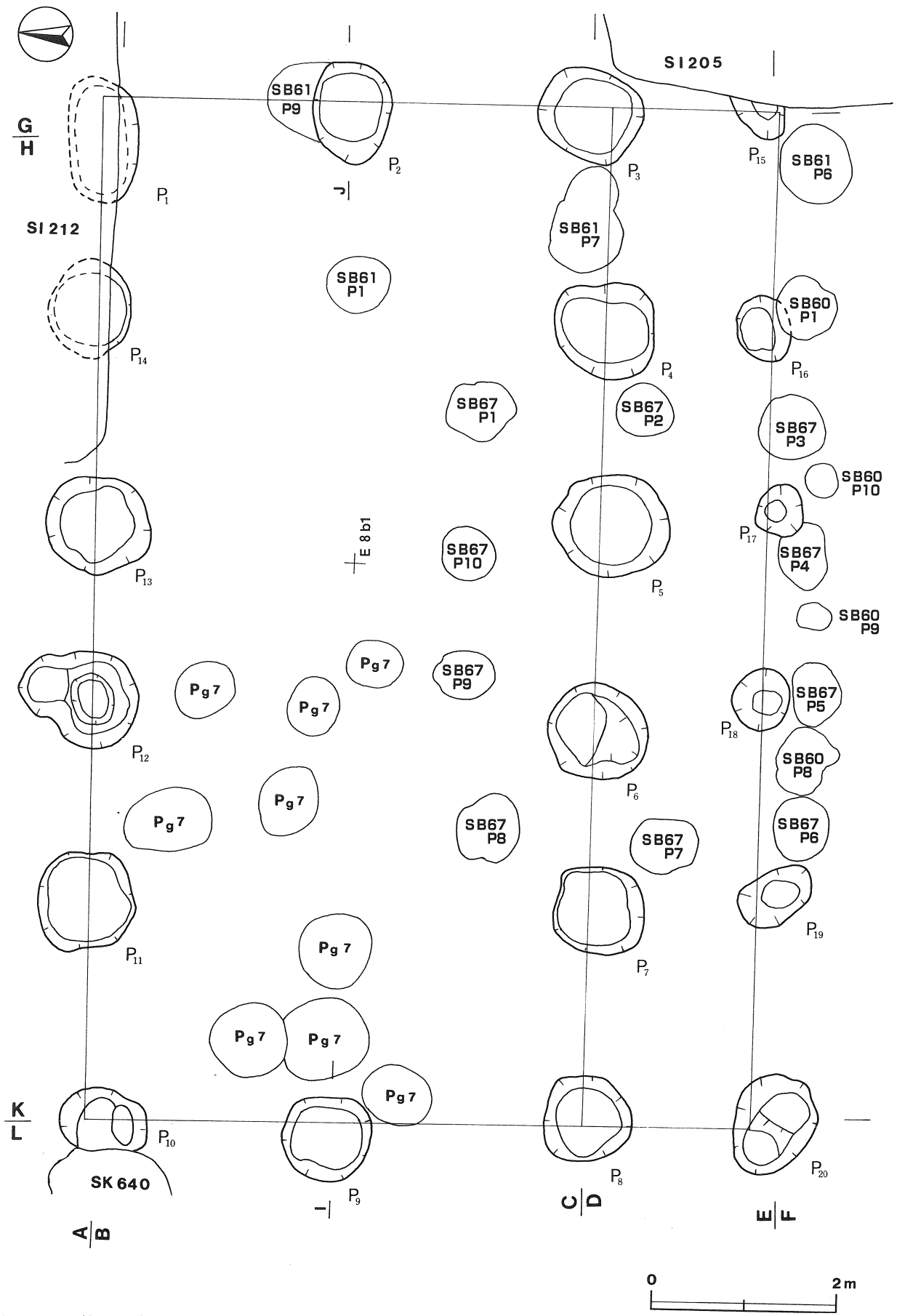
1	暗褐色	ローム粒子微量
2	褐色	ローム小ブロック・粒子少量，ローム中ブロック微量
3	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
4	褐色	ローム粒子中量
5	暗褐色	ローム粒子少量
6	暗褐色	炭化粒子微量
7	暗褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
8	暗褐色	ローム中・小ブロック・粒子微量
9	褐色	ローム粒子多量
10	褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
11	暗褐色	ローム中ブロック・ローム粒子微量
12	褐色	ローム粒子少量
13	褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
14	暗褐色	ローム中ブロック微量
15	暗褐色	ローム中ブロック・粒子微量
16	暗褐色	ローム小ブロック・粒子微量

遺物　土師器片155点，須恵器片107点，鉄滓１点が出土している。第327図１の土師器坏はＰ18中から，２の土師器小形甕はＰ13中からそれぞれ出土している。

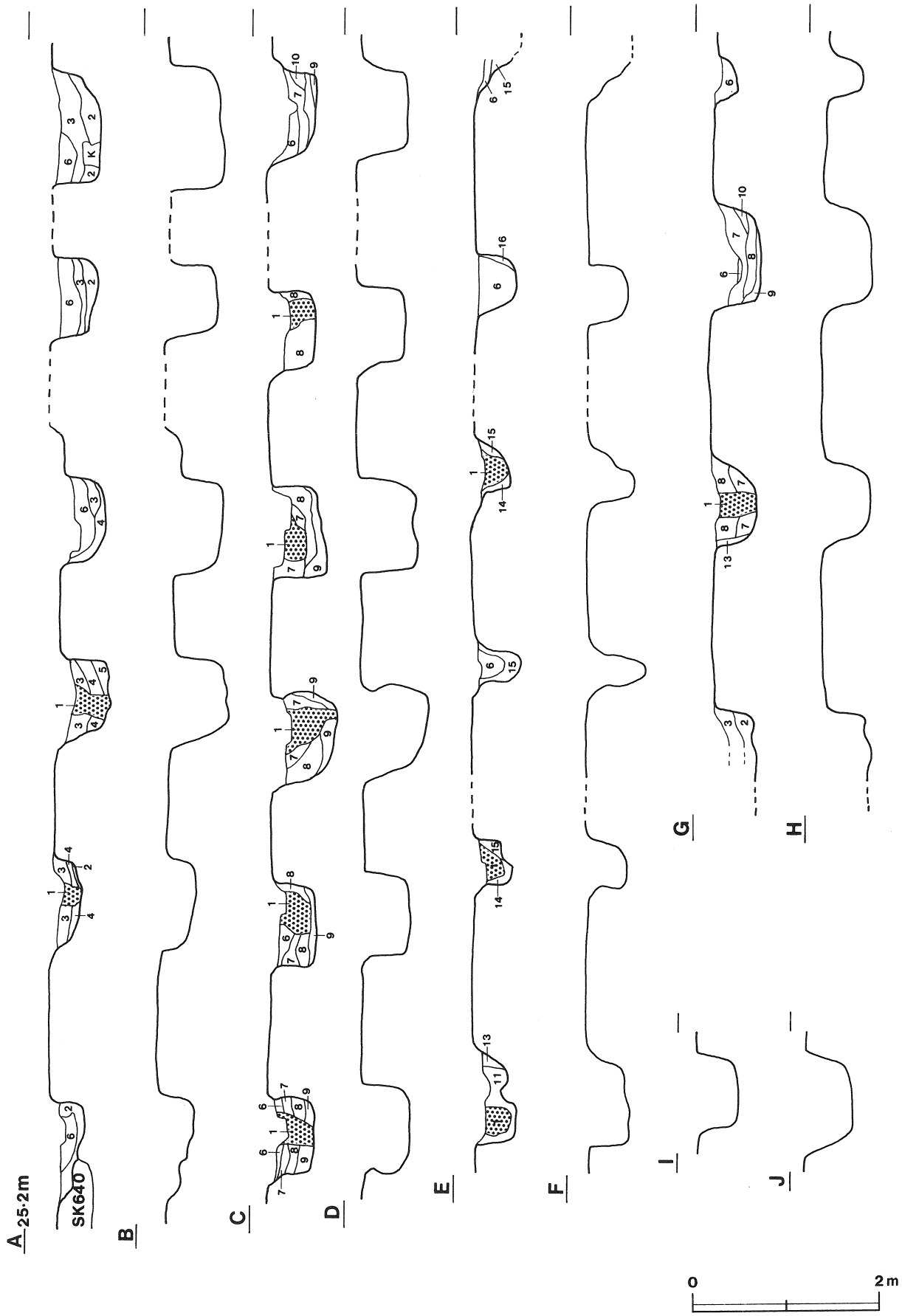


第327図　第62号掘立柱建物跡出土遺物実測図

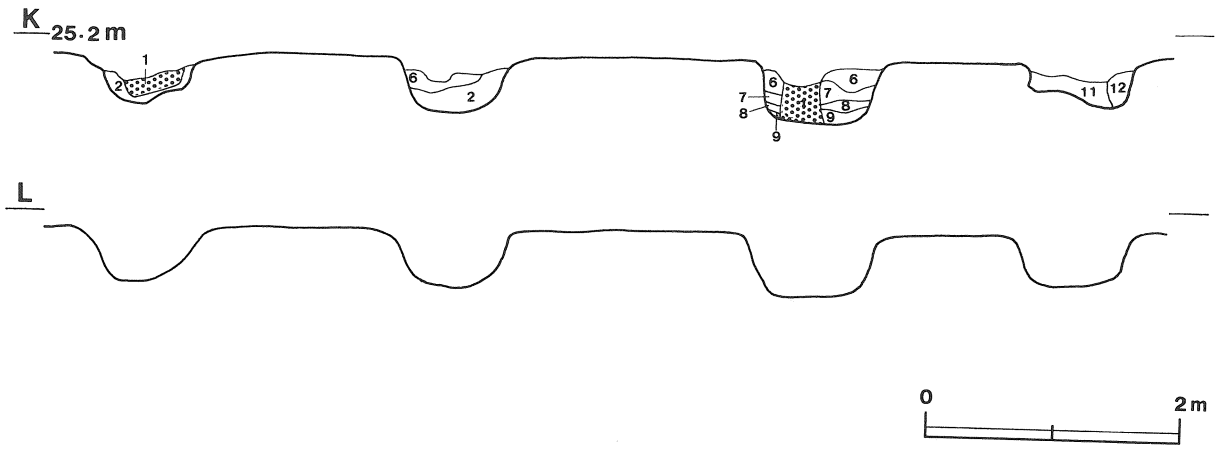
所見　柱穴の深さ，柱間寸法ともにほぼ規則性がみられる。全体的に庇部の柱穴は小さく，浅い傾向がある。掘立柱建物跡が密に分布する場所に構築され，当調査区の中でも最大の建物跡である。他の掘立柱建物跡との関連は不明であるが，一連の施設の中心として機能していたと考えられる。時期は，重複している第61号掘立柱建物跡が９世紀初頭，第67号掘立柱建物跡が８世紀後葉，第205号住居跡が９世紀中葉，第212号住居跡が10世紀前葉，第60号掘立柱建物跡が９世紀中葉であることと出土土器から，９世紀前葉と推定される。



第328図　第62号掘立柱建物跡実測図（１）



第329図　第62号掘立柱建物跡実測図（２）



第330図　第62号掘立柱建物跡実測図（３）

第62号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第327図 1	坏 土師器	A［14.8］ B　3.4 C［7.2］	底部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がり，外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位手持ちヘラ削り。体部から底部内面ヘラ磨き。	石英　砂粒 にぶい黄橙色 普通	20%　P718 P18中
2	小形甕 土師器	A［12.0］ B［7.2］	体部から口縁部の破片。体部から口縁部かけ，内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し，つまみ上げられ，棒状工具による凹線を巡らす。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ，体部外面輪積み痕。	長石　石英　砂粒 にぶい橙色 普通	10%　P719 P13中

第63号掘立柱建物跡（第331図）

位置　調査Ⅲ区の南部，Ｅ７e7区。

重複関係　本跡は，第605・609・610号土坑に掘り込まれていることから，本跡が古い。第603号土坑については，切り合いがないことから，新旧関係は不明である。

規模　南部が調査区域外のため，調査できたのは桁行２間（平均4.17m），梁行１間（平均1.15m）の範囲だけである。柱間寸法は桁行1.97～2.17m，梁行1.10～1.20mである。柱穴は６か所（Ｐ1～Ｐ6）で，総柱構造の建物である。柱穴は，平面形が長径0.71～1.12m，短径0.67～1.00mの楕円形または円形である。また，断面形は二段掘り状，逆台形状またはＵ字状を呈し，深さは40～79cmである。柱の抜き取り痕はＰ1・Ｐ2・Ｐ4～Ｐ6で認めることができた。柱は径18～25cmと推定される。

桁行方向　Ｎ－79°－Ｅ

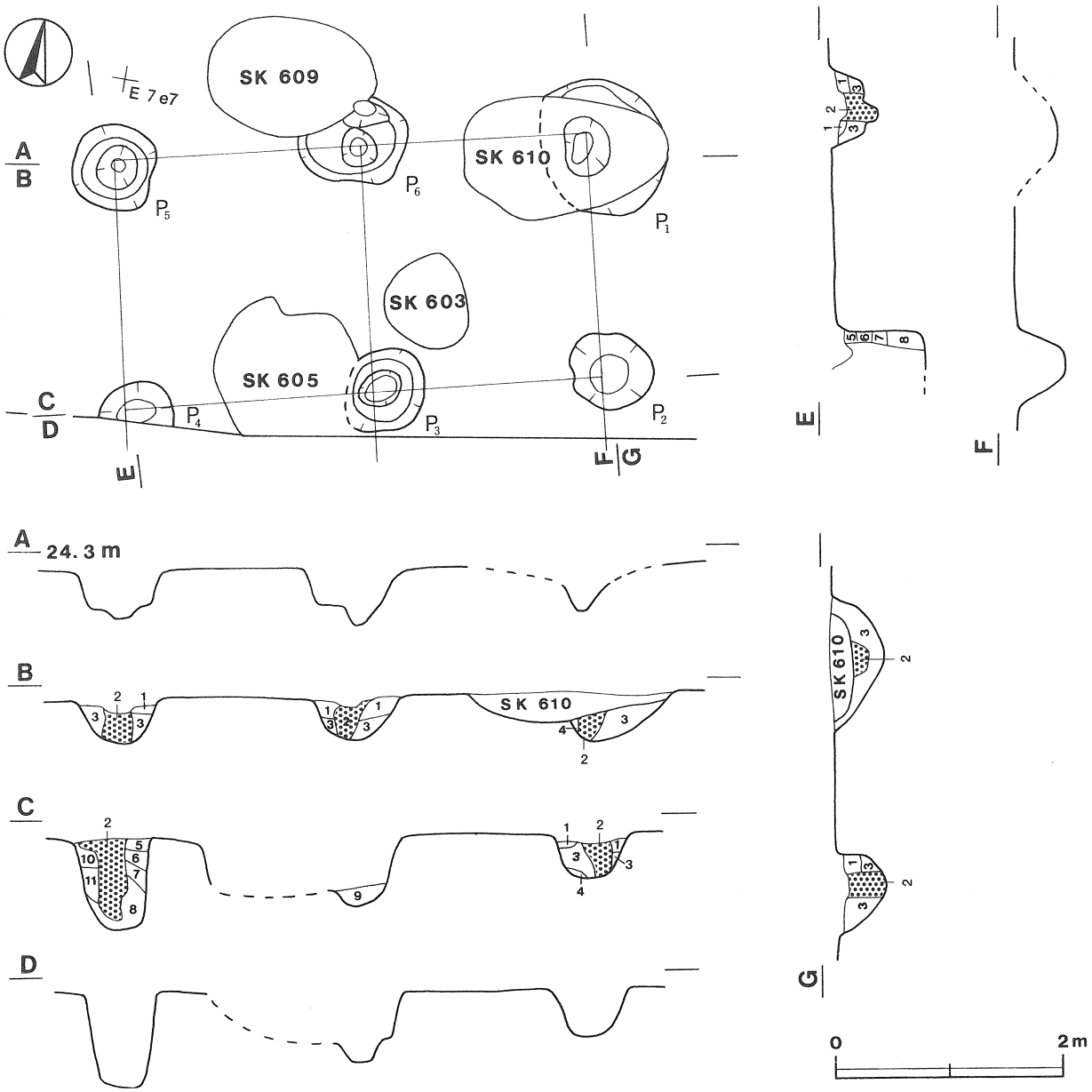
覆土　第２層が柱の抜き取り痕で，その他の層は埋土である。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子微量
3　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
4　褐　色　ローム小ブロック・粒子少量
5　褐　色　ローム小ブロック・粒子少量，焼土粒子微量
6　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
7　暗褐色　ローム小ブロック・粒子微量
8　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
9　褐　色　ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・粒子微量
10　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，炭化粒子微量
11　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

遺物　土師器片28点，須恵器片27点が出土している。細片のため図示できなかった。

所見　柱穴の深さ，柱間寸法ともにほぼ規則性がみられる。５m北側に隣接する第72号掘立柱建物跡と同じ構造であるが，桁行方向や面積に差がみられる。他の掘立柱建物跡との関連は不明である。時期は，重複している土坑と出土土器から，９世紀と推定される。



第331図　第63号掘立柱建物跡実測図

第64号掘立柱建物跡（第332・333図）

位置　調査Ⅲ区の南部，Ｅ８d1区。

重複関係　本跡は，第202号住居跡を掘り込んでいることから，本跡が新しい。また，第60号掘立柱建物，第606号土坑に掘り込まれていることから，本跡が古い。

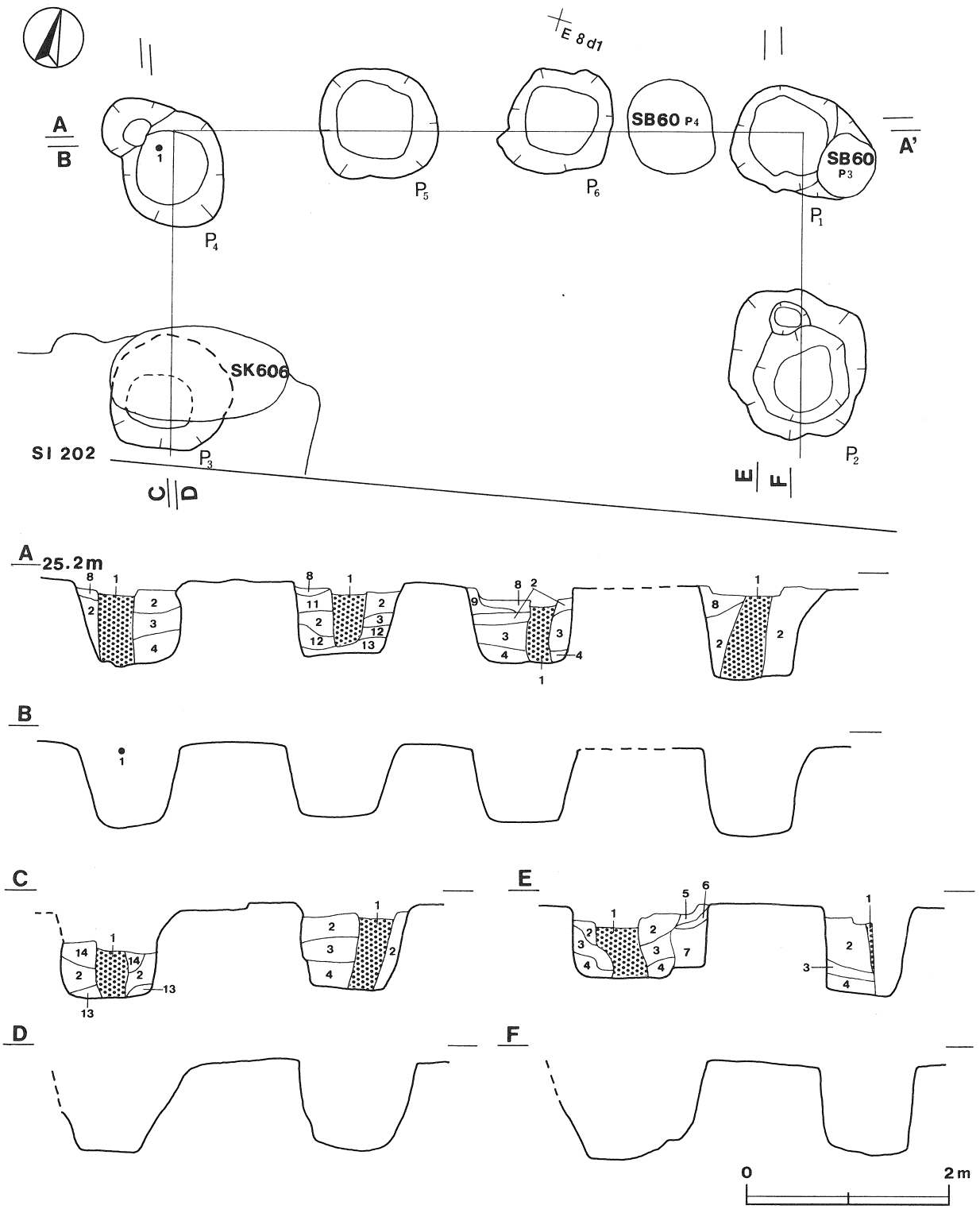
規模　南部が調査区域外のため，調査できたのは桁行３間（平均6.20m），梁行１間（平均2.51m）の範囲である。柱間寸法は桁行1.82～2.40m，梁行2.50～2.52mで，面積は約（15.56）㎡である。柱穴は６か所（Ｐ1～Ｐ6）で，側柱構造の建物跡である。柱穴は，平面形が長径（軸）1.00～1.48m，短径（軸）1.00～1.34mの楕円形または隅丸方形である。また，断面形は逆台形状を呈し，深さは72～104㎝である。柱抜き取り痕はすべての柱穴で認めることができた。柱は径28～32㎝と推定される。

桁行方向　Ｎ－71°－Ｅ

覆土　第１層が柱の抜き取り痕で，その他の層は埋土である。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム中・小ブロック少量
3　褐　色　ローム中・小ブロック・粒子少量
4　暗褐色　ローム中ブロック少量，ローム小ブロック・粒子微量
5　褐　色　ローム小ブロック・粒子少量
6　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量

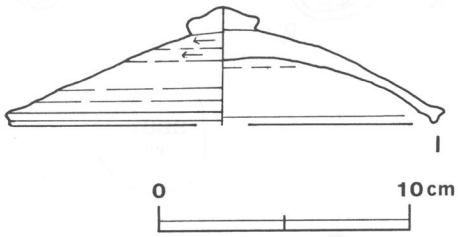


第332図　第64号掘立柱建物跡実測図

7　褐　　色　　ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・粒子微量
8　暗 褐 色　　ローム小ブロック・粒子少量
9　褐　　色　　ローム小ブロック・粒子少量，焼土粒子微量
10　暗 褐 色　　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
11　褐　　色　　ローム粒子少量，ローム中・小ブロック微量
12　褐　　色　　ローム小ブロック・粒子少量，ローム中ブロック微量
13　褐　　色　　ローム粒子多量，ローム中・小ブロック中量
14　暗 褐 色　　ローム粒子・焼土粒子少量

遺物　土師器片40点，須恵器片22点が出土している。第333図１の須恵器蓋はＰ4中から出土している。

所見　柱穴の深さ，柱間寸法ともにほぼ規則性がみられる。他の掘立柱建物跡との関連は不明であるが，第60・67・71・79号掘立柱建物跡と構造・桁行方向がほぼ一致している。時期は，重複している第202号住居跡が８世紀中葉，第60号掘立柱建物跡が９世紀中葉であることと出土土器から，８世紀後葉から９世紀前葉と推定される。



第333図　第64号掘立柱建物跡
出土遺物実測図

第64号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第333図 1	蓋 須 恵 器	A [16.8] B　4.8 F　2.7 G　0.9	つまみから口縁部の破片。扁平なボタン状のつまみを持ち，天井部は内彎気味に開く。口縁部は外反した後，内側に返りを持ち，屈曲する。	つまみ，天井部から口縁部内・外面ロクロナデ。頂部回転ヘラ削り。	長石　石英　砂粒 灰色 普通	50%　P720 P4中

第65号掘立柱建物跡（第334～336図）

位置　調査Ⅲ区の東部，Ｅ８b3区。

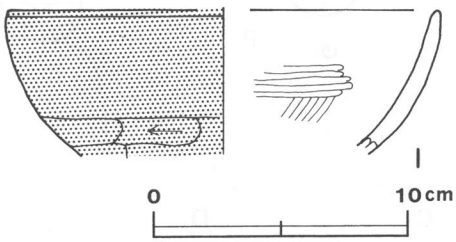
重複関係　本跡は，第201・205号住居に掘り込まれていることから，本跡が古い。第61号掘立柱建物跡との関係については，切り合いがないことから不明である。

規模　桁行４間（平均9.81m），梁行２間（平均4.55m），柱間寸法は桁行2.25～2.67m，梁行2.25～2.34mで，面積は約44.64m²である。柱穴は10か所（Ｐ1～Ｐ12）で，側柱構造の建物跡である。Ｐ8・Ｐ9は構造上存在したと考えられる。柱穴は，平面形が長径0.56～1.00m，短径0.41～0.74mの楕円形または円形である。断面形は二段掘り状またはＵ字状を呈し，深さは54～106cmである。柱痕または柱の抜き取り痕は確認できなかった。柱の寸法は不明である。

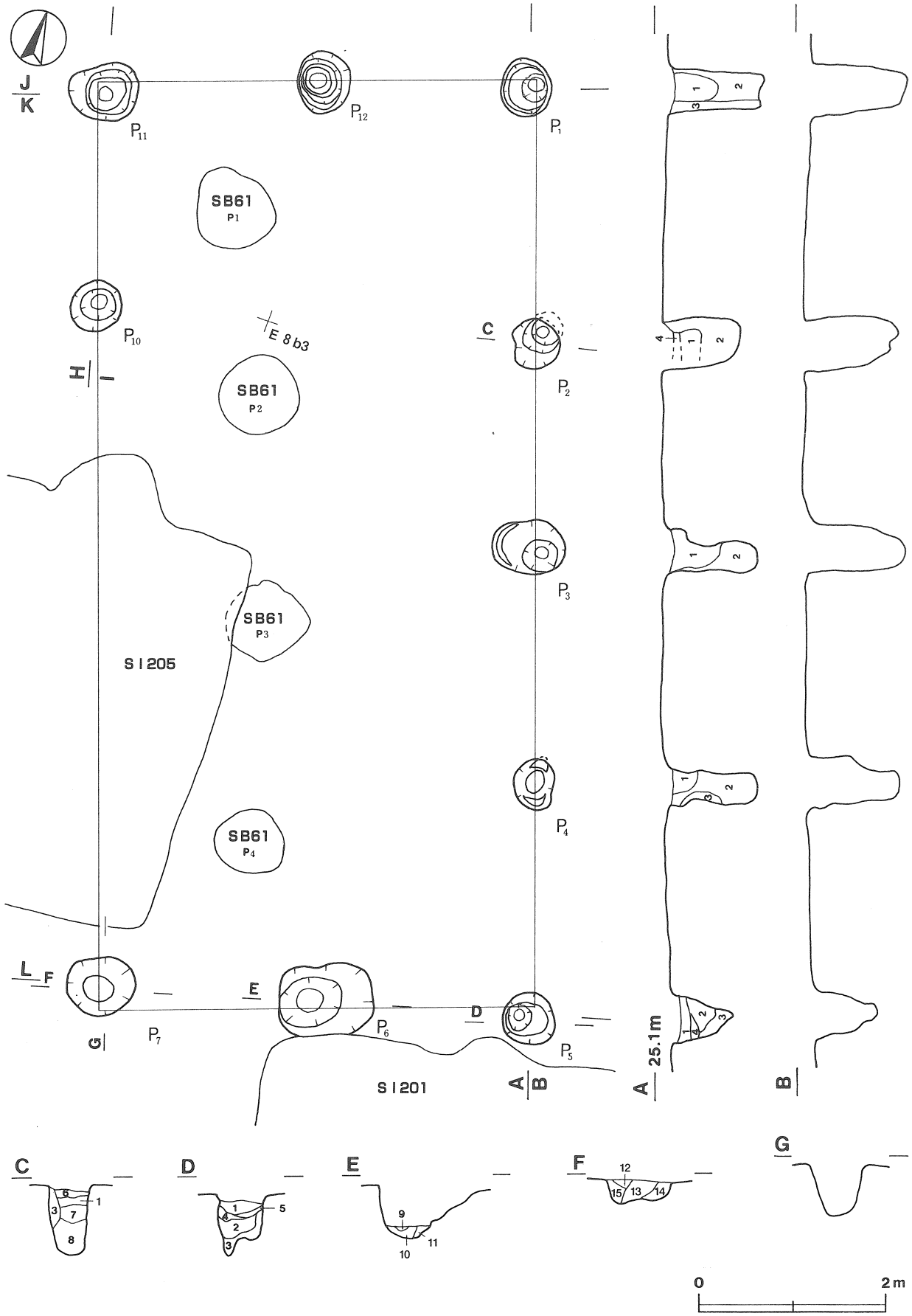
桁行方向　Ｎ－20°－Ｗ

覆土　すべて埋土である。

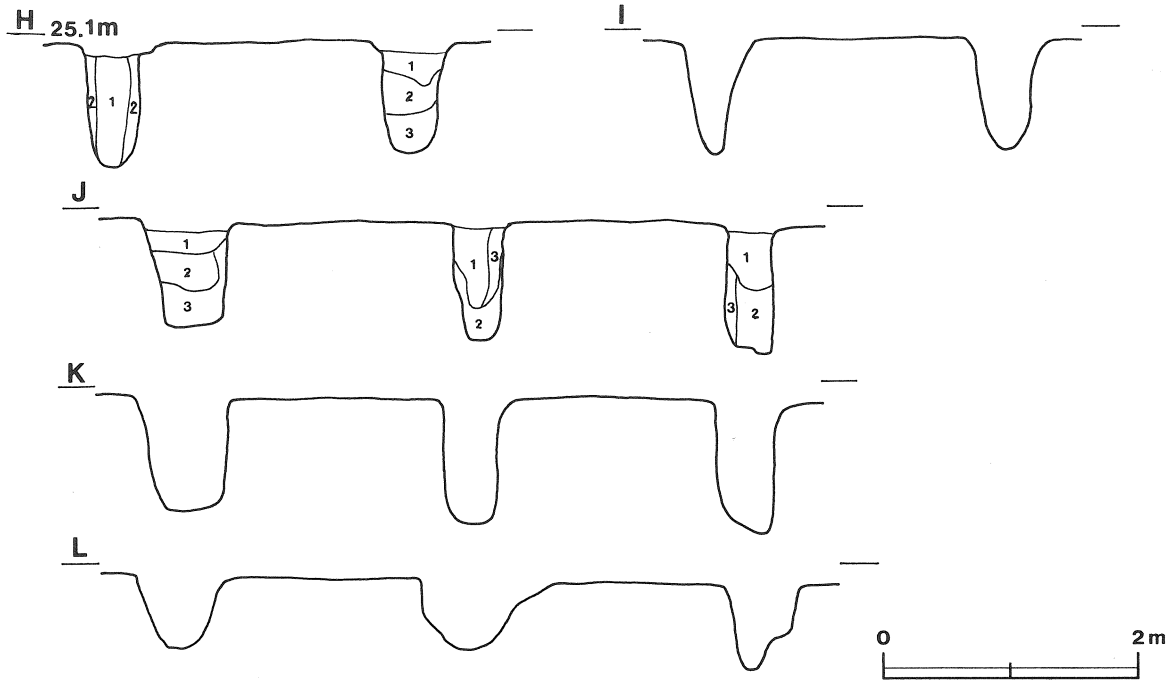
土層解説
1　暗 褐 色　　ローム粒子微量
2　褐　　色　　ローム小ブロック少量
3　明 褐 色　　ローム小ブロック・粒子少量
4　暗 褐 色　　ローム小ブロック微量
5　褐　　色　　ローム小ブロック中量
6　褐　　色　　粘土大ブロック多量
7　褐　　色　　ローム中ブロック少量
8　褐　　色　　ローム粒子中量
9　暗 褐 色　　炭化粒子微量
10　暗 褐 色　　ローム粒子少量，焼土粒子微量
11　暗 褐 色　　ローム小ブロック・粒子微量
12　暗 褐 色　　ローム粒子少量
13　暗 褐 色　　ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子微量
14　褐　　色　　ローム小ブロック・粒子少量
15　褐　　色　　ローム粒子少量



第334図　第65号掘立柱建物跡
出土遺物実測図



第335図　第65号掘立柱建物跡実測図（１）



第336図　第65号掘立柱建物跡実測図（２）

遺物　土師器片１点が出土している。第334図１の土師器坏はＰ10中から出土している。

所見　柱穴の深さは不規則で，柱間寸法にはほぼ規則性がみられる。他の掘立柱建物跡との関連は不明である。第66号掘立柱建物跡と同じ構造をしているが，桁行方向は異なっている。時期は，重複している第201号住居跡が９世紀前葉，第205号住居跡が９世紀中葉，第61号掘立柱建物跡が９世紀初頭であることと出土土器から，８世紀後葉以前と推定される。

第65号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	種　別	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第334図 1	坏 土　師　器	A ［17.0］ B （ 5.7）	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位手持ちヘラ削り，内面ヘラ磨き。外面黒色処理。	スコリア　砂粒 にぶい橙色 普通	10%　P721 P10中

第66号掘立柱建物跡（第337・338図）

位置　調査Ⅲ区の中央部，Ｅ７c8区。

重複関係　本跡は第70号掘立柱建物跡を掘り込んでいることから，本跡が新しい。また，第204号住居と第72号掘立柱建物に掘り込まれていることから，本跡が古い。

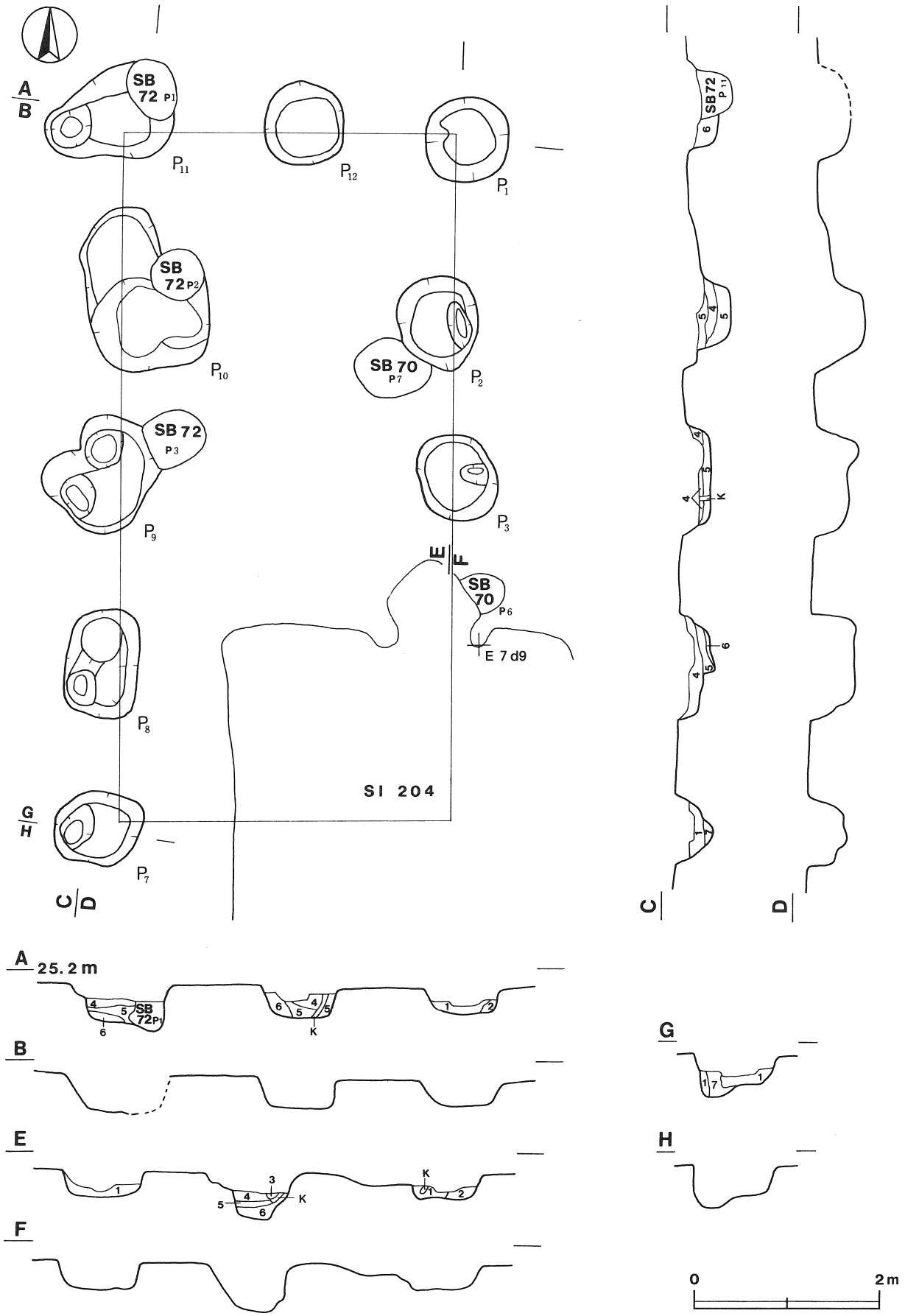
規模　桁行４間（平均7.46m），梁行２間（平均3.54m），柱間寸法は桁行1.58～2.10m，梁行1.60～1.94mで，面積は約26.41m²である。柱穴は９か所（Ｐ1～Ｐ3，Ｐ7～Ｐ12）で，側柱構造の建物跡である。Ｐ4～Ｐ6は，構造上存在したと考えられる。柱穴は，平面形が長径0.89～1.37m，短径0.77～1.05mの楕円形または不整楕円形である。断面形は二段掘り状またはＵ字状を呈し，深さは27～53cmである。柱痕または抜き取り痕は確認でなかった。柱の寸法は不明である。

桁行方向　Ｎ－０°

覆土　すべて埋土である。

土層解説

１　褐　　色　　ローム小ブロック少量　　２　褐　　色　　ローム中ブロック中量

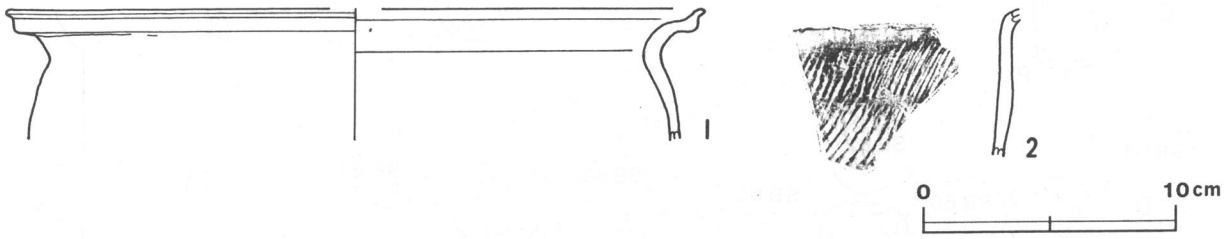


第337図　第66号掘立柱建物跡実測図

3　暗褐色　ローム中ブロック少量
4　黄褐色　ローム大ブロック中量
5　褐　色　ローム中・小ブロック少量
6　褐　色　ローム小ブロック中量
7　褐　色　ローム中ブロック少量，ローム粒子微量

遺物　土師器片11点，須恵器片21点が出土している。第338図１の土師器甕はＰ2中から，２の須恵器鉢はＰ7中からそれぞれ出土している。

所見　柱穴の深さ，柱間寸法とともに不規則である。他の掘立柱建物跡との関連は不明である。第65号掘立柱建物跡と同じ構造をしているが，桁行方向は異なっている。時期は，重複している第204号住居跡が８世紀後葉，第72号掘立柱建物跡が９世紀前葉であることから，８世紀中葉と推定される。



第338図　第66号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第66号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第338図 1	甕 土師器	A [27.0] B (5.2)	体部から口縁部の破片。口縁部は強く外反し，横方向につまみ上げられ，棒状工具による凹線を巡らす。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	雲母　砂粒 橙色 普通	10%　P722 P2中

図版番号	器種	部分	器形の・手法の特徴	備考
第338図 2	鉢 須恵器	体部～口縁部	体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は強く外反する。口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面斜め方向の平行叩き。	ＴＰ201 P4中 灰色　普通

第67号掘立柱建物跡（第339・340図）

位置　調査Ⅲ区の中央部，Ｅ７b0区。

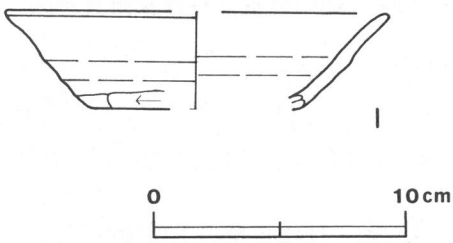
重複関係　本跡は第62号掘立柱建物に掘り込まれていることから，本跡が古い。また，第60号掘立柱建物跡との関係については，他の遺構との切り合い関係から，本跡が古い。

規模　桁行３間（平均4.47m），梁行２間（平均3.33m），柱間寸法は桁行1.34～1.70m，梁行1.50～1.88mで，面積は約14.89m²である。柱穴は10か所（Ｐ1～Ｐ10）で，側柱構造の建物跡である。柱穴は，平面形が長径0.62～0.76m，短径0.52～0.70mの楕円形または円形である。断面形は二段掘り状または逆台形状を呈し，深さは21～42cmである。柱の抜き取り痕はＰ1～Ｐ6・Ｐ9・Ｐ10で認められた。柱は径16～30cmと推定される。

桁行方向　Ｎ－86°－Ｅ

覆土　第１層が柱の抜き取り痕で，他の層は埋土である。

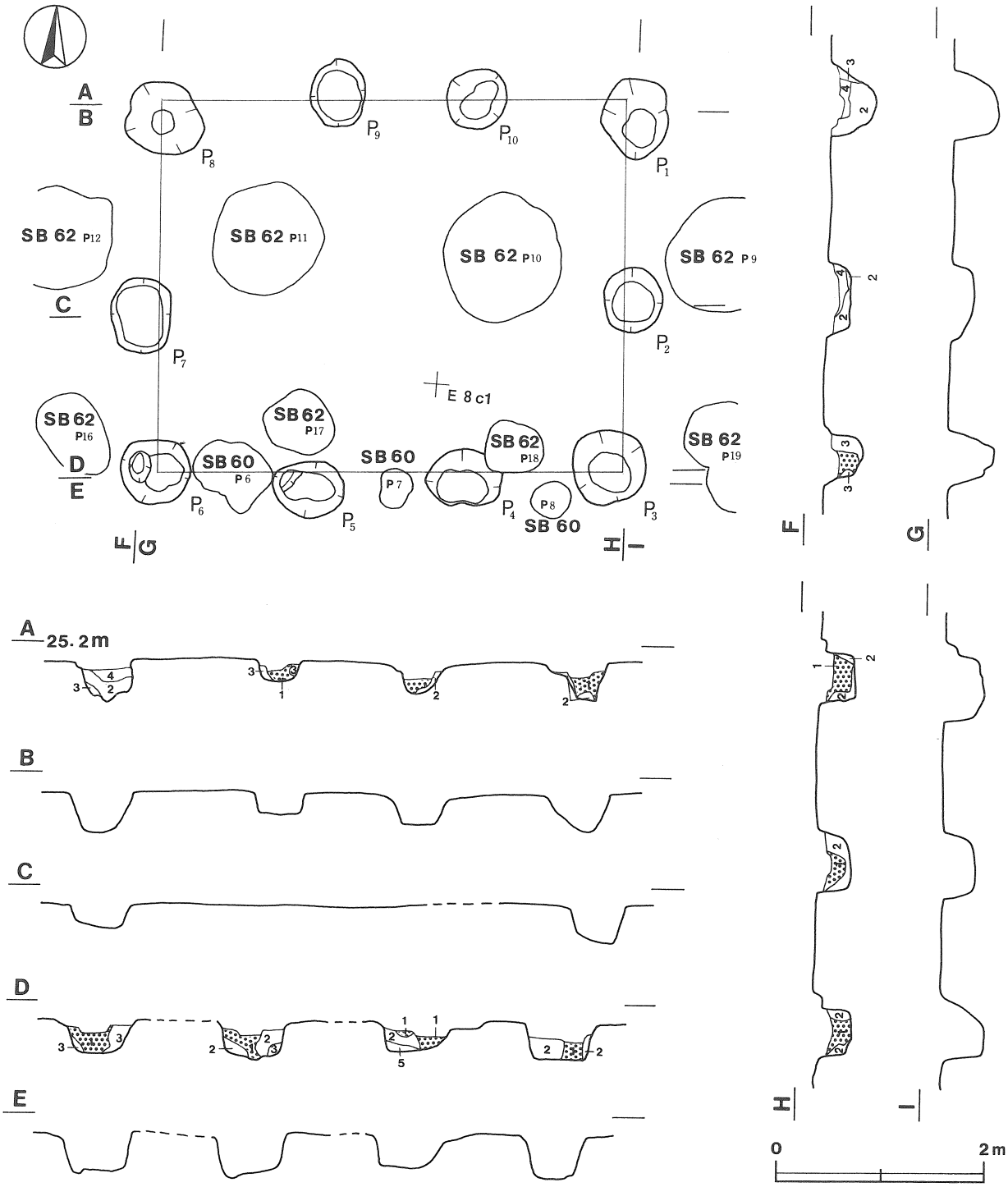
土層解説
1　暗褐色　炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　褐　色　ローム粒子少量
3　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子微量
5　褐　色　ローム小ブロック・粒子微量



第339図　第67号掘立柱建物跡出土遺物実測図

遺物　土師器片15点，須恵器片14点が出土している。第339図１の須恵器坏はＰ10中から出土している。

所見　柱穴の深さ，柱間寸法ともにほぼ規則性がある。平と妻のそれぞれ中間に位置するピットが四隅の柱穴

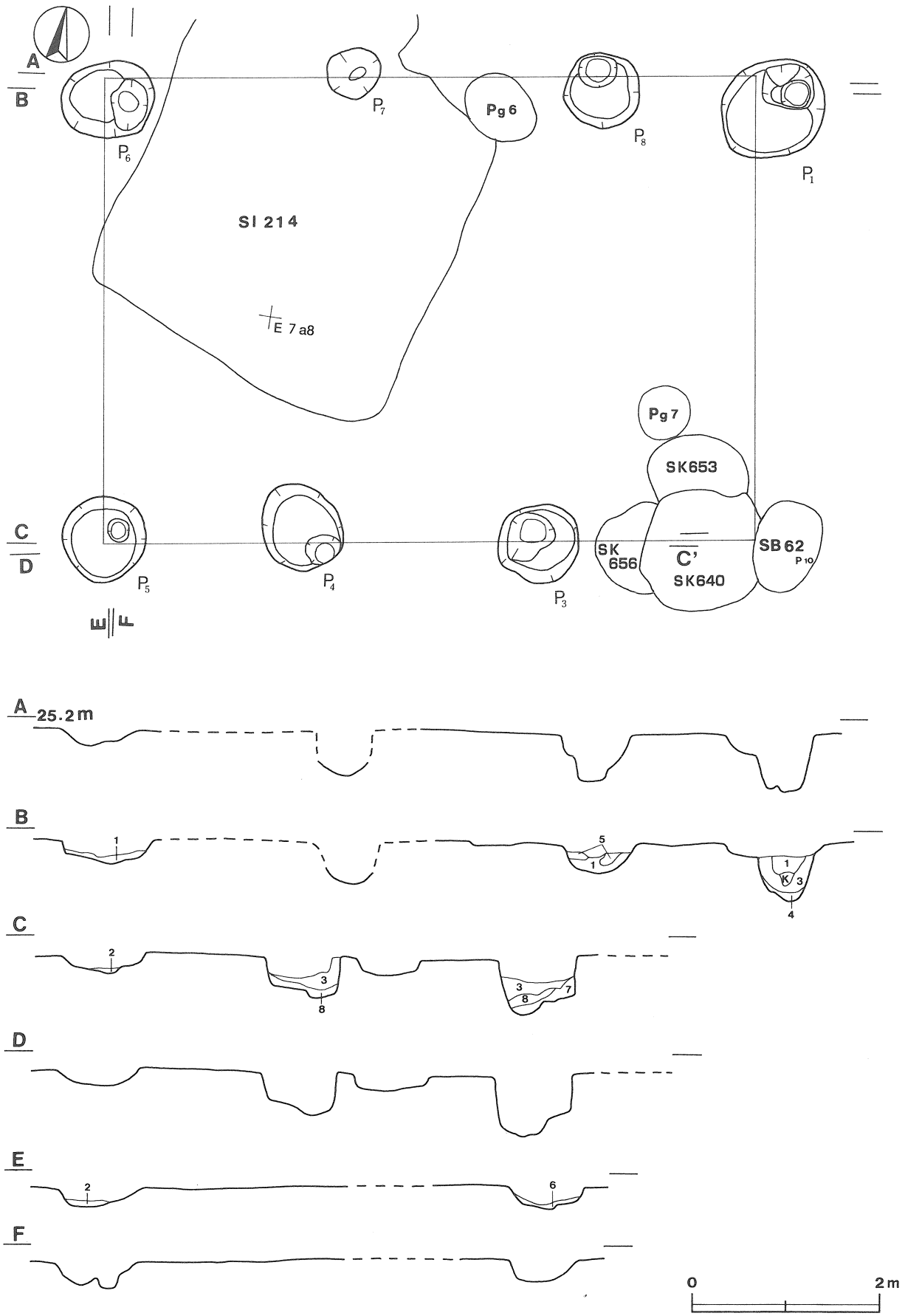


第340図　第67号掘立柱建物跡実測図

に比べると浅く，少し外側にずれている。重複している第60号掘立柱建物跡と同じ構造で，桁行方向がほぼ等しいことから，時代は異なるが同じ機能を持った施設の可能性も考えられる。時期は，第60号掘立柱建物跡が9世紀中葉，第62号掘立柱建物跡が9世紀前葉と考えられることと出土土器から，8世紀末葉と推定される。

第67号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第339図 1	坏 須恵器	A [15.0] B 3.8 C [8.0]	底部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がり，わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位手持ちヘラ削り。	石英　雲母　砂粒 スコリア にぶい黄褐色　普通	20%　P723 P10中



第341図　第68号掘立柱建物跡実測図

第68号掘立柱建物跡（第341・342図）

位置　調査Ⅲ区の中央部，Ｅ７a8区。

重複関係　本跡は，第214号住居，第62号掘立柱建物，第640号土坑に掘り込まれていることから，本跡が古い。また，第653・656号土坑，第６・７号柱穴群との関係については，切り合いがないことから不明である。

規模　桁行３間（平均7.03m），梁行１間（平均4.67m），柱間寸法は桁行2.12～2.58m，梁行（4.67）mで，面積は約[32.83]m²である。柱穴は７か所（Ｐ1・Ｐ3～Ｐ8）で，側柱構造の建物跡である。Ｐ2は構造上存在したと考えられる。柱穴は，平面形が長径0.79～1.17m，短径0.75～1.00mの楕円形または円形である。断面形は二段掘り状またはＵ字状を呈し，深さは29～69cmである。柱痕または柱の抜き取り痕は確認できなかった。柱の寸法は不明である。

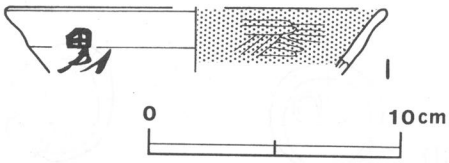
桁行方向　Ｎ－80°－Ｅ

覆土　すべて埋土である。

土層解説

1	暗褐色	ローム中ブロック微量	5	褐　色	ローム粒子中量
2	暗褐色	ローム粒子少量	6	褐　色	ローム粒子微量
3	暗褐色	ローム小ブロック中量，ローム中ブロック微量	7	褐　色	ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
4	褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量	8	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

遺物　土師器片13点，須恵器片12点が出土している。第342図１の土師器坏はＰ6中から出土している。



第342図　第68号掘立柱建物跡出土遺物実測図

所見　柱穴の深さ，柱間寸法ともに不規則である。桁行の北側と南側の柱穴は非対称的である。同じ構造の掘立柱建物跡は検出されていないが，比較的大形の建物跡で，第66・67号掘立柱建物跡と同じ時期と考えられることから，一連の施設の可能性がある。時期は，第214号住居跡が10世紀前葉，第62号掘立柱建物跡が９世紀前葉と考えられることと出土土器から，８世紀末葉と推定される。

第68号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第342図 1	坏 土師器	A［15.0］ B（2.5）	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がり，外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。口縁部から底部内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒 にぶい橙色 普通	5％　P724　PL91 体部外面墨書「富」 P6中

第69号掘立柱建物跡（第343図）

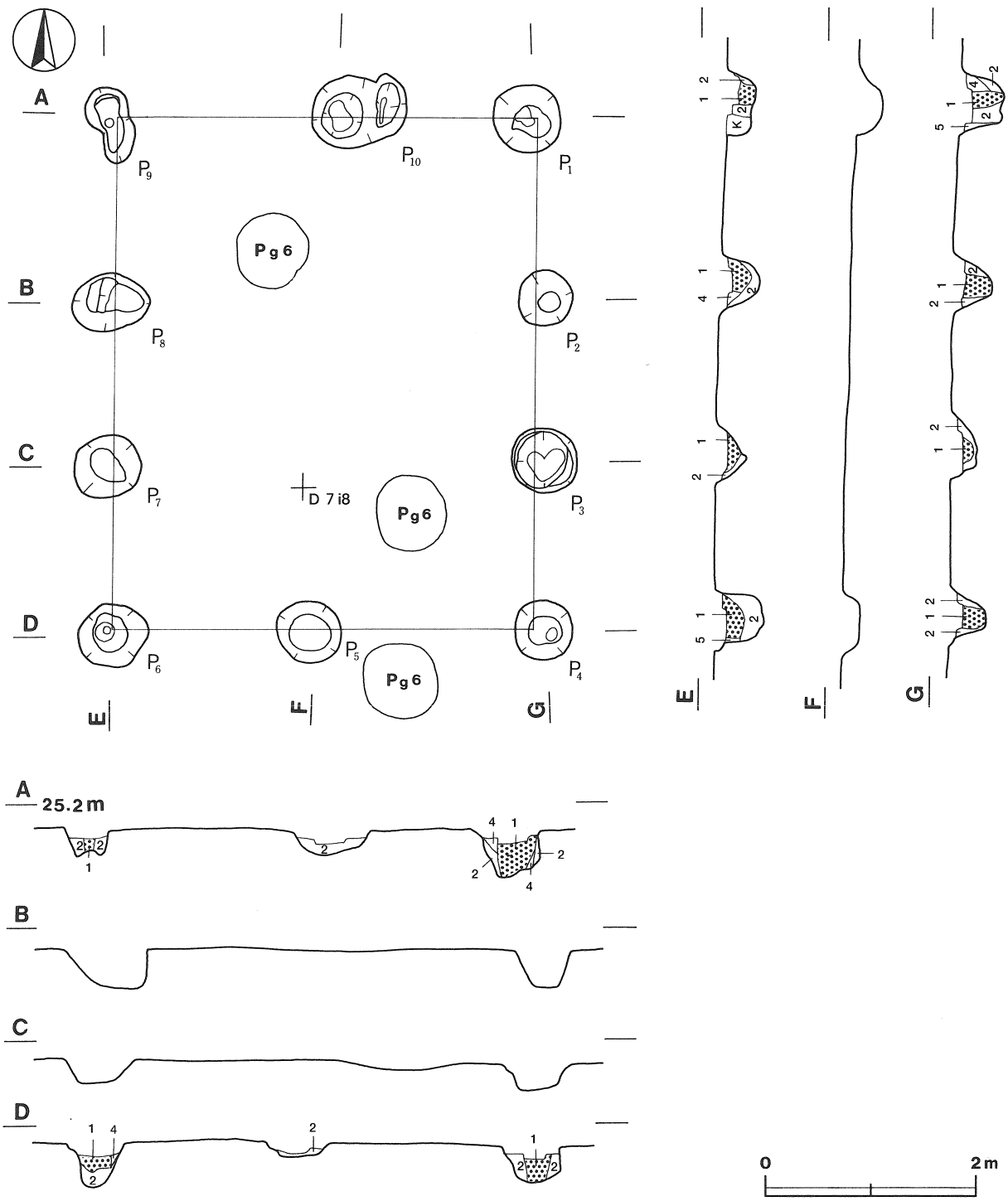
位置　調査Ⅲ区の北部，Ｄ７h8区。

重複関係　第６号柱穴群との関係については，切り合いがないことから不明である。

規模　桁行３間（平均4.87m），梁行２間（平均4.07m），柱間寸法は桁行1.50～1.75m，梁行1.83～2.24mで，面積は約19.20m²である。柱穴は10か所（Ｐ1～Ｐ10）で，側柱構造の建物跡である。柱穴は，平面形が長径0.52～0.92m，短径0.50～0.68mの楕円形または円形である。断面形は二段掘り状，逆台形状またはＵ字状を呈し，深さは17～49cmである。柱の抜き取り痕はすべての柱穴で認められた。柱は径12～18cmと推定される。

桁行方向　Ｎ－０°

覆土　第１層が柱の抜き取り痕で，他の層は埋土である。



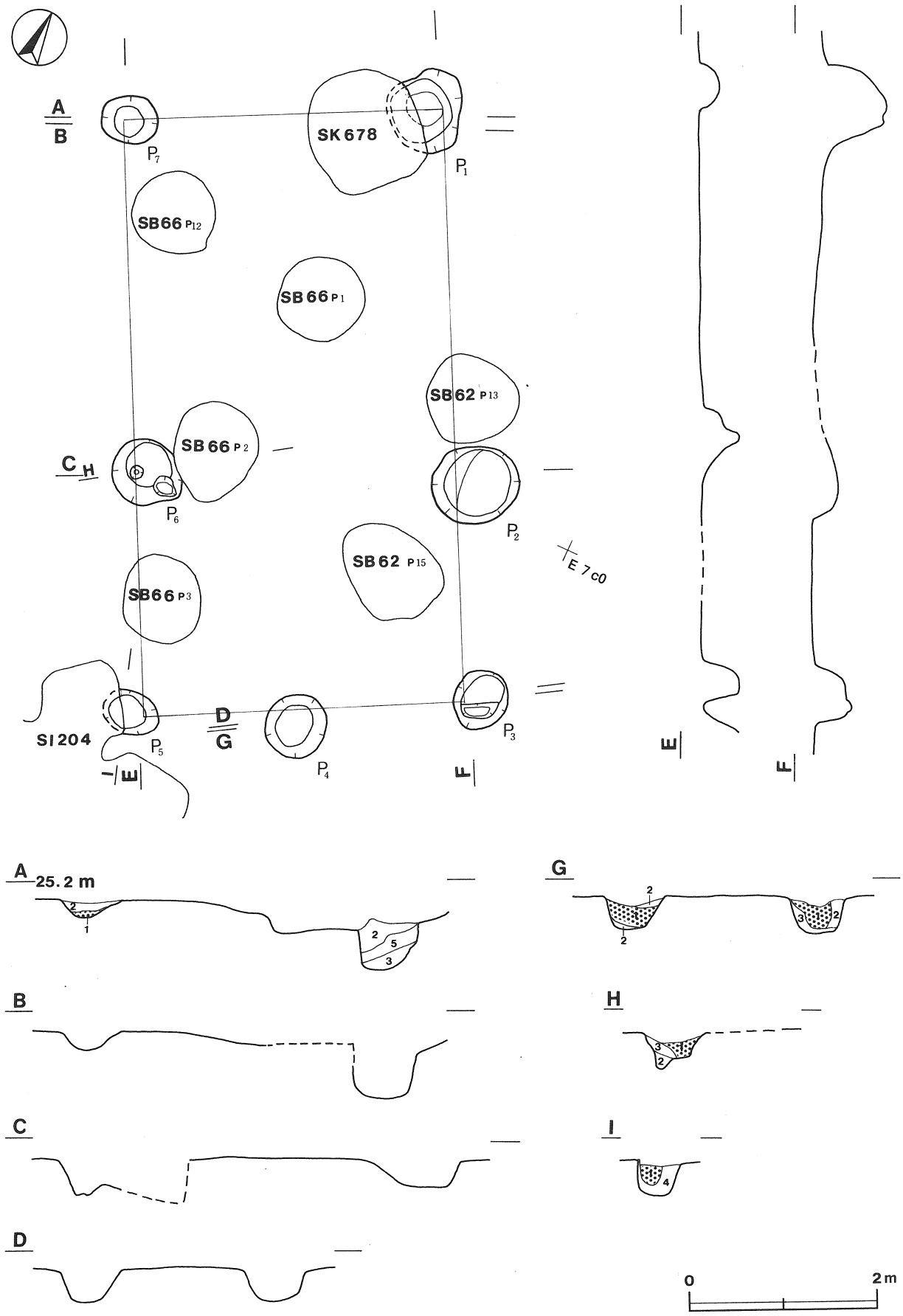
第343図　第69号掘立柱建物跡実測図

土層解説

1	暗褐色	炭化粒子少量	4	暗褐色	ローム粒子微量
2	褐　色	ローム粒子中量	5	褐　色	ローム粒子多量
3	褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量			

遺物　土師器片１点，須恵器片４点が出土している。細片のため図示できなかった。

所見　柱穴の深さ，柱間寸法ともにほぼ規則性がある。同じ構造で，同じ桁行方向の掘立柱建物跡は検出されていないが，第66・72号掘立柱建物跡とは，桁行方向が同じで，ほぼ南北に並んでいることから，関連性が高い可能性がある。時期は，出土土器から，奈良・平安時代と考えられ，８世紀末から９世紀前葉の可能性が高い。



第344図　第70号掘立柱建物跡実測図

第70号掘立柱建物跡（第344図）

位置　調査Ⅲ区の中央部，Ｅ７c9区。

重複関係　本跡は，第204号住居，第66号掘立柱建物，第678号土坑に掘り込まれていることから，本跡が古い。また，第62号掘立柱建物跡との関係については，切り合いがないことから不明である。

規模　桁行２間（平均6.38m），梁行２間（平均3.45m），柱間寸法は桁行2.30～4.00m，梁行1.76～3.25mで，面積は約22.01m²である。柱穴は７か所（Ｐ1～Ｐ7）で，側柱構造の建物跡である。柱穴は，平面形が長径0.61～0.95m，短径0.44～0.82mの楕円形または円形である。断面形は二段掘り状，逆台形状またはＵ字状を呈し，深さは21～73cmである。柱抜き取り痕はＰ3～Ｐ7で認められた。柱は径18～26cmと推定される。

桁行方向　Ｎ－26°－Ｗ

覆土　第１層が柱の抜き取り痕で，他の層は埋土である。

土層解説

1	暗褐色	炭化粒子少量，焼土粒子微量
2	褐色	ローム粒子少量
3	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子微量
5	褐色	ローム小ブロック・粒子微量

遺物　須恵器片１点が出土している。細片のため図示できなかった。

所見　柱穴の深さ，柱間寸法ともに不規則である。桁行方向の中間に位置するピットが南側のピットに寄っており，北側の梁行の中間にはピットは確認されていない。同じ構造の建物跡は検出されていないが，第65号掘立柱建物跡と桁行方向がほぼ等しい。他の遺構との関連は不明である。時期は，第204号住居跡が８世紀後葉，第66号掘立柱建物跡が８世紀中葉と考えられることから，８世紀前葉と推定される。

第71号掘立柱建物跡（第345・346図）

位置　調査Ⅲ区の北部，Ｄ８h2区。

重複関係　本跡は，第216号住居に掘り込まれていることから，本跡が古い。

規模　桁行３間（平均6.85m），梁行２間（平均4.12m），柱間寸法は桁行2.18～2.50m，梁行2.00～2.15mで，面積は約28.22m²である。柱穴は９か所（Ｐ1～Ｐ7，Ｐ9・Ｐ10）で，側柱構造の建物跡である。Ｐ8は構造上存在したと考えられる。柱穴は，平面形が長径0.57～0.80m，短径0.55～0.79mの楕円形または円形である。断面形は二段掘り状または逆台形状を呈し，深さは38～83cmである。柱の抜き取り痕はＰ2・Ｐ3・Ｐ10で認められた。柱は径18～23cmと推定される。

桁行方向　Ｎ－73°－Ｅ

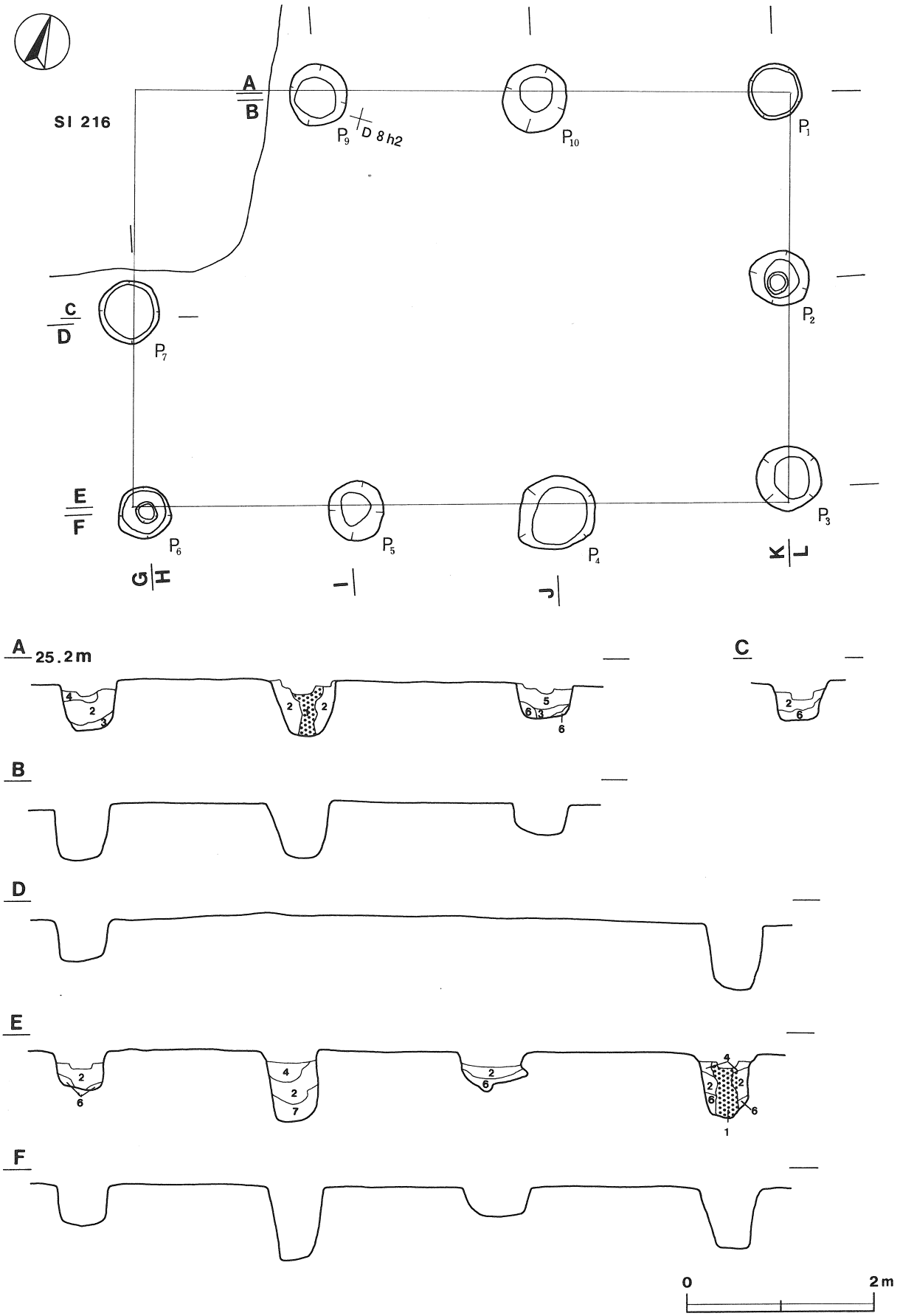
覆土　第１層が柱の抜き取り痕で，他の層は埋土である。

土層解説

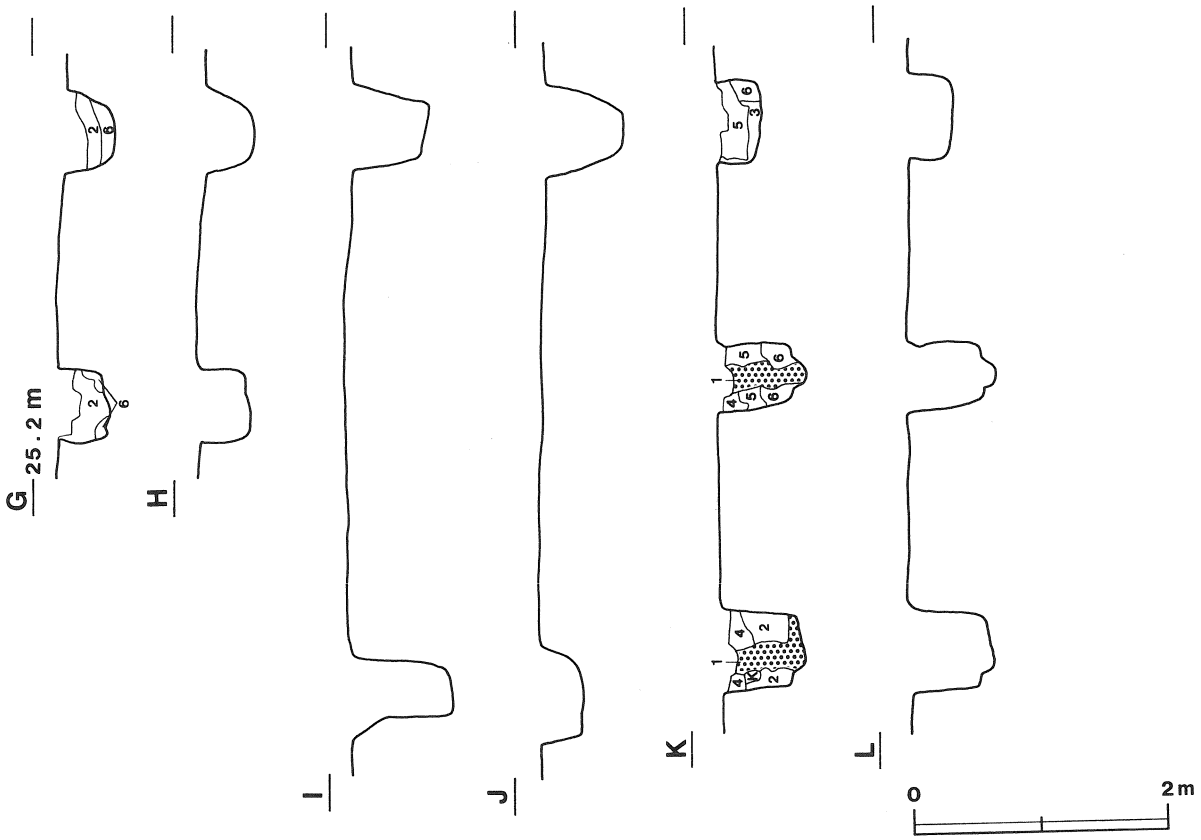
1	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
2	暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
3	暗褐色	ローム粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
5	暗褐色	ローム小ブロック・粒子微量
6	褐色	ローム小ブロック・粒子中量
7	褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

遺物　土師器片２点，須恵器片３点が出土している。細片のため図示できなかった。

所見　柱穴の深さは不規則であるが，柱間寸法にはほぼ規則性がみられる。第64・68・79号掘立柱建物跡と同じ構造で，桁行方向がほぼ等しいことから，同じ機能を持った施設の可能性も考えられる。時期は，第216号住居跡が８世紀後葉と考えられることと出土土器から，８世紀中葉と推定される。



第345図　第71号掘立柱建物跡実測図（１）



第346図　第71号掘立柱建物跡実測図（２）

第72号掘立柱建物跡（第347図）

位置　調査Ⅲ区の中央部，Ｅ７b7区。

重複関係　本跡は，第66号掘立柱建物跡を掘り込んでいることから，本跡が新しい。また，第224号住居に掘り込まれていることから，本跡が古い。第５号柱穴群との関係については，切り合いがないことから不明である。

規模　桁行３間（平均3.96m），梁行３間（平均3.25m），柱間寸法は桁行1.84～3.10m，梁行1.50～1.78mで，面積は約12.87m²である。柱穴は９か所（Ｐ1～Ｐ9）で，総柱構造の建物跡である。柱穴は，平面形が長径0.52～1.16m，短径0.50～0.64mの楕円形または円形である。断面形は二段掘り状，逆台形状またはU字状を呈し，深さは42～74cmである。柱の抜き取り痕はＰ8を除いて認められた。柱は径18～22cmと推定される。

桁行方向　Ｎ－０°

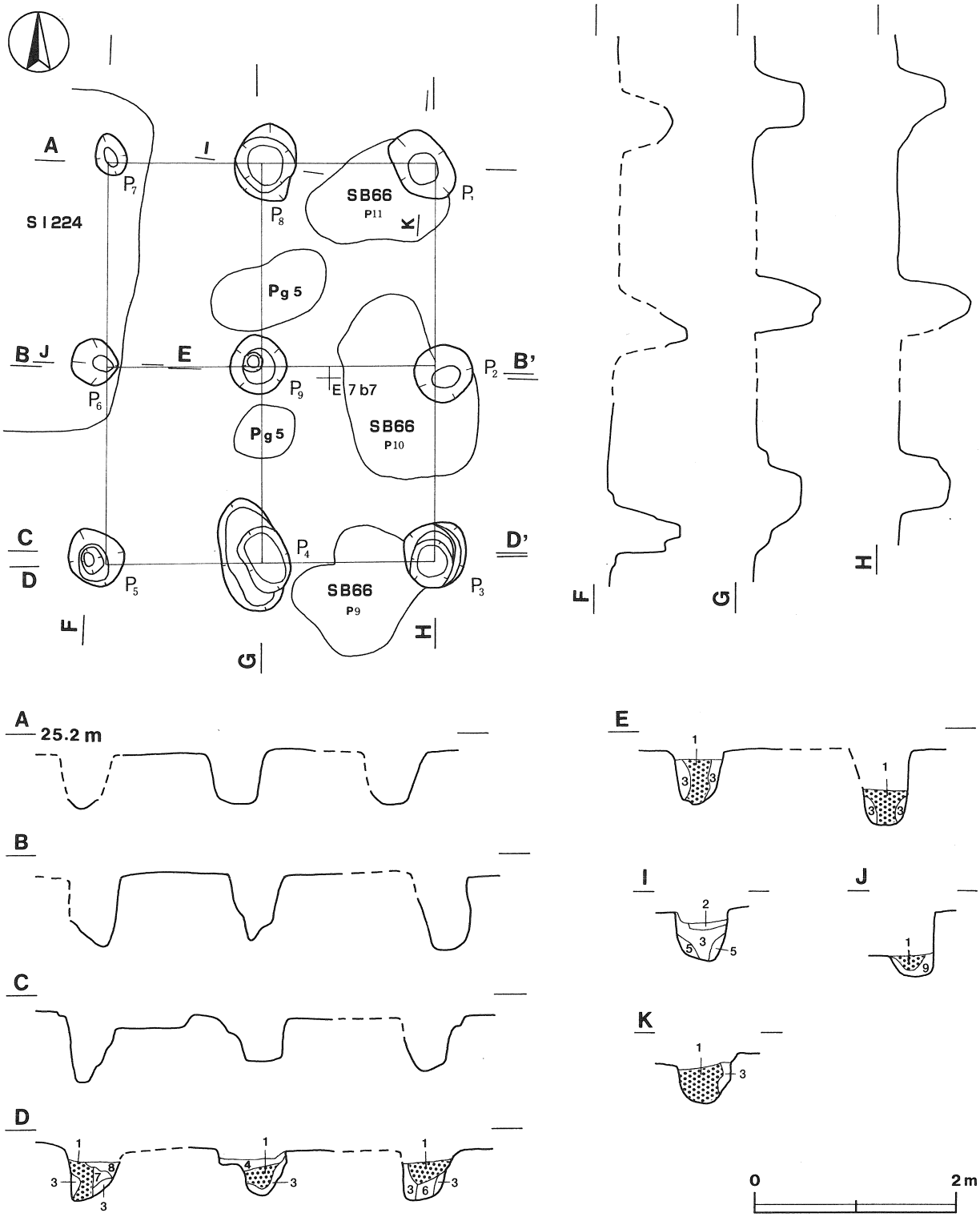
覆土　第１層は柱の抜き取り痕で，他の層は埋土である。

土層解説

1	暗褐色	炭化粒子微量	6	褐色	ローム粒子少量
2	暗褐色	ローム小ブロック・粒子少量	7	暗褐色	炭化粒子・焼土粒子微量
3	暗褐色	ローム小ブロック少量	8	暗褐色	ローム小ブロック中量
4	褐色	ローム粒子微量	9	褐色	ローム中ブロック中量
5	褐色	ローム小ブロック・粒子中量			

遺物　土師器片３点，須恵器片６点が出土している。細片のため図示できなかった。

所見　柱穴の深さ，柱間寸法ともにほぼ規則性がある。西側と東側の桁行方向の中間に位置する柱穴が少し外側にずれている。第63号掘立柱建物跡と同じ構造であるが，桁行方向は異なっている。Ⅲ区では他に同じ構造の建物跡は検出されていない。時期は，第224号住居跡が９世紀中葉，第66号掘立柱建物跡が８世紀中葉と考



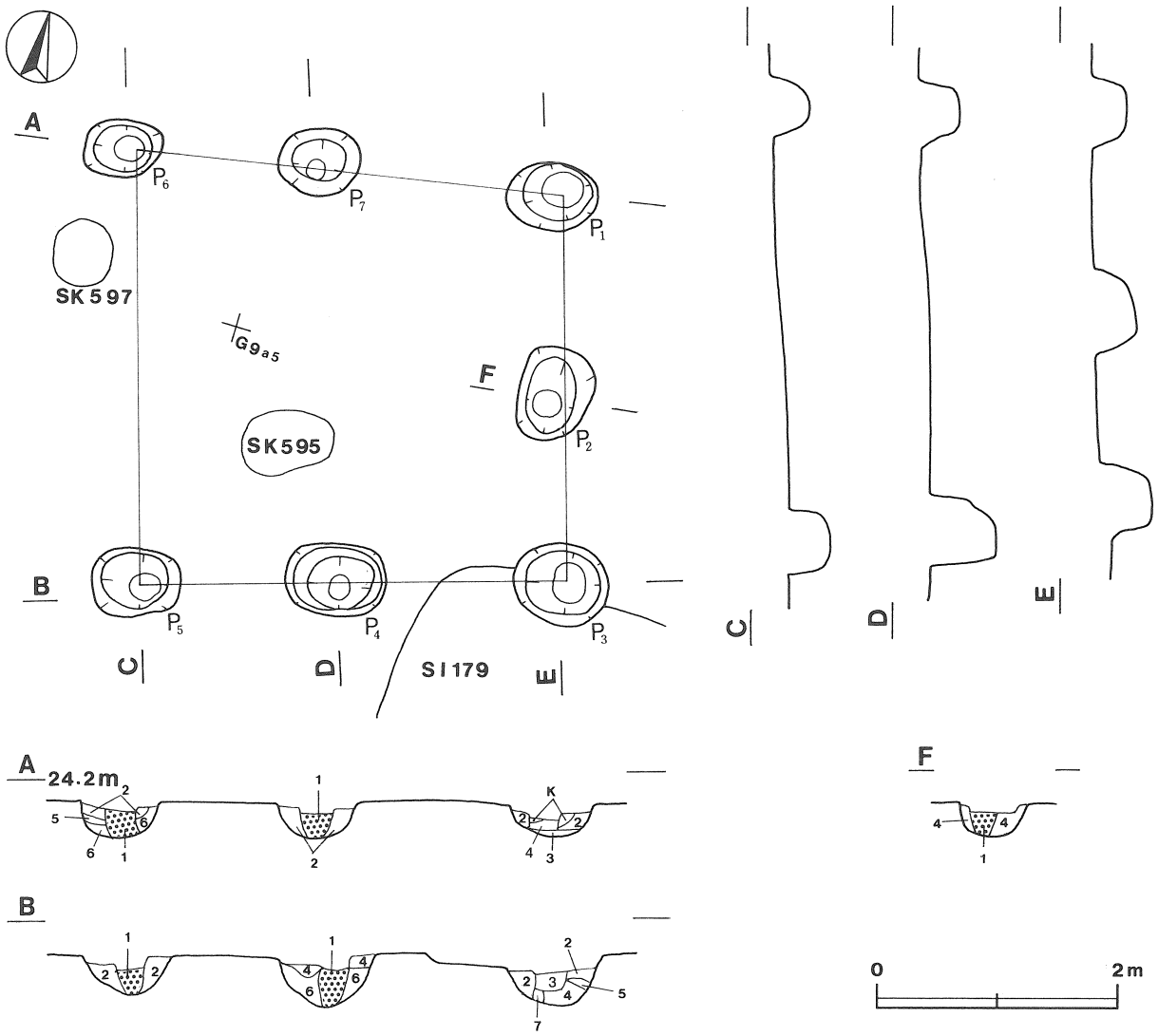
第347図　第72号掘立柱建物跡実測図

えられることから，８世紀後葉から９世紀前葉と推定される。

第73号掘立柱建物跡（第348図）

位置　調査Ⅴ区の中央部，Ｇ９a5区。

重複関係　Ｐ3が第179号住居跡を掘り込んでいる。また，第595・597号土坑と重複しているが，切り合いがないため新旧関係は不明である。



第348図　第73号掘立柱建物跡実測図

規模　桁行２間（平均3.51m），梁行２間（平均3.42m），柱間寸法はＰ5～Ｐ6間が3.60mである他は，桁行1.54～1.70m，梁行1.60～1.88mで，面積は約12.00㎡である。柱穴は７か所（Ｐ1～Ｐ7）で，側柱構造の建物跡である。西側桁の中央部の柱穴は確認できなかった。柱穴は，平面形が長径0.68～0.84m，短径0.48～0.64mの楕円形である。断面形は逆台形状またはＵ字状を呈し，深さは29～50㎝である。柱の抜き取り痕はＰ2・Ｐ4～Ｐ7で認められ，柱は径12～22㎝と推定される。

桁行方向　Ｎ－19°－Ｗ

覆土　土層断面図中，第１層は柱の抜き取り痕で，第２～７層は埋土である。

土層解説

1	暗褐色	ローム小ブロック・粒子微量，締まりはない
2	黒褐色	炭化粒子微量
3	暗褐色	ローム小ブロック微量，粘性を帯びている
4	褐色	ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，粘性を帯びている
5	褐色	ローム小ブロック・粒子中量，粘性を帯びている
6	暗褐色	ローム小ブロック・粒子微量
7	褐色	ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，粘性を帯び，締まりはない

遺物　遺物は出土しなかった。

所見　柱穴は，Ｐ4を除いて，断面形・深さともにほぼ規則性が認められる。また，隣接する第58・59・75・76号掘立柱建物跡と桁行方向がほぼ一致することから，同時期に一連の施設として機能していた可能性が高い。時期は出土土器がなく特定できないものの，第179号住居跡との重複関係と，第58・59・75・76号掘立柱建物跡との関連から，９世紀前葉と推定される。

第75号掘立柱建物跡（第349・350図）

位置　調査Ⅴ区の東部，Ｆ９j9区。

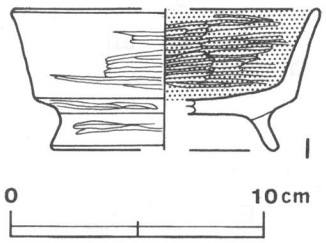
規模　桁行２間（平均3.04m），梁行２間（平均3.16m），柱間寸法はＰ1～Ｐ2間が3.20mである他は，桁行1.44～1.72m，梁行1.46～1.70mで，面積は約9.60㎡である。柱穴は７か所（Ｐ1～Ｐ7）で，側柱構造の建物跡である。東側桁の中央の柱穴は確認できなかった。柱穴は，平面形が径0.34～0.50mの円形である。断面形はＵ字形状を呈し，深さは22～40cmである。柱の抜き取り痕はＰ2・Ｐ4・Ｐ6で認められ，柱は径８～12cmと推定される。

桁行方向　Ｎ－６°－Ｗ

覆土　土層断面図中，第１層は柱の抜き取り痕で，第２～３層は埋土である。

土層解説

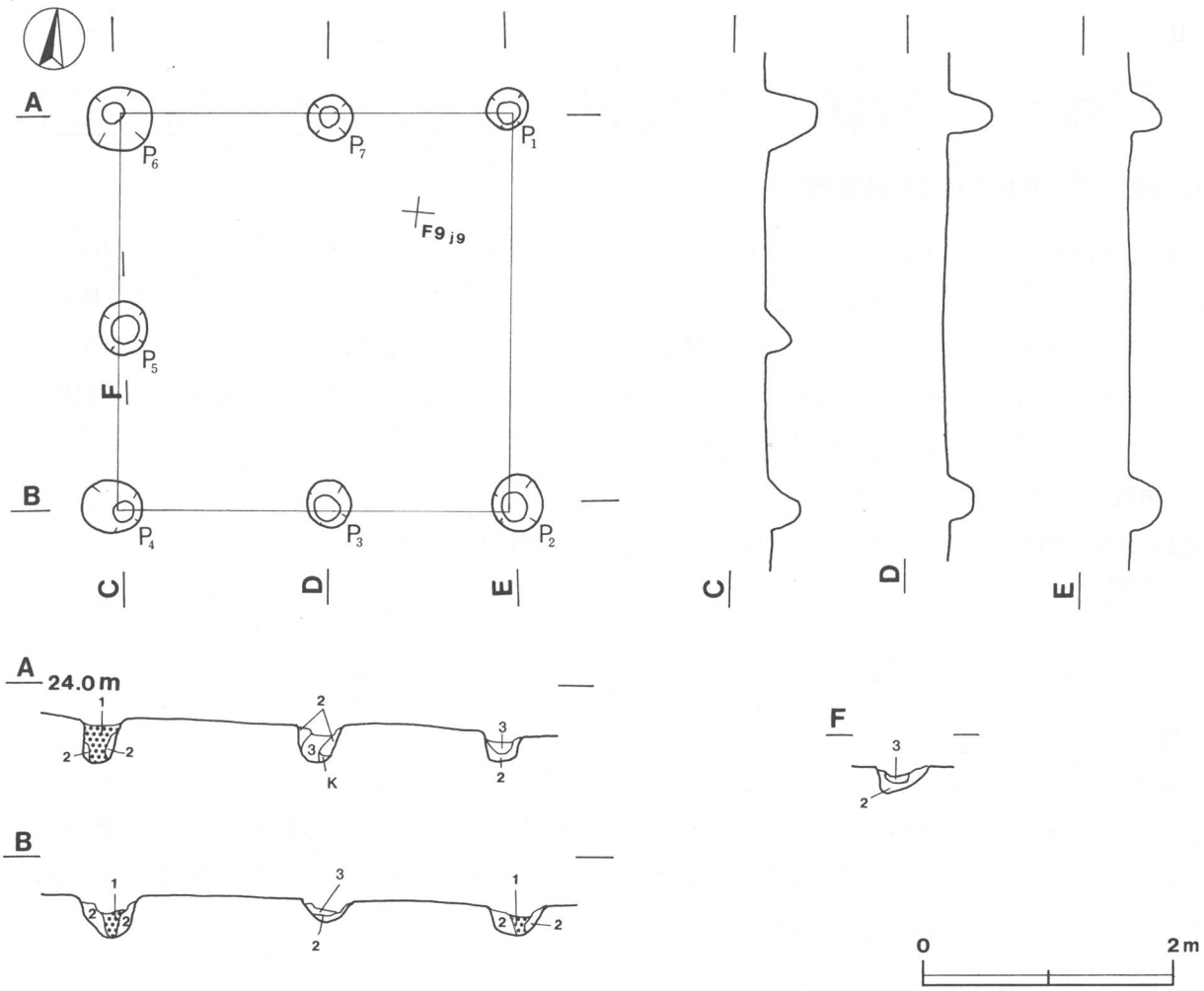
1	暗褐色	ローム小ブロック・粒子少量，炭化粒子微量
2	褐　色	ローム粒子中量，ローム中・小ブロック少量，粘性を帯びている
3	褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，粘性を帯びている



第349図　第75号掘立柱建物跡出土遺物実測図

遺物　土師器片８点，須恵器片７点が出土している。第349図１の土師器高台付坏は，Ｐ6中から出土している。

所見　柱穴は，深さが不ぞろいであるが，断面形と柱間寸法に規則性が認められる。また，隣接する第58・59・73・76号掘立柱建物跡と桁行方向がほぼ一致することから，同時期に一連の施設として機能していた可能性が高い。時期は，第58・59・73・76号掘立柱建物跡との関連及び出土土器から，９世紀前葉と推定される。



第350図　第76号掘立柱建物跡実測図

第75号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第349図 1	高台付坏 土　師　器	A [12.2] B　5.6 D [8.8] E　1.5	高台部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。高台は「ハ」の字状に開く。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。内・外面丁寧なヘラ磨き。底部高台貼り付け後，ナデ。内面黒色処理。	砂粒　雲母　石英 スコリア 橙色 普通	20%　P333 P6中

第76号掘立柱建物跡（第351図）

位置　調査Ⅴ区の西部，Ｇ９b3区。

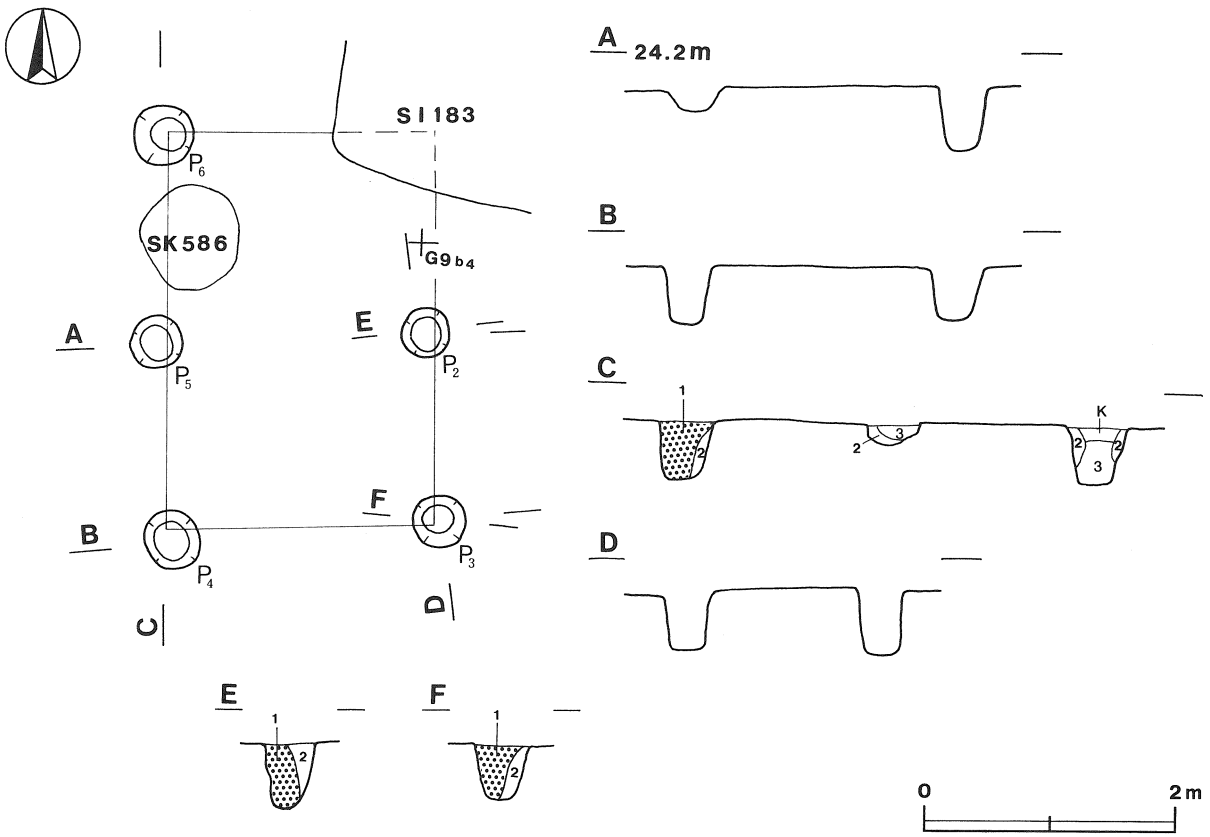
重複関係　Ｐ1が第183号住居跡を掘り込んでいると思われるが判断できなかった。また，第586号土坑と重複しているが，切り合いがないため，新旧関係は不明である。

規模　桁行２間（3.12m），梁行１間（平均2.18m），柱間寸法は桁行1.42～1.64m，梁行2.04～2.20mで，面積は約6.81m²である。確認できた柱穴は５か所（Ｐ2～Ｐ6）で，平面形が径0.40～0.44mの円形である。断面形は逆台形状またはＵ字状を呈し，深さは16～44cmである。柱の抜き取り痕はＰ2～Ｐ4で認められ，柱は，径12～19cmと推定される。

桁行方向　Ｎ－８°－Ｗ

覆土　土層断面図中，第１層は柱の抜き取り痕で，第２・３層は埋土である。

土層解説
1　黒 褐 色　ローム中ブロック少量，粘性は弱く，締まりはない
2　褐　　色　ローム中ブロック・粒子少量
3　暗 褐 色　ローム小ブロック・粒子少量，粘性は弱い



第351図　第76号掘立柱建物跡実測図

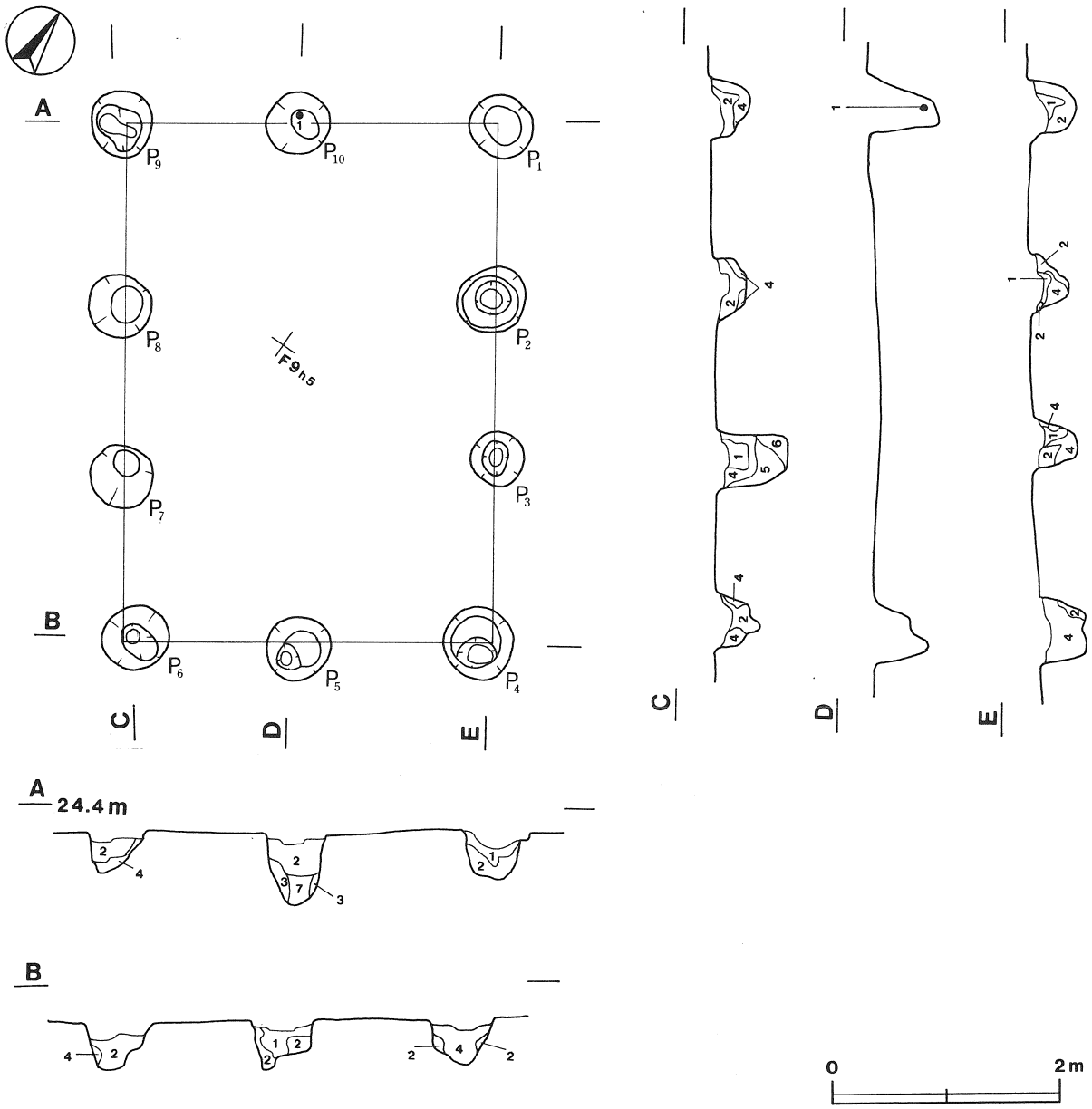
遺物　遺物は出土しなかった。

所見　柱穴は，Ｐ5を除いて深さ，断面形ともにほぼ規則性が認められる。また，隣接する第58・59・73・76号掘立柱建物跡と桁行方向がほぼ一致することから，同時期に一連の施設として機能していた可能性が高い。時期は，出土土器がなく特定できないものの，第58・59号掘立柱建物跡との関連及び第183号住居跡との重複関係から，９世紀前葉と推定される。

第77号掘立柱建物跡（第352・353図）

位置　調査Ｖ区の中央部，Ｆ９h5区。

規模　桁行３間（平均4.42m），梁行２間（平均3.28m），柱間寸法は桁行1.10～1.66m，梁行1.44～1.64mで，面積は約14.49m²である。柱穴は10か所（Ｐ1～Ｐ10）で，側柱構造の建物跡である。柱穴は，平面形が径0.54～0.58mの円形である。深さは30～62cmで断面形は逆台形状を呈している。一部の柱穴は，丸くくぼんだ二段掘り状である。柱痕及び柱の抜き取り痕は確認できなかった。



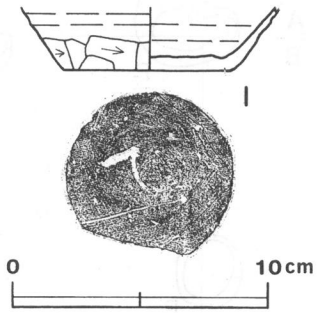
第352図　第77号掘立柱建物跡実測図

桁行方向　N－37°－W

覆土　土層断面図中，第１～７層は埋土である。

土層解説

1　黒褐色　ローム小ブロック・粒子少量，炭化粒子微量，締まりはない
2　暗褐色　ローム粒子少量
3　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
4　暗褐色　ローム粒子微量
5　暗褐色　ローム小ブロック少量，炭化粒子微量，締まりはない
6　褐　色　ローム中ブロック・粒子少量
7　暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量，締まりはない



第353図　第77号掘立柱建物跡出土遺物実測図

遺物　土師器片１点，須恵器片３点が出土している。第353図１の須恵器坏は，Ｐ10中から出土している。

所見　柱穴の規模と柱間寸法は，ほぼ規則性が認められる。また，隣接する第78号掘立柱建物跡と桁行方向が一致することから，同時期に一連の施設として機能していた可能性がある。時期は，第78号掘立柱建物跡との関連から，９世紀前葉と推定される。

第77号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第353図 1	坏 須恵器	B（2.5） C　6.8	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部不定方向のヘラ削り。	砂粒　雲母　長石 灰黄色 普通	50%　P334 P10中

第78号掘立柱建物跡（第354図）

位置　調査Ⅴ区の中央部，Ｆ９g6区。

規模　桁行２間（平均3.58m），梁行２間（平均3.42m），柱間寸法は桁行1.64～1.86m，梁行1.64～1.82mで，面積は約12.24m²である。柱穴は８か所（Ｐ1～Ｐ8）で，側柱構造の建物跡である。柱穴は，平面形が長径0.44～0.90m，短径0.36～0.82mの楕円形である。断面形は逆台形状を呈し，深さは20～42cmである。柱痕及び柱の抜き取り痕は確認できなかった。

桁行方向　N－19°－W

覆土　土層断面図中，第１～４層は埋土である。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子少量，粘性は弱く，締まりはない
2　褐　色　ローム小ブロック少量
3　黄褐色　ローム中ブロック中量
4　褐　色　ローム小ブロック中量，締まりはない

遺物　土師器片３点，須恵器片２点が出土している。細片のため，図示できなかった。

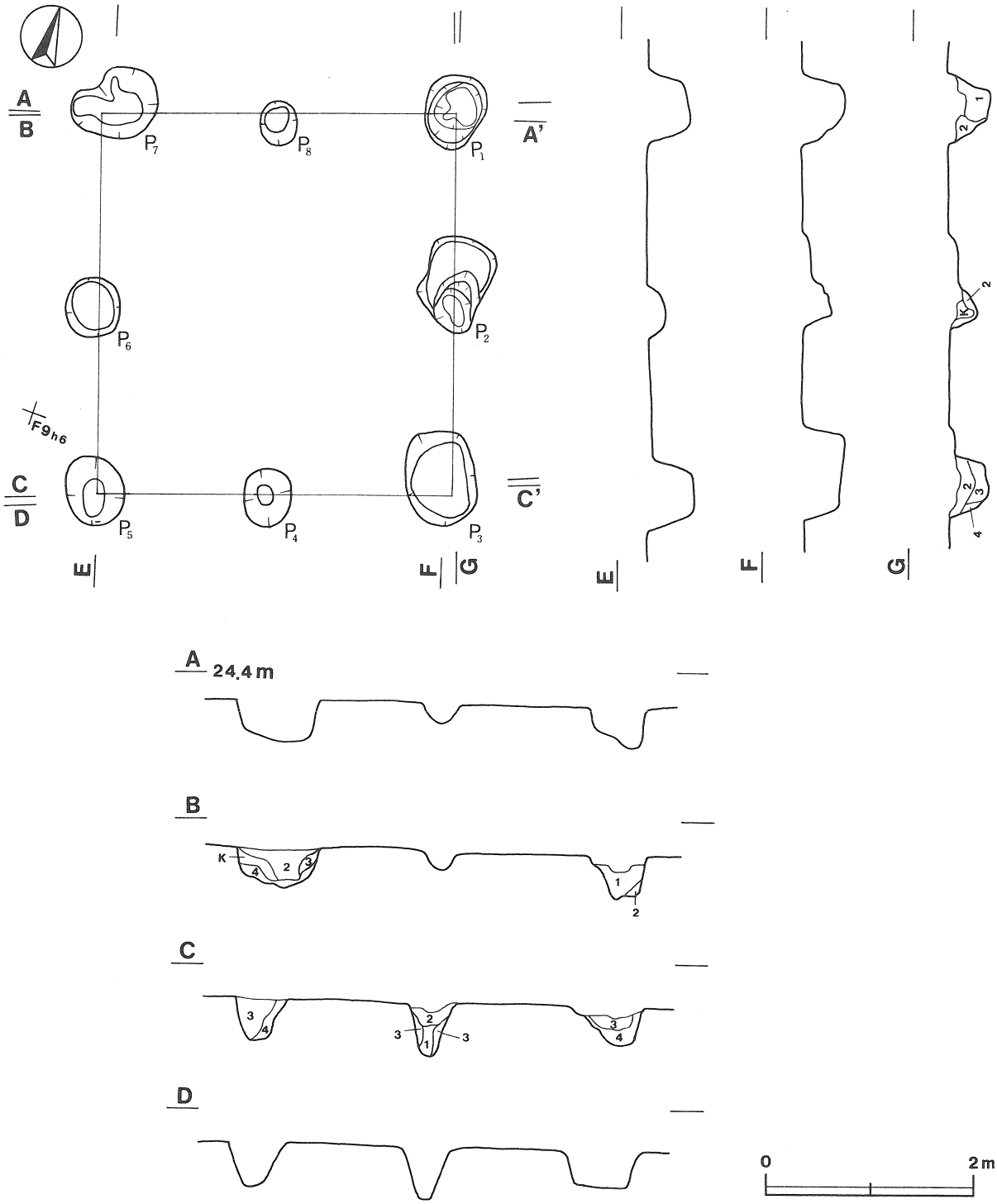
所見　柱間寸法に規則性が認められる。また，隣接する第77号掘立柱建物跡と桁行方向がほぼ一致することから，同時期に一連の施設として機能していた可能性がある。時期は，第77号掘立柱建物跡との関連から，９世紀前葉と推定される。

第79号掘立柱建物跡（第355・356図）

位置　調査Ⅲ区の西部，Ｅ７a6区。

重複関係　本跡は，第220～223・225号住居，第657・658・670号土坑，第24号溝に掘り込まれていることから，いずれよりも本跡が古い。

規模　桁行３間（平均6.80m），梁行２間（平均4.15m），柱間寸法は桁行2.00～2.70m，梁行2.00～2.20mで，面積は約28.22m²である。柱穴は10か所（Ｐ1～Ｐ10）で，側柱構造の建物跡である。柱穴は，平面形が長



第354図　第78号掘立柱建物跡実測図

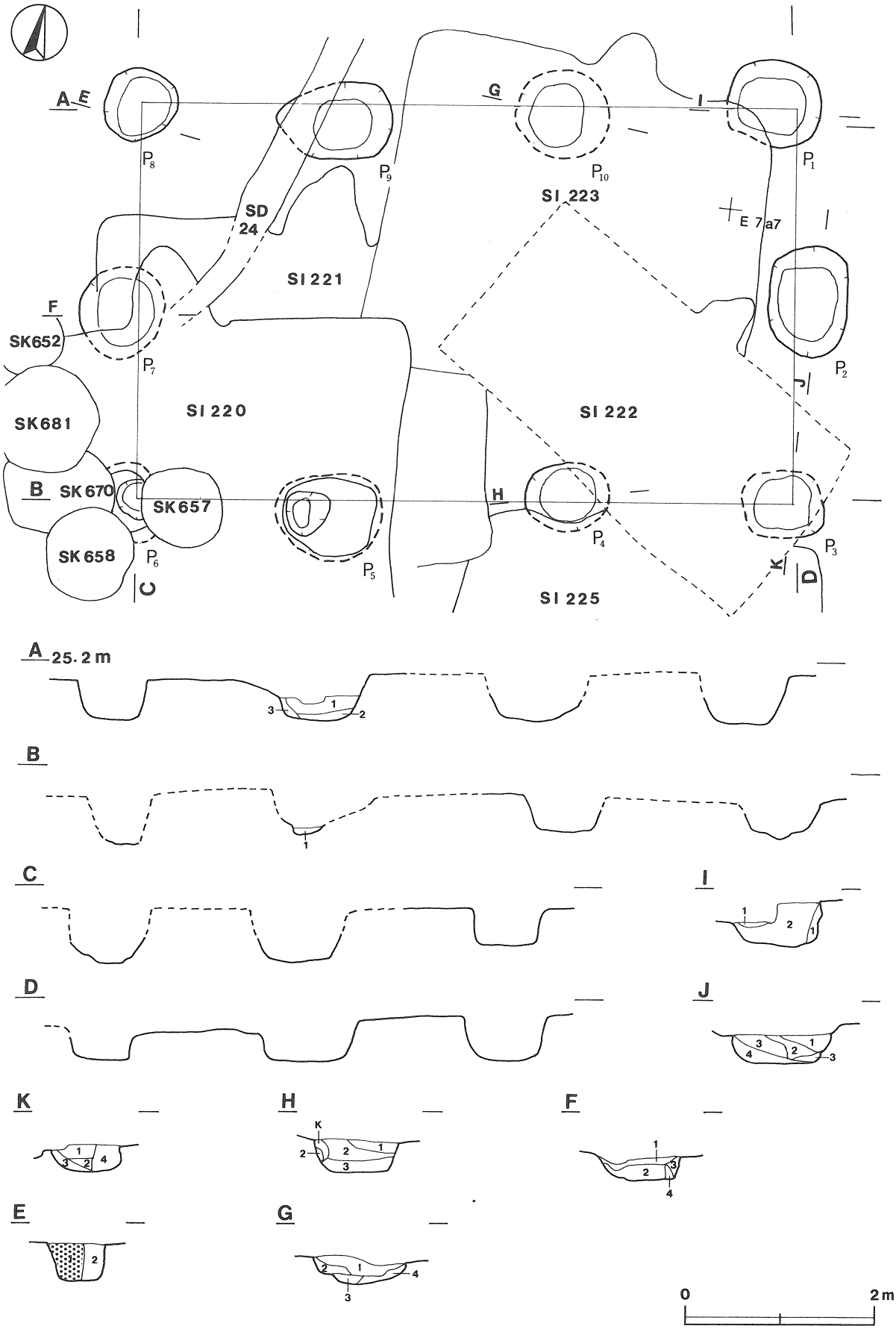
径0.78～1.24m，短径0.68～0.90mの楕円形または円形である。断面形は二段掘り状または逆台形状を呈し，深さは32～59cmである。柱の抜き取り痕はP8で認められた。柱は径22～30cmと推定される。

桁行方向　N－83°－E

覆土　P8の第1層が柱の抜き取り痕で，他の層は埋土である。

土層解説

P1	1	褐　色	ローム小ブロック・粒子中量，焼土粒子微量
	2	暗褐色	ローム小ブロック・粒子・焼土粒子微量
P2	1	暗褐色	ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
	2	暗褐色	ローム小ブロック中量
	3	暗褐色	ローム小ブロック少量
	4	暗褐色	ローム粒子微量
P3	1	暗褐色	ローム中ブロック微量
	2	褐　色	ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
	3	暗褐色	ローム中・小ブロック微量
	4	暗褐色	ローム小ブロック微量

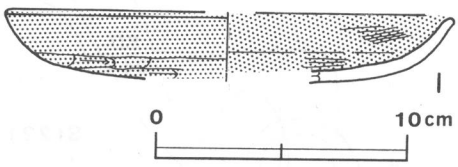


第355図　第79号掘立柱建物跡実測図

P5　1　暗褐色　ローム小ブロック・焼土粒子微量
　　2　褐　色　ローム中ブロック・ローム粒子少量
　　3　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
P5　1　暗褐色　炭化粒子微量
P7　1　褐　色　ローム中ブロック中量，焼土小ブロック少量
　　2　褐　色　ローム中ブロック少量
　　3　明褐色　ローム中ブロック中量
　　4　明褐色　ローム大ブロック多量
P8　1　暗褐色　炭化粒子少量
　　2　暗褐色　ローム小ブロック微量
P9　1　暗褐色　ローム中ブロック・炭化粒子・焼土小ブロック微量
　　2　暗褐色　炭化粒子微量
　　3　暗褐色　ローム粒子微量
P10　1　暗褐色　焼土粒子微量
　　2　褐　色　ローム小ブロック少量
　　3　暗褐色　ローム粒子多量
　　4　暗褐色　ローム粒子微量

遺物　土師器片28点，須恵器片40点が出土している。第356図1の土師器坏はP8中から出土している。

所見　多くの遺構に掘り込まれているため，規模や柱穴の深さ，柱間寸法を判断することが困難であるが，ほぼ規則性が認められる。Ⅲ区では，第60・67・71号掘立柱建物跡と同じ構造で，第68号掘立柱建物跡とは同じ構造ではないが，いずれも桁行方向がほぼ同じである。時期は，重複している遺構と出土土器から，8世紀前葉と推定される。



第356図　第79号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第79号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第356図 1	坏 土師器	A［17.2］ B（2.6）	底部から口縁部の破片。丸底。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位手持ちヘラ削り。口縁部内面から底部内面にかけヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒 にぶい橙色 普通	10% P725 覆土中

第80号掘立柱建物跡（第357・358図）

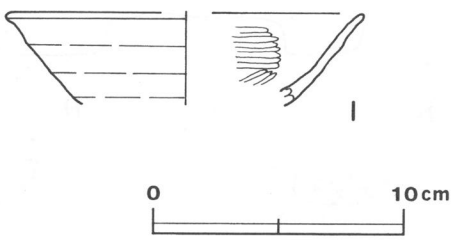
位置　調査Ⅲ区の北部，D7g0区。

重複関係　本跡は，第215・216号住居跡を掘り込んでいることから，本跡が新しい。また，第25号溝に掘り込まれていることから，本跡が古い。第228号住居跡，第635・680号土坑との関係については，切り合いがないことから不明である。

規模　北部が調査区域外のため，調査できたのは桁行（2）間（平均5.90m），梁行2間（平均4.42m）の範囲である。柱間寸法は桁行2.37～3.00m，梁行2.18～2.26mで，面積は約26.08m²である。柱穴は7か所（P1～P7）で，側柱構造の建物跡である。柱穴は，平面形が長径0.87～1.37m，短径0.75～1.07mの楕円形，円形または不整楕円形である。断面形は二段掘り状，逆台形状またはU字状を呈し，深さは40～88cmである。柱の抜き取り痕はP1・P4・P6・P7で認められた。柱は，径18～24cmと推定される。

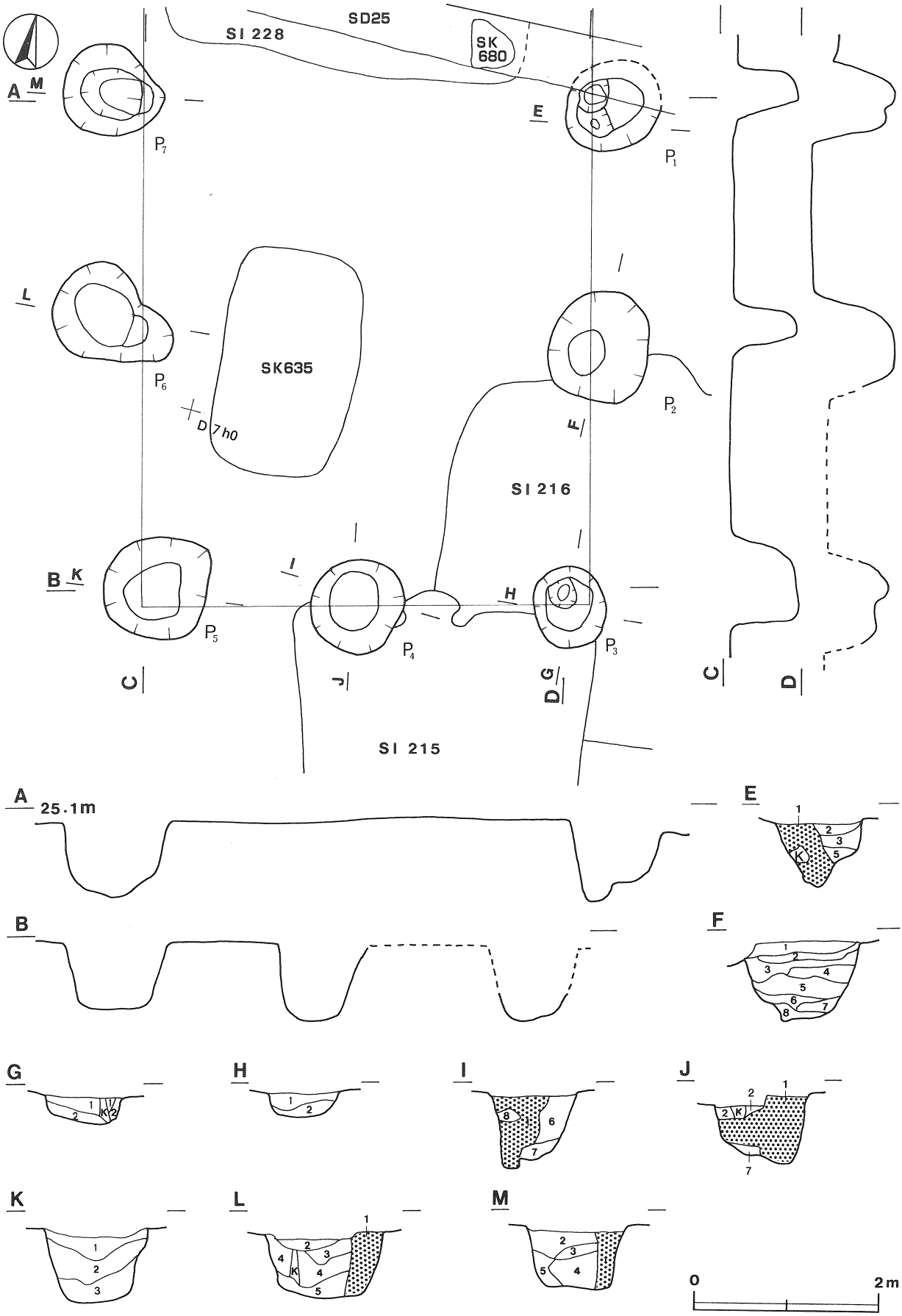
桁行方向　N－11°－W

覆土　P1・P4・P6・P7の第1層は柱の抜き取り痕で，他の層は埋土である。



第357図　第80号掘立柱建物跡出土遺物実測図

土層解説
P1・P4　1　暗褐色　ローム中ブロック微量
P6・P7　2　褐　色　ローム小ブロック中量
　　3　褐　色　ローム中ブロック中量
　　4　褐　色　ローム大ブロック中量
　　5　褐　色　ローム小ブロック少量
　　6　暗褐色　ローム小ブロック微量
　　7　暗褐色　ローム小ブロック・粒子微量
　　8　褐　色　ローム大ブロック・粒子少量
P2　1　暗褐色　ローム粒子微量
　　2　褐　色　ローム小ブロック少量，ローム粒子微量
　　3　暗褐色　ローム大ブロック微量
　　4　褐　色　ローム中・小ブロック少量，ローム粒子微量
　　5　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
　　6　暗褐色　ローム小ブロック微量
　　7　暗褐色　ローム小ブロック少量
　　8　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子微量
P3　1　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子微量
　　2　暗褐色　ローム中ブロック少量，ローム小ブロック・粒子・炭化粒子微量
P5　1　暗褐色　ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
　　2　暗褐色　ローム小ブロック・粒子中量
　　3　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量



第358図　第80号掘立柱建物跡実測図

遺物　土師器片95点，須恵器片50点が出土している。第357図１の土師器坏はＰ4中から出土している。

所見　柱穴の深さ，柱間寸法ともにほぼ規則性があり，規模は大形である。Ⅲ区では同じ桁行方向のものは検出されていないが，第61・65号掘立柱建物跡と桁行方向が近似している。時期は，第215号住居跡が10世紀前葉，第216号住居跡が８世紀後葉と考えられることと出土土器から，10世紀前葉以降と推定される。

第80号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第357図 1	坏 土　師　器	A ［14.0］ B （ 4.6）	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部から底部内面ヘラ磨き。	砂粒 橙色 普通	5％　P726 P4中

（３）土坑

今回の調査では，267基の土坑を確認した。そのうち，時期を奈良・平安時代と特定できる土坑は19基である。ここでは，これら19基の土坑の中で，特に特徴のある土坑や信憑性が高い遺物が出土した土坑11基について，位置・規模などを記載した。他の８基については，土層の解説を中心に，一覧表に記述した。また，時代が不確定な248基の土坑の位置や規模については，一括して一覧表(表10)に記述し，第388～410図に掲載した。

第417号土坑（第359～361図）

位置　調査ⅡＢ区の南部，Ｆ４d4区。

規模と形状　平面形は円形，断面形は上端がややラッパ状に開く擂鉢状で，底面に一段の掘り込みを持つ。底面は丸底である。規模は，上面が径4.20m，底面が径1.10m，深さ2.64mである。底面の掘り込みは径0.60mの円形で，深さは24cm程である。下部の掘り込みは白色粘土層に至っている。確認面から約1.20mの深さの周壁に，５か所の足場ピットのようなくぼみがみられる。

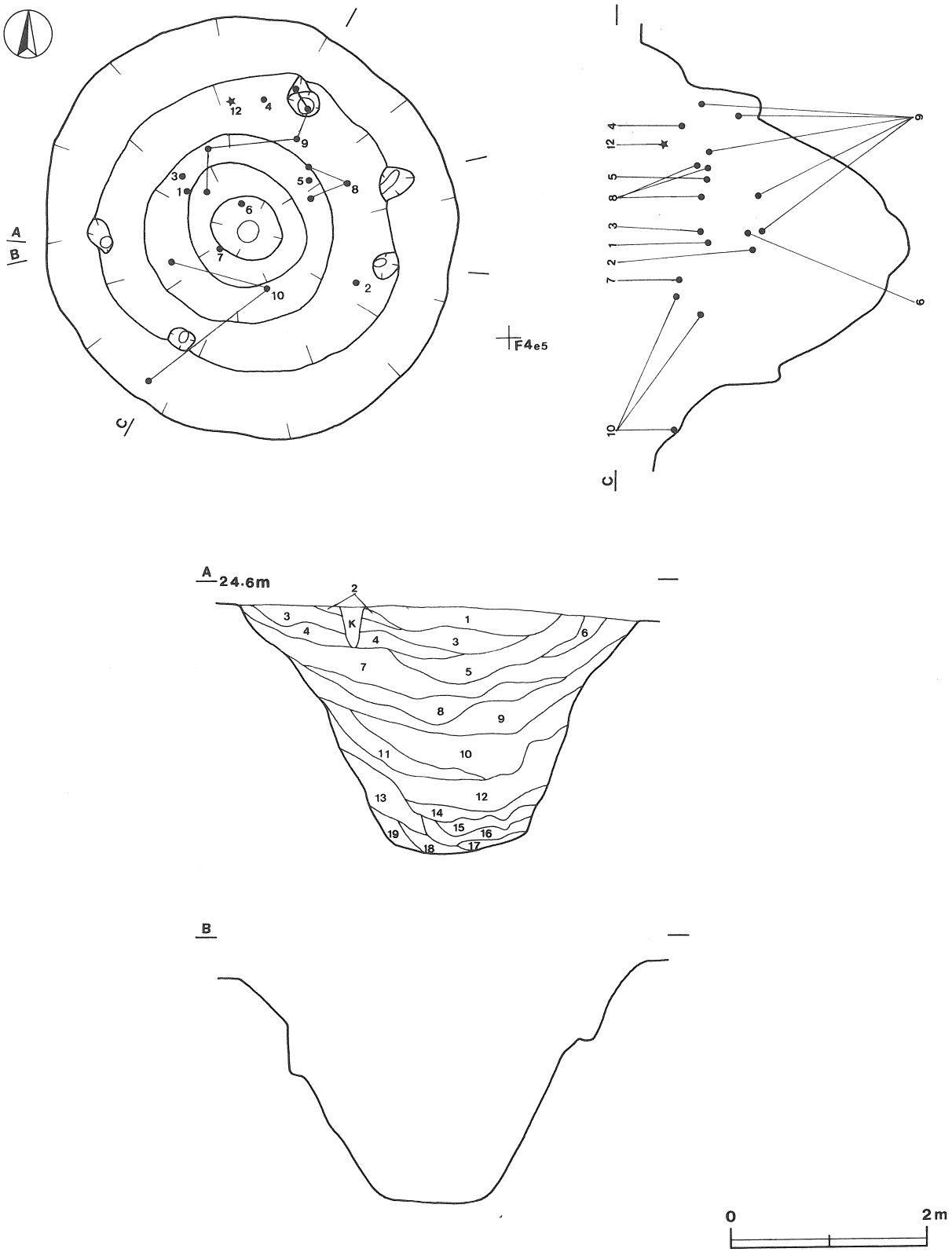
覆土　19層からなる。土器片が多量に出土し，ロームブロック・焼土ブロックを含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

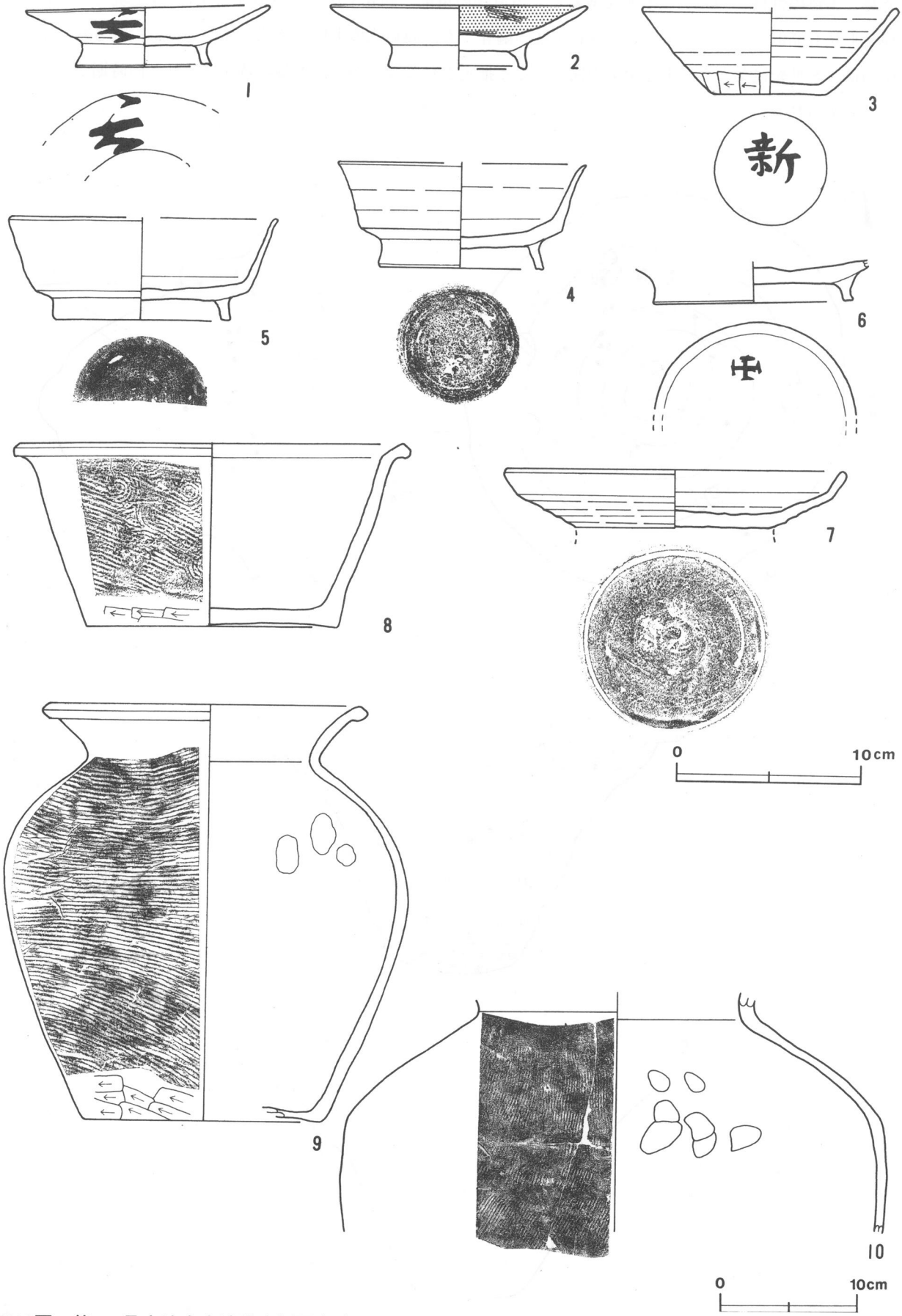
1　暗　褐　色　ローム小ブロック・粒子中量，焼土粒子少量
2　暗　褐　色　ローム小ブロック・粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
4　褐　　色　ローム小ブロック・粒子中量，炭化粒子少量
5　褐　　色　ローム小ブロック中量，炭化粒子少量
6　褐　　色　ローム小ブロック・粒子中量
7　褐　　色　ローム小ブロック・粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
8　暗　褐　色　ローム小ブロック・粒子中量，炭化粒子少量
9　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
10　褐　　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，炭化粒子少量
11　明　褐　色　ローム小ブロック・粒子微量
12　明　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
13　暗　褐　色　ローム小ブロック・粒子中量，ローム中ブロック微量
14　黄　褐　色　ローム大ブロック中量
15　褐　　色　ローム大ブロック多量，ローム小ブロック中量
16　褐　　色　ローム大ブロック多量
17　暗　褐　色　ローム中ブロック中量，粘土中ブロック少量
18　褐　　色　ローム中ブロック多量，粘土中ブロック少量
19　暗　褐　色　ローム中ブロック中量

遺物　土師器片397点，須恵器片480点，金属製品２点（不明鉄製品），陶器細片２点，礫11点が出土している。遺物の多くは，覆土中層から上層にかけて出土している。また，覆土中層から上層にかけて出土した破片が接合したものが２点，覆土下層から上層にかけて出土した破片が接合したものが１点確認されていることから，埋め戻しの過程で遺物の投棄が行われたようである。陶器細片は撹乱により混入したものと思われる。第360図１・２は土師器高台付皿である。１は覆土上層から，２は覆土中層から出土している。３の須恵器坏，４・５の須恵器高台付坏は，覆土上層から出土している。３は底部外面に墨書「新」が認められる。６の須恵器高台付坏は，覆土中層から出土している。７の須恵器盤，８の須恵器鉢は覆土上層から出土している。９の須恵器甕は，覆土中層から出土した破片が接合したものである。10の須恵器甕は，覆土上層から出土した破片が接合したものである。第361図11の丸瓦は覆土中，12の平瓦は覆土上層から出土している。

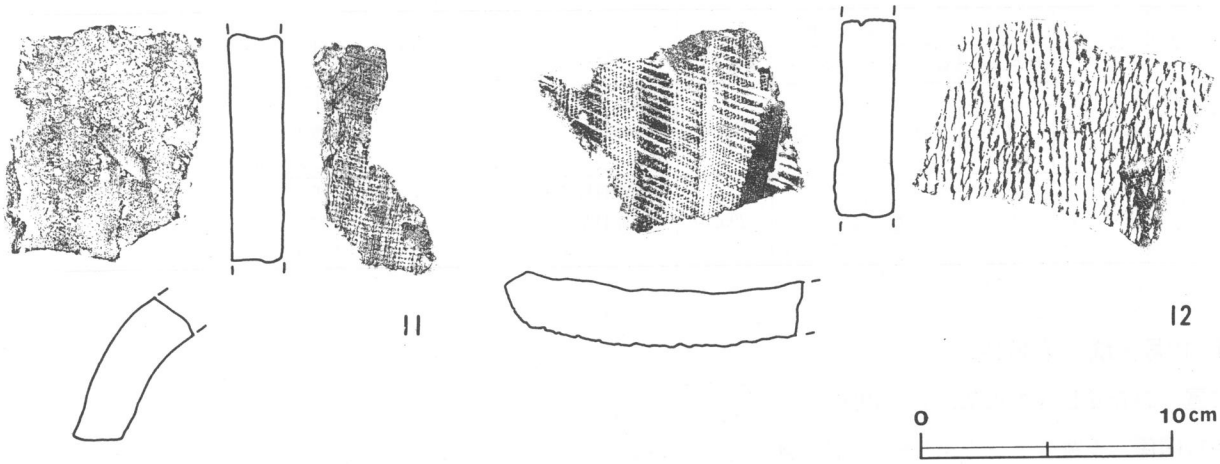
所見　本跡の性格については不明であるが，当遺跡の東部（調査Ⅴ区）に位置する第720号土坑と，柱穴の規模も形状も酷似している。また，平成12年度の調査でも，同形状の土坑が確認されている。投棄された土器の時期は，８世紀後葉から９世紀中葉の間であると推定されることから，本跡の時期はそれと同時期か，それ以前と考えられる。



第359図　第417号土坑実測図



第360図　第417号土坑出土遺物実測図（１）



第361図　第417号土坑出土遺物実測図（２）

第417号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第360図 1	高台付皿 土師器	A 13.2 B 3.3 D 7.3 E 1.2	口縁部一部欠損。外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。高台は「ハ」の字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け，ナデ。	砂粒 雲母 スコリア 小石 橙色 普通	95% P220 PL91 体部外面墨書・ 判読不能 覆土上層
2	高台付皿 土師器	A 14.0 B 3.4 D [7.4] E 1.4	高台部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。高台は「ハ」の字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。底部高台貼り付け，ナデ。内面黒色処理。	砂粒 雲母 スコリア 橙色 普通	40% P221 覆土中層
3	坏 須恵器	A [13.6] B 4.7 C 6.0	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	砂粒 雲母 長石 黄灰色 普通	70% P216 PL91 底部外面墨書「新」 覆土上層
4	高台付坏 須恵器	A [13.4] B 5.7 D 8.8 E 1.2	体部・口縁部一部欠損。体部は下位に稜を有し，外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。高台は「ハ」の字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け，ナデ。	砂粒 長石 黄灰色 普通	70% P218 PL91 覆土上層
5	高台付坏 須恵器	A [14.4] B 5.5 D 9.5 E 1.3	高台部から口縁部にかけての破片。体部は下位に稜を有し，外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。高台は「ハ」の字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け，ナデ。	砂粒 長石 灰色 普通	40% P219 覆土上層
6	高台付坏 須恵器	B (2.3) D 10.8 E 1.0	高台部から体部にかけての破片。体部は下位に稜を有する。高台は「ハ」の字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け，ナデ。	砂粒 雲母 長石 灰黄色 普通	50% P223 底部外面墨書「田」 覆土中層
7	盤 須恵器	A 18.4 B (3.0)	底部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，屈曲して口縁部にいたる。口縁部は外反する。高台貼り付けの痕跡有り。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け，ナデ。	砂粒 雲母 長石 石英 黄灰色 普通	60% P222 PL91 覆土上層
8	小形鉢 須恵器	A 20.7 B 9.9 C 13.4	底部・体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して直線的に立ち上がり，頸部で強く屈曲して口縁部外方へ短く開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面同心円状叩き後，斜位の平行叩き。体部下端横位のヘラ削り。内面横ナデ。底部ナデ。	雲母 長石 石英 灰色 普通	80% P224 覆土上層
9	甕 須恵器	A 22.0 B 29.5 C [16.6]	底部・体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部で強く屈曲する。口縁部は外反し，折り返されている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面中位以上横位の平行叩き。下位横位のヘラ削り。内面ナデ。底部ナデ。	砂粒 雲母 長石 石英 灰色 普通	80% P225 PL91 覆土中層
10	甕 須恵器	B (16.9)	体部から頸部にかけての破片。体部は内彎し，頸部で屈曲する。	体部外面縦位の平行叩き。内面横ナデ。当て具痕。	雲母 長石 石英 灰色 普通	10% P226 覆土上層

図版番号	器種	計測値				器形・手法の特徴	備考(台帳番号,出土位置,色調など)
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第361図 11	丸瓦	(9.6)	(4.9)	2.2	(179.0)	凸面ヘラ削り。 凹面布目痕。	T7 PL110 覆土中 にぶい黄橙色
12	平瓦	(9.6)	(12.8)	2.4	(295.0)	凸面縄目叩き。 凹面布目痕。	T8 PL111 覆土上層 褐灰色

第419号土坑（第362図）

位置　調査ⅡB区の東部，E4i9区。

重複関係　本跡の上部を第108号住居が掘り込んでいる。

規模と形状　上端は長径1.36m，短径0.42mの隅丸長方形で，深さ0.72mである。

長径方向　N－3°－W

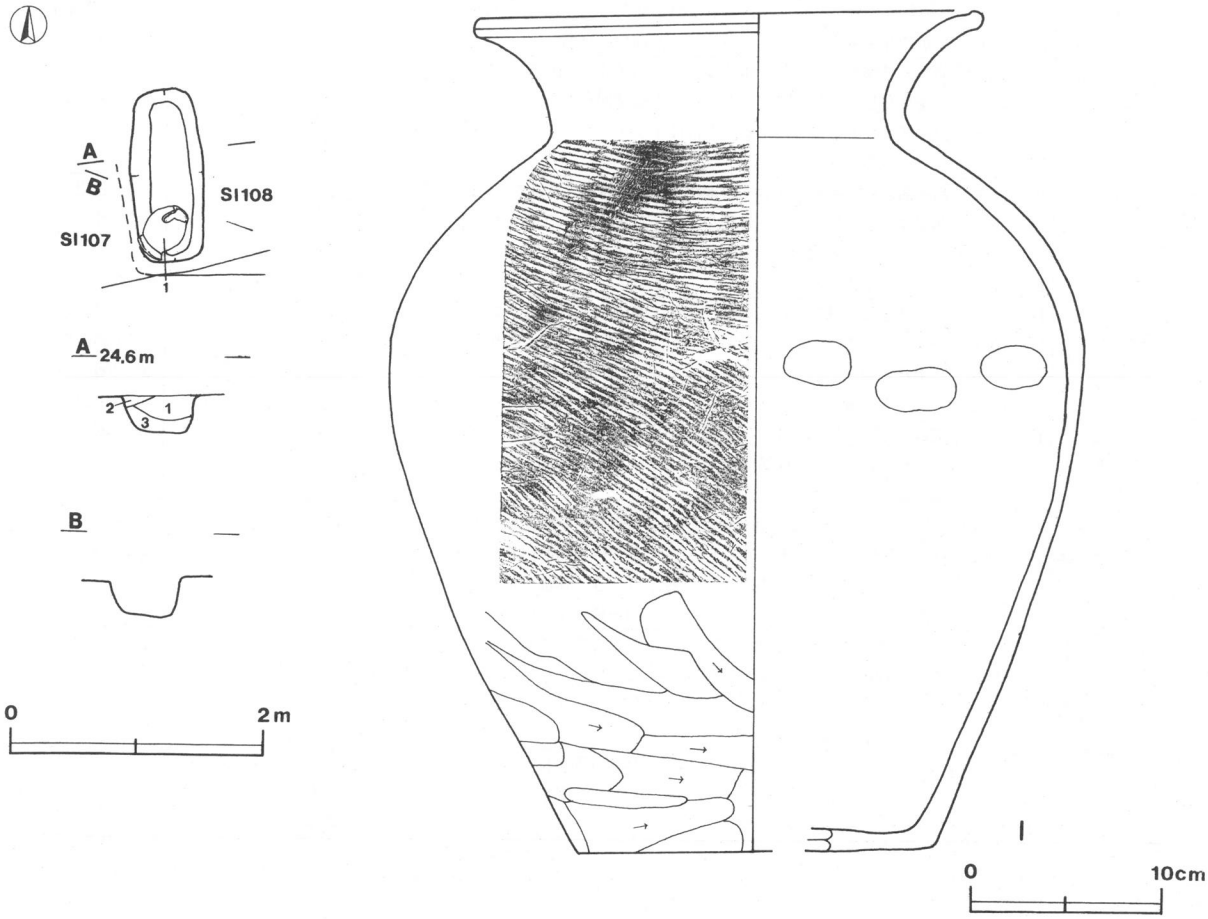
覆土　3層からなる。ロームブロック・焼土粒子を含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量
2　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗赤褐色　ロームブロック多量

遺物　第362図1の須恵器甕1点が出土している。1は，本跡の南部に横たわるように出土している。

所見　時期は，重複関係と出土土器から，8世紀中葉と推定される。



第362図　第419号土坑・出土遺物実測図

第419号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第362図 1	甕 須　恵　器	A　26.0 B　43.6 C　18.4	底部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部で強く屈曲する。口縁部は外反し，上下に突出させている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面中位以上横位の平行叩き。下位横位のヘラ削り。内面横ナデ。当て具痕。底部ナデ。	砂粒　雲母　長石 石英 灰オリーブ色 普通	85%　P228　PL91 覆土下層

第443号土坑（第363・364図）

位置　調査ⅡＢ区の北部，Ｅ３c9区。

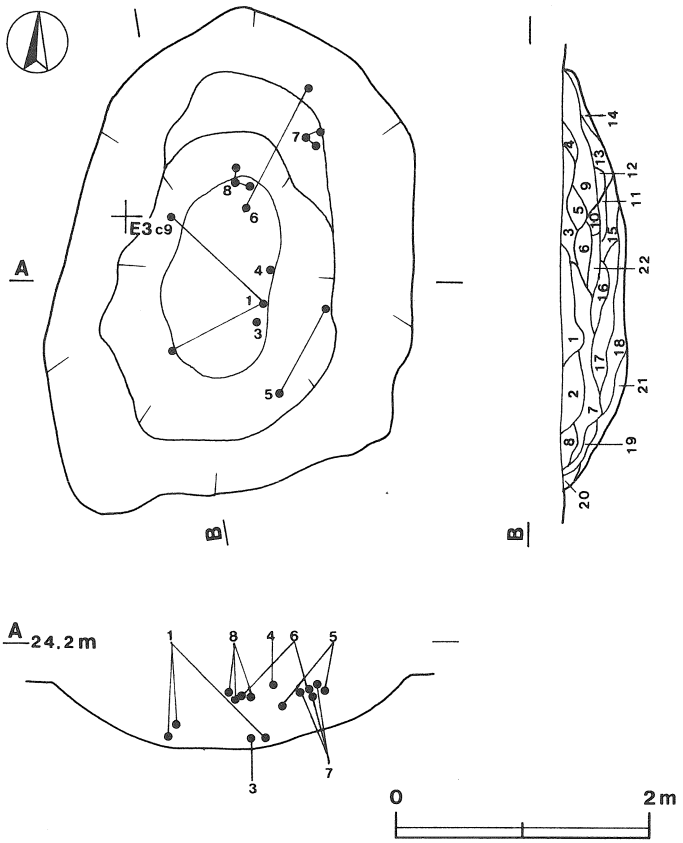
規模と形状　上端は長径4.08m，短径2.78mの不整楕円形，下端は長径1.45m，短径0.88mの不整楕円形で，深さ0.52mである。

長径方向　Ｎ－22°－Ｅ

覆土　22層からなる。ロームブロック・焼土ブロックを含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

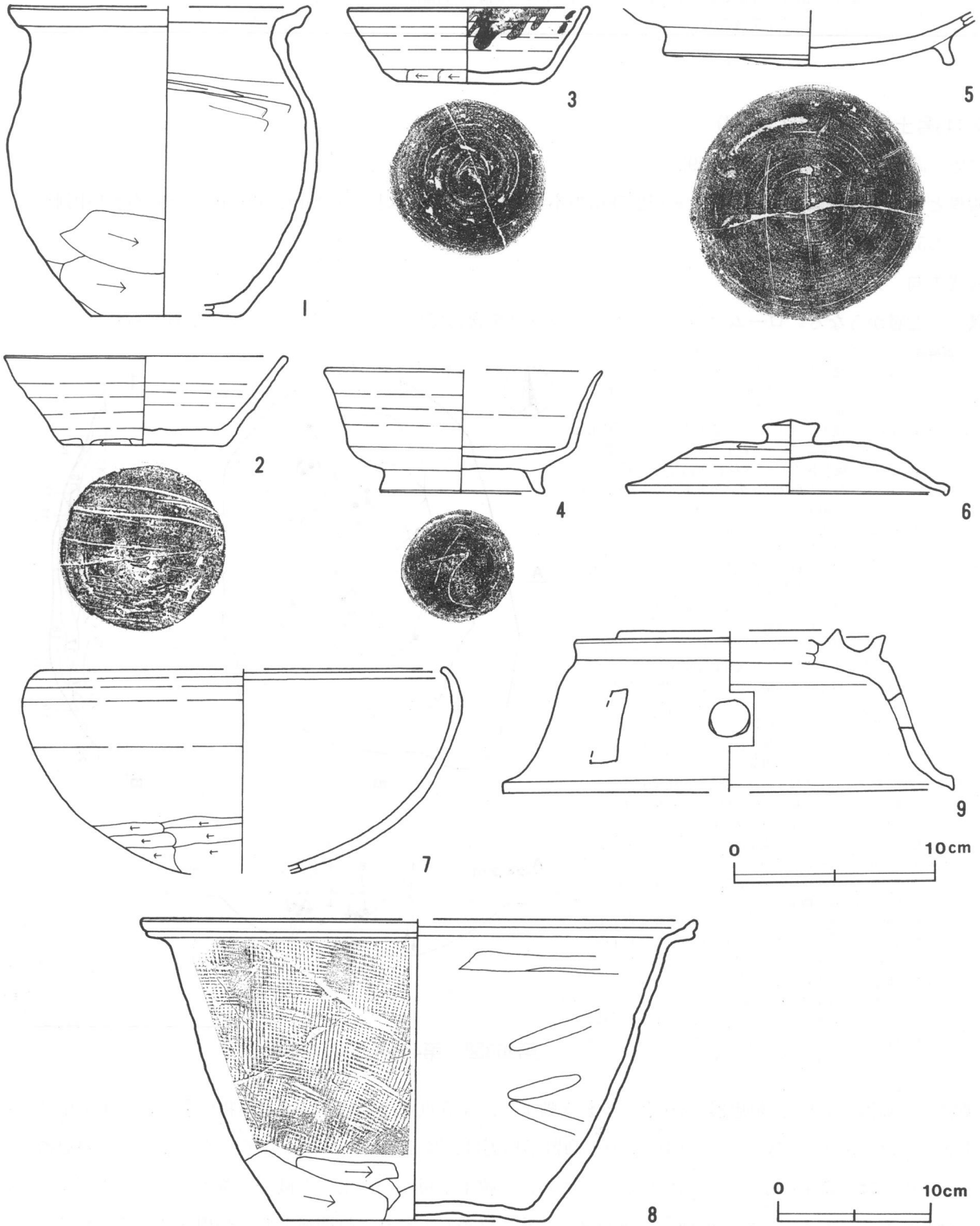
1	暗赤褐色	焼土小ブロック・粒子中量，ローム中ブロック・粒子・焼土中ブロック少量，粘土粒子微量
2	暗赤褐色	焼土小ブロック・粒子中量，炭化物・粘土粒子少量，ローム粒子・焼土中ブロック微量
3	暗赤褐色	焼土小ブロック・粒子中量，ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子微量
4	暗赤褐色	焼土小ブロック・粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
5	極暗褐色	ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量
6	暗赤褐色	焼土小ブロック・粒子中量，粘土粒子少量，炭化粒子微量
7	暗赤褐色	焼土小ブロック・粒子中量，ローム粒子・焼土中ブロック・炭化粒子微量
8	暗赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量，焼土中ブロック・炭化物微量
9	暗 褐 色	ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック微量
10	暗 褐 色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
11	暗 褐 色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
12	暗 褐 色	ローム中ブロック・粒子少量
13	褐　　色	ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
14	褐　　色	ローム粒子中量
15	黒 褐 色	炭化粒子・粘土粒子少量，焼土小ブロック・粒子微量
16	暗赤褐色	焼土小ブロック・粒子中量，粘土粒子少量
17	暗赤褐色	焼土小ブロック・粒子中量，粘土粒子微量
18	暗赤褐色	焼土粒子・粘土粒子・砂粒多量
19	暗赤褐色	焼土粒子多量，焼土小ブロック少量
20	赤 褐 色	焼土粒子少量
21	暗赤褐色	焼土粒子少量，ローム粒子・粘土粒子微量
22	暗 褐 色	粘土粒子・砂粒多量，焼土小ブロック・粒子中量，炭化粒子少量



第363図　第443号土坑実測図

遺物　土師器片514点，須恵器片486点，土製支脚１点，礫５点が出土している。遺物の多くは，覆土中層から上層にかけて出土している。第364図１の土師器小形甕は，覆土下層から出土している。２～９は須恵器である。２の坏は，覆土中から出土している。３の坏は，覆土下層から出土した破片と覆土中から出土した破片が接合したものである。口縁部内面に，煤がタール状に付着しており，灯明皿としての用途が考えられる。４の高台付坏は，覆土上層から出土している。底部外面に，焼成後の刻書「九」が認められる。５の盤は，覆土中層と上層から出土した破片が接合したものである。６の蓋，７・８の鉢は，覆土上層から出土している。９の円面硯は，覆土中から出土している。

所見　本跡は，遺物の投棄が行われたものと考えられる。時期は，投棄された土器が，９世紀中葉と推定されることから，本跡の時期はそれと同時期かそれ以前と推定される。



第364図　第443号土坑出土遺物実測図

第443号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第364図 1	小形甕 土師器	A [14.6] B 15.3 C [7.2]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部で強く屈曲する。口縁部は外反し，中位に明瞭な稜を持つ。端部は外上方へつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上半部ナデ。下半部横位のヘラ削り。内面横ナデ。一部横位のヘラナデ。	砂粒　雲母　長石 石英 橙色 普通	50%　P357 覆土下層
2	坏 須恵器	A 13.8 B 4.5 C 7.8	体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部外面下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	雲母　長石 黄灰色 普通	95%　P348　PL92 覆土中
3	坏 須恵器	A 11.9 B 3.8 C 7.2	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	砂粒　雲母 灰黄色 普通	95%　P349　PL92 油煙付着 覆土下層
4	高台付坏 須恵器	A [16.4] B 6.0 D 8.0 E 1.2	高台部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。高台は「ハ」の字状に開く。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け，ナデ。	砂粒　長石 黄灰色 普通	65%　P351 底部外面刻書「九」 覆土上層
5	盤 須恵器	B (2.7) D 14.2 E 1.4	高台部から底部にかけての破片。高台は「ハ」の字状に開く。	底部回転ヘラ削りの後，高台貼り付け，ナデ。	砂粒　雲母　長石 石英　スコリア 灰オリーブ色 普通	20%　P352 底部外面刻書 「川」字状 覆土上層～覆土中層
6	蓋 須恵器	A 16.0 B 3.6 F 2.7 G 1.2	口縁部一部欠損。天井部は頂部が平坦で，外周部はなだらかに下降する。口縁部は屈曲し，短く垂下する。つまみは腰高のボタン状。	天井頂部回転ヘラ削り。外周部・口縁部ロクロナデ。ロクロ目は弱い。	砂粒 灰オリーブ色 普通	80%　P354 覆土上層
7	鉢 須恵器	A 20.0 B (10.0)	体部から口縁部の破片。丸底。体部は大きく内彎して立ち上がり，口縁部は内屈して丸く収めている。	口縁部，体部，底部内・外面ロクロナデ。体部中位以下横位のヘラ削りの後ナデ。	砂粒　雲母 灰色 普通	40%　P355　PL92 仏具鉄鉢の模倣 覆土上層
8	鉢 須恵器	A [35.4] B 19.5 C 16.8	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，頸部で強く屈曲して口縁部にいたる。口縁部はつまみ上げられ，棒状工具による凹線を巡らす。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面中位以上格子叩き，下位横位のヘラ削り。内面ナデ。一部横位のヘラナデ。底部ナデ。	砂粒　雲母　長石 小石 黄灰色 普通	50%　P356 覆土上層
9	円面硯 須恵器	A [15.0] B 7.9 C [22.0]	脚部から外堤にかけての破片。外堤は断面が四角形。脚部は内彎気味に立ち上がる。	脚部横ナデ。透かし孔ヘラ削り。	砂粒　雲母 灰色 普通	25%　P358　PL91 覆土中

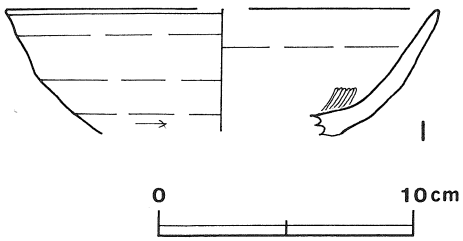
第602号土坑（第365・366図）

位置　調査Ⅲ区の南部，Ｅ７e8区。

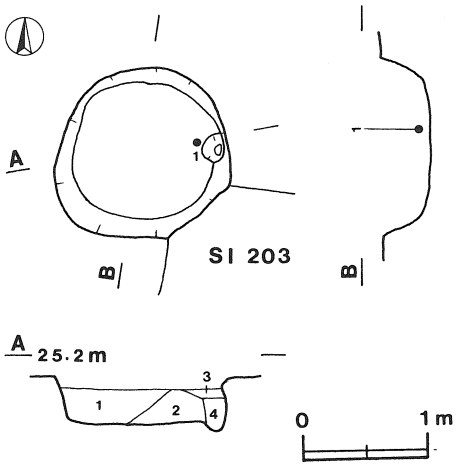
重複関係　本跡が，第203号住居跡を掘り込んでいることから，本跡が新しい。

規模と形状　平面形は径1.35mのほぼ円形で，深さ35cmである。底面は平坦で，壁面は緩やかに外傾して立ち上がる。

覆土　4層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と考えられる。



第365図　第602号土坑出土遺物実測図



第366図　第602号土坑実測図

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子微量
3　黒褐色　炭化粒子少量，ローム粒子微量
4　暗褐色　ローム小ブロック・粒子微量

遺物　土師器片41点，須恵器片14点が出土している。第365図１の土師器高台付坏が東壁寄りの第２層下部から出土している。

所見　時期は，重複する第203号住居跡の時期と出土土器から，９世紀中葉と推定される。性格については不明である。

第602号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第365図 1	高台付坏 土　師　器	A ［16.9］ B （ 5.0）	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がり，中位に不明瞭な稜を持つ。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。体部から底部内面ヘラ磨き。	スコリア　砂粒 にぶい黄橙色 普通	10%　P728 覆土下層

第606号土坑（第367・368図）

位置　調査Ⅲ区の南部，Ｅ７e0区。

重複関係　本跡が，第202号住居跡と第64号掘立柱建物跡を掘り込んでいることから，本跡が新しい。

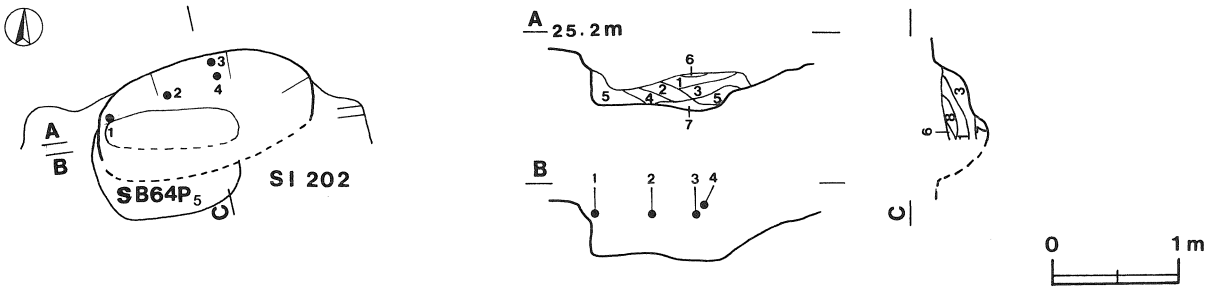
規模と形状　平面形は長径1.75m，短径0.90mの楕円形で，深さ44cmである。底面はやや凹凸で，壁面は緩やかに外傾して立ち上がる。

長径方向　Ｎ－70°－Ｗ

覆土　８層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　黒褐色　炭化物・焼土大ブロック多量
2　黒褐色　炭化物多量，ローム小ブロック少量
3　黒褐色　炭化物多量，ローム粒子少量
4　褐　色　ローム中ブロック中量
5　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
6　黒褐色　炭化粒子多量，炭化粒子・焼土小ブロック少量，焼土中ブロック・焼土粒子微量
7　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子微量
8　にぶい赤褐色　焼土中・小ブロック中量，炭化粒子・焼土大ブロック・焼土粒子少量，ローム粒子微量



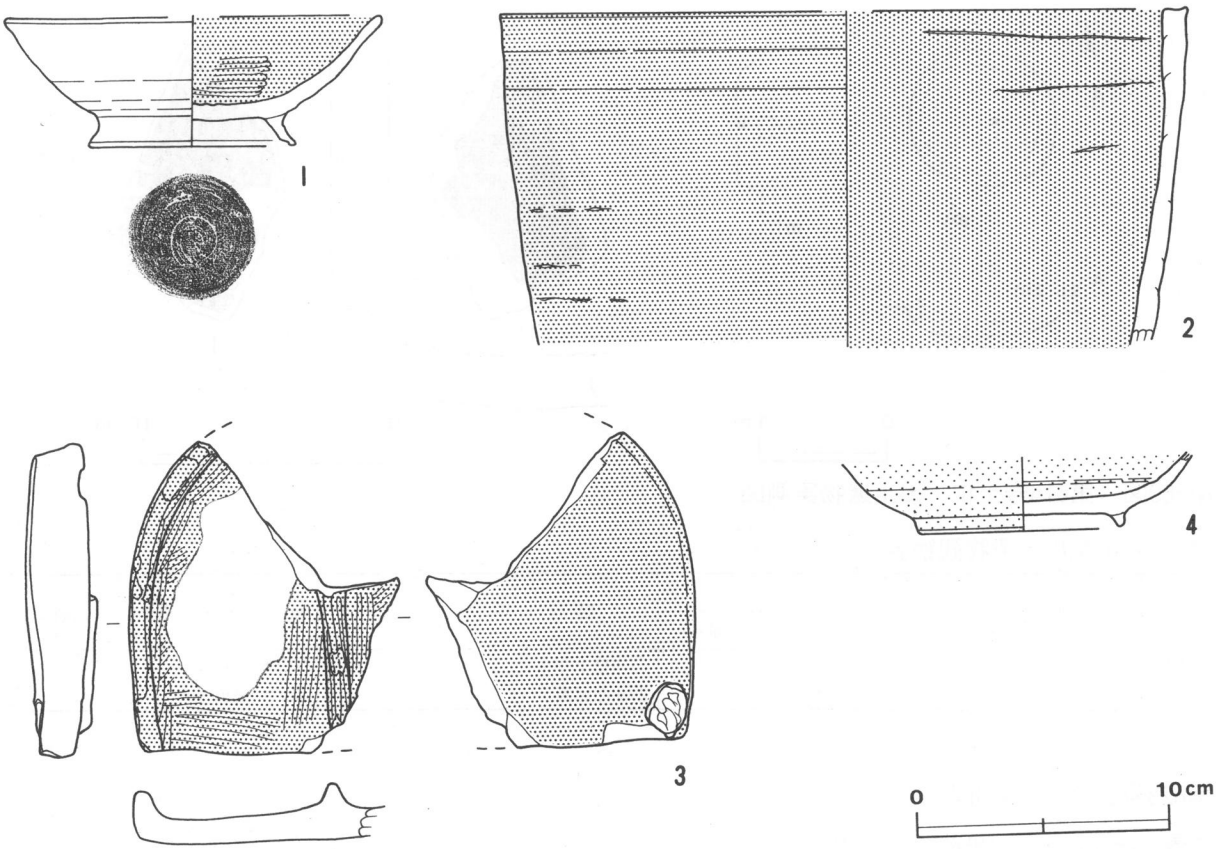
第367図　第606号土坑実測図

遺物　土師器片50点，須恵器片10点，緑釉陶器片１点が出土している。第368図１の土師器高台付坏が西壁寄りの覆土上層から，２の土師器鉢，３の土師器風字硯，４の緑釉陶器稜椀は北壁寄りの覆土上層からそれぞれ出土している。４の緑釉陶器稜椀は猿投窯産（黒笹90号窯式）と考えられ，後世の攪乱による混入と思われる。

所見　時期は，重複する住居跡の時期と出土土器から，９世紀中葉と推定される。性格については不明である。

第606号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第368図 1	高台付坏 土　師　器	A ［14.6］ B　5.1 D　8.1 E　1.2	高台部から口縁部の破片。高台は長く，「ハ」の字状に開く。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がり，外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。体部から底部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け，ロクロナデ。内面黒色処理。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	50%　P729 覆土上層 (西壁寄り)
2	鉢 土　師　器	A ［27.0］ B （13.2）	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけて直立する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。内・外面輪積み痕。内面黒色処理。	石英　砂粒 暗灰黄色 普通	10%　P730 覆土上層 (北東部,北壁寄り)



第368図　第606号土坑出土遺物実測図

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第368図 3	風字硯 土師器	縦（12.2） 横（10.6） 高さ(2.8)	硯面部の破片。硯首にかけ縁帯が巡り，中央に内堤を設ける。	硯面部内・外面ナデ。縁体部内面から内堤にかけヘラ磨き。内・外面黒色処理	雲母　砂粒 にぶい黄橙色 普通	40%　P731　PL92 海部から陸部中央に使用痕。 覆土上層(北壁寄り)
4	稜　椀 緑釉陶器	B（ 2.9） D　8.0 E　0.6	高台部から体部の破片。高台は三角形で短く，「ハ」の字状に開く。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がる。外面中位に明瞭な稜を持ち，内面中位に沈線を巡らす。	体部内・外面ロクロナデ，内面から底部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け，ロクロナデ。内外面施釉，刷毛塗り。	砂粒 にぶい黄橙色 釉　オリーブ灰色 良好	30%　P732　PL92 覆土上層 (北壁寄り) 猿投窯産 (黒笹90号窯式)

第615号土坑（第369図）

位置　調査Ⅲ区の西部，Ｅ７d5区。

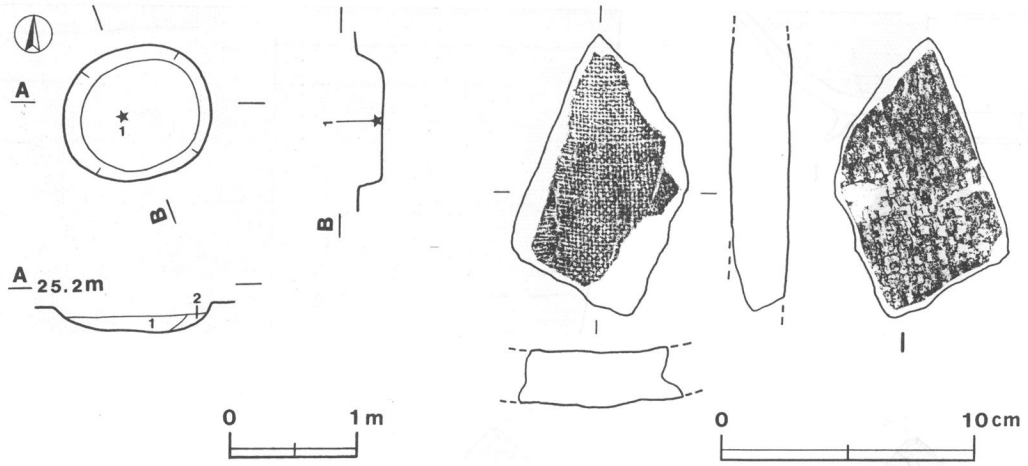
規模と形状　平面形は長径1.18m，短径1.08mの円形で，深さ23cmである。底面は平坦で，壁面は外傾して立ち上がる。

覆土　２層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子微量
2　暗褐色　ローム中・小ブロック少量

遺物　土師器片17点，須恵器片５点，瓦１点（平瓦）が出土している。第369図１の平瓦は中央部の第１層下部から出土している。

所見　時期は，出土土器から，９世紀と推定される。性格については不明である。



第369図　第615号土坑・出土遺物実測図

第615号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計　測　値				器形・手法の特徴	備考(台帳番号,出土位置,色調など)
		長さ(cm)	幅　(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第369図 1	平　瓦	(10.9)	7.0	2.4	148.6	凸面格子叩き。 凹面布目痕。	T108　PL113 にぶい褐色

第623号土坑（第370図）

位置　調査Ⅲ区の中央部，Ｄ８ｊ1区。

重複関係　本跡が，第212号住居跡を掘り込んでいることから，本跡が新しい。

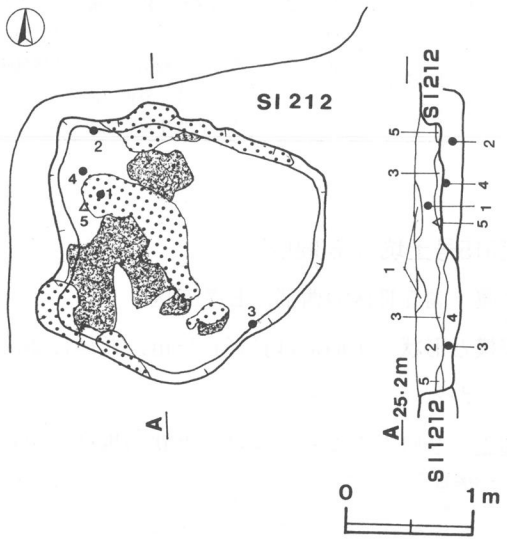
規模と形状　平面形は長径4.60m，短径4.08mの不定形で，深さ18～22cmである。底面は凹凸で，壁面は外傾して立ち上がる。西部を中心に焼土と骨粉まじりの灰が多量に確認されている。

長径方向　Ｎ－51°－Ｗ

覆土　５層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

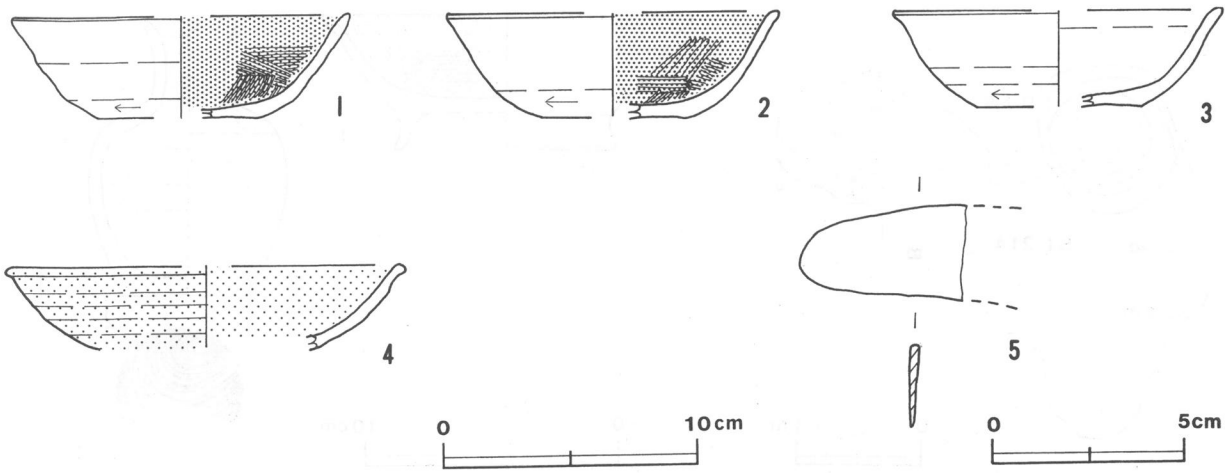
1　褐　　色　ローム中ブロック・粘土粒子中量
2　褐　　色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量
3　褐　　色　ローム粒子・炭化粒子微量
4　暗 褐 色　灰多量，焼土中ブロック中量
5　明赤褐色　焼土大ブロック多量



第370図　第623号土坑実測図

遺物　土師器片110点，須恵器片21点，灰釉陶器片６点，土製品１点（支脚），金属製品１点（手鎌），骨粉が出土している。第371図１の土師器坏は西壁寄りの覆土上層から，２の土師器坏は北壁寄りの，３の土師器坏は東壁寄りの，４の灰釉陶器椀と５の手鎌は西壁寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。出土している灰釉陶器は椀１点，皿２点，長頸瓶３点で，すべて猿投窯産（黒笹14・90号窯式）のものと考えられる。

所見　時期は，重複する住居跡の時期と出土土器から，10世紀前葉と推定される。第212号住居跡との時期差は少なく，底面で直接火を燃やしていないことから，住居埋没後に掘り込み焼土や灰を投棄したと考えられる。骨粉についての詳細は不明である。



第371図　第623号土坑出土遺物実測図

第623号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第371図 1	坏 土師器	A [13.2] B 4.0 C [6.4]	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がり，わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。体部から底部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒 にぶい橙色 普通	20% P733 覆土上層 (西壁寄り)
2	坏 土師器	A [12.8] B 4.1 C [5.6]	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がり，わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。体部から底部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒 にぶい橙色 普通	20% P734 覆土下層 (北壁寄り)
3	坏 須恵器	A [12.8] B 3.8 C [6.2]	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がり，外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り。	砂粒　スコリア にぶい橙色 普通	20% P735 覆土下層 (東壁寄り)
4	椀 灰釉陶器	A [15.2] B (3.2)	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がり，外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ，内外面施釉，刷毛塗り。	砂粒 灰色 釉　灰オリーブ色 良好	10% P621 覆土下層 (西壁寄り) 猿投窯産 (黒笹90号窯式)

図版番号	器種	計測値				器形・手法の特徴	備考(台帳番号,出土位置,色調など)
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第371図5	手鎌	(4.3)	(2.6)	0.2	(4.98)	覆土下層(西壁寄り)	M97 PL104 鋒先部

第631号土坑（第372図）

位置　調査Ⅲ区の中央部，D７j7区。

重複関係　本跡が，第214号住居跡を掘り込んでいることから，本跡が新しい。

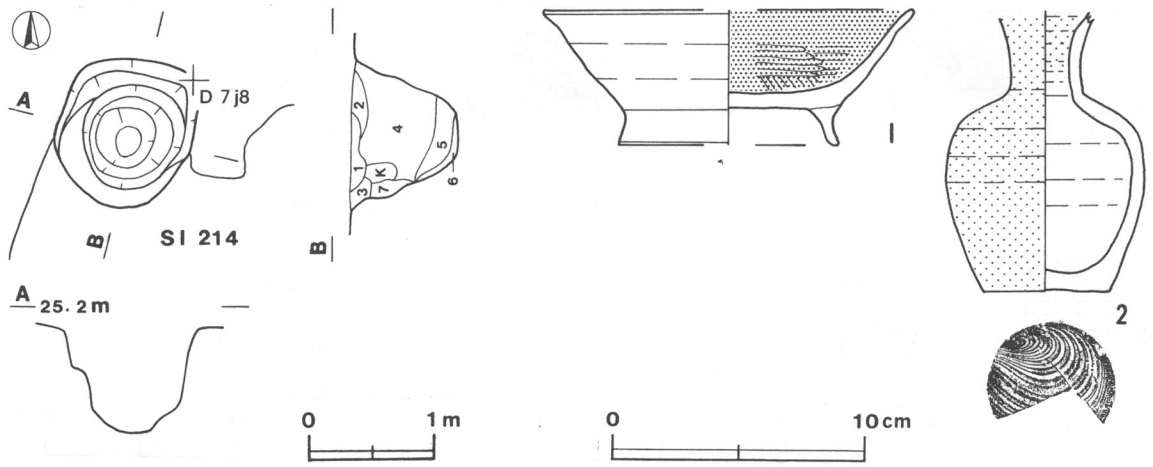
規模と形状　平面形は長径1.20m，短径1.03mの楕円形で，深さ84cmである。底面は皿状で，壁面は外傾して立ち上がる。

長径方向　N－8°－E

覆土　7層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　にぶい褐色　ローム中ブロック中量
2　褐　色　ローム小ブロック少量
3　褐　色　ローム中ブロック少量
4　暗褐色　ローム小ブロック中量
5　暗褐色　ローム小ブロック少量
6　明褐色　ローム中ブロック少量
7　暗褐色　ローム中ブロック少量



第372図　第631号土坑・出土遺物実測図

遺物　土師器片51点，須恵器片18点，灰釉陶器片１点が出土している。第372図１の土師器高台付坏は覆土中から，２の灰釉陶器小瓶は覆土下層からそれぞれ出土している。２の灰釉陶器小瓶は猿投窯産（黒笹90号窯式）と考えられる。

所見　時期は，重複する住居跡の時期と出土土器から，10世紀前葉と推定される。第214号住居跡との時期差は少ないと考えられる。性格については不明である。

第631号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第372図 1	高台付坏 土　師　器	A［14.4］ B　5.3 D［8.6］ E　1.4	高台部から口縁部の破片。高台は長く，「ハ」の字状に開く。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がり，外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部から底部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け，ロクロナデ。内面黒色処理。	長石　石英　雲母 砂粒 にぶい橙色 普通	40%　P737 覆土中
2	小　　瓶 灰釉陶器	B（11.0） C　5.1	底部から体部の破片。平底。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がり，上位に最大径を有する。口縁部は直立した後，徐々に外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。体部外面一部施釉，刷毛塗り。	スコリア　砂粒 灰白色 釉　オリーブ灰色 良好	30%　P738　PL92 覆土下層 猿投窯産 (黒笹90号窯式)

第633号土坑（第373図）

位置　調査Ⅲ区の西部，Ｅ７c7区。

重複関係　本跡が，第224号住居跡を掘り込んでいることから，本跡が新しい。

規模と形状　平面形は長径1.68m，短径1.22mの楕円形で，深さ46cmである。底面は皿状で，壁面は外傾して立ち上がる。

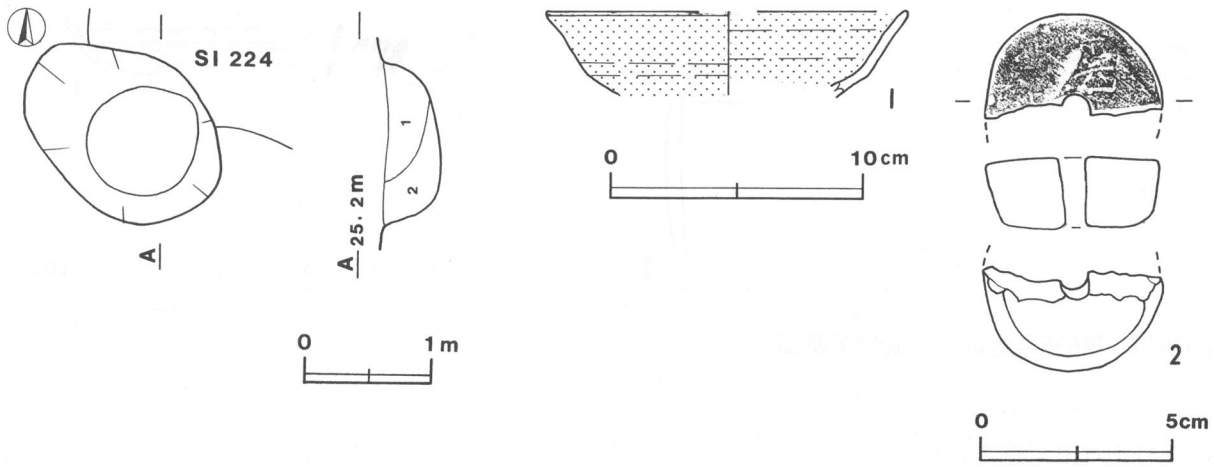
長径方向　N－59°－W

覆土　２層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗 褐 色　焼土中ブロック・焼土粒子・灰少量　　2　明 褐 色　ローム中ブロック中量

遺物　土師器片21点，須恵器片25点，緑釉陶器片１点，土製品１点（紡錘車）が出土している。第373図１の緑釉陶器稜椀と２の紡錘車は覆土中からそれぞれ出土している。１の緑釉陶器稜椀は猿投窯産（黒笹90号窯式）と考えられる。

所見　時期は，重複する住居跡の時期と出土土器から，９世紀後葉と推定される。性格については不明である。



第373図　第633号土坑・出土遺物実測図

第633号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第373図 1	稜　　椀 緑釉陶器	A［14.4］ B（3.3）	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がり，外反する。下位に明瞭な稜を持つ。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。内外面施釉，刷毛塗り。	砂粒 灰白色 釉　オリーブ黄色 良好	5％　P739　PL92 覆土中 猿投窯産 (黒笹90号窯式)

図版番号	種　別	計　測　値				出　土　地　点	備　　考
		径　(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第373図2	土製紡錘車	4.9	2.0	0.8	25.3	覆土中	DP108　PL98　上面刻書・判読不能

第635号土坑（第374図）

位置　調査Ⅲ区の北部，D7g0区。

重複関係　第80号掘立柱建物跡と重複しているが，切り合いがないことから，新旧関係は不明である。

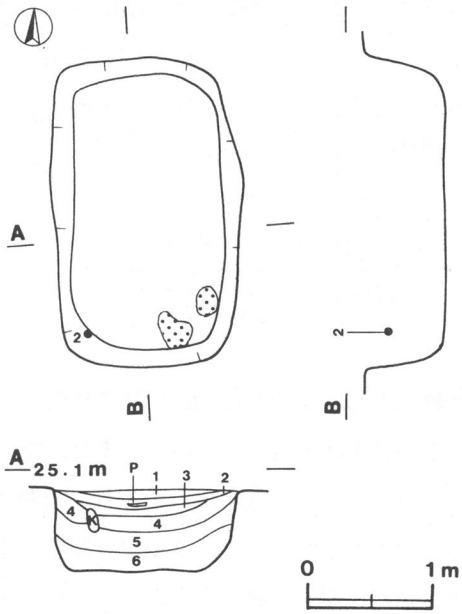
規模と形状　平面形は長軸2.47m，短軸1.54mの楕円形で，深さ65cmである。底面は平坦で，壁面は外傾して立ち上がる。南東コーナー部に焼土塊が確認されている。

長径方向　N－3°－W

覆土　6層からなり，焼土を含む堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

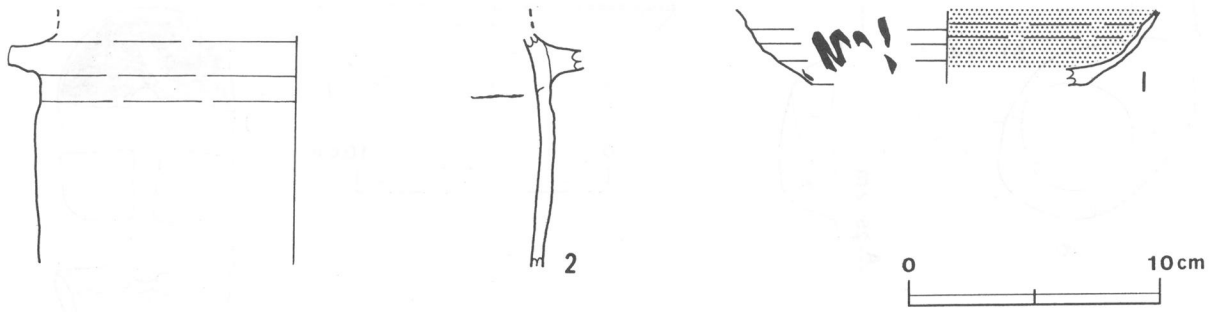
1　暗赤褐色　炭化粒子・焼土粒子微量
2　暗赤褐色　焼土粒子少量，炭化粒子・焼土小ブロック微量
3　暗赤褐色　焼土粒子少量，炭化粒子微量
4　暗赤褐色　炭化粒子少量，焼土粒子微量
5　暗 褐 色　焼土粒子微量
6　暗 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子微量



第374図　第635号土坑実測図

遺物　土師器片159点，須恵器片69点が出土している。遺物は，南部に集中して出土している。第375図1の土師器坏は覆土中から，2の土師器羽釜は南西コーナー部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から，9世紀後葉と推定される。性格については不明な点が多いが，土器や焼土を投棄するために使用されたと考えられる。



第375図　第635号土坑出土遺物実測図

第635号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第375図 1	坏 土師器	B（2.9） C［10.9］	底部から体部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部から底部内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	雲母　砂粒 にぶい橙色 普通	10%　P740　PL92 体部外面墨書・判読不能 覆土中
2	羽　釜 土師器	B（9.0）	体部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり，上位で板状の鍔が外方に延びる。	体部内・外面ロクロナデ，内面輪積み痕。鍔貼り付け。	石英　雲母　砂粒 橙色 普通	5%　P741 覆土中層 (南西コーナー部)

第720号土坑（第376・377図）

位置　調査Ⅴ区の西部，Ｆ９c8区。

規模と形状　平面形は円形，断面形は上端がややラッパ状に開く擂鉢状で，底面に一段の掘り込みを持つ。底面は平坦である。規模は上面径4.08～4,42m，底面径2.20m，深さ2.40mである。底面の掘り込みは径1.18mの円形で，深さは59cmである。下部の掘り込みは白色粘土層に至っている。

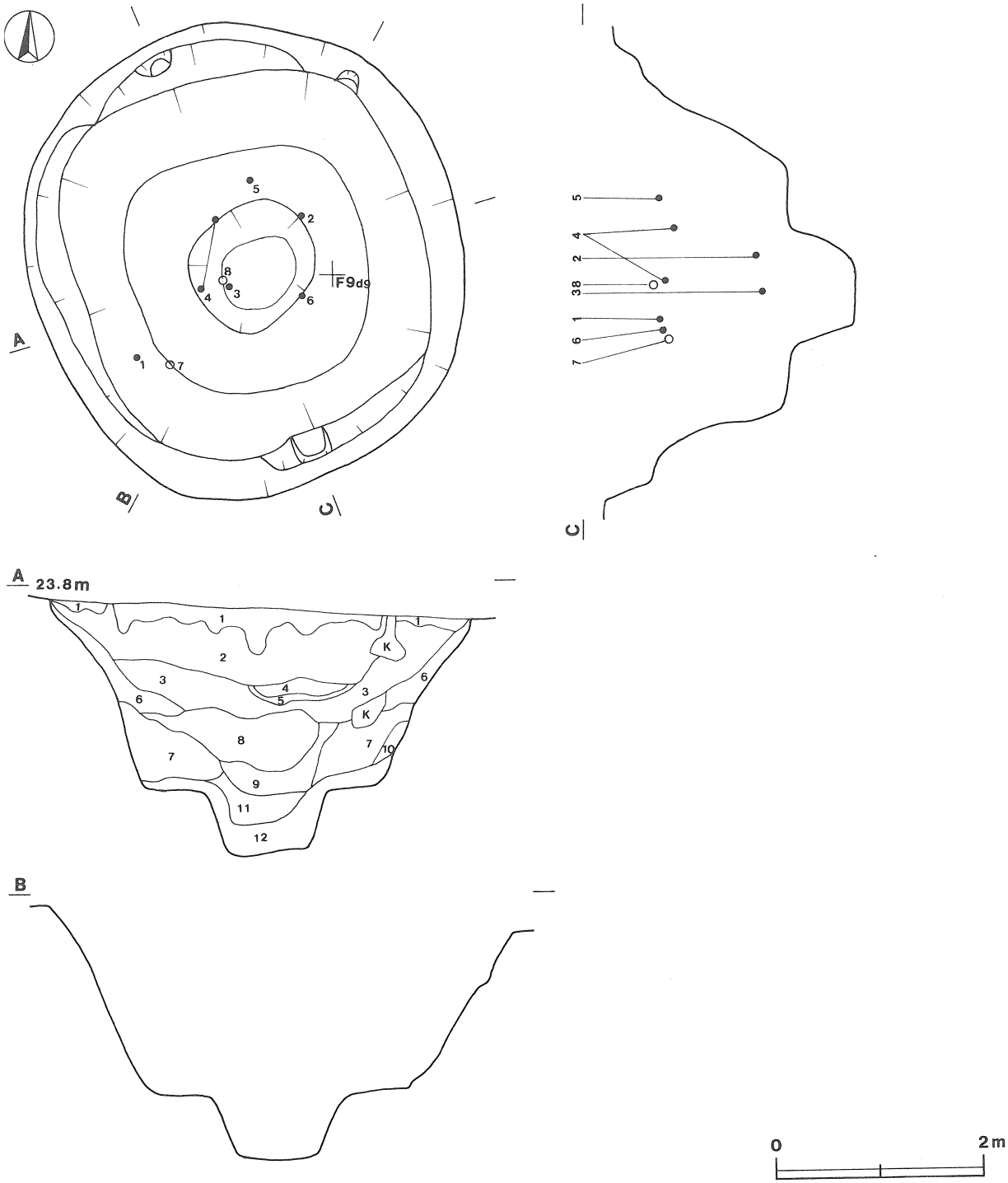
覆土　12層からなる。土器片が多量に出土し，ロームブロックを含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　暗褐色　炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子微量
3　暗褐色　ローム小ブロック・粒子微量
4　暗褐色　炭化粒子微量
5　暗褐色　ローム小ブロック少量
6　暗褐色　ローム粒子少量，ローム中・小ブロック微量
7　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
8　暗褐色　ローム粒子少量
9　暗褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
10　暗褐色　ローム小ブロック・粒子微量
11　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
12　暗褐色　ローム中ブロック微量

遺物　土師器片192点，須恵器片156点，灰釉陶器片２点，礫４点が出土している。遺物の多くは，覆土中層から上層にかけて出土している。また，覆土中層から上層にかけて出土した破片が接合したものが２点確認されていることから，埋め戻しの過程で遺物の投棄が行われたようである。第377図１の土師器高台付坏は，覆土上層から出土している。２の須恵器坏と３の須恵器蓋は，覆土中層から出土している。７の須恵器甕と８の須恵器鉢は，覆土中層から出土している。５・６の灰釉陶器椀は，覆土中層から上層にかけて出土した破片が接合したものである。二川窯産と考えられる。

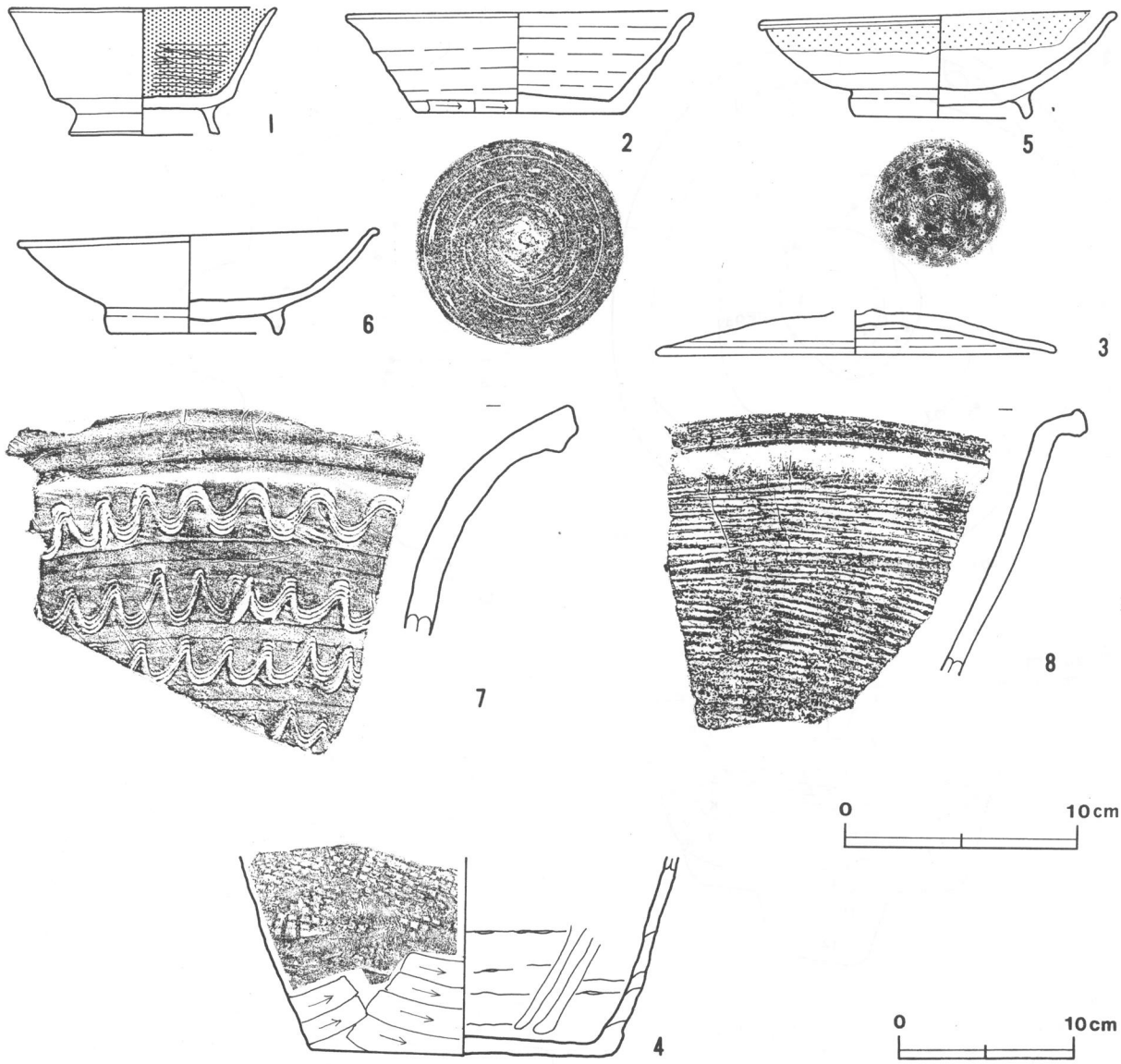
所見　本跡の性格については不明であるが，当遺跡の南西部（調査ⅡＢ区）に位置する第417号土坑と，規模も形状も酷似している。投棄された土器の時期は，８世紀後葉から９世紀後葉の間であると推定され，本跡の時期はそれと同時期か，それ以前と考えられる。



第376図　第720号土坑実測図

第720号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第377図 1	高台付坏 土　師　器	A　11.2 B　5.4 D　6.4 E　1.3	体部・口縁部一部欠損。体部は下位に稜を有し，外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。高台は「ハ」の字状に開く。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。内面丁寧なヘラ磨き。高台貼り付け後，ナデ。内面黒色処理。	砂粒　雲母　長石 石英　スコリア にぶい黄橙色 普通	70%　P339 覆土上層
2	坏 須　恵　器	A　14.6 B　4.4 C　9.0	口縁部一部欠損。平底。体部は外反気味に外傾して立ち上がり，口縁部は丸く収めている。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部外面下端手持ちヘラ削り。底部外面回転ヘラ削り。	砂粒　雲母　長石 灰黄色 普通	90%　P337　PL93 覆土中層



第377図　第720号土坑出土遺物実測図

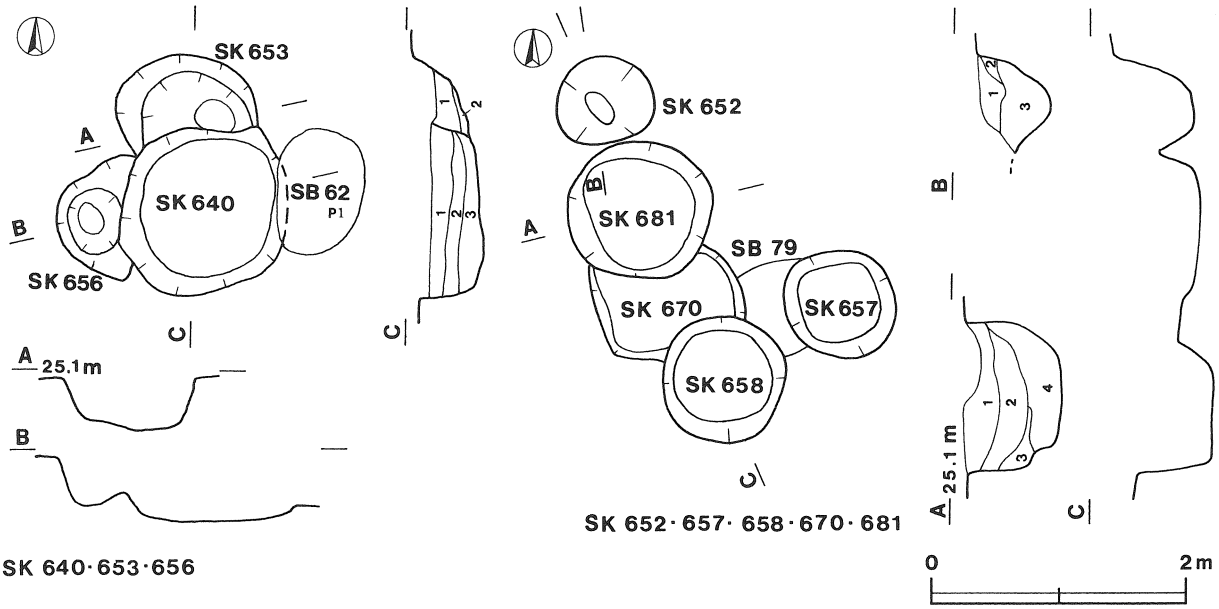
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第377図 3	蓋 須恵器	A 17.3 B (2.0)	つまみ欠損。天井部は丸く，外周部はなだらかに下降する。口縁部はわずかに屈曲する。	天井頂部回転ヘラ削り。外周部・口縁部ロクロナデ。ロクロ目は弱い。	砂粒　長石 黄灰色 普通	90%　P341　PL92 覆土中層
4	鉢 須恵器	B (11.2) C 16.9	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面格子叩き。下位横位のヘラ削り。内面横ナデ。一部縦位のヘラナデ。輪積み痕。底部ナデ。	砂粒　雲母　長石 石英 にぶい黄橙色　普通	30%　P342 覆土中層
5	椀 灰釉陶器	A 15.2 B 4.6 D 7.4 E 1.1	体部・口縁部一部欠損。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。高台は角状で，「ハ」の字状に開く。	高台貼り付け後，ロクロナデ。	砂粒 灰白色 良好	80%　P344 覆土上層～ 覆土中層 二川窯産
6	椀 灰釉陶器	A 15.0 B 4.5 D 7.3 E 1.1	高台部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。高台は角状で，「ハ」の字状に開く。	高台貼り付け後，ロクロナデ。釉は浸け掛けか。	砂粒 灰黄色 釉　灰オリーブ 良好	45%　P345　PL93 覆土上層～ 覆土中層 二川窯産

図版番号	器種	部分	器形・手法の特徴	備考(台帳番号,出土位置,色調など)
7	甕 須恵器	頸部 ～ 口縁部	口縁端部は上下に突出させている。口縁部,頸部内・外面ロクロナデ。頸部外面に四条の櫛歯による波状文が施されている。内面ナデ。	TP42 覆土中層 黄灰色

図版番号	器　種	部　分	器　形　・　手　法　の　特　徴	備考(台帳番号,出土位置,色調など)
8	鉢 須恵器	体　部 ～ 口縁部	口縁部で屈曲する。端部は上下に突出させている。口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面横位の平行叩き。内面ナデ。	ＴＰ43 覆土中層 黄灰色

第640・652・653・656～658・670・681号土坑（第378図）

これらの土坑は調査Ⅲ区の西部と中央部に位置し、他の遺構との切り合いから、時期を奈良・平安時代と判断した土坑である。性格については不明な点が多い。ここでは、土層解説のみ記述する。また、それぞれの土坑の位置や規模については一覧表（表10）に記述し、第378図に掲載した。



第378図　第640・652・653・656～658・670・681号土坑実測図

第640号土坑土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック微量
2　褐　色　ローム小ブロック・粒子少量，ローム中ブロック微量
3　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子微量

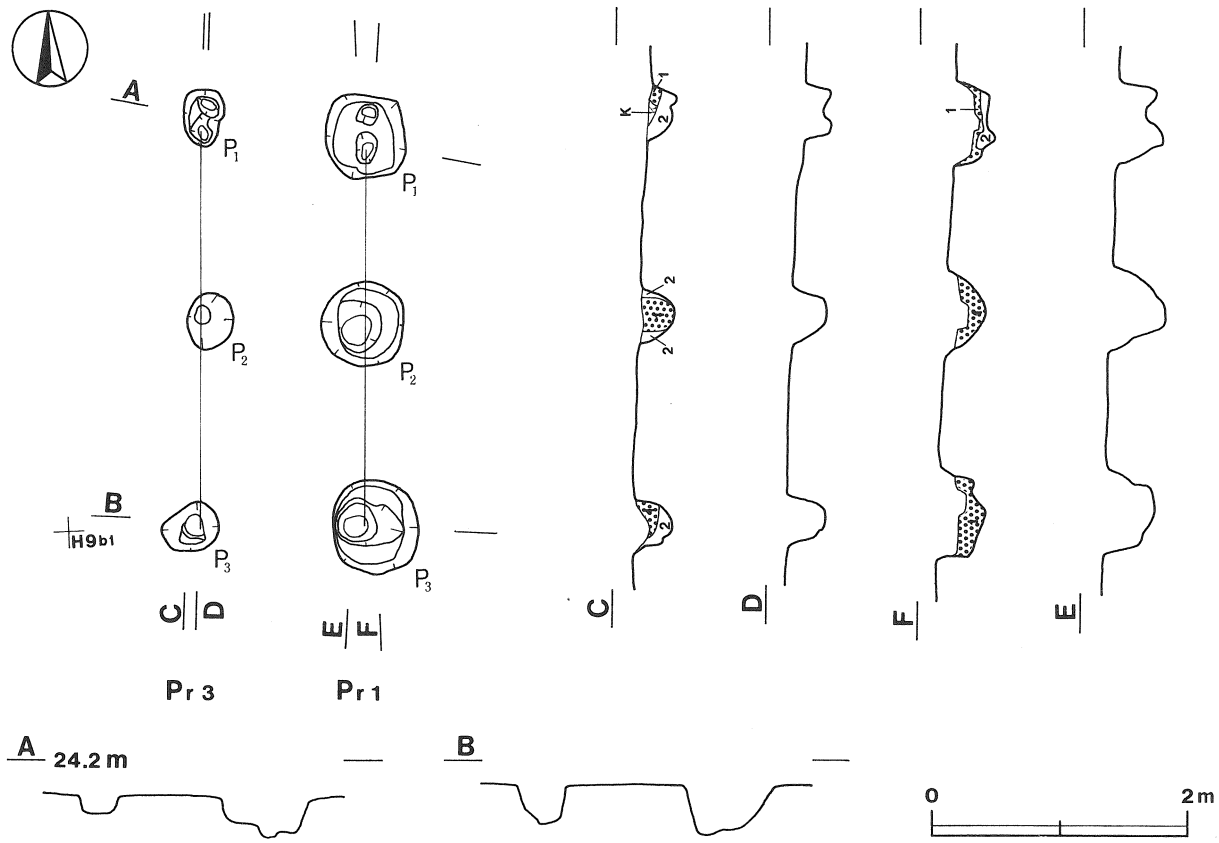
第652号土坑土層解説
1　暗褐色　焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子微量
3　暗褐色　ローム小ブロック・焼土粒子微量

第653号土坑土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック微量
2　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量

第681号土坑土層解説
1　暗褐色　焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子少量
3　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
4　暗褐色　焼土粒子微量

（4）柱穴列・柱穴群

今回の調査では，柱穴列が４条，柱穴群が５か所確認された。柱穴列は，調査Ⅳ区の中央部に３条，調査Ⅴ区の西部に１条が位置する。いずれも柱の抜き取り痕が確認されており，遺構の配列から，柵列の可能性が高い。特に，調査Ⅳ区の柱穴列は，隣接する掘立柱建物跡や竪穴住居跡と並列して構築されており，これらの掘立柱建物跡や竪穴住居跡との関連性が強いと推定される。また，柱穴群は，調査Ⅲ区の中央部に３か所，調査Ⅴ区の中に２か所が位置する。その中で，隣接する遺構との関連性が高いと考えられるものは第３・４号柱穴群である。その他の柱穴群の時期は特定できなかった。また，いずれの遺構も柱穴の配列に規則性は認められなかった。ここでは，奈良・平安時代の柱穴列と柱穴群と考えられるものについて，その特徴を記載する。



第379図　第１・３号柱穴列実測図

第１号柱穴列（第379図）

位置　調査Ⅳ区の南部，Ｈ９al区。

規模　直線上に，３か所の柱穴（Ｐ1～Ｐ3）が確認された。Ｐ1～Ｐ3は径0.66～0.71mの円形で，断面形は二段掘り状，逆台形状またはＵ字状である。深さは38～46cmである。柱間の寸法は，1.48～1.58mである。柱の抜き取り痕はすべての柱穴で確認された。

方向　Ｎ－４°－Ｅ

覆土　第１層が柱の抜き取り痕で，他の層は埋土である。

土層解説
1　暗 褐 色　　ローム小ブロック中量
2　明 褐 色　　ローム中ブロック多量

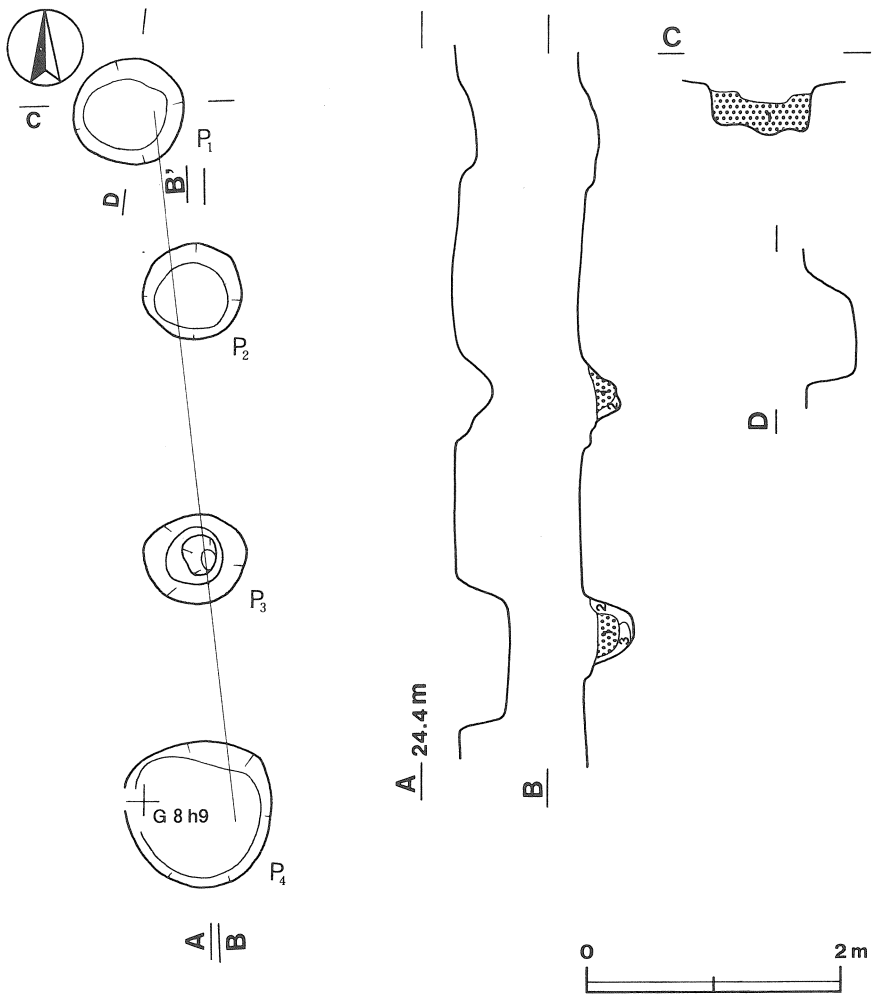
遺物　出土していない。

所見　柱間寸法に規則性が認められ，深さもほぼ一定である。また，方向は，本跡の１m西側に隣接する第３号柱穴列と同じであり，その西側に位置する第50号掘立柱建物跡とほぼ並行していることから，一連の施設として機能していた可能性が高いと考えられる。時期は，９世紀と推定される。

第２号柱穴列（第380図）

位置　調査Ⅳ区の中央部，Ｇ８g7区。

規模　直線上に，４か所の柱穴（Ｐ1～Ｐ4）が確認された。Ｐ1～Ｐ4は径0.76～1.16mの円形で，断面形は逆台形状またはＵ字状である。深さは13～44cmである。柱間の寸法は，1.50～2.00mである。柱の抜き取り痕は



第380図　第２号柱穴列実測図

Ｐ2を除いて確認された。

方向　Ｎ－７°－Ｗ

覆土　第１層が柱の抜き取り痕で，他の層は埋土である。

土層解説

1	暗褐色	ローム大ブロック少量	3	暗褐色	ローム小ブロック少量
2	褐　色	ローム中ブロック中量			

遺物　出土していない。

所見　柱間寸法と深さは不規則である。本跡と第57号掘立柱建物跡が，第168Ａ・168Ｂ号住居跡を取り囲むように，位置していることから，第168Ａ・168Ｂ号住居跡または第57号掘立柱建物跡のいずれかと関連性が高いと考えられる。時期は，９世紀前葉から中葉と推定される。

第３号柱穴列（第379図）

位置　調査Ⅳ区の南部，Ｈ９a1区。

規模　直線上に，３か所の柱穴（Ｐ1～Ｐ3）が確認された。Ｐ1～Ｐ3は長径0.43～0.46m，短径0.30～0.36mの楕円形で，断面形はＵ字状である。深さは23～32cmである。柱間の寸法は，1.45～1.68mである。柱の抜き取り痕はすべての柱穴で確認された。

方向　N－4°－E

覆土　第１層が柱の抜き取り痕で，他の層は埋土である。

土層解説
1　暗 褐 色　　ローム小ブロック中量
2　明 褐 色　　ローム中ブロック多量

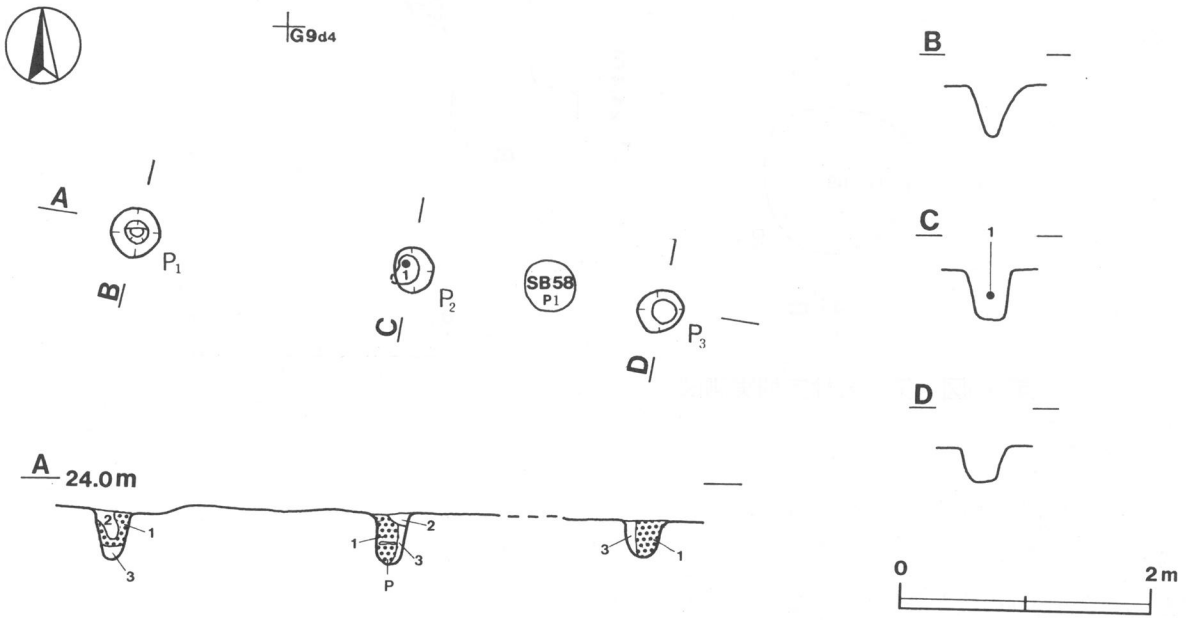
遺物　出土していない。

所見　柱間寸法にほぼ規則性が認められ，深さもほぼ一定である。また，方向は，本跡の１ｍ東側に隣接する第１号柱穴列と同じであり，その西側に位置する第50号掘立柱建物跡とほぼ並行していることから，一連の施設として機能していた可能性が高いと考えられる。時期は，９世紀と推定される。

第４号柱穴列（第381・382図）

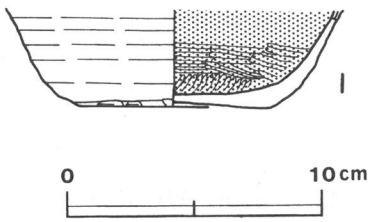
位置　調査Ⅴ区の西部，Ｇ９d4区。

重複　第58号掘立柱建物跡と重複している。切り合いはないが，配置から推測した，隣接する掘立柱建物跡との関連性から，本跡の方が第58号掘立柱建物跡より古い遺構である可能性が高い。



第381図　第４号柱穴列実測図

規模　直線上に，３か所の柱穴（Ｐ1～Ｐ3）が確認された。Ｐ1～Ｐ3は径0.36～0.40mの円形で，断面形は逆台形状またはＵ字状である。深さは32～40cmである。柱間は，径2.02m～2.10mである。柱の抜き取り痕はすべての柱穴で確認された。



第382図　第４号柱穴列
出土遺物実測図

方向　N－81°－W

覆土　土層断面図中，第１層が抜き取り痕である。

土層解説
1　暗 褐 色　　ローム中・小ブロック微量
2　暗 褐 色　　ローム小ブロック・炭化粒子少量
3　暗 褐 色　　ローム小ブロック・炭化粒子微量

遺物　第382図１の土師器坏１点が，Ｐ2の抜き取り痕から出土している。

所見　柱間寸法に規則性が認められ，深さも一定である。列の方向は，本跡の北側に位置する第179・183号住居跡と並行しているが，これらの

住居跡と関連があるかどうかは不明である。時期は，出土土器から，９世紀前葉と推定される。

第４号柱穴列跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第382図 1	坏 土　師　器	B（ 3.9） C　 7.2	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。体部外面下端手持ちヘラ削り。底部糸切り離し。内面黒色処理。	砂粒 橙色 普通	50%　P346 P2中

第３号柱穴群（第383図）

位置　調査Ⅴ区の中央部，Ｇ９a5区。

規模　第179号竪穴住居跡を囲むように，９か所の柱穴（Ｐ1～Ｐ9）が確認された。Ｐ1・Ｐ2・Ｐ5・Ｐ9は，長軸32～52cm，短軸30～54cmの不整円形，Ｐ3・Ｐ4・Ｐ6～Ｐ8は，径0.34～0.40mの円形である。断面形は逆台形状またはＵ字状で，深さは6～40cmである。柱の抜き取り痕は確認できなかった。

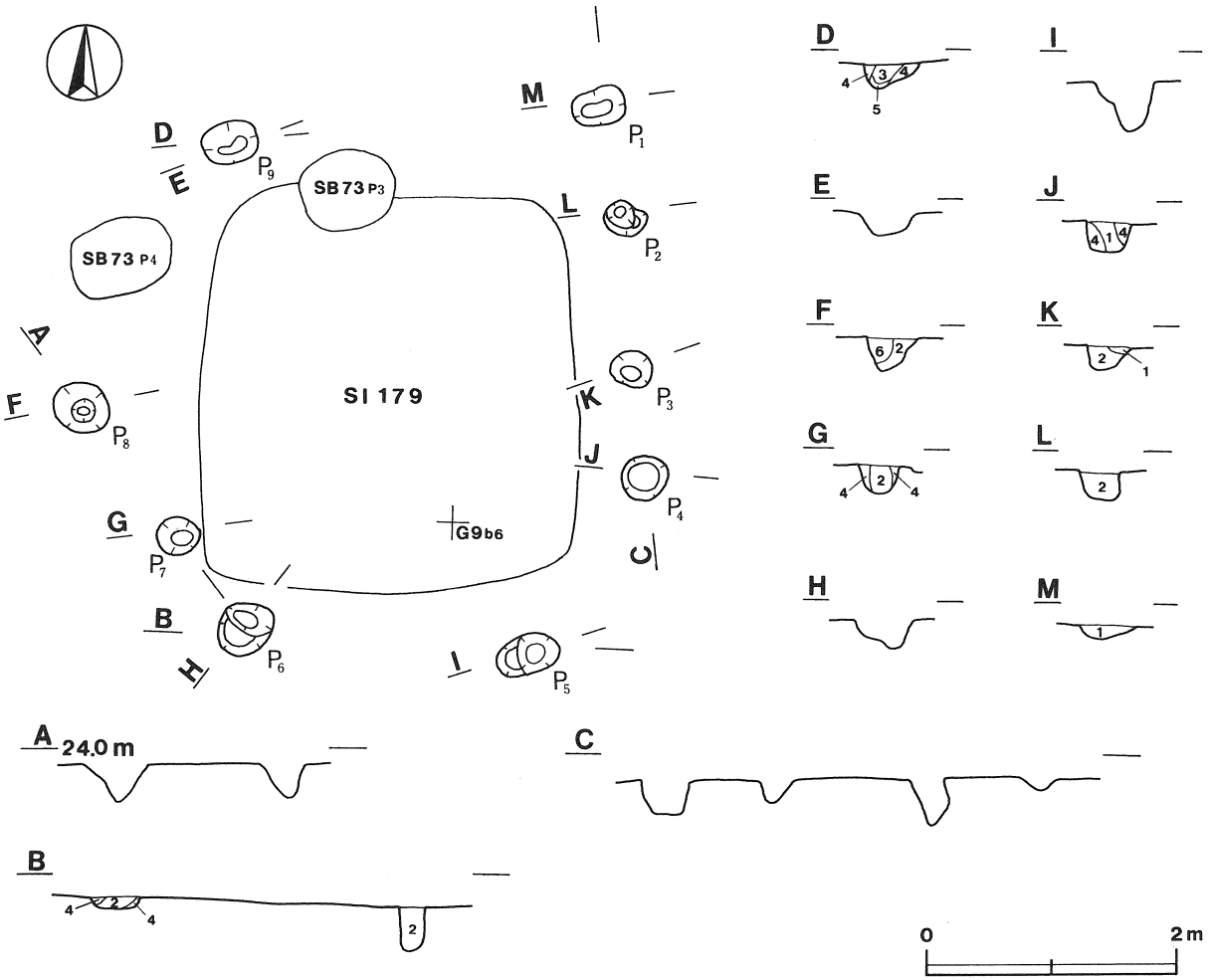
覆土　土層断面図中，第１層が抜き取り痕で，第２～６層は埋土である。

土層解説

1	暗褐色	ローム中ブロック少量	4	暗褐色	ローム中・小ブロック少量
2	褐　色	ローム大ブロック多量	5	褐　色	ローム中ブロック中量
3	暗褐色	ローム中ブロック・粘土中ブロック中量	6	暗褐色	ローム中ブロック多量

遺物　土師器片７点，須恵器片３点が出土している。いずれも細片のため図示できなかった。

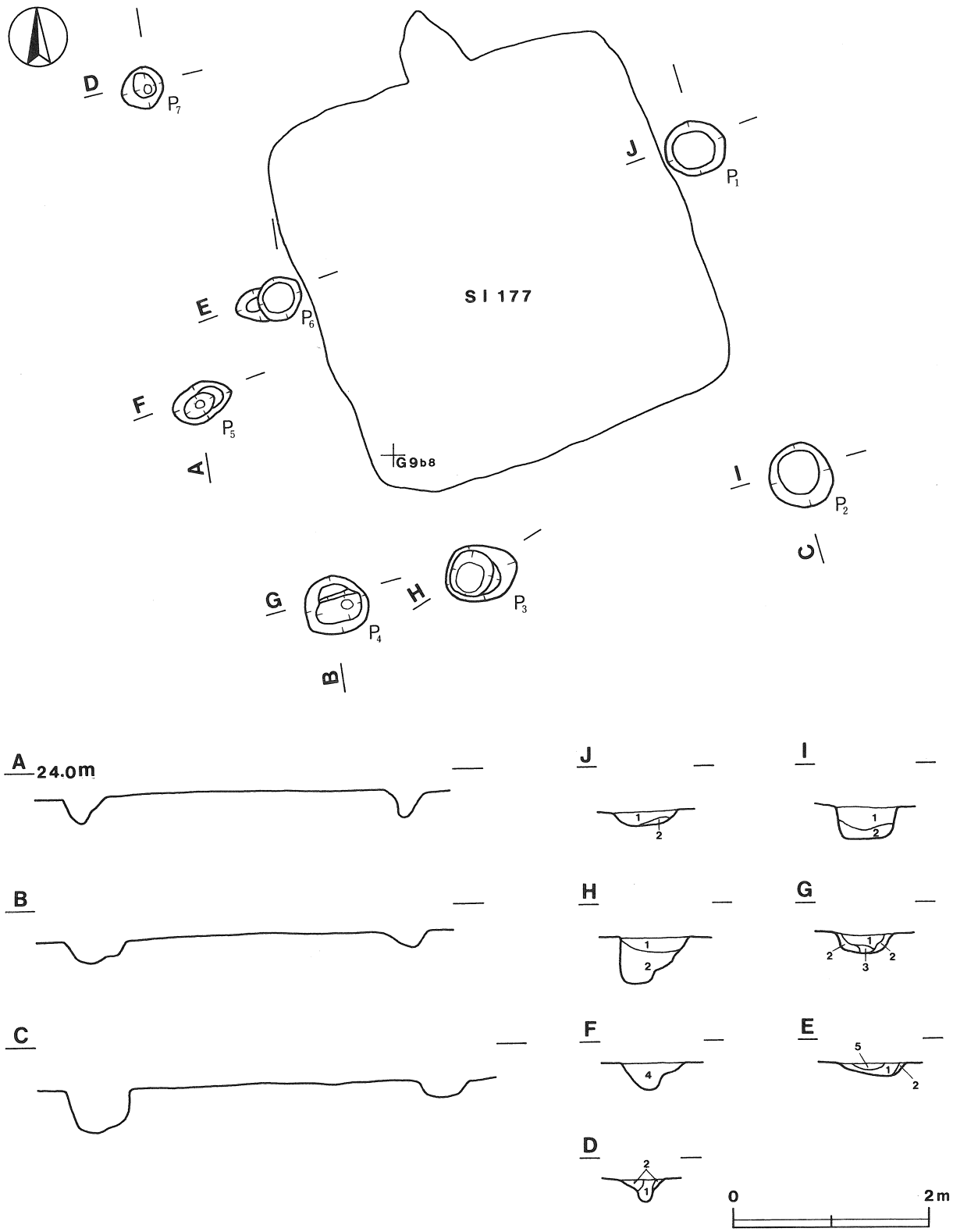
所見　第179号住居跡を囲むように柱穴が位置していることと，出土した土器の時期が，第178号住居跡の時期



第383図　第３号柱穴群実測図

とほぼ一致することから，本跡が，第179号住居跡に関連している遺構である可能性が高い。時期は，第179号住居跡との関連及び出土土器から，８世紀後葉と推定される。

第４号柱穴群（第384図）



第384図　第４号柱穴群実測図

位置　調査Ⅴ区の中央部，Ｇ９a8区。

規模　第177号竪穴住居跡を囲むように，７か所の柱穴（Ｐ1～Ｐ7）が確認された。Ｐ1～Ｐ4・Ｐ6・Ｐ7は径0.62ｍの円形，Ｐ5は長軸0.62ｍ，短軸0.38ｍの不整楕円形である。断面形は逆台形状またはＵ字状で，深さは16～46cmである。抜き取り痕はＰ7で認められた。

覆土　土層断面図中，第１層が抜き取り痕で，第２～５層は埋土である。

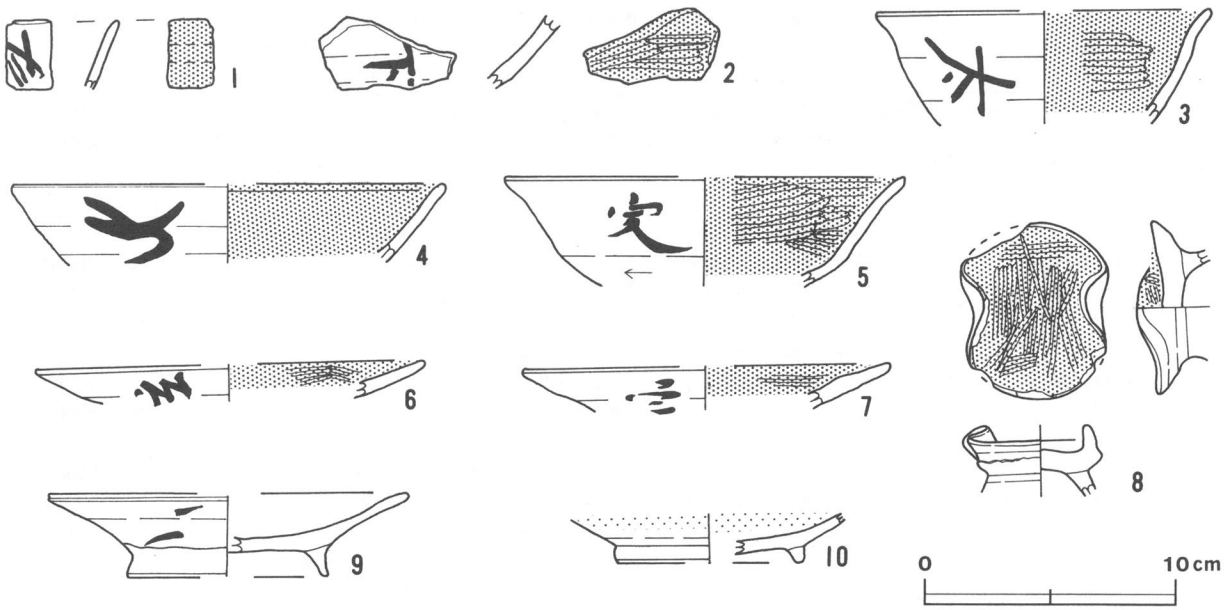
土層解説

1　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　褐　色　ローム粒子少量
3　暗褐色　炭化粒子微量
4　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
5　黒褐色　炭化粒子少量

遺物　遺物は出土していない。

所見　本跡の柱穴は，第177号竪穴住居跡を囲むように位置している。これは，第179号住居跡の周りに位置する柱穴群３の例と酷似していることから，柱穴群３同様，住居跡に関連している遺構と考えられる。時期は，第177号住居跡との関連から，８世紀中葉と推定される。

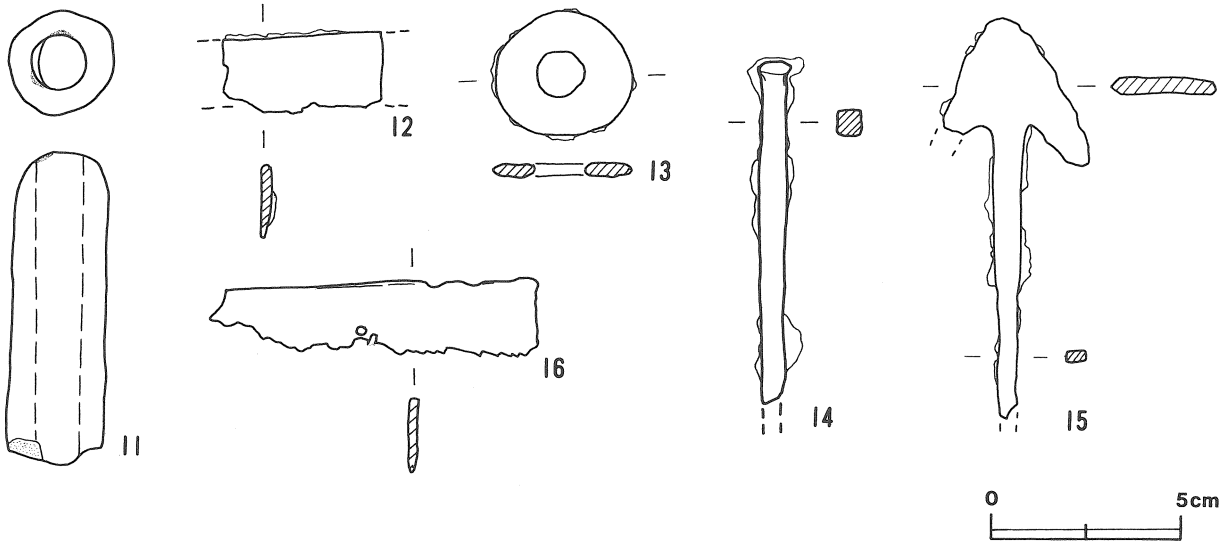
（５）遺構外出土遺物



第385図　遺構外出土遺物実測図（奈良・平安時代）（１）

遺構外出土遺物観察表(奈良・平安時代)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第385図 1	坏 土師器	B（2.7）	口縁部の破片。口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。内面黒色処理。	雲母　砂粒 にぶい黄橙色 普通	5％　P743　PL93 口縁部外面墨書・判読不能 SD24覆土中
2	坏 土師器	B（2.9）	体部の破片。	体部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	石英　砂粒 橙色 普通	5％　P744　PL93 体部外面墨書「下」 SD25覆土中



第386図　遺構外出土遺物実測図（奈良・平安時代）（２）

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第385図 3	坏 土師器	A［13.0］ B（4.5）	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がり，外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部内面から底部内面にかけヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	5％　P745　PL93 体部外面墨書 「太」 Ⅲ区表土
4	坏 土師器	A［17.2］ B（3.1）	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がり，わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。内面黒色処理。	砂粒 極色 普通	5％　P360　PL93 体部外面墨書・ 判読不能 Ⅴ区表土
5	高台付坏 土師器	A［15.6］ B（4.3）	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がり，外反する。中位に明瞭な稜を持つ。	体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位ヘラ削り，内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	雲母　砂粒 橙色 普通	10％　P746　PL93 口縁部･体部外面墨書 「宍」か「定」 表土
6	高台付皿 土師器	A［15.1］ B（1.4）	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけ，内彎気味に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。口縁部から体部内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	雲母　砂粒 にぶい橙色 普通	5％　P747　PL93 口縁部から体部外面 墨書・判読不能 表土
7	高台付皿 土師器	A［14.3］ B（1.7）	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけ，内彎気味に開き，わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部内面から底部内面にかけヘラ磨き。内面黒色処理。	石英　雲母　砂粒 スコリア 灰黄褐色 普通	10％　P748 口縁部から体部外面 墨書･判読不能 表土
8	耳皿 土師器	A（6.9） B（3.0） E（1.0）	高台部と口縁部の一部欠損。高台は「ハ」の字状に開く。体部から口縁部にかけ，内彎気味に開く。口縁は２側面で内側に丸く，折り曲げられている。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部から底部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け，ロクロナデ。内面黒色処理。	スコリア　砂粒 橙色 普通	80％　P750　PL93 表土
9	高台付皿 須恵器	A［14.0］ B　3.3 D　7.8 E　1.0	高台部から口縁部の破片。高台は「ハ」の字状に開く。体部から口縁部にかけ，内彎気味に開き，わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け，ロクロナデ。	雲母　砂粒 灰黄色 普通	10％　P749 口縁部から体部外面 墨書・判読不能 表土
10	椀 灰釉陶器	B（2.0） D［7.3］ E　0.7	高台部から体部の破片。高台は三角形で短く，「ハ」の字状に開く。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け，ロクロナデ。体部内・外面，底部内面施釉，刷毛塗り。	砂粒 灰白色 釉　オリーブ黄色 良好	10％　P751 表土 猿投窯産 (黒笹90号窯式)

図版番号	種　別	計　測　値				出　土　地　点	備　　考
		径　(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第386図11	管状土錘	3.2	6.3	0.8	48.0	ⅡB区表採	DP8　PL98

図版番号	種　別	計　測　値				出　土　地　点	備　　考
		長さ(cm)	幅　(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第386図12	不明鉄製品	(4.2)	(2.2)	0.3	(9.0)	Ⅲ区表採	M98　PL109
13	紡錘車	3.3	3.6	0.3	8.0	ⅡB区表採	M99　PL109　孔径1.2cm
14	不明鉄製品	(9.0)	(0.8)	0.7	(20.0)	Ⅲ区表採	M100　PL108
15	鉄　鏃	(10.5)	(3.8)	(0.5)	(22.0)	Ⅲ区表採	M102　PL106
16	鋸	(8.7)	(2.1)	0.2	(8.0)	ⅡB区表採	M101　PL104

4　その他の遺構と遺物

(1) 掘立柱建物跡

今回の調査では，時期不明の掘立柱建物跡1棟を確認した。以下に，特徴や出土遺物について記載する。

第74号掘立柱建物跡（第387図）

位置　調査Ⅴ区の東部，G9a0区。

重複関係　P6が第583号土坑に掘り込まれている。

規模　桁行2間（平均5.10m），梁行2間（平均3.32m），柱間寸法は桁行2.42～2.64m，梁行1.40～1.62mで，面積は16.93m²である。柱穴は8か所（P1～P8）で，側柱構造の建物跡である。柱穴の掘り方は，平面形が長径0.72～1.04m，短径0.62～0.82mの楕円形である。断面形は深さは16～38cmで，逆台形状を呈す。抜き取り痕はP1・P5・P7で認められ，柱の寸法は径0.14～0.18mである。

桁行方向　N－82°－W

覆土　土層断面図中，第1層が抜き取り痕で，第2～4層が掘り方の覆土である。

土層解説

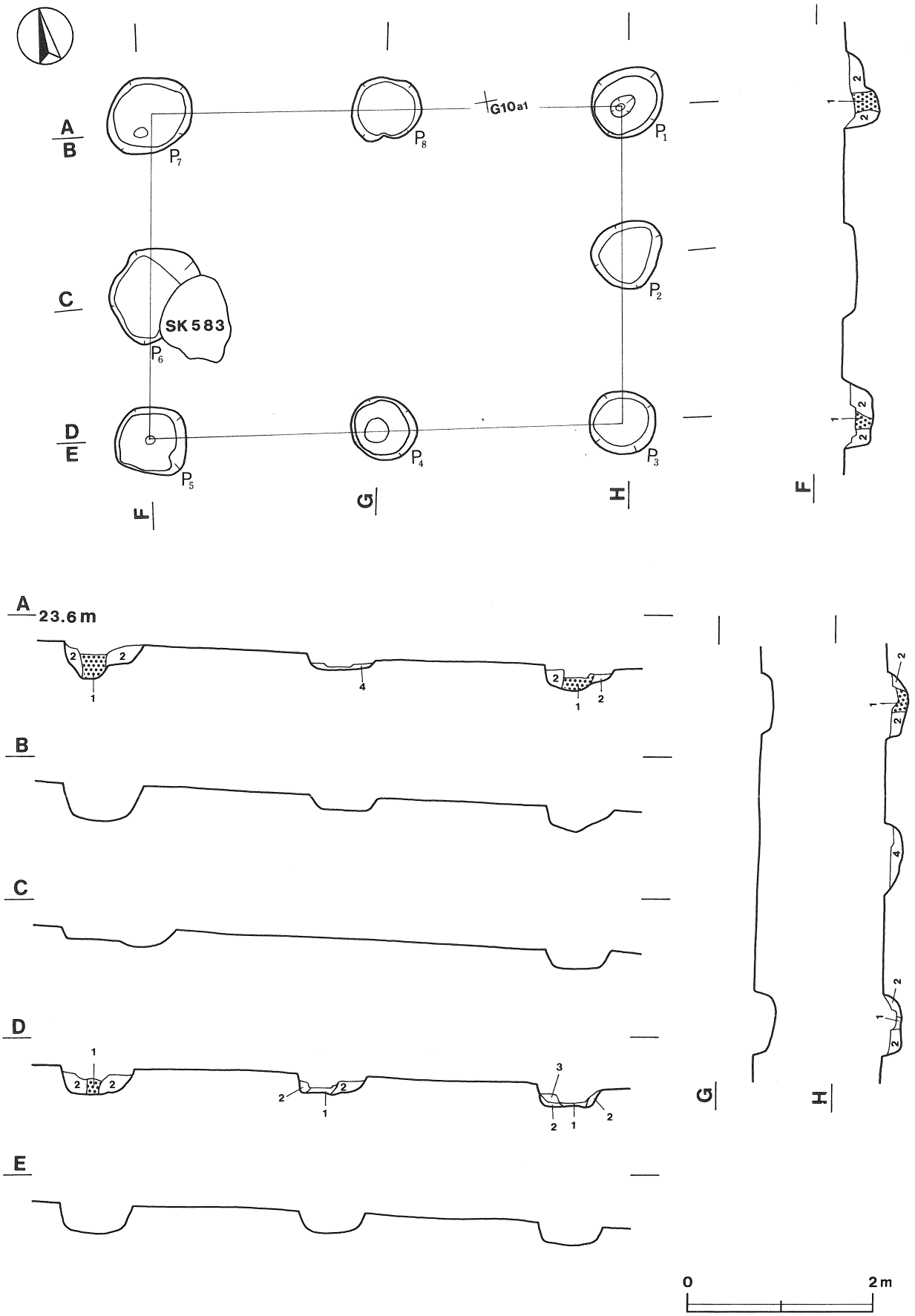
1　暗褐色　ローム小ブロック少量，炭化粒子微量，締まりはない
2　褐　色　ローム小ブロック・粒子少量，よく締まっている
3　黒褐色　炭化粒子微量
4　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

遺物　遺物は出土しなかった。

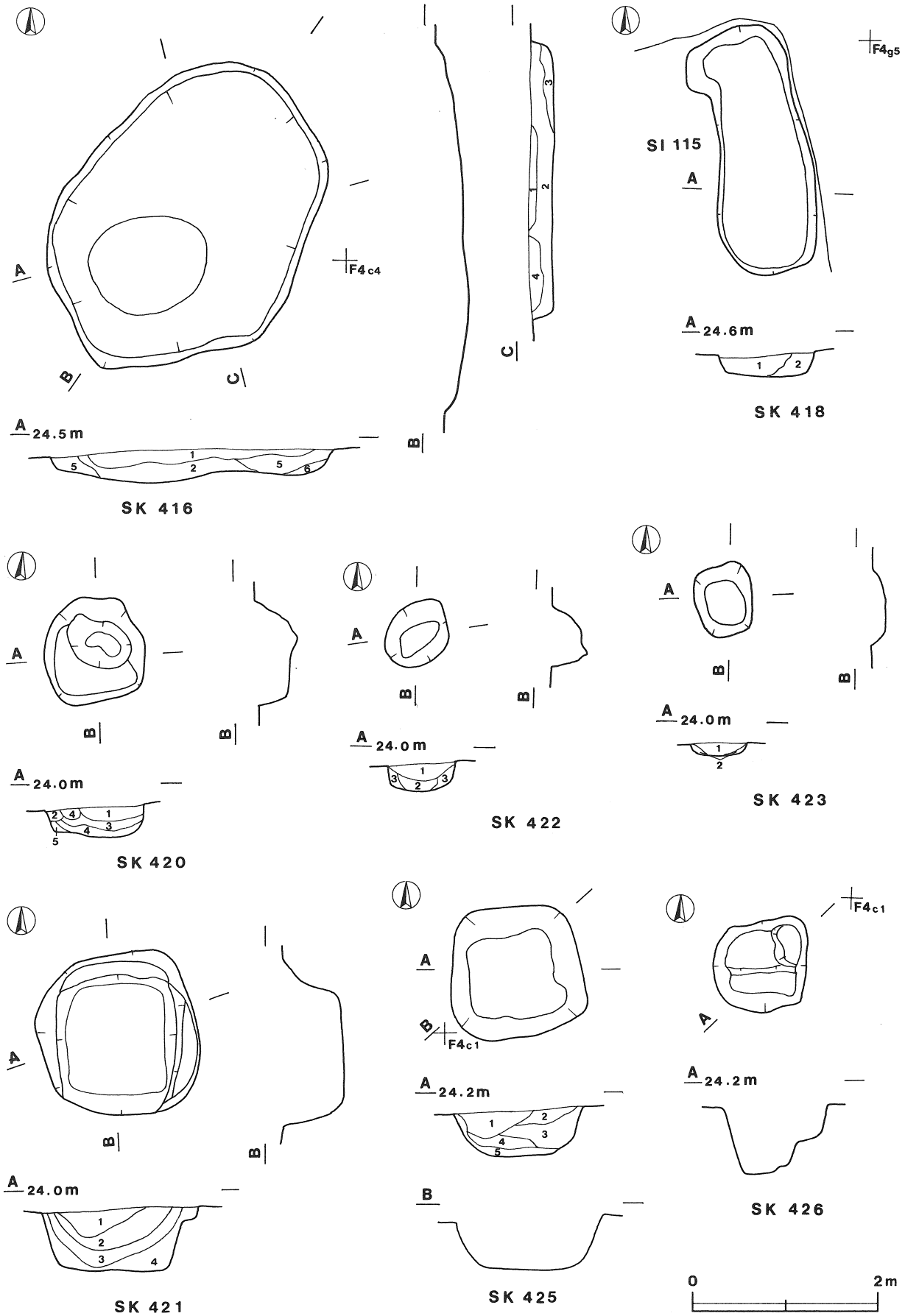
所見　柱間寸法に規則性が認められる。遺物は出土しておらず，時期は不明である。隣接する第73・75号掘立柱建物跡とは桁行方向が一致せず，柱穴の規模等も異なることから，これらの掘立柱建物跡との関連も不明である。

(3) その他の土坑

前述したように，当遺跡から確認された土坑267基のうち，中世以降と考えられる土坑や，時期や性格が不明な土坑は248基確認されている。ここでは，これらの土坑を，区ごとに掲載する（第388～409図）とともに，土層を解説した。なお，位置や規模については，一括して一覧表（表10）に記述する。



第387図　第74号掘立柱建物跡実測図



第388図　その他の土坑実測図（ⅡＢ区）（１）

《ⅡＢ区の土坑》

第416号土坑
1　褐　　色　ローム小ブロック少量
2　褐　　色　ローム中ブロック少量
3　褐　　色　ローム中ブロック少量，ローム粒子微量
4　極暗褐色　ローム粒子少量
5　褐　　色　ローム中ブロック中量
6　褐　　色　ローム小ブロック中量

第418号土坑
1　赤 褐 色　焼土大ブロック多量
2　にぶい赤褐色　ローム中ブロック中量，焼土粒子少量

第420号土坑
1　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
2　黒 褐 色　ローム粒子少量
3　黒 褐 色　ローム小ブロック・粒子微量
4　暗 褐 色　ローム小ブロック・粒子少量
5　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

第421号土坑
1　褐　　色　ローム小ブロック中量
2　褐　　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子微量
3　暗 褐 色　ローム中ブロック少量
4　褐　　色　ローム小ブロック・粒子中量

第422号土坑
1　黒 褐 色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
2　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
3　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

第423号土坑
1　暗 褐 色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
2　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量

第425号土坑
1　明 褐 色　ローム大・中ブロック中量
2　明 褐 色　ローム粒子少量
3　明 褐 色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
4　褐　　色　ローム中ブロック中量，ローム粒子少量
5　明 褐 色　ローム中ブロック多量

第427号土坑
1　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
2　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
3　褐　　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック少量

第428号土坑
1　明 褐 色　ローム小ブロック中量
2　暗 褐 色　ローム粒子少量
3　暗 褐 色　ローム大ブロック・粒子微量

第429・431号土坑
1　暗 褐 色　ローム小ブロック微量
2　褐　　色　ローム中ブロック中量，ローム粒子少量
3　明 褐 色　ローム中ブロック多量
4　褐　　色　ローム中ブロック少量
5　明 褐 色　ローム中ブロック中量
6　褐　　色　ローム大ブロック多量，ローム中ブロック中量

第430号土坑
1　褐　　色　ローム小ブロック微量
2　暗 褐 色　ローム粒子少量
3　明 褐 色　ローム中ブロック少量
4　明 褐 色　ローム中ブロック中量
5　褐　　色　ローム小ブロック少量

第432号土坑
1　褐　　色　ローム小ブロック多量，ローム粒子中量，焼土粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
3　暗 褐 色　ローム粒子少量
4　褐　　色　ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

第434号土坑
1　明 褐 色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
2　褐　　色　ローム中ブロック・粒子中量
3　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
4　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
5　にぶい褐色　ローム粒子多量
6　褐　　色　ローム粒子少量

第435号土坑
1　褐　　色　ローム小ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
2　暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量

第436号土坑
1　暗 褐 色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　暗 褐 色　ローム粒子・炭化物・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　暗 褐 色　ローム粒子・炭化物・炭化粒子少量
4　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
5　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
6　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

第437号土坑
1　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子中量，ローム中・小ブロック微量
3　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量

第438号土坑
1　黒 褐 色　ローム粒子少量，ローム中・小ブロック微量
2　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
3　暗 褐 色　ローム小ブロック・粒子少量
4　褐　　色　ローム小ブロック・粒子中量

第439号土坑
1　褐　　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
2　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量

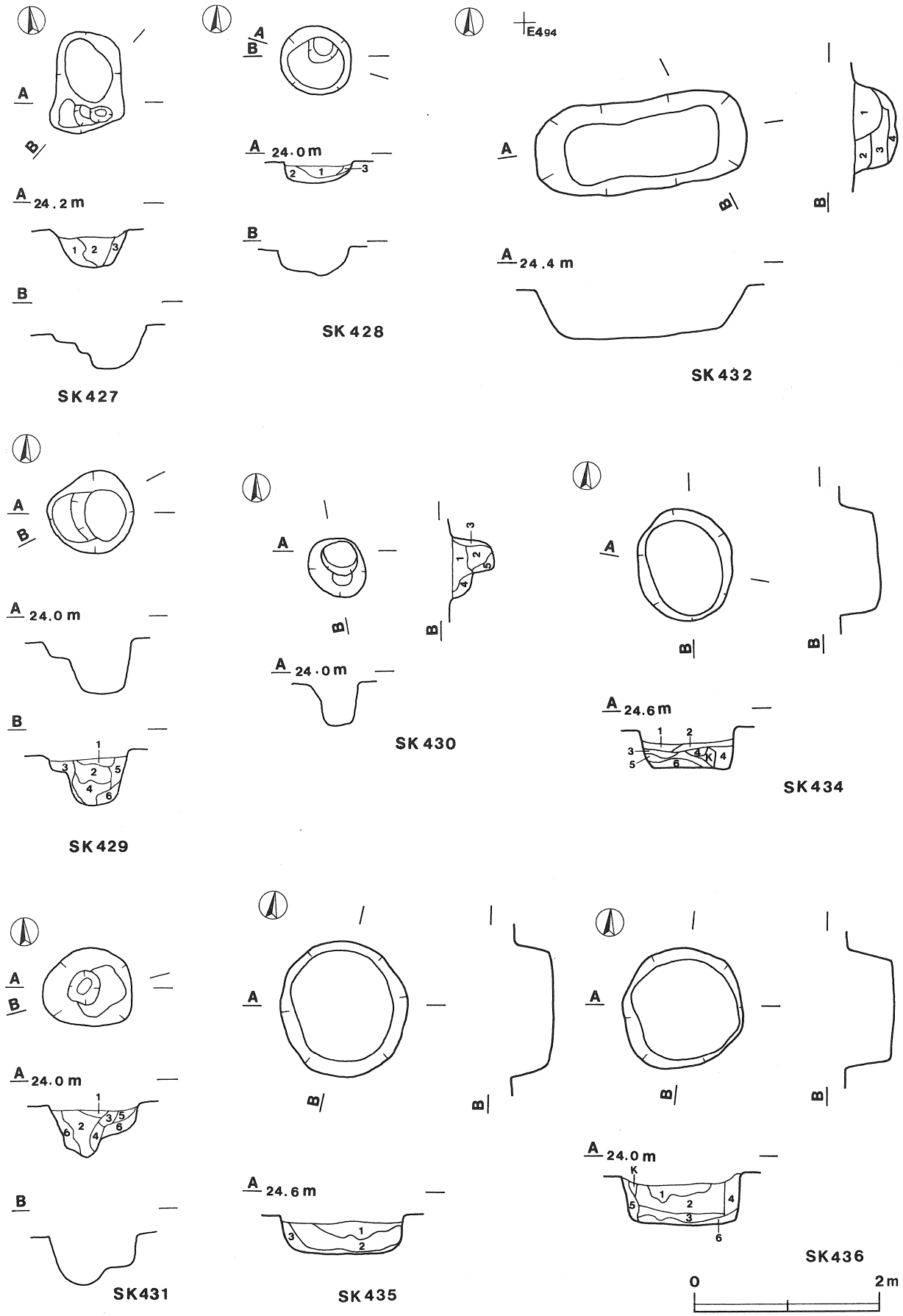
第440号土坑
1　暗 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　褐　　色　ローム中ブロック中量，ローム粒子少量
4　褐　　色　ローム小ブロック・粒子中量

第441号土坑
1　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
3　暗 褐 色　ローム小ブロック・粒子少量

第442号土坑
1　暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗 褐 色　ローム粒子・炭化粒子少量

第444号土坑
1　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，炭化粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
3　褐　　色　ローム小ブロック・粒子多量，ローム中ブロック中量，炭化粒子微量

第445号土坑
1　暗 褐 色　ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック微量
2　暗 褐 色　ローム粒子少量，炭化粒子微量



第389図　その他の土坑実測図（ⅡＢ区）（２）

第446号土坑
1　黒褐色　ローム小ブロック・粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム中・小ブロック・粒子少量
4　暗褐色　ローム中ブロック・粒子少量，ローム小ブロック微量

第447号土坑
1　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量

第448号土坑
1　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子少量

第449号土坑
1　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　色　ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
4　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

第450号土坑
1　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量
4　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量

第451号土坑
1　褐　色　ローム小ブロック・粒子中量
2　褐　色　ローム小ブロック・粒子中量，ローム中ブロック少量
3　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
4　褐　色　ローム小ブロック・粒子少量
5　褐　色　ローム小ブロック・粒子多量

第452号土坑
1　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック微量
2　暗褐色　炭化粒子微量
3　褐　色　ローム小ブロック・粒子少量

第453号土坑
1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量

第454号土坑
1　暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　色　ローム中・小ブロック・粒子中量，炭化粒子微量

第455号土坑
1　暗褐色　ローム粒子少量，炭化物微量
2　褐　色　ローム粒子少量

第456号土坑
1　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
2　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3　褐　色　ローム小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

第457号土坑
1　褐　色　ローム小ブロック多量，ローム中ブロック・粒子中量，炭化粒子少量

第458号土坑
1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量

第459号土坑
1　褐　色　ローム小ブロック・粒子中量，ローム中ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量

第460号土坑
1　褐　色　ローム中ブロック少量
2　暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量

第461号土坑
1　黒褐色　ローム小ブロック・粒子多量

第462号土坑
1　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
2　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
3　褐　色　ローム小ブロック・粒子中量
4　褐　色　ローム小ブロック・粒子中量，ローム中ブロック微量
5　褐　色　ローム粒子中量

第463号土坑
1　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
3　暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子少量

第464号土坑
1　褐　色　ローム小ブロック・粒子多量，ローム中ブロック中量，炭化粒子微量

第465号土坑
1　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　褐　色　ローム小ブロック・粒子中量，炭化粒子微量

第466号土坑
1　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
3　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

第467号土坑
1　褐　色　ローム小ブロック・粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量
3　褐　色　ローム小ブロック・粒子中量

第468号土坑
1　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量

第469号土坑
1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
2　暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量，炭化粒子微量
3　褐　色　ローム小ブロック・粒子中量，ローム大・中ブロック少量
4　暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　褐　色　ローム粒子中量

第470号土坑
1　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

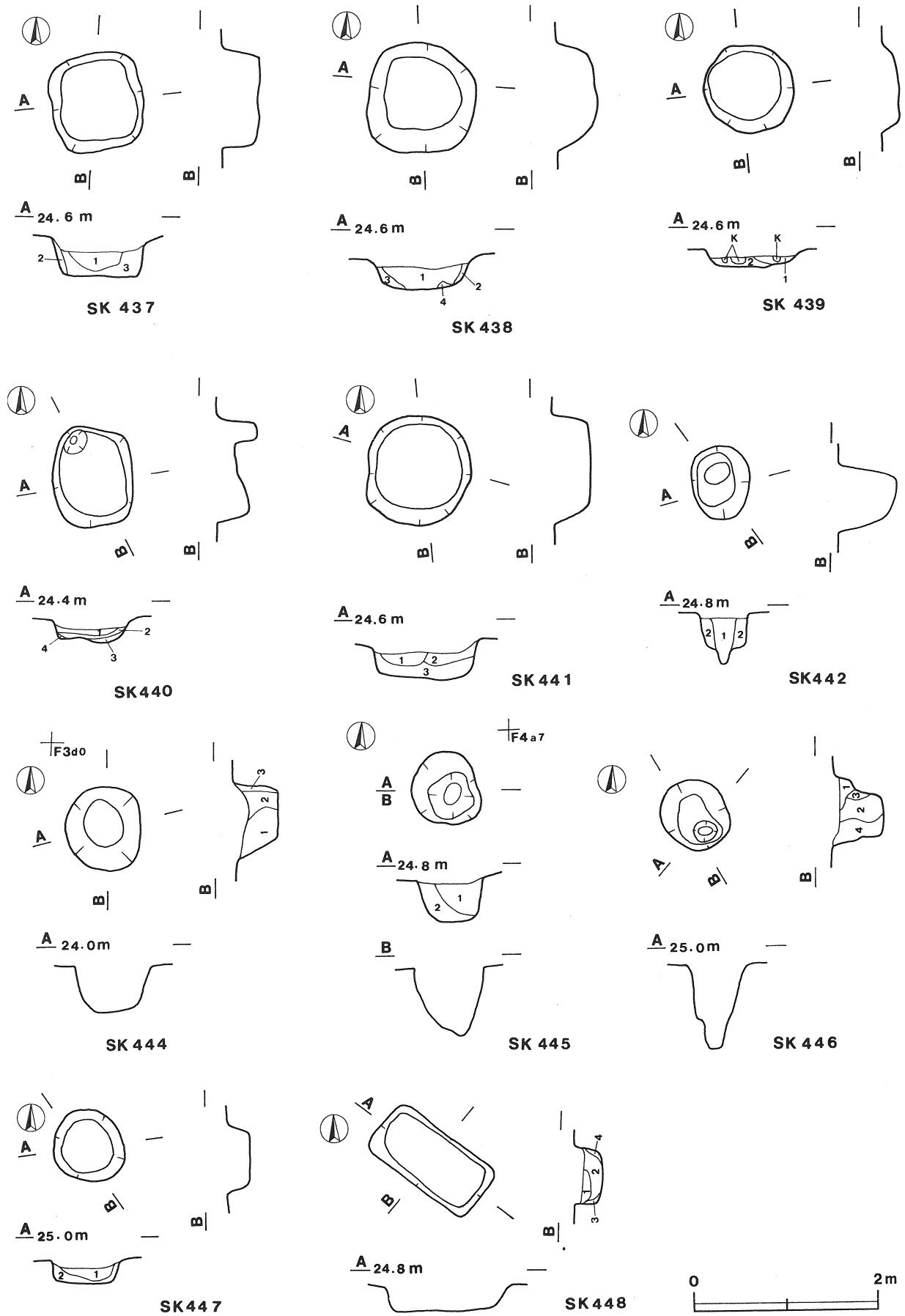
第471号土坑
1　褐　色　ローム小ブロック・粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量，炭化粒子微量

第472号土坑
1　褐　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量

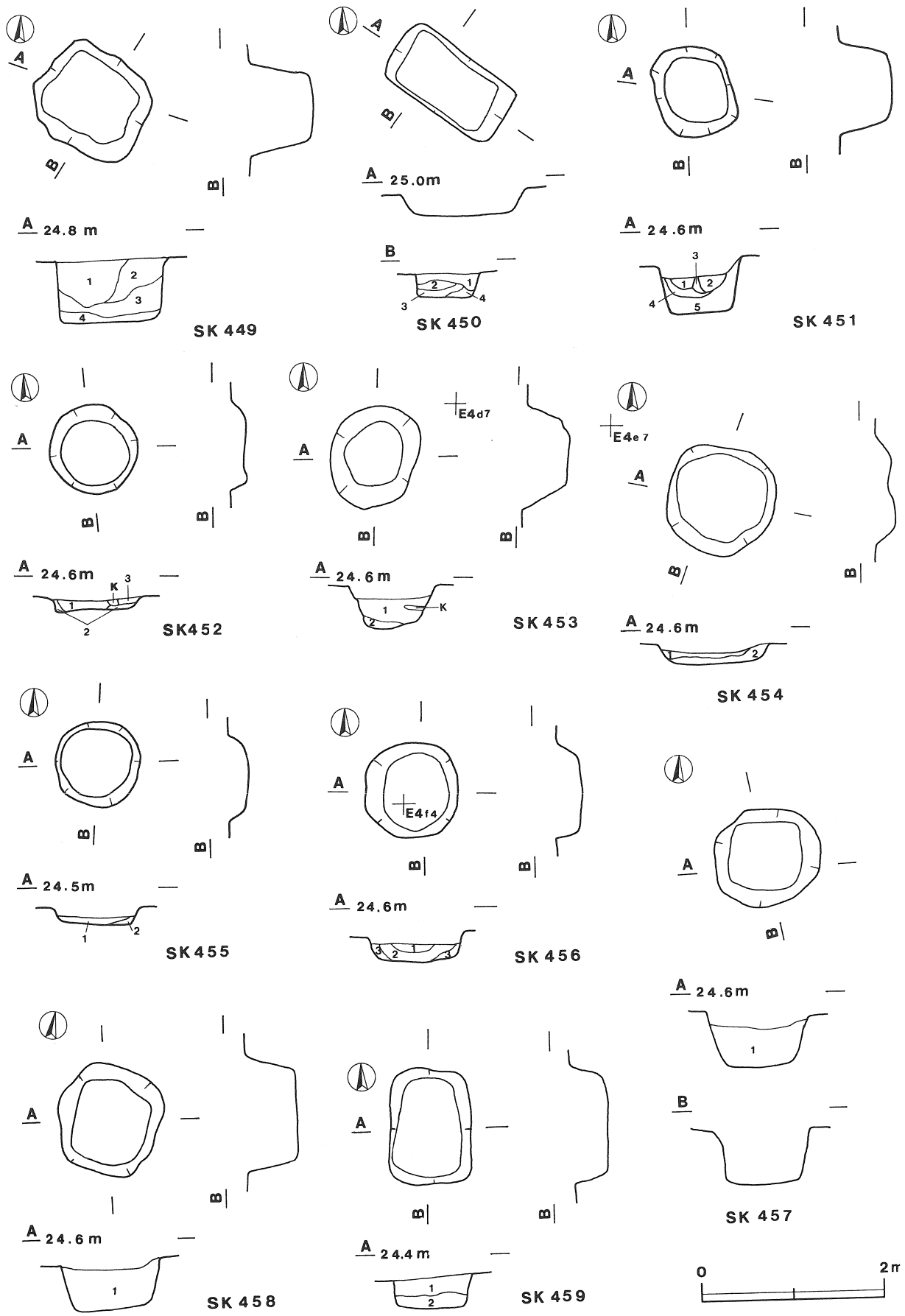
第473号土坑
1　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量
2　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量

第474号土坑
1　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　褐　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，ローム小ブロック少量
3　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック微量
4　褐　色　ローム粒子多量，ローム中・小ブロック少量

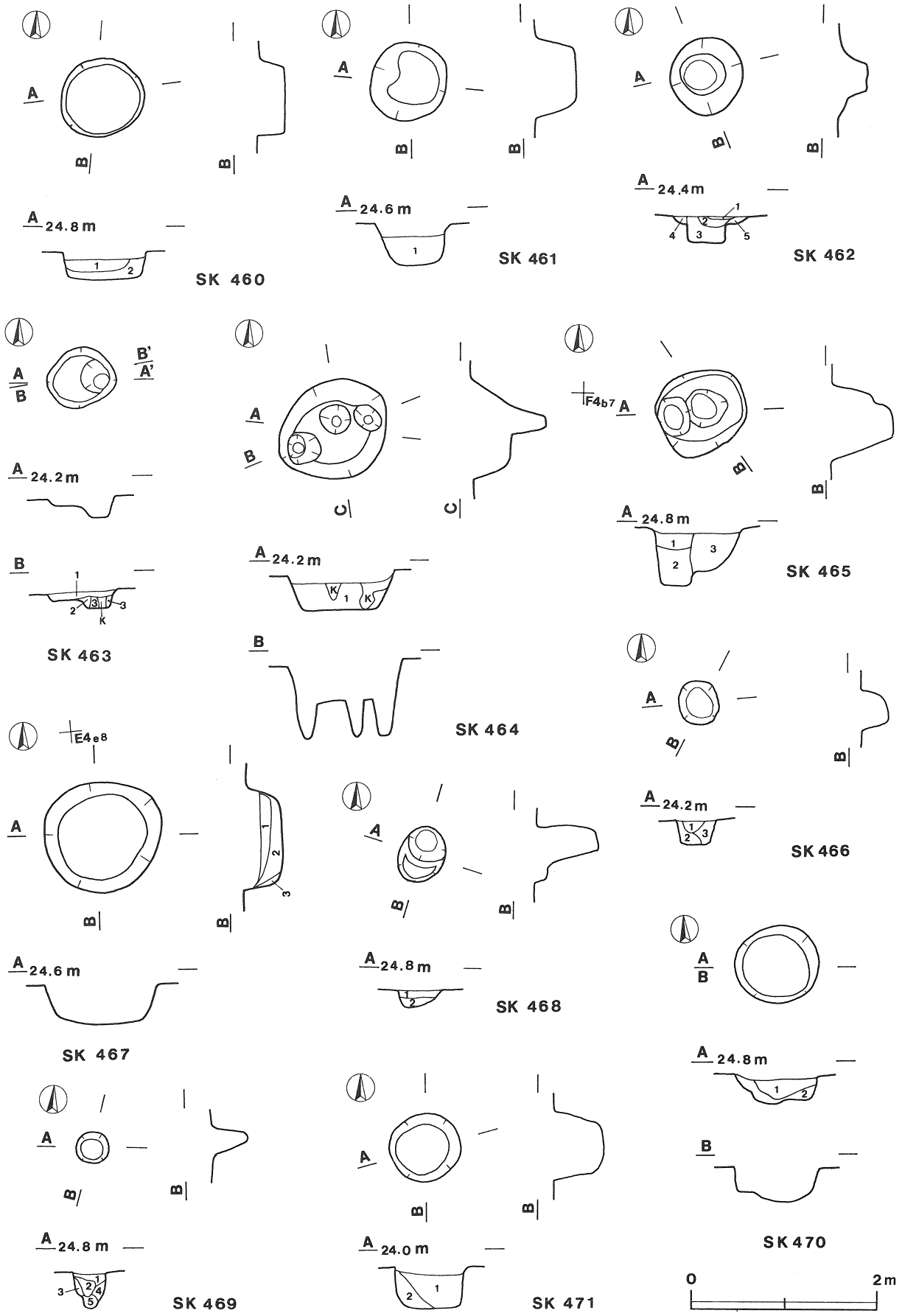
第475号土坑
1　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量



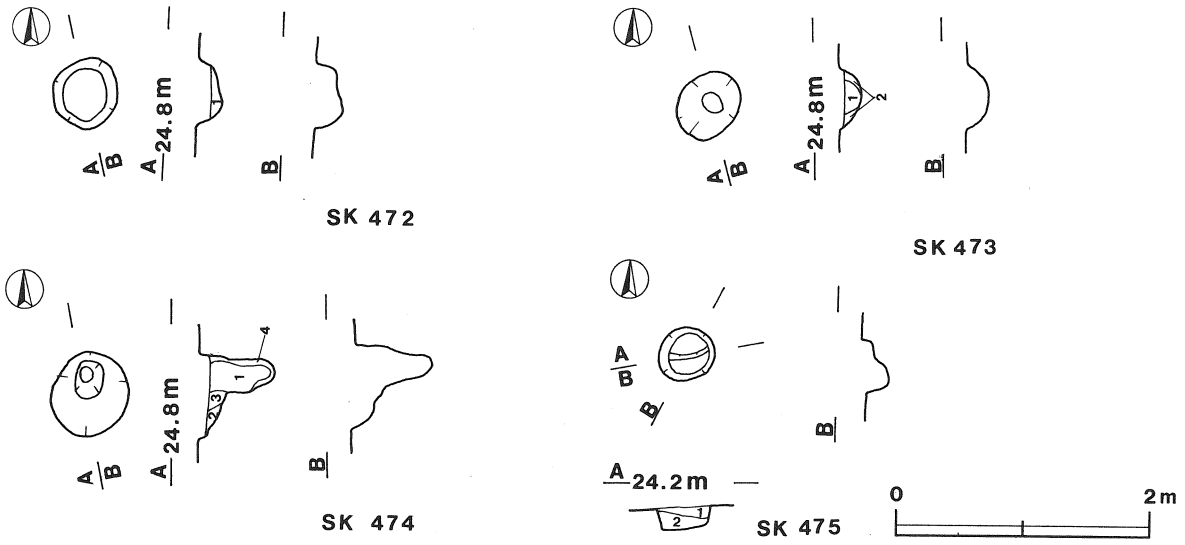
第390図　その他の土坑実測図（ⅡＢ区）（３）



第391図　その他の土坑実測図（ⅡＢ区）（４）



第392図　その他の土坑実測図（ⅡＢ区）(5)



第393図　その他の土坑実測図（ⅡＢ区）（６）

《Ⅲ区の土坑》

第603号土坑
1　暗褐色　ローム粒子少量，ローム中・小ブロック・焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子微量
3　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量

第604号土坑
1　黒褐色　炭化粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子少量，ローム中・小ブロック・炭化粒子微量

第605号土坑
1　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム中・小ブロック・粒子微量
3　暗褐色　ローム中ブロック微量
4　褐　色　ローム小ブロック・粒子中量，ローム中ブロック少量
5　褐　色　ローム中・小ブロック・粒子中量

第607・608号土坑
1　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・粒子微量
3　褐　色　ローム小ブロック・粒子中量
4　暗褐色　ローム小ブロック・粒子微量
5　褐　色　ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・粒子少量

第609号土坑
1　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子微量

第612号土坑
1　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
2　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
3　褐　色　ローム小ブロック・粒子中量
4　褐　色　ローム中ブロック・粒子中量

第613号土坑
1　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子微量

第614号土坑
1　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子少量

第616号土坑
1　暗褐色　ローム粒子微量

第617号土坑
1　暗褐色　ローム粒子微量，炭化粒子微量

第618号土坑
1　褐　色　ローム小ブロック・粒子少量，炭化粒子微量

第620号土坑
1　褐　色　ローム小ブロック・粒子中量，炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・炭化粒子微量

第622号土坑
1　暗褐色　炭化粒子微量
2　黒褐色　炭化粒子少量
3　暗褐色　ローム粒子微量
4　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

第624号土坑
1　暗褐色　ローム小ブロック微量
2　暗褐色　ローム粒子微量

第625号土坑
1　暗褐色　ローム粒子微量
2　褐　色　ローム粒子少量，ローム中・小ブロック微量

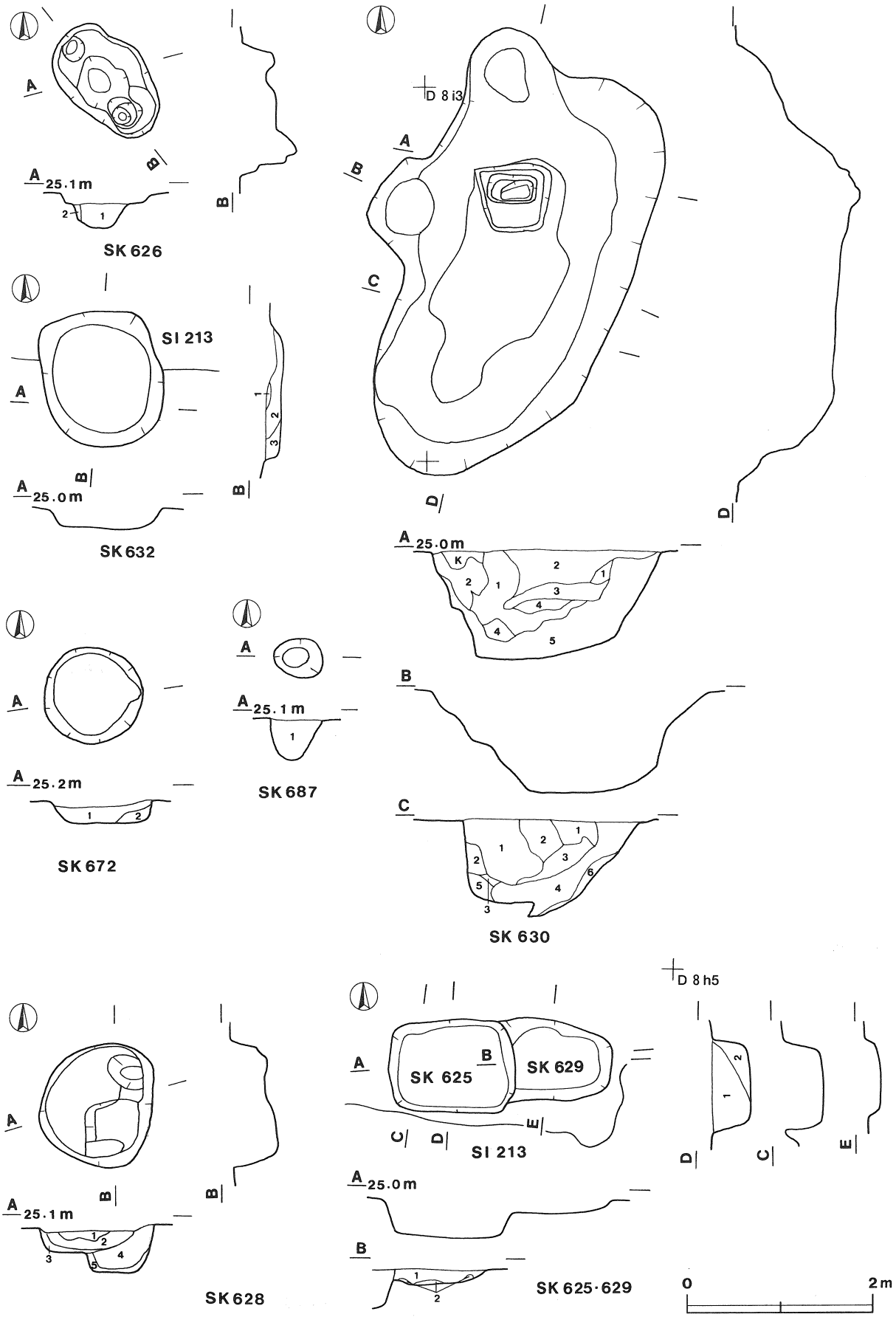
第626号土坑
1　褐　色　ローム小ブロック少量
2　暗褐色　ローム粒子微量

第628号土坑
1　褐　色　ローム粒子少量
2　にぶい黄褐色　ローム粒子少量
3　褐　色　ローム中ブロック中量
4　にぶい黄褐色　ローム小ブロック微量
5　褐　色　ローム粒子微量

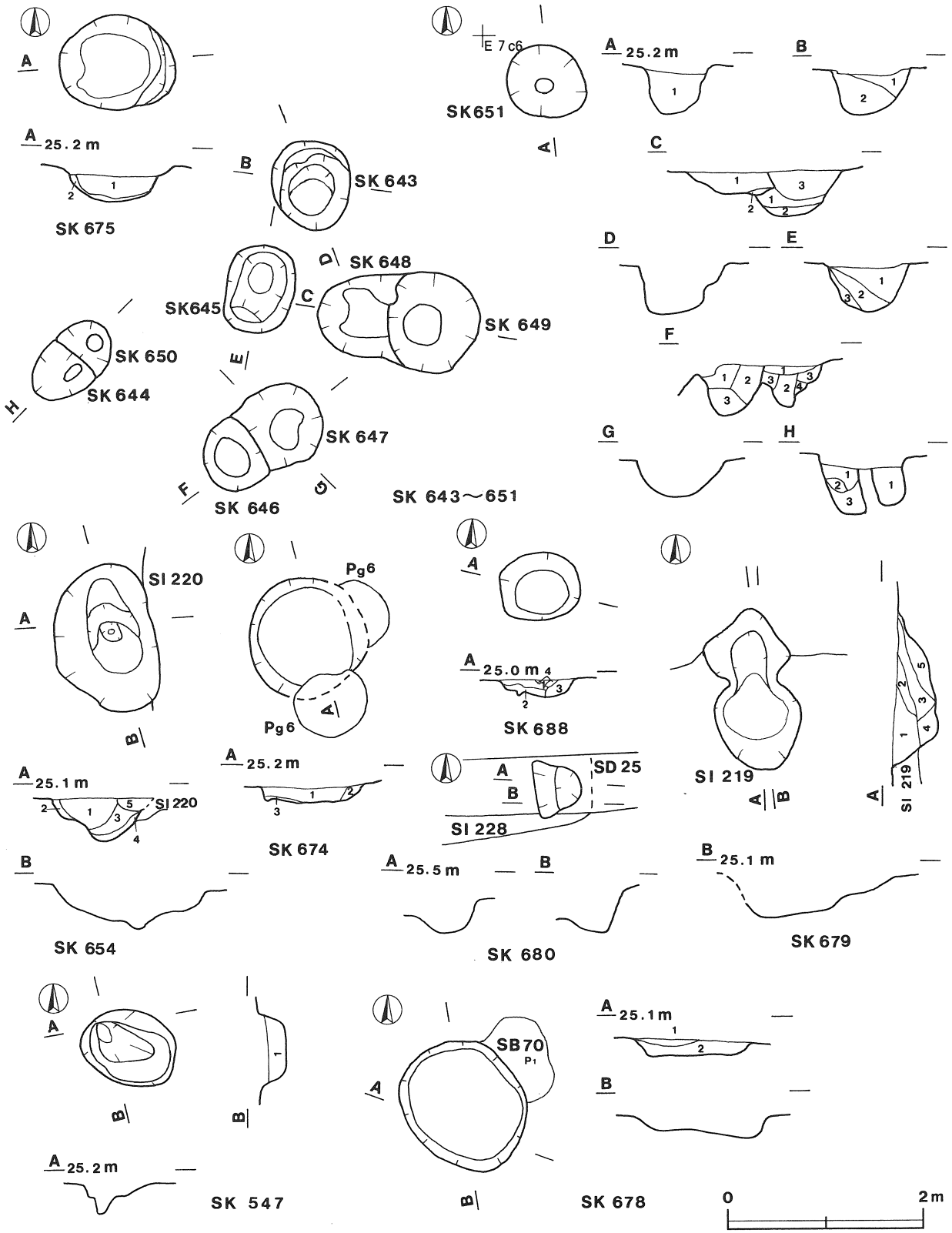
第629号土坑
1　暗褐色　ローム粒子微量
2　褐　色　ローム粒子中量

第630号土坑
1　暗褐色　炭化粒子中量，ローム中・小ブロック・炭化物微量
2　褐　色　ローム粒子少量
3　褐　色　ローム小ブロック・粒子中量，ローム中ブロック少量
4　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
5　褐　色　ローム小ブロック・粒子中量，ローム中ブロック微量
6　褐　色　ローム小ブロック・粒子中量

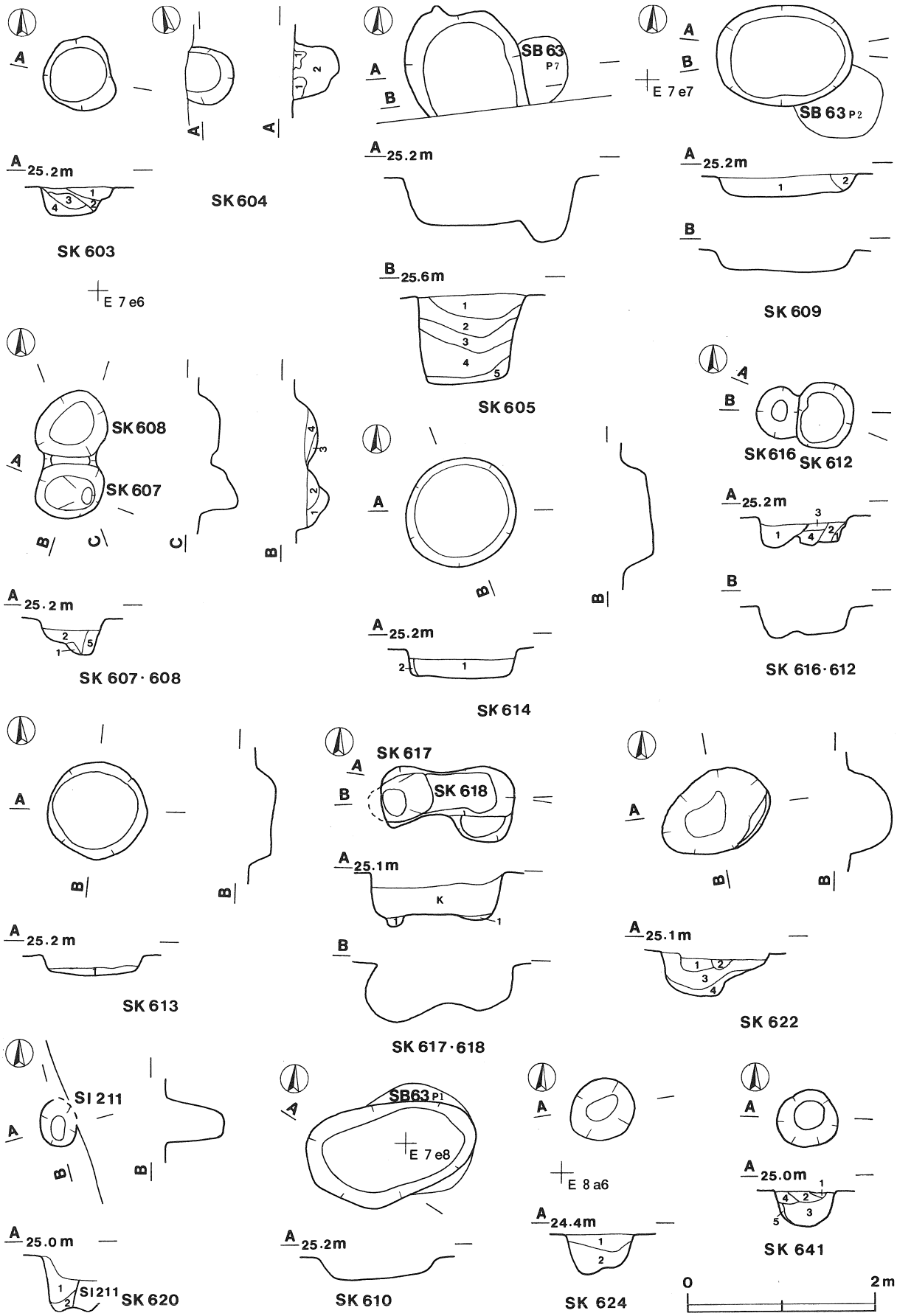
第632号土坑
1　暗褐色　ローム中ブロック微量
2　褐　色　ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
3　暗褐色　ローム小ブロック微量



第395図　その他の土坑実測図（Ⅲ区）（２）



第396図　その他の土坑実測図（Ⅲ区）（3）



第394図　その他の土坑実測図（Ⅲ区）（1）

第641号土坑
1　暗赤褐色　炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　にぶい黄褐色　砂質粘土粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム小ブロック・焼土粒子微量
4　暗褐色　ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
5　褐色　ローム小ブロック・粒子中量

第643号土坑
1　暗褐色　ローム小ブロック・粒子微量
2　褐色　ローム中ブロック少量，ローム粒子微量

第644号土坑
1　暗褐色　炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子微量

第645号土坑
1　暗褐色　ローム中ブロック・粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子微量
3　暗褐色　ローム中ブロック・粒子微量

第646号土坑
1　褐色　ローム粒子微量
2　暗褐色　ローム中ブロック少量，ローム大ブロック微量
3　褐色　ローム粒子少量

第647号土坑
1　暗褐色　ローム粒子微量
2　暗褐色　ローム中ブロック少量，ローム大ブロック微量
3　褐色　ローム粒子少量
4　褐色　ローム粒子中量

第648号土坑
1　暗褐色　ローム中ブロック微量
2　褐色　ローム中・小ブロック中量

第649号土坑
1　褐色　ローム粒子中量
2　褐色　ローム粒子少量
3　暗褐色　ローム粒子微量

第650号土坑
1　暗褐色　ローム小ブロック・粒子微量

第651号土坑
1　暗褐色　ローム中・小ブロック少量

第654号土坑
1　褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子少量
2　褐色　ローム中ブロック中量
3　暗褐色　ローム中ブロック中量
4　暗褐色　ローム中ブロック多量
5　褐色　ローム中ブロック多量

第672号土坑
1　暗褐色　炭化粒子微量
2　褐色　ローム粒子少量

第674号土坑
1　暗褐色　ローム小ブロック微量
2　暗褐色　炭化粒子微量
3　褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量

第675号土坑
1　暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子微量
2　褐色　ローム粒子多量

第678号土坑
1　暗褐色　焼土粒子微量
2　暗褐色　炭化粒子微量

第679号土坑
1　黄褐色　ローム小ブロック多量，ローム中ブロック中量，炭化物少量，焼土粒子微量
2　黒褐色　ローム小ブロック少量
3　褐色　ローム中ブロック少量
4　褐色　ローム中・小ブロック少量
5　暗褐色　ローム中ブロック中量

第687号土坑
1　暗褐色　ローム小ブロック微量

第688号土坑
1　暗褐色　炭化粒子・焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子少量
3　暗褐色　炭化粒子微量
4　褐色　ローム大ブロック・粒子中量

《Ⅳ区の土坑》
第499号土坑
1　暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量，炭化粒子・焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・粒子中量，ローム中ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
4　暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量

第500号土坑
1　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
2　褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量

第506号土坑
1　暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子・焼土粒子微量
2　褐色　ローム小ブロック・粒子少量，炭化粒子・焼土粒子微量
3　暗褐色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量

第508号土坑
1　暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子・焼土粒子微量
2　褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
3　暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

第509号土坑
1　暗褐色　ローム小ブロック少量

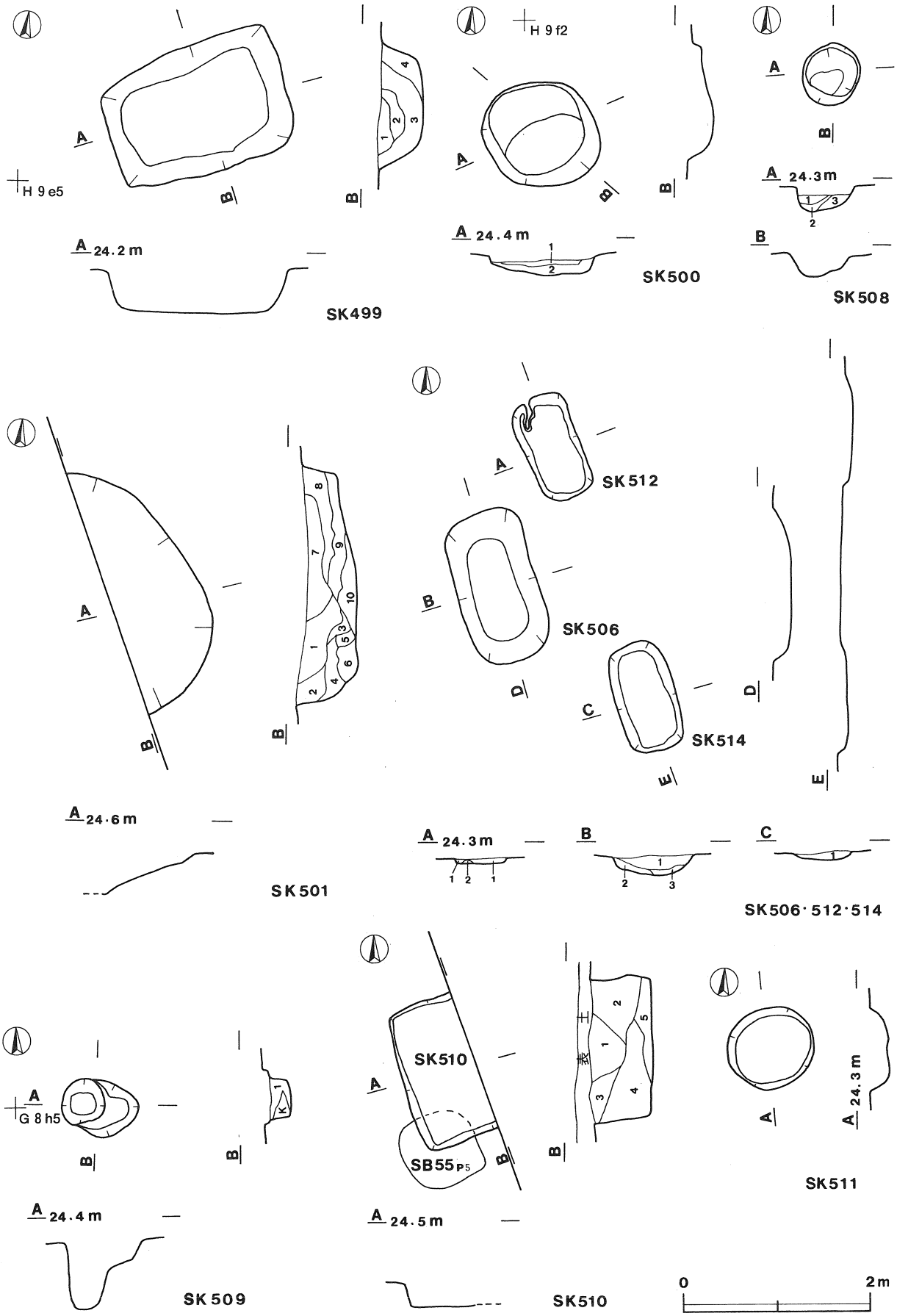
第510号土坑
1　褐色　ローム小ブロック中量
2　褐色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
3　暗褐色　ローム小ブロック少量
4　暗褐色　ローム中ブロック多量
5　暗褐色　ローム小ブロック中量

第512号土坑
1　暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子・焼土粒子微量
2　褐色　ローム中・小ブロック・粒子多量

第513号土坑
1　暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子・焼土粒子微量
2　褐色　ローム粒子・焼土粒子少量

第514号土坑
1　暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子・焼土粒子微量

第515号土坑
1　褐色　ローム中・小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，ローム大ブロック・焼土粒子微量
2　暗褐色　炭化粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量



第397図　その他の土坑実測図（Ⅳ区）（1）

第516号土坑
1　褐　　色　ローム粒子少量
2　暗 褐 色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

第517号土坑
1　褐　　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，炭化粒子・焼土粒子微量
3　褐　　色　ローム中ブロック・粒子少量，炭化粒子微量

第518･519号土坑
1　褐　　色　ローム中・小ブロック・粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ローム中・小ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子・焼土粒子微量
3　褐　　色　ローム中・小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
4　暗 褐 色　ローム中・小ブロック・粒子少量，炭化粒子・焼土粒子微量

第520号土坑
1　暗 褐 色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量

第521号土坑
1　暗 褐 色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量

第522号土坑
1　暗 褐 色　ローム中・小ブロック・粒子少量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・炭化粒子・焼土粒子微量
3　暗 褐 色　ローム中・小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量

第523号土坑
1　暗 褐 色　ローム粒子・炭化粒子少量，ローム中・小ブロック・焼土粒子微量
2　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子多量，ローム中・小ブロック中量，炭化粒子・焼土粒子微量

第524号土坑
1　暗 褐 色　ローム小ブロック・粒子少量，炭化粒子・焼土粒子微量
2　暗 褐 色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・粒子少量，炭化粒子・焼土粒子微量

第525号土坑
1　暗 褐 色　ローム中・小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量

第526号土坑
1　暗 褐 色　ローム中・小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量

第527号土坑
1　黒 褐 色　ローム中・小ブロック中量，ローム粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量

第528号土坑
1　黒 褐 色　ローム粒子多量，ローム中・小ブロック・焼土小ブロック中量，焼土粒子微量
2　黒 褐 色　ローム小ブロック・粒子中量，ローム中ブロック少量
3　暗 褐 色　ローム中・小ブロック・粒子中量

第529号土坑
1　黒 褐 色　ローム小ブロック・粒子少量，ローム中ブロック微量
2　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量

第530号土坑
1　暗 褐 色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・粒子少量，炭化粒子・焼土粒子微量

第531号土坑
1　黒 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
2　褐　　色　ローム粒子少量
3　褐　　色　ローム大ブロック多量
4　暗 褐 色　ローム中ブロック中量

第532号土坑
1　暗 褐 色　ローム小ブロック微量
2　にぶい黄褐色　ローム中ブロック中量
3　褐　　色　ローム小ブロック中量

第533号土坑
1　暗 褐 色　炭化粒子・焼土粒子微量
2　暗 褐 色　ローム中・小ブロック・粒子少量
3　暗 褐 色　ローム粒子微量

第534号土坑
1　褐　　色　ローム粒子中量
2　明 褐 色　ローム中・小ブロック少量

第536号土坑
1　暗 褐 色　ローム小ブロック・粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子多量，ローム中・小ブロック中量

第537号土坑
1　黒 褐 色　ローム小ブロック・粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量

第538号土坑
1　黒 褐 色　ローム小ブロック・粒子少量
2　黒 褐 色　ローム粒子少量
3　暗 褐 色　ローム小ブロック・粒子中量

第539号土坑
1　暗 褐 色　炭化粒子少量，ローム粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

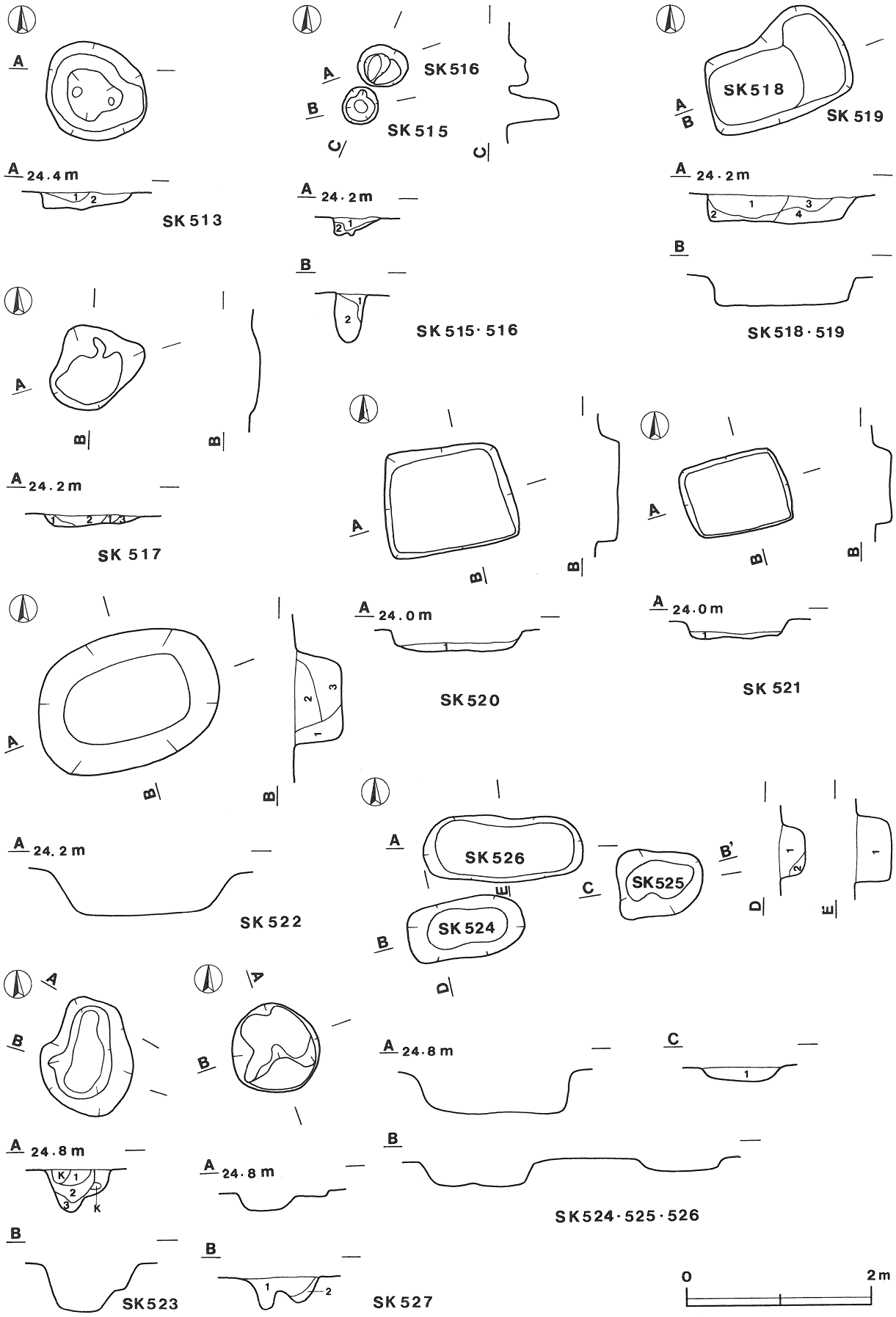
第540号土坑
1　暗 褐 色　ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック微量
2　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

第541号土坑
1　暗 褐 色　ローム中ブロック・粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　暗 褐 色　ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・粒子少量，焼土粒子微量
4　暗 褐 色　ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・粒子少量，炭化粒子・焼土粒子微量
5　暗 褐 色　ローム小ブロック・粒子少量，炭化粒子・焼土粒子微量
6　暗 褐 色　ローム小ブロック・粒子少量，炭化粒子微量

第542号土坑
1　暗 褐 色　ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　暗 褐 色　ローム中・小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量

第543号土坑
1　暗 褐 色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量
2　暗 褐 色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
3　暗 褐 色　ローム中・小ブロック・粒子少量，炭化粒子・焼土粒子微量
4　暗 褐 色　ローム中・小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
5　暗 褐 色　ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック微量
6　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子微量

第544号土坑
1　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子微量
3　暗 褐 色　ローム粒子少量，ローム中・小ブロック・焼土粒子微量



第398図　その他の土坑実測図（Ⅳ区）（２）

第545号土坑
1　暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

第546号土坑
1　褐　　色　ローム中ブロック多量
2　暗 褐 色　ローム小ブロック少量

第547号土坑（Ⅲの土杭）
1　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量

第548号土坑
1　暗 褐 色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・粒子少量，炭化材・炭化粒子・焼土粒子微量

第549号土坑
1　褐　　色　ローム粒子多量，ローム中・小ブロック中量
2　暗 褐 色　ローム中・小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子少量
3　暗 褐 色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・粒子少量，炭化粒子・焼土粒子微量

第551号土坑
1　暗 褐 色　ローム粒子少量，ローム中・小ブロック・焼土粒子微量
2　褐　　色　ローム中ブロック・粒子中量，ローム小ブロック少量

第552号土坑
1　褐　　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子・焼土粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子少量，ローム中・小ブロック・炭化粒子・焼土粒子微量

第553号土坑
1　褐　　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
2　褐　　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子微量
3　褐　　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　褐　　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子・焼土粒子微量
5　褐　　色　ローム小ブロック・粒子中量
6　褐　　色　ローム小ブロック・粒子中量，ローム中ブロック少量
7　褐　　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子・焼土粒子微量
8　褐　　色　ローム小ブロック・粒子中量，ローム中ブロック少量
9　褐　　色　ローム小ブロック・粒子中量

第554号土坑
1　褐　　色　ローム小ブロック・粒子少量
2　暗 褐 色　ローム小ブロック・粒子少量，炭化粒子微量
3　暗 褐 色　ローム粒子少量，炭化粒子・焼土粒子微量
4　暗 褐 色　ローム粒子中量，炭化粒子・焼土粒子微量

第555号土坑
1　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子微量
2　褐　　色　ローム大ブロック多量
3　褐　　色　ローム中ブロック多量

第556号土坑
1　暗 褐 色　ローム粒子微量
2　極暗褐色　ローム小ブロック少量

第557号土坑
1　褐　　色　ローム中・小ブロック・粒子中量，炭化粒子・焼土粒子微量
2　暗 褐 色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・粒子少量，炭化粒子・焼土粒子微量
3　褐　　色　ローム中・小ブロック・粒子中量，炭化粒子・焼土粒子微量
4　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量

第558号土坑
1　褐　　色　ローム中ブロック微量
2　明 褐 色　ローム中ブロック少量

第559号土坑
1　褐　　色　ローム中ブロック微量
2　褐　　色　ローム中ブロック少量
3　明 褐 色　ローム大ブロック多量

第560号土坑
1　褐　　色　ローム中ブロック多量
2　暗 褐 色　ローム小ブロック多量

第561号土坑
1　暗 褐 色　ローム小ブロック多量
2　褐　　色　ローム中ブロック多量
3　明 褐 色　ローム大ブロック多量

第563号土坑
1　黒 褐 色　ローム中・小ブロック・粒子少量，ローム大ブロック・炭化粒子・焼土粒子微量
2　黒 褐 色　ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・粒子少量，焼土粒子微量

第564号土坑
1　暗 褐 色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子微量
3　暗 褐 色　ローム粒子微量
4　褐　　色　ローム中・小ブロック・粒子少量，焼土粒子微量
5　褐　　色　ローム小ブロック・粒子少量

第565号土坑
1　暗 褐 色　ローム中ブロック中量，ローム粒子少量，ローム大ブロック・炭化粒子微量
2　黒 褐 色　ローム中ブロック・粒子少量，ローム大ブロック・炭化粒子微量
3　極暗褐色　ローム粒子少量，ローム大・中ブロック微量
4　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
5　黒 褐 色　ローム粒子少量，ローム大・中ブロック微量
6　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
7　暗 褐 色　ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・粒子少量，炭化粒子微量
8　暗 褐 色　ローム中ブロック・粒子少量，炭化粒子微量
9　暗 褐 色　ローム中ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
10　黄 褐 色　ローム中ブロック多量

第566号土坑
1　褐　　色　焼土中ブロック中量，ローム小ブロック少量
2　黄 褐 色　ローム中ブロック中量
3　褐　　色　ローム小ブロック少量
4　黄 褐 色　焼土大ブロック多量
5　褐　　色　ローム中ブロック少量

第567号土坑
1　極暗褐色　焼土粒子中量，ローム中ブロック・焼土小ブロック少量
2　褐　　色　ローム中ブロック少量，焼土小ブロック微量
3　褐　　色　ローム中ブロック中量，焼土小ブロック中量
4　褐　　色　ローム中ブロック中量

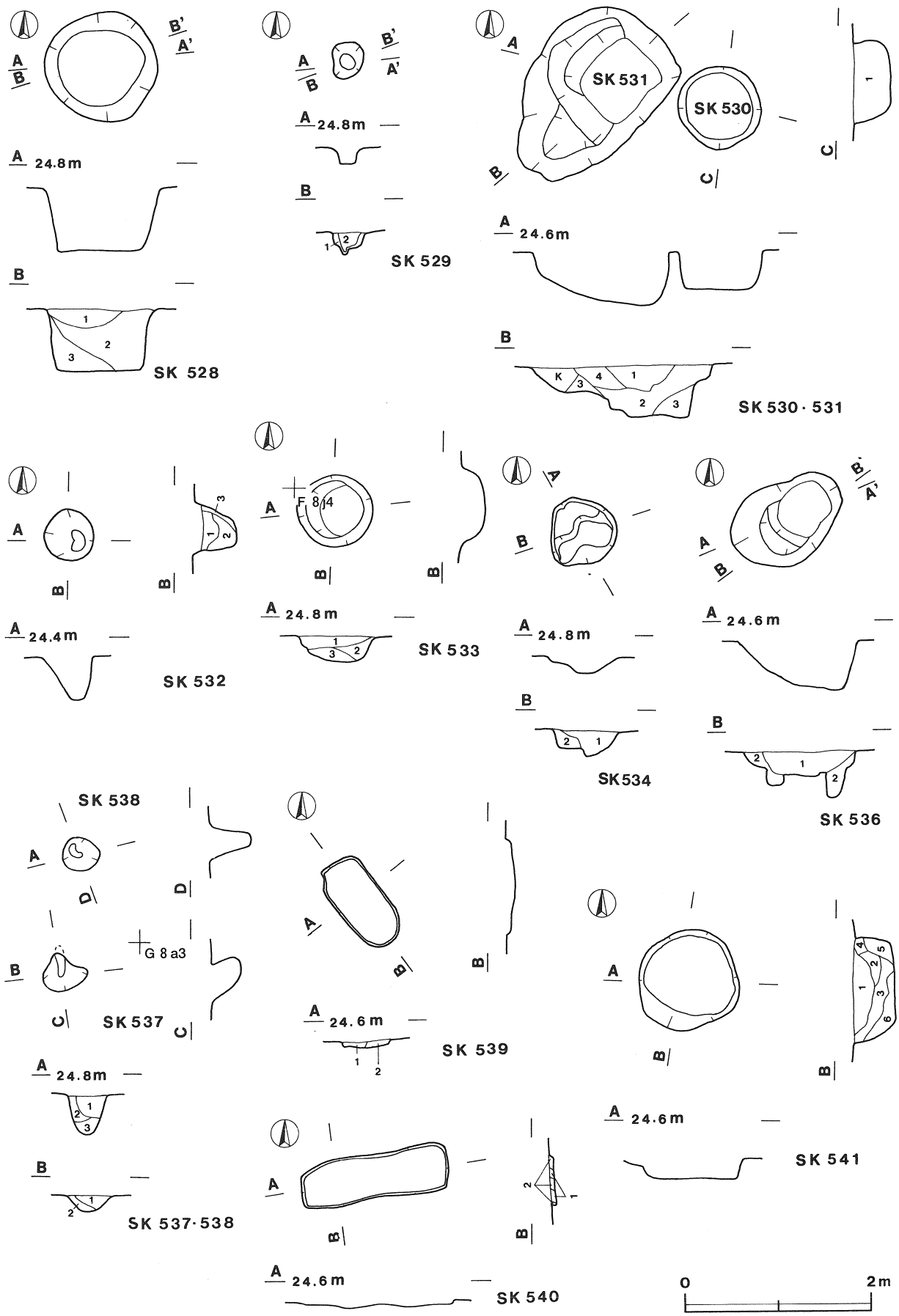
第570号土坑
1　褐　　色　ローム小ブロック・粒子中量，炭化物・焼土小ブロック少量
2　暗 褐 色　ローム小ブロック・粒子少量，焼土小ブロック微量
3　暗 褐 色　炭化物・焼土小ブロック少量，ローム小ブロック微量

第571号土坑
1　暗 褐 色　ローム粒子・焼土小ブロック中量，ローム小ブロック少量
2　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子中量

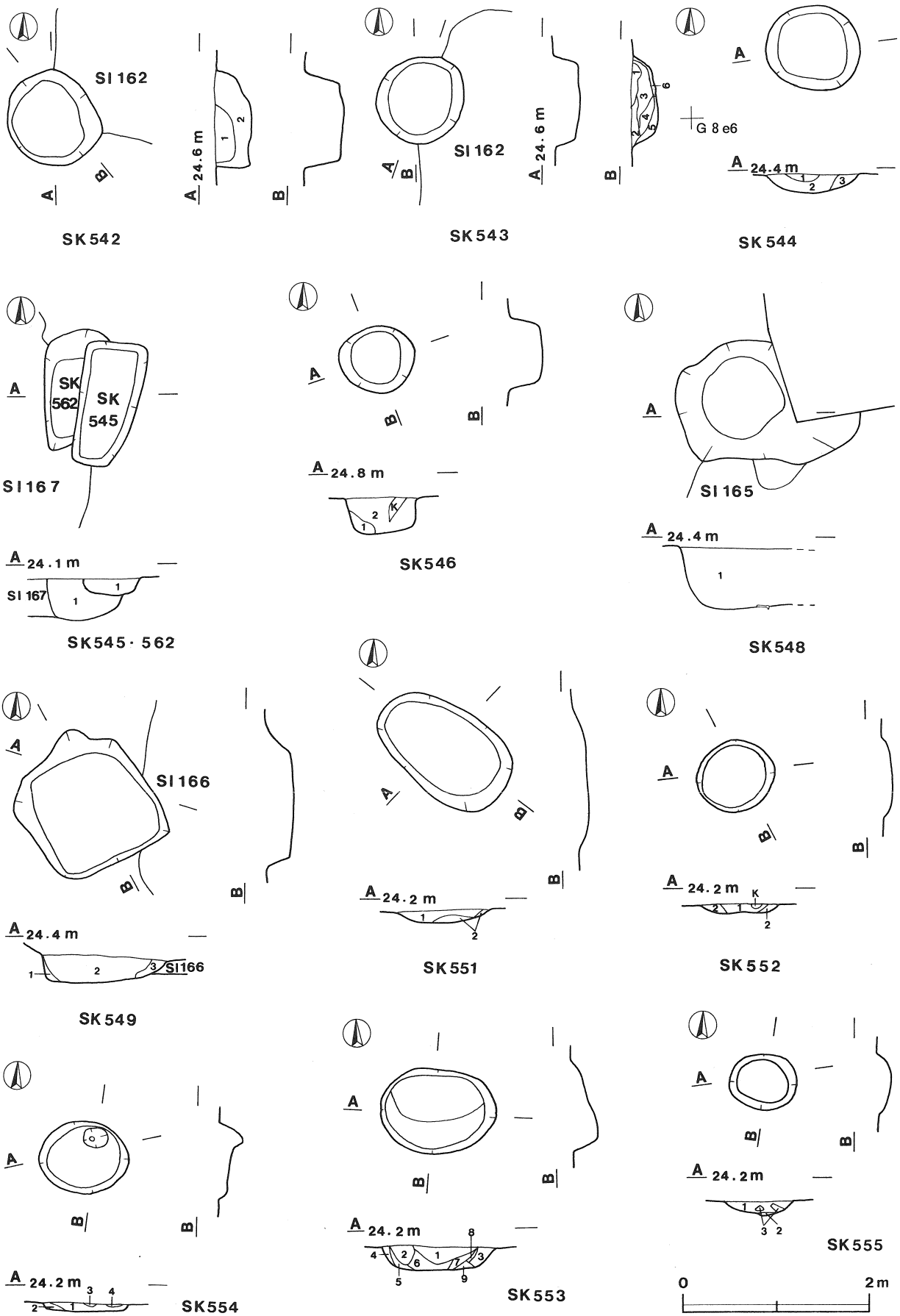
第573号土坑
1　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子少量，ローム中ブロック微量
2　黒 褐 色　ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック微量
3　黒 褐 色　ローム中・小ブロック・粒子少量，焼土粒子微量

第574号土坑
1　褐　　色　焼土小ブロック少量，ローム中ブロック微量

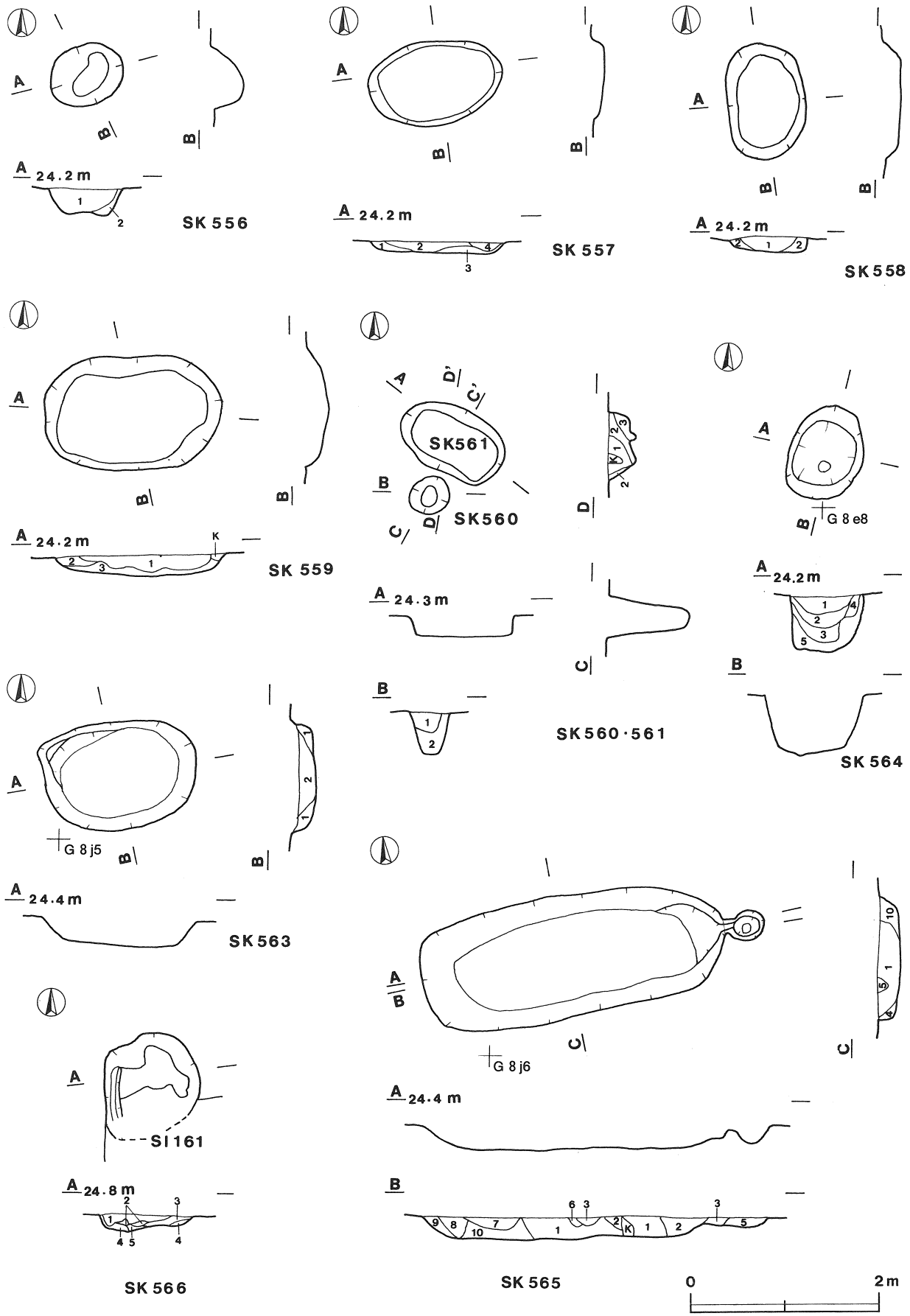
第580号土坑
1　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
2　褐　　色　焼土中・小ブロック・粒子中量
3　褐　　色　ローム小ブロック少量，焼土粒子微量



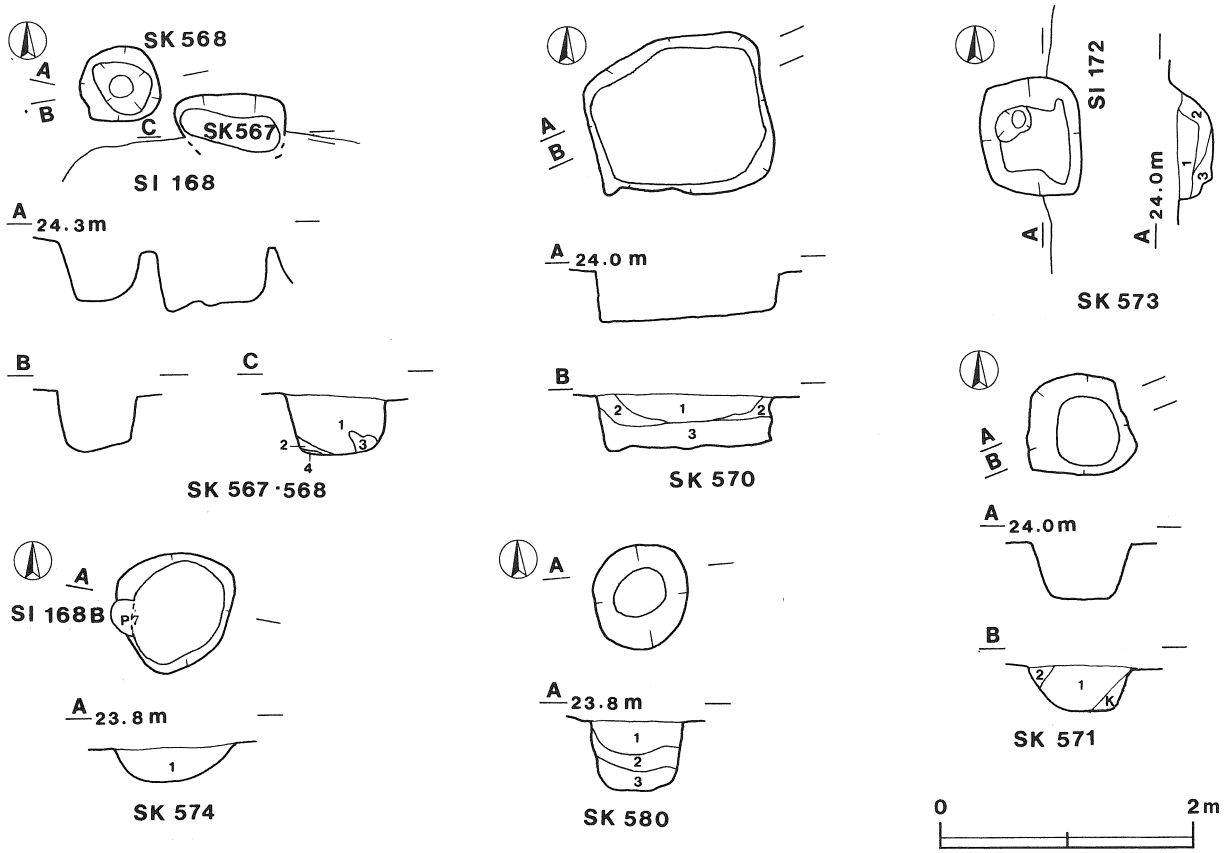
第399図　その他の土坑実測図（Ⅳ区）（3）



第400図　その他の土坑実測図（Ⅳ区）（４）



第401図　その他の土坑実測図（Ⅳ区）（５）



第402図　その他の土坑実測図（Ⅳ区）（6）

《Ⅴ区の土坑》

第476号土坑
1　明褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量
2　明褐色　ローム小ブロック・粒子・粘土小ブロック中量，焼土粒子微量
3　明褐色　ローム粒子多量，焼土粒子微量

第477号土坑
1　褐　色　ローム中ブロック中量，炭化物微量
2　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・炭化物少量
3　褐　色　ローム大ブロック中量

第478号土坑
1　褐　色　ローム中ブロック中量，炭化物少量

第479号土坑
1　褐　色　ローム中ブロック少量
2　黄褐色　ローム大ブロック多量

第480号土坑
1　褐　色　ローム中ブロック中量

第481号土坑
1　褐　色　ローム粒子中量
2　褐　色　ローム中ブロック多量
3　褐　色　ローム粒子微量
4　褐　色　ローム中ブロック中量
5　黄褐色　ローム小ブロック少量

第482A号土坑
1　暗褐色　ローム中・小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
2　褐　色　ローム中・小ブロック・粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量

第483号土坑
1　褐　色　ローム中・小ブロック少量
2　褐　色　ローム中ブロック微量
3　褐　色　ローム小ブロック多量
4　明褐色　ローム粒子多量

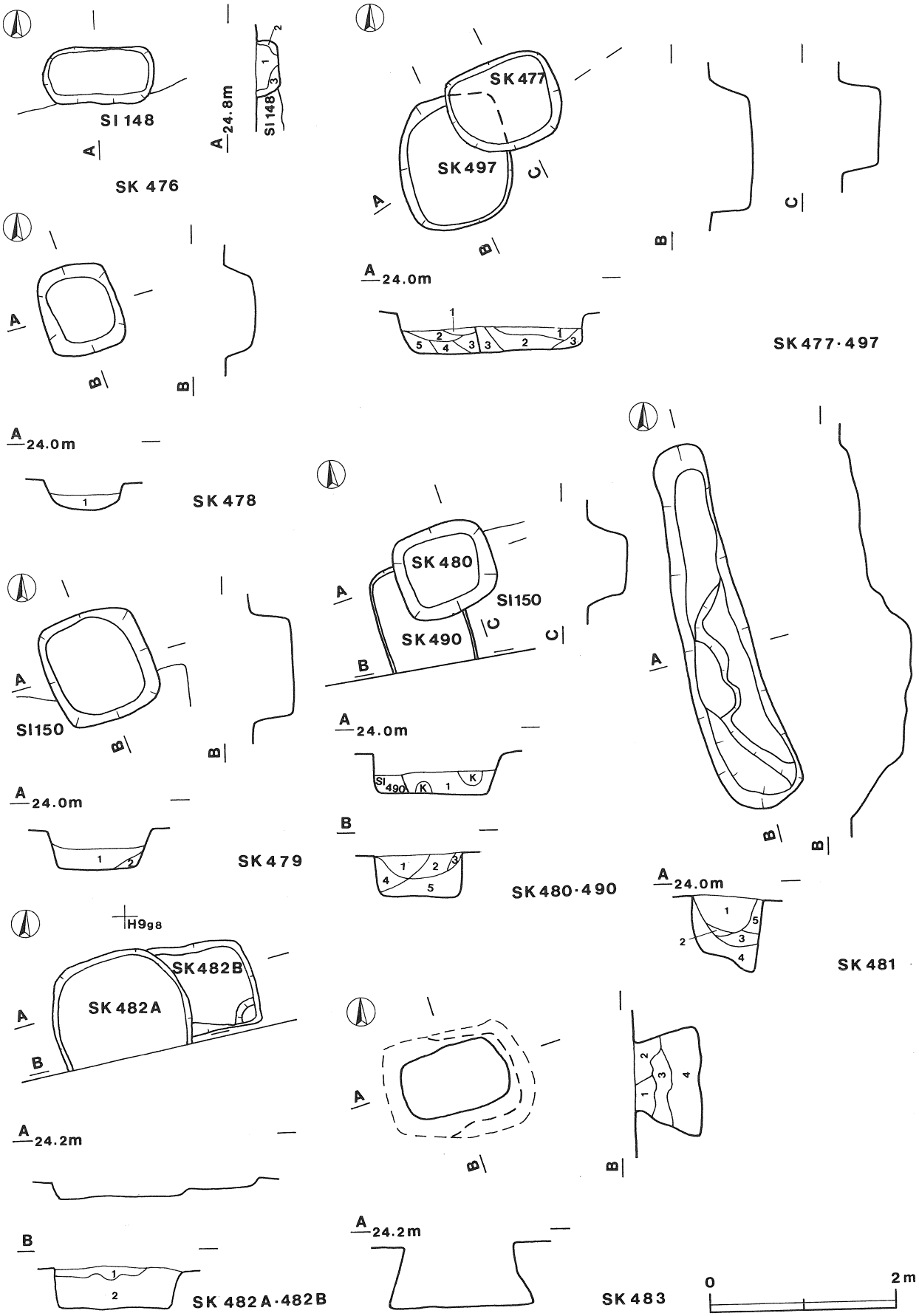
第484号土坑
1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
2　褐　色　ローム大ブロック・粒子少量，炭化物微量
3　褐　色　ローム小ブロック少量
4　褐　色　ローム中ブロック少量
5　褐　色　ローム中ブロック微量
6　暗褐色　ローム粒子少量

第485号土坑
1　黒褐色　ローム中・小ブロック微量
2　褐　色　ローム大ブロック中量

第486号土坑
1　褐　色　ローム中ブロック中量
2　褐　色　ローム大・小ブロック中量
3　褐　色　ローム中ブロック多量
4　暗褐色　ローム粒子微量

第487号土坑
1　黒褐色　ローム小ブロック少量，ローム大ブロック微量
2　暗褐色　ローム中ブロック少量，焼土小ブロック微量
3　褐　色　ローム中ブロック中量
4　褐　色　ローム中ブロック多量
5　暗褐色　ローム粒子少量

第488号土坑
1　暗赤褐色　焼土中ブロック・粒子少量
2　暗褐色　ローム中ブロック・焼土粒子少量
3　暗褐色　焼土中ブロック中量，ローム中ブロック少量
4　明褐色　ローム大ブロック多量
5　褐　色　ローム小ブロック微量



第403図　その他の土坑実測図（Ⅴ区）（1）

第490号土坑
1 褐　色　ローム小ブロック・粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 褐　色　ローム小ブロック・粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3 褐　色　ローム小ブロック・粒子中量，ローム中ブロック・炭化粒子少量
4 褐　色　ローム小ブロック中量，ローム中・小ブロック少量
5 褐　色　ローム小ブロック・粒子中量，炭化粒子微量

第491号土坑
1 暗褐色　ローム小ブロック微量
2 明褐色　ローム中ブロック中量

第492号土坑
1 褐　色　ローム小ブロック中量
2 褐　色　ローム中ブロック多量
3 褐　色　ローム粒子少量

第493号土坑
1 褐　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量

第494号土坑
1 暗褐色　ローム小ブロック少量
2 褐　色　ローム中ブロック中量
3 明褐色　ローム大ブロック多量

第495号土坑
1 褐　色　ローム中・小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
2 褐　色　ローム小ブロック・粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3 褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

第496A・496B号土坑
1 褐　色　ローム小ブロック・粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量
3 褐　色　ローム中・小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
4 褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
5 褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量
6 褐　色　ローム粒子多量，ローム中・小ブロック中量
7 暗褐色　ローム中・小ブロック・粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

第497号土坑
1 褐　色　ローム中ブロック中量
2 褐　色　ローム粒子中量，ローム中・小ブロック少量
3 褐　色　ローム小ブロック多量，ローム中ブロック少量
4 褐　色　ローム中ブロック中量
5 褐　色　ローム中・小ブロック中量

第498号土坑
1 褐　色　ローム小ブロック・粒子中量，ローム中ブロック微量
2 褐　色　ローム小ブロック・粒子中量，炭化粒子微量
3 褐　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，炭化粒子微量

第501号土坑（Ⅳ区）
1 暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量
2 褐　色　ローム粒子中量，ローム中・小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3 褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量
4 褐　色　ローム小ブロック・粒子中量，ローム中ブロック・炭化粒子微量
5 暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量
6 褐　色　ローム粒子中量，ローム中・小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7 暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
8 褐　色　ローム中・小ブロック・粒子少量，炭化粒子微量
9 暗褐色　ローム中ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
10 暗褐色　ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック微量

第502号土坑
1 黒褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量

第503号土坑
1 暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック微量
2 褐　色　ローム小ブロック・粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

第504号土坑
1 暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色　焼土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
3 褐　色　ローム粒子中量，ローム中・小ブロック・焼土粒子微量

第505号土坑
1 褐　色　ローム小ブロック中量，焼土粒子微量

第577号土坑
1 暗褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
2 褐　色　ローム小ブロック・粒子少量

第579号土坑
1 黒褐色　炭化粒子中量，炭化物少量
2 褐　色　ローム小ブロック・粒子中量，ローム中ブロック少量

第581号土坑
1 暗褐色　ローム粒子微量
2 褐　色　ローム小ブロック・粒子少量

第582号土坑
1 黒褐色　炭化粒子微量
2 褐　色　ローム粒子多量
3 黒褐色　炭化粒子少量

第583号土坑
1 暗褐色　ローム小ブロック・粒子微量

第584号土坑
1 暗褐色　炭化粒子微量
2 褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック微量

第585号土坑
1 褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック微量

第586号土坑
1 暗褐色　ローム小ブロック微量
2 暗褐色　ローム粒子微量
3 褐　色　ローム粒子少量

第587号土坑
1 暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量

第588号土坑
1 暗褐色　焼土粒子・炭化粒子微量
2 褐　色　ローム粒子少量
3 暗褐色　ローム粒子微量
4 褐　色　ローム中ブロック微量
5 褐　色　ローム粒子中量

第589号土坑
1 褐　色　ローム粒子少量

第590号土坑
1 暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2 褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量

第591号土坑
1 暗褐色　炭化粒子微量

第592号土坑
1 黒褐色　炭化粒子微量
2 褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

第593号土坑
1 暗褐色　ローム粒子微量
2 褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

第594号土坑
1 暗褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色　ローム粒子微量

第595号土坑
1 褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
2 褐　色　ローム粒子中量

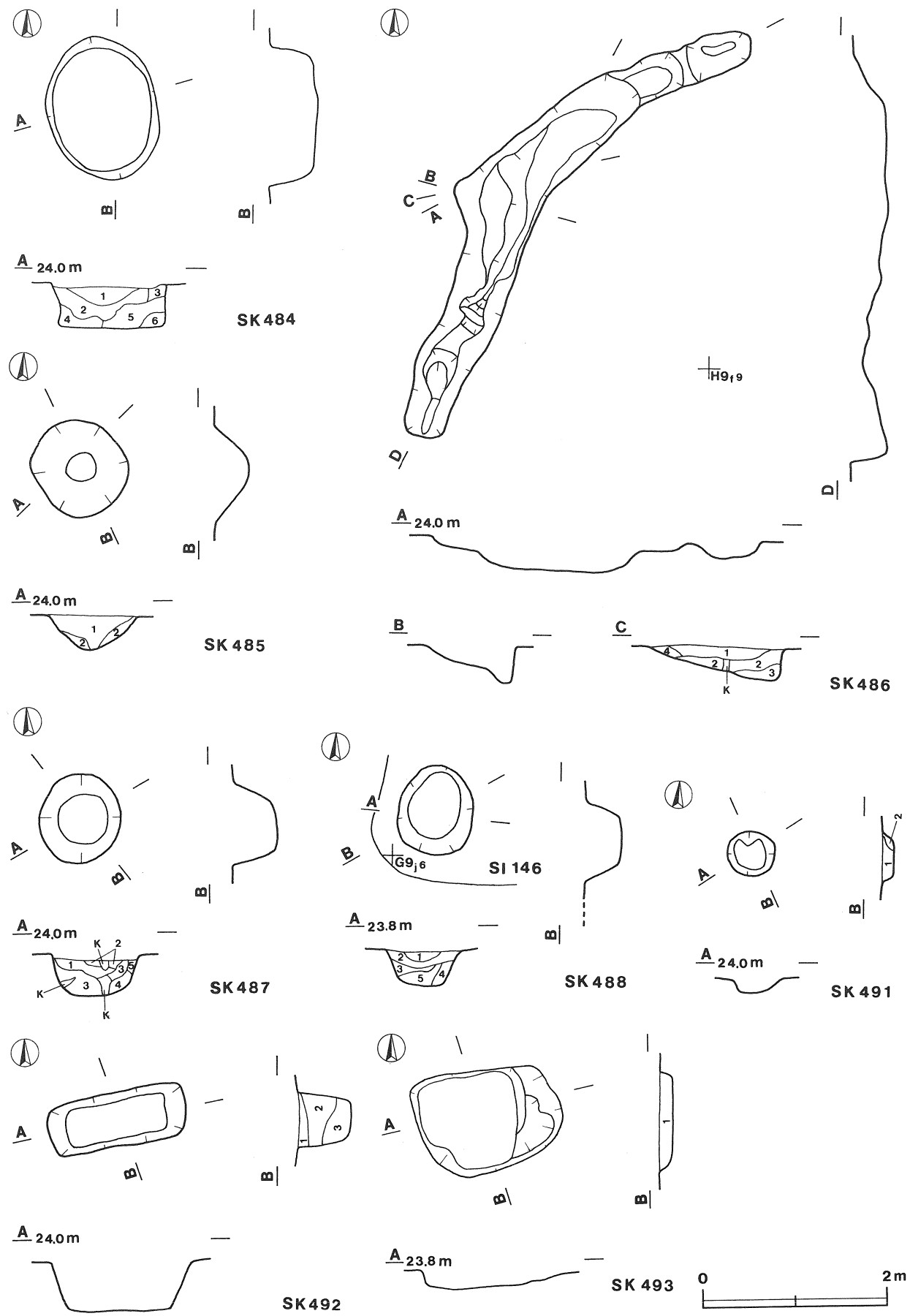
第596号土坑
1 暗褐色　ローム小ブロック微量
2 暗褐色　ローム粒子微量
3 褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量

第597号土坑
1 暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量
2 褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
3 暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子微量
4 褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量

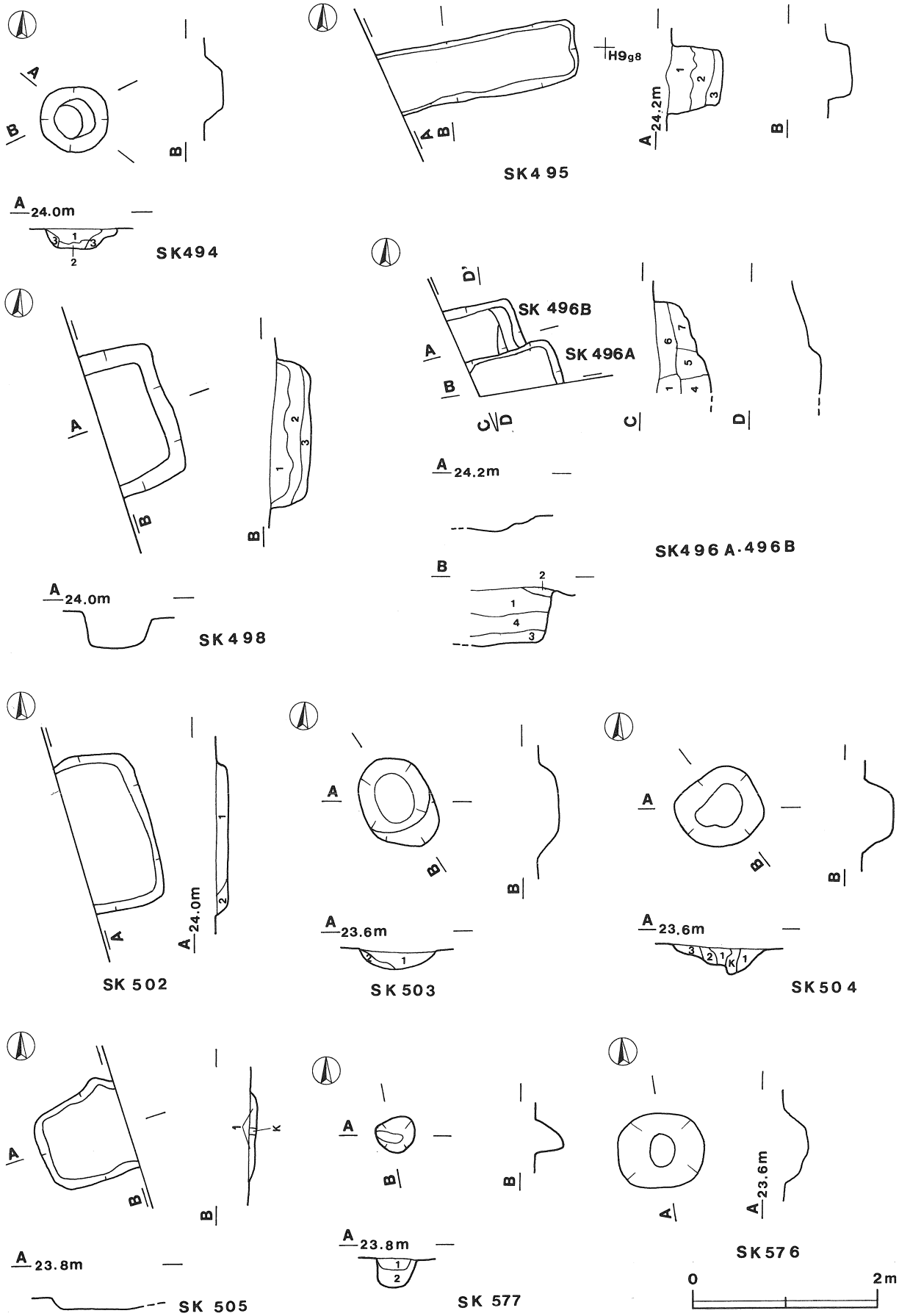
第598号土坑
1 暗褐色　ローム粒子微量
2 褐　色　ローム粒子少量

第599号土坑
1 褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
2 褐　色　ローム小ブロック・粒子少量
3 褐　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量

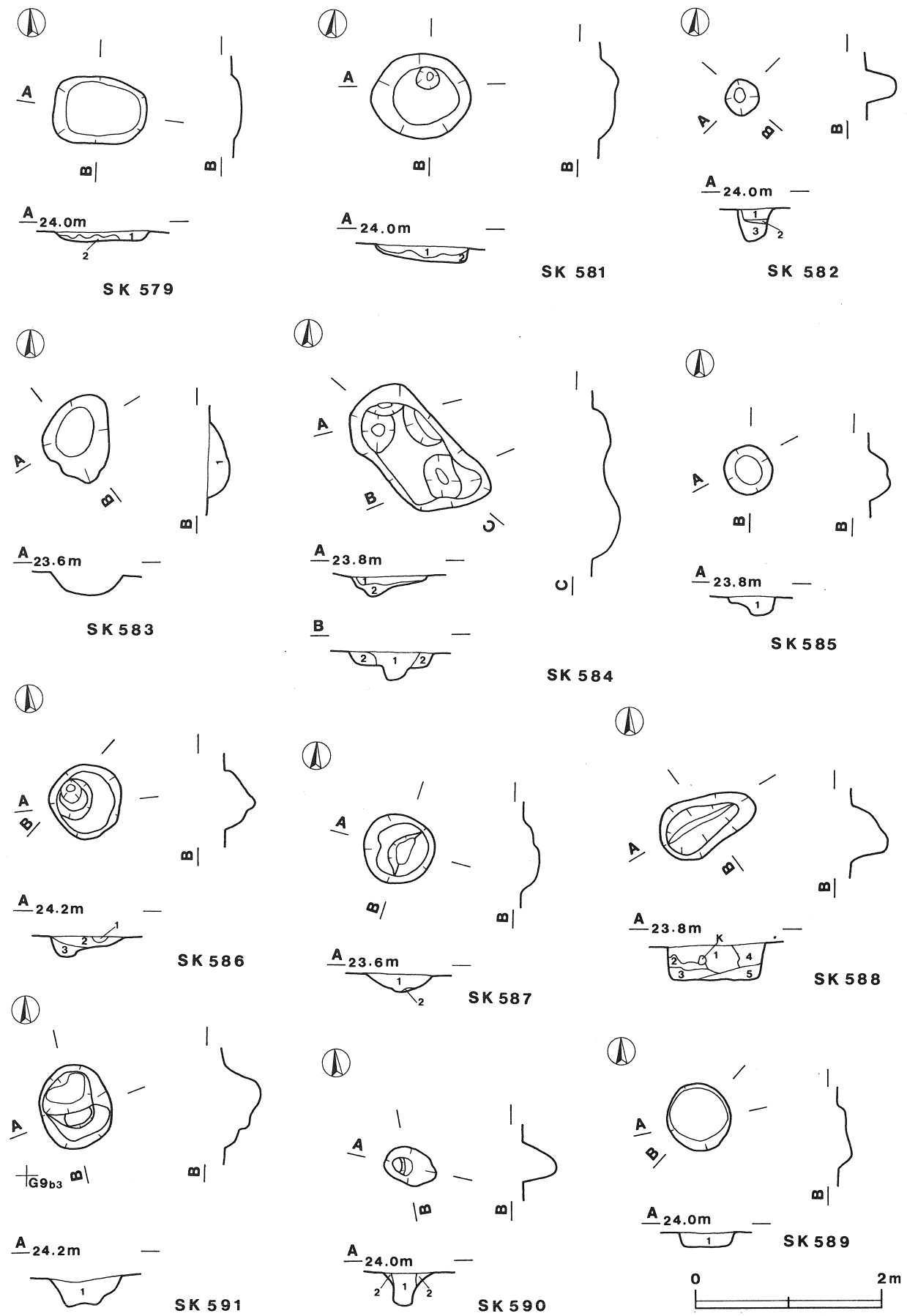
第700号土坑
1 暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量
2 褐　色　ローム小ブロック・粒子中量



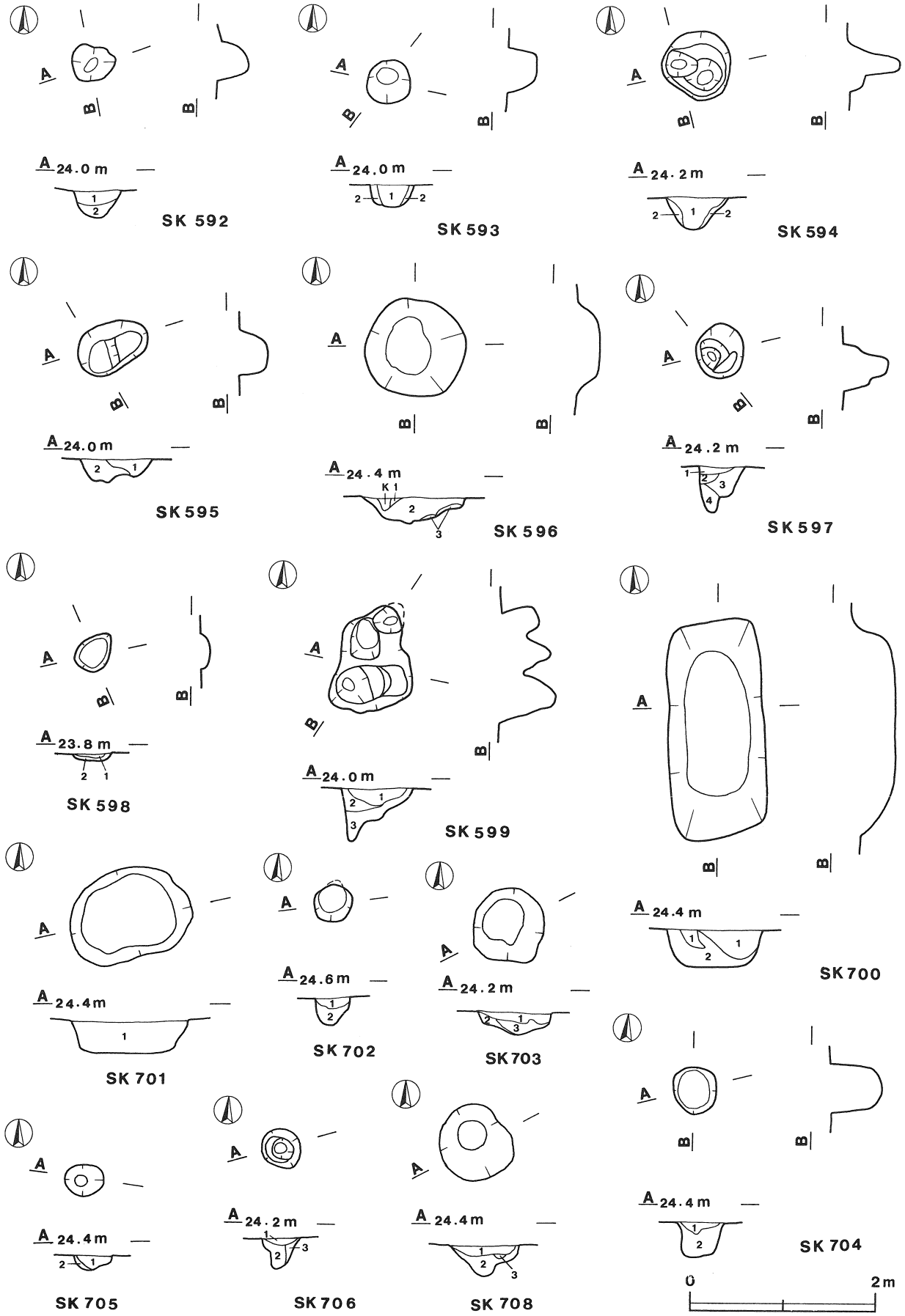
第404図　その他の土坑実測図（Ⅴ区）（２）



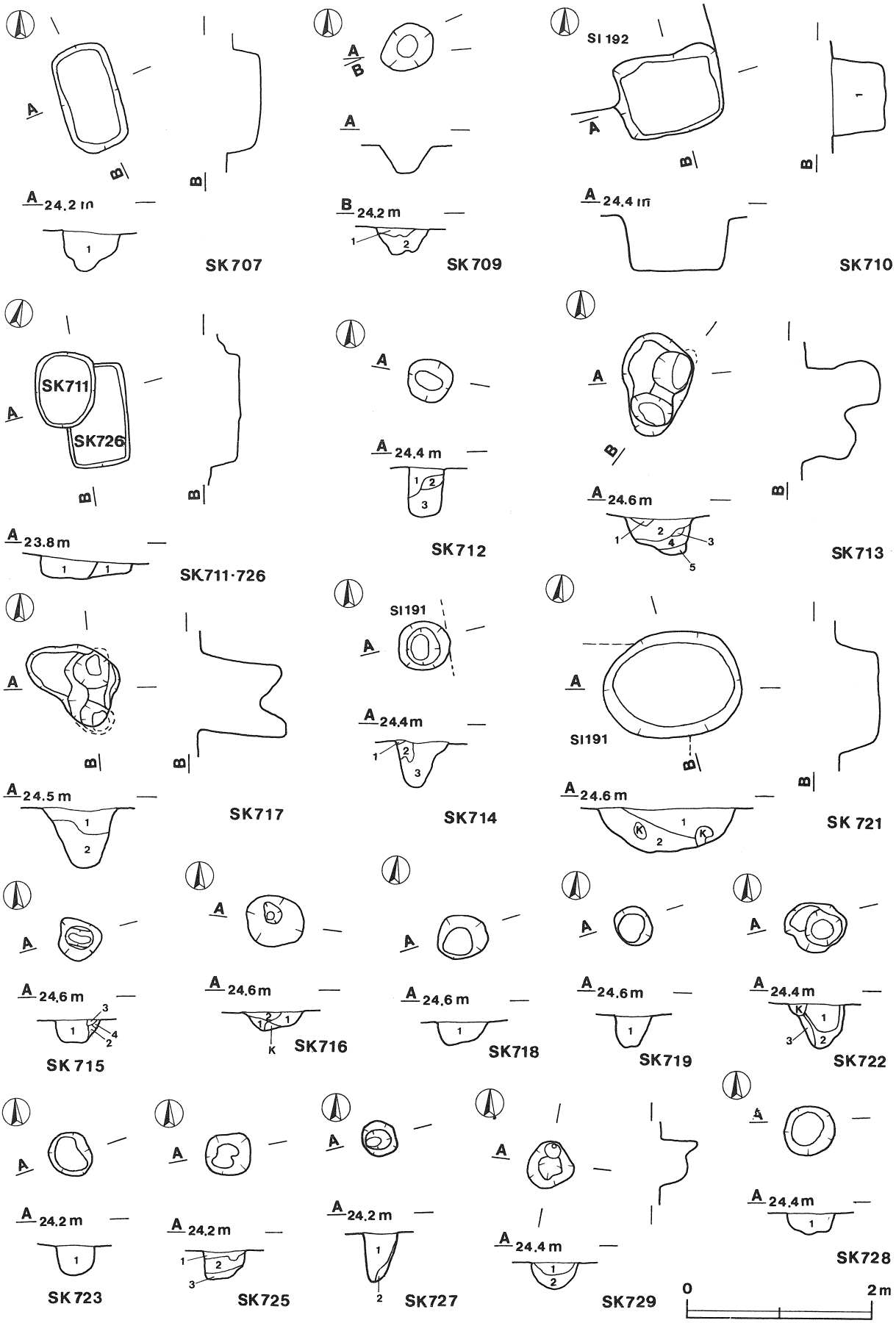
第405図　その他の土坑実測図（Ⅴ区）（3）



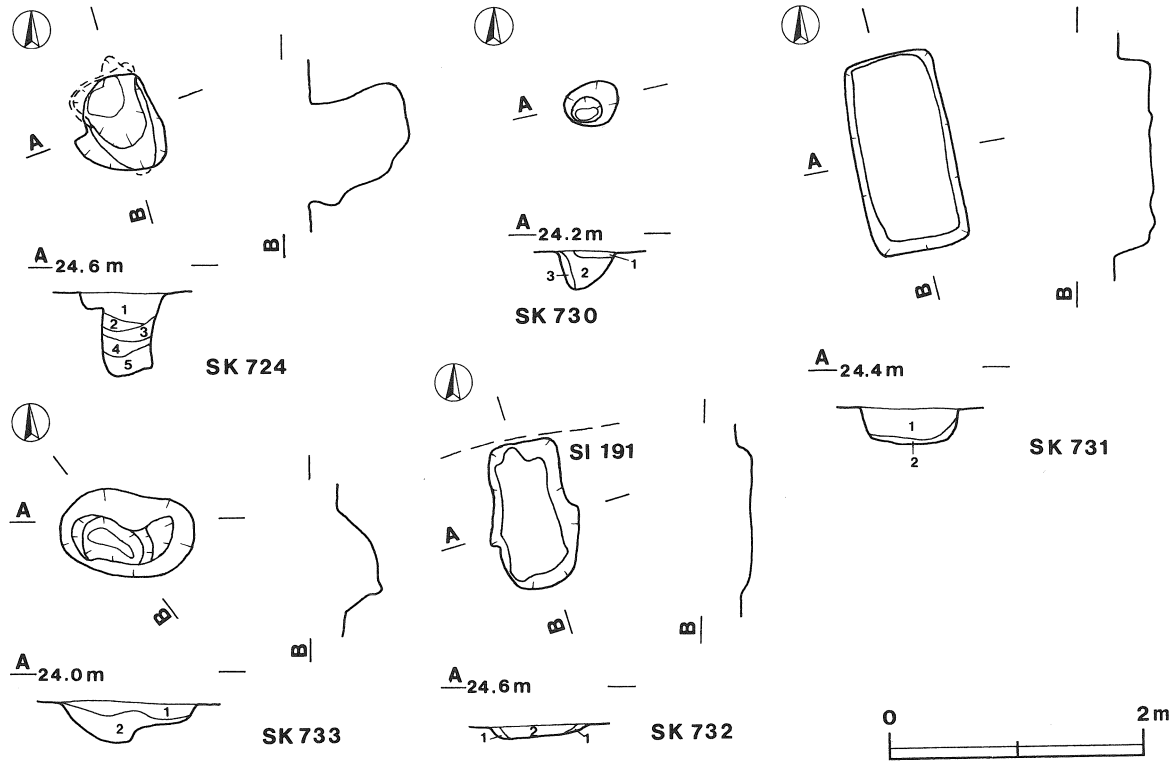
第406図　その他の土坑実測図（Ⅴ区）（４）



第407図　その他の土坑実測図（Ⅴ区）（５）



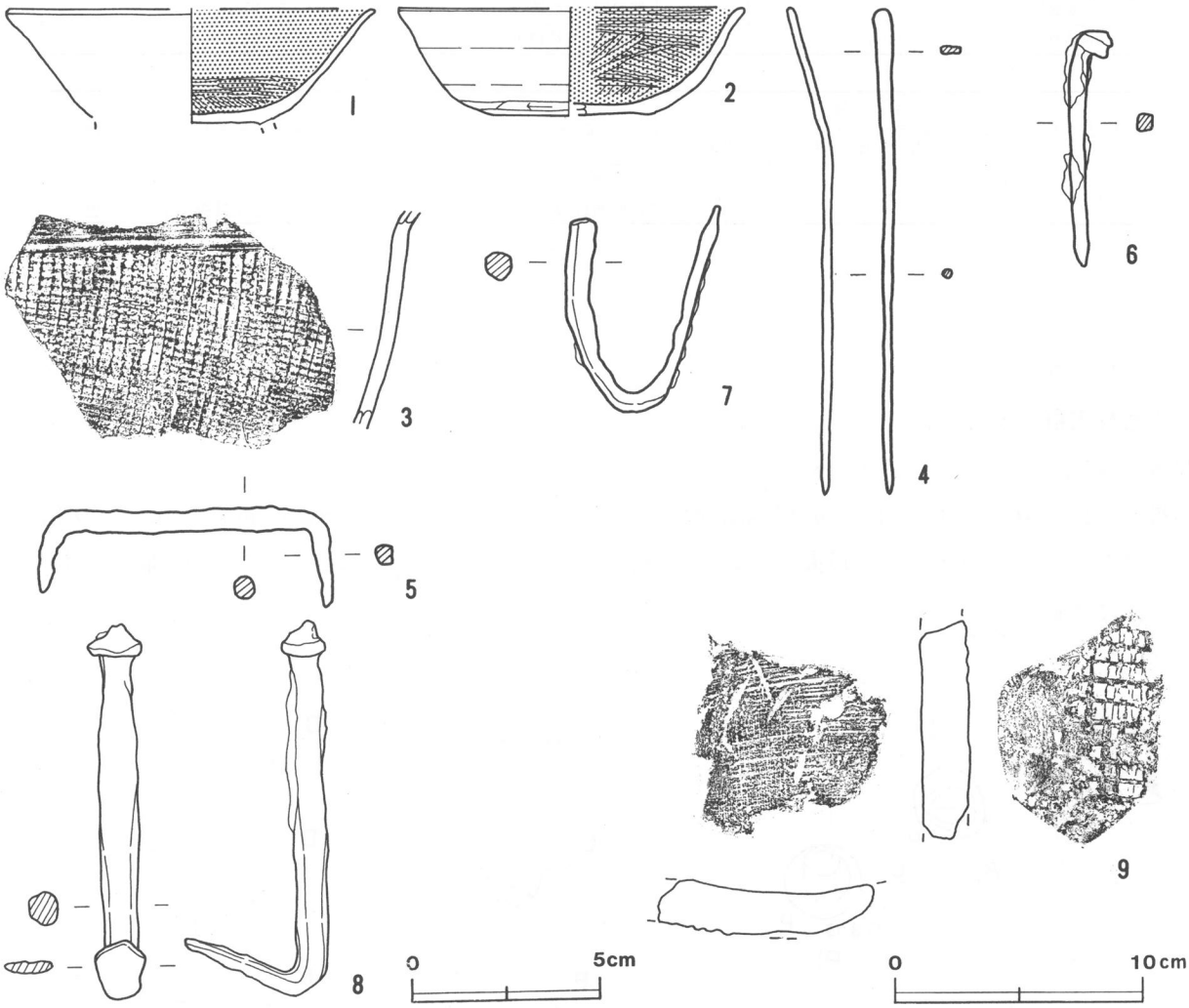
第408図　その他の土坑実測図（Ⅴ区）（6）



第409図　その他の土坑実測図（Ⅴ区）（7）

第701号土坑
1　暗褐色　ローム粒子微量
第702号土坑
1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子微量
第703号土坑
1　暗褐色　ローム粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子少量
第704号土坑
1　暗褐色　ローム粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・粒子微量
第705号土坑
1　暗褐色　炭化粒子微量
2　褐　色　ローム粒子中量
第706号土坑
1　暗褐色　ローム粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子微量
3　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
第707号土坑
1　暗褐色　ローム小ブロック・粒子微量
第708号土坑
1　褐　色　ローム粒子微量
2　褐　色　焼土粒子微量
3　褐　色　ローム中ブロック多量
第709号土坑
1　暗褐色　ローム粒子微量
2　褐　色　ローム粒子少量
第710号土坑
1　暗褐色　ローム小ブロック少量
第711号土坑
1　暗褐色　ローム粒子微量
第712号土坑
1　褐　色　ローム小ブロック・粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子微量
3　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
第713号土坑
1　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
2　暗褐色　ローム小ブロック・炭化粒子微量
3　褐　色　ローム小ブロック・粒子中量
4　褐　色　ローム小ブロック少量，ローム粒子微量
5　暗褐色　ローム粒子微量
第714号土坑
1　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
2　褐　色　ローム粒子多量
3　暗褐色　ローム小ブロック・粒子微量
第715号土坑
1　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
3　褐　色　ローム小ブロック・粒子少量
4　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子微量
第716号土坑
1　暗褐色　焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子微量
第717号土坑
1　暗褐色　ローム小ブロック・粒子微量
2　褐　色　ローム小ブロック微量
第718号土坑
1　暗褐色　ローム小ブロック・粒子微量
第719号土坑
1　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
第721号土坑
1　褐　色　ローム粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
第722号土坑
1　明褐色　ローム中ブロック中量
2　明褐色　ローム中ブロック多量
3　褐　色　ローム粒子中量
第723号土坑
1　暗褐色　炭化粒子微量
第724号土坑
1　暗褐色　ローム小ブロック微量
2　褐　色　ローム小ブロック・粒子中量
3　暗褐色　ローム粒子少量
4　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
5　暗褐色　ローム粒子微量
第725号土坑
1　褐　色　ローム粒子少量
2　暗褐色　炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子微量
第726号土坑
1　暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量

第727号土坑
1　暗 褐 色　炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量
第728号土坑
1　暗 褐 色　ローム粒子微量
第729号土坑
1　暗 褐 色　ローム粒子微量
2　褐　　色　ローム中・小ブロック微量
第730号土坑
1　暗 褐 色　ローム粒子少量
2　褐　　色　炭化粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子微量
第731号土坑
1　暗 褐 色　焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
第732号土坑
1　暗 褐 色　ローム中・小ブロック微量
2　褐　　色　ローム粒子中量
第733号土坑
1　暗 褐 色　炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子少量，ローム中・小ブロック微量



第410図　その他の土坑出土遺物実測図

その他の土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第410図 1	高台付坏 土 師 器	A [14.8] B (4.6)	底部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け，ナデ。内面黒色処理。	砂粒 雲母 スコリア にぶい黄橙色 普通	P231 30% 第470号土坑覆土中
2	坏 土 師 器	A [13.8] B 4.3 C [6.2]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。内面丁寧なヘラ磨き。体部外面回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。内面黒色処理	砂粒 雲母 スコリア にぶい黄橙色 普通	P335 20% 第581号土坑覆土中

図版番号	器　種	部　分	器　形　・　手　法　の　特　徴	備考(台帳番号,出土位置,色調など)
第410図 3	甕 須恵器	体　部	外面格子叩き。内面ナデ。	TP19 第464号土坑覆土中　黄灰色

図版番号	種　別	計　測　値				出　土　地　点	備　　考
		長さ(cm)	幅　(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第410図4	簪	19.7	0.9	0.4	16.0	第418号土坑覆土中	M92　PL105　銅製品
5	閂	11.9	4.0	0.8	55.0	第433号土坑覆土中	M93　PL105
6	不明鉄製品	6.4	1.2	0.5	6.0	第436号土坑覆土中	M94　PL108
7	不明鉄製品	5.6	4.3	0.7	12.0	第448号土坑覆土中	M95　PL108
8	不明鉄製品	10.0	4.0	1.5	34.2	第542号土坑覆土中	M96　PL108

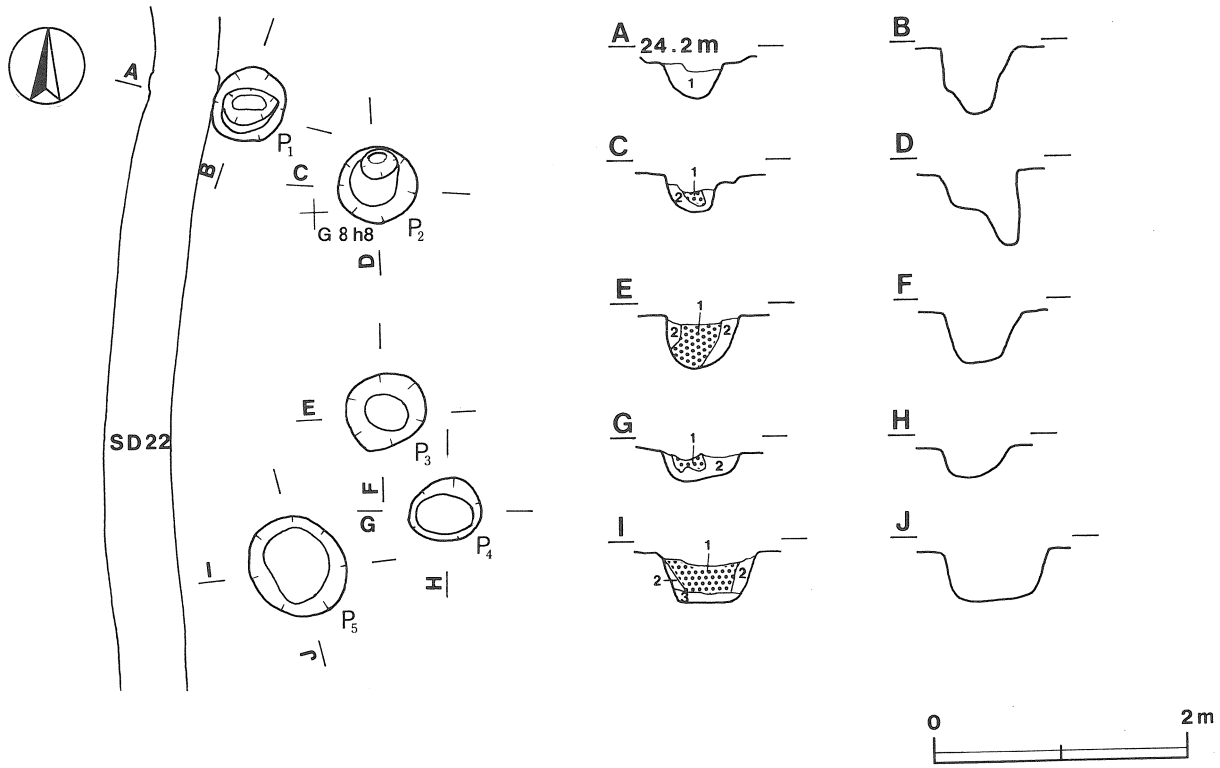
図版番号	器　種	計　測　値				器形・手法の特徴	備考(台帳番号,出土位置,色調など)
		長さ(cm)	幅　(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第410図 9	平　瓦	(8.9)	(8.9)	2.0	(144.0)	凸面縄目叩き。凹面布目痕。	T9　PL111 第700号土坑覆土中　灰褐色

（3）柱穴群

第1号柱穴群（第411図）

位置　調査Ⅳ区の中央部，G8h8区。

規模　5か所の柱穴（P1～P5）が半円状に配置されている。長軸0.55～0.82m，短軸0.40～0.72mの楕円形または円形である。断面形は二段掘り状または逆台形状で，深さは24～54cmである。柱の抜き取り痕はP1を除く柱穴で確認された。



第411図　第1号柱穴群実測図

覆土　P2～P5の第1層が柱の抜き取り痕で，他の層は埋土である。

土層解説

P1	1	暗褐色	ローム小ブロック中量
P2	1	暗褐色	ローム中ブロック中量
	2	褐色	ローム中ブロック中量，ローム粒子少量
P3	1	褐色	ローム小ブロック少量
	2	褐色	ローム大ブロック少量
P4	1	褐色	ローム大ブロック中量
	2	褐色	ローム大ブロック多量
P5	1	褐色	ローム小ブロック少量
	2	褐色	ローム中ブロック中量
	3	褐色	ローム小ブロック・粒子少量

遺物　土師器片14点，須恵器片19点が出土している。いずれも細片のため図示できなかった。

所見　位置・配列ともに不規則で，相互の関係や性格・時期は不明である。

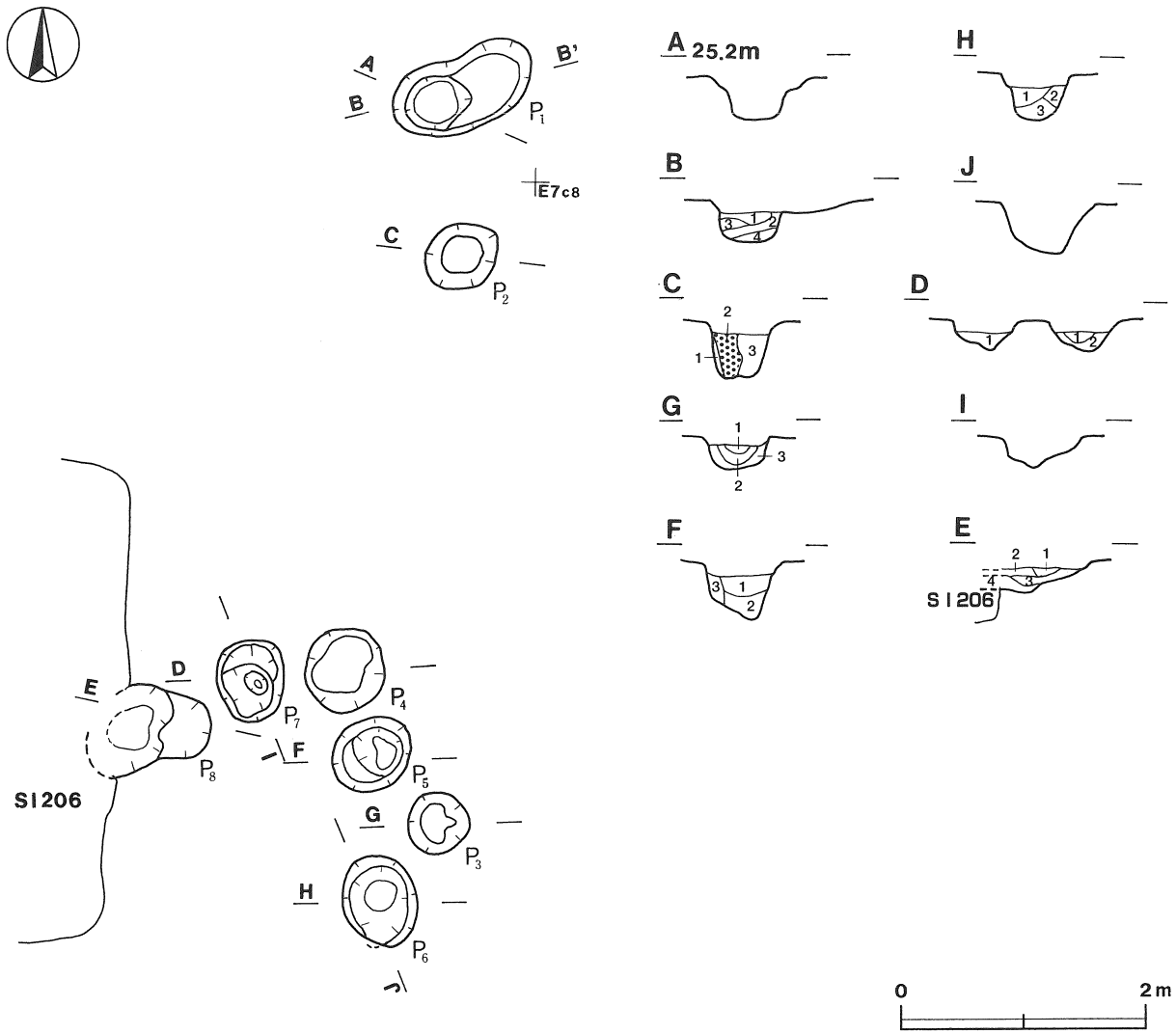
第5号柱穴群（第412図）

位置　調査Ⅲ区の南西部，E7d7区。

重複関係　本跡のP8が，第206号住居跡を掘り込んでいることから，本跡が新しい。

規模　8か所の柱穴（P1～P8）が確認された。長軸0.50～1.18cm，短軸0.48～0.64cmの楕円形，円形または不整楕円形である。断面形は二段掘り状，逆台形状またはU字状で，深さは28～51cmである。柱の抜き取り痕はP2で確認された。

覆土　P2の第2層が柱の抜き取り痕で，他の層は埋土である。



第412図　第5号柱穴群実測図

土層解説

P1	1	暗褐色	ローム粒子微量
	2	暗褐色	ローム粒子少量，粘土粒子微量
	3	褐色	ローム粒子中量
	4	褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
P2	1	褐色	ローム中ブロック少量
	2	暗褐色	ローム小ブロック微量
	3	暗褐色	ローム小ブロック・粒子微量
P3	1	暗褐色	ローム粒子微量
	2	褐色	ローム小ブロック・粒子少量
	3	褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
P4	1	暗褐色	ローム粒子微量
	2	褐色	ローム粒子中量
P5	1	褐色	ローム粒子少量
	2	褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
	3	暗褐色	ローム粒子微量
P6	1	暗褐色	炭化粒子微量
	2	暗褐色	ローム粒子微量
	3	褐色	ローム粒子中量
P7	1	褐色	ローム粒子多量
P8	1	暗褐色	炭化粒子少量
	2	褐色	ローム粒子微量
	3	褐色	ローム粒子少量
	4	褐色	ローム粒子・粘土粒子少量

遺物　土師器片４点，須恵器片７点が出土している。いずれも細片のため図示できなかった。

所見　位置・配列ともに不規則で，相互の関係や性格は不明である。時期は，重複している住居跡の時期から，平安時代以降であるが，詳細は不明である。

第６号柱穴群（第413・414図）

位置　調査Ⅲ区の北部，Ｄ７i8区。

重複関係　本跡のＰ2・Ｐ4・Ｐ6・Ｐ7が，第214号住居跡，第68号掘立柱建物跡，第674号土坑を掘り込んでいることから，本跡が新しい。また，第69号掘立柱建物跡との新旧関係は，切り合いがないことから不明である。

規模　Ｕ字状に配置された，11か所の柱穴（Ｐ1～Ｐ11）が確認された。長軸0.70～1.05cm，短軸0.58～0.79cmの楕円形，円形または不整楕円形である。断面形は二段掘り状，逆台形状またはＵ字状で，深さは25～72cmである。柱の抜き取り痕はＰ5～Ｐ7・Ｐ10で確認された。

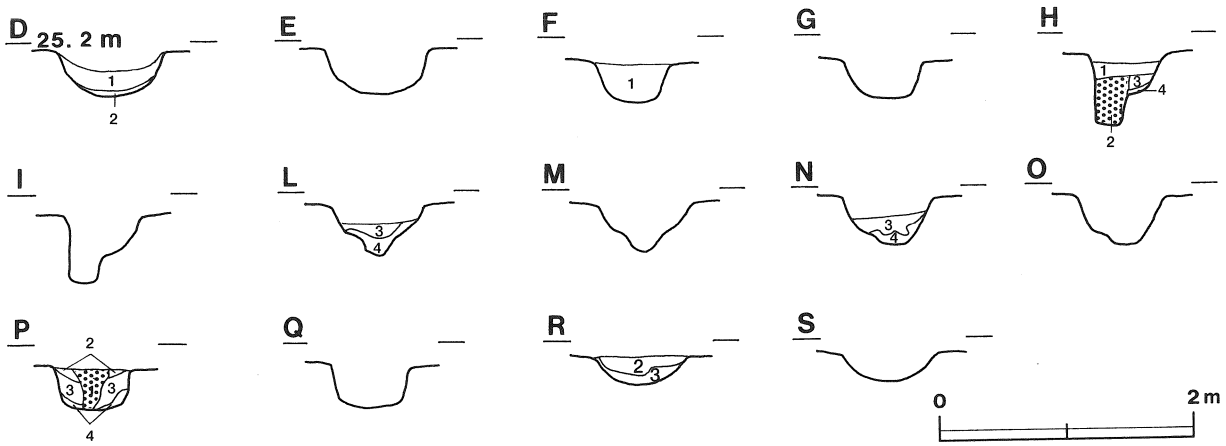
覆土　Ｐ5の第２層，Ｐ6・Ｐ7・Ｐ10の第１層が柱の抜き取り痕で，他の層は埋土である。

土層解説

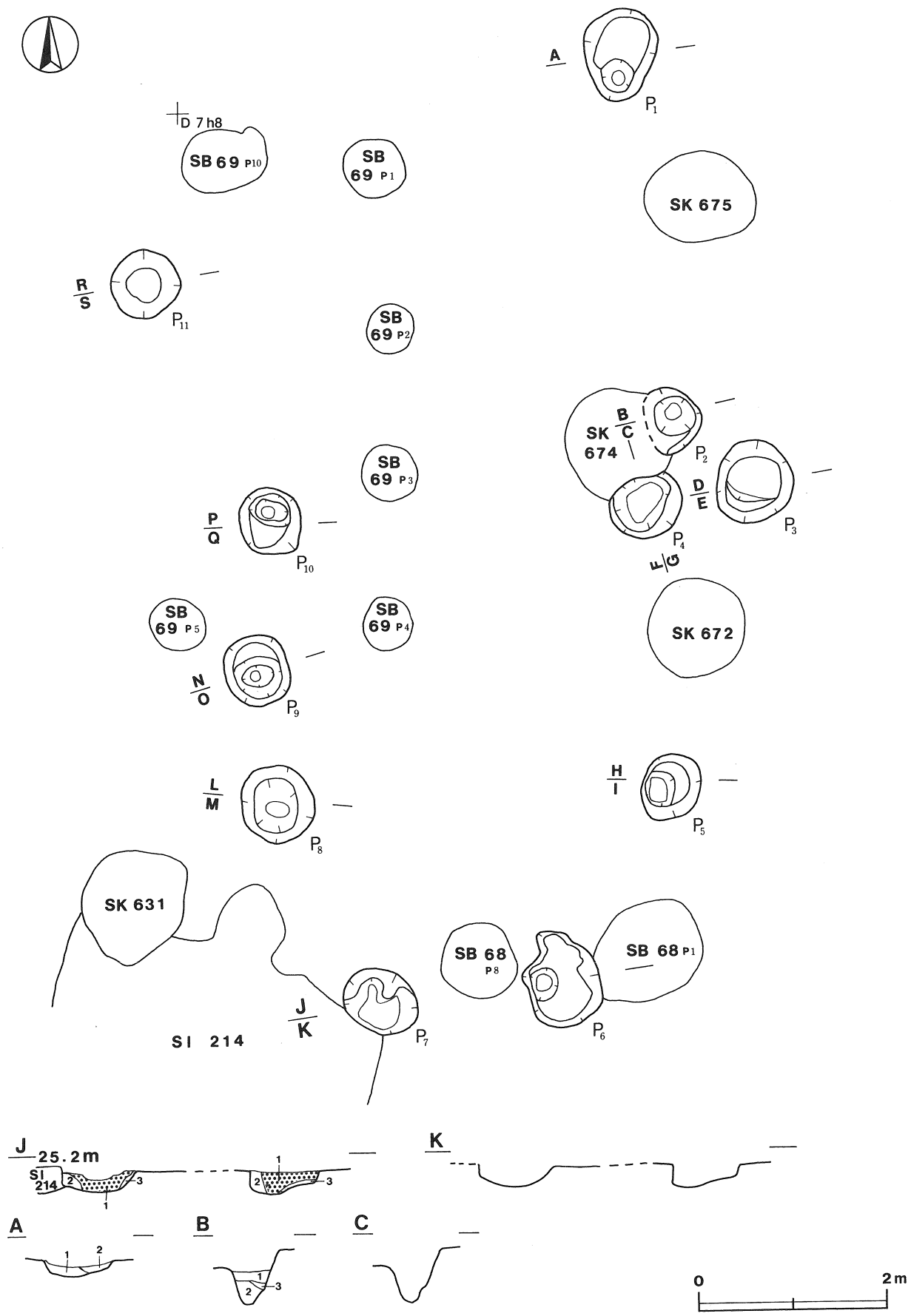
P1	1	暗褐色	炭化粒子微量
	2	褐色	ローム粒子微量
P2	1	暗褐色	炭化粒子微量
	2	暗褐色	ローム粒子微量
	3	褐色	ローム粒子多量
P3	1	暗褐色	ローム粒子微量
	2	褐色	ローム粒子多量
P4	1	暗褐色	ローム中ブロック微量
P5	1	褐色	ローム粒子中量，ローム大・小ブロック少量
	2	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
	3	暗褐色	ローム粒子少量
	4	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
P6	1	暗褐色	ローム粒子少量
	2	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
	3	褐色	ローム小ブロック・粒子中量
P7	1	暗褐色	ローム粒子少量
	2	暗褐色	炭化粒子少量
	3	暗褐色	炭化粒子微量，粘性が弱い
P8	1	暗褐色	ローム小ブロック中量，締まりがない
～P11	2	暗褐色	ローム小ブロック少量
	3	褐色	ローム中ブロック中量
	4	明褐色	ローム中ブロック多量

遺物　土師器片16点，須恵器片20点が出土している。いずれも細片のため図示できなかった。

所見　Ｕ字状に配列されているが，他の遺構との関連や性格は不明である。時期は，重複している住居跡の時期から，平安時代以降であるが，詳細は不明である。



第413図　第６号柱穴群実測図（１）



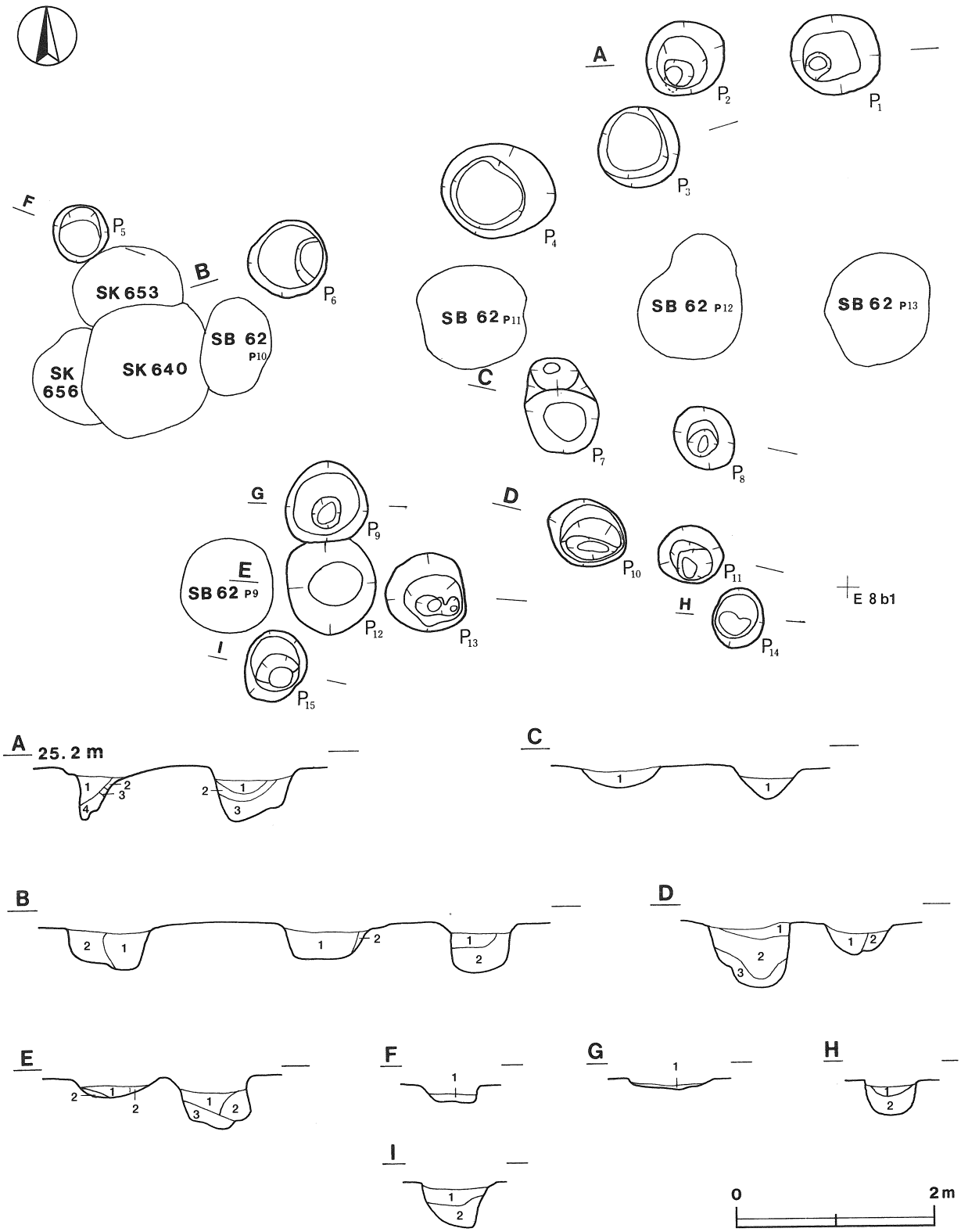
第414図　第６号柱穴群実測図（２）

第７号柱穴群（第415図）

位置　調査Ⅲ区の中央部，Ｅ７a0区。

重複関係　第62・68号掘立柱建物跡との新旧関係は，切り合いがないことから不明である。

規模　15か所の柱穴（Ｐ1～Ｐ15）が確認された。長軸0.56～1.14m，短軸0.50～0.94mの楕円形または



第415図　第７号柱穴群実測図

円形である。断面形は逆台形状またはU字状で，深さは17～68cmである。柱痕または柱の抜き取り痕は確認できなかった。

覆土　すべての層は埋土である。

土層解説

P1	1	暗褐色	ローム粒子微量
	2	暗褐色	炭化粒子微量
	3	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
P2	1	暗褐色	炭化粒子・焼土粒子微量
	2	暗褐色	ローム粒子少量
	3	褐色	ローム中ブロック多量，ローム粒子少量
	4	褐色	ローム粒子中量
P3	1	褐色	ローム粒子少量
	2	暗褐色	ローム小ブロック・粒子少量
P4	1	暗褐色	炭化粒子微量
	2	褐色	ローム粒子中量
P5	1	褐色	ローム粒子中量
P6	1	暗褐色	焼土粒子微量
	2	暗褐色	ローム粒子微量
P7	1	暗褐色	ローム粒子少量
P8	1	暗褐色	ローム粒子微量
P9	1	暗褐色	炭化粒子微量
P10	1	褐色	粘土粒子少量，焼土粒子微量
	2	暗褐色	炭化粒子微量
	3	褐色	ローム粒子少量
P11	1	褐色	ローム粒子少量
	2	暗褐色	ローム粒子微量
P12	1	暗褐色	ローム粒子微量
	2	褐色	ローム粒子少量
P13	1	暗褐色	ローム粒子少量
	2	暗褐色	炭化粒子微量
	3	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
P14	1	暗褐色	炭化粒子微量
	2	暗褐色	ローム粒子少量
P15	1	暗褐色	ローム粒子微量
	2	褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック微量

遺物　土師器片６点，須恵器片８点が出土している。いずれも細片のため図示できなかった。

所見　位置・配列ともに不規則で，相互の関係や性格・時期ともに不明である。

（４）溝

今回の調査では，溝10条が確認された。調査Ⅲ区の北部と西部に各１条，Ⅳ区の北部と中央部の各１条と南部の５条，Ⅴ区東部の１条である。出土遺物は混入と考えられるものがほとんどで，その性格は不明であるが，多くが奈良・平安時代の遺構を掘り込んでいることから，平安時代前期以降の区画を目的とした溝の可能性が高い。第23号溝の時期は中・近世の陶磁器片が出土していることから，中・近世と考えられる。その位置や規模などの特徴については，一覧表に記載するとともに，全体図と第416図に掲載する。

第12･15号溝土層解説

1	暗褐色	ローム大・小ブロック・焼土粒子少量
2	明褐色	ローム中ブロック多量
3	褐色	ローム中ブロック少量
4	にぶい褐色	ローム粒子少量
5	にぶい褐色	ローム小ブロック微量
6	暗褐色	ローム小ブロック少量
7	暗褐色	ローム粒子微量
8	明褐色	ローム中ブロック少量
9	極暗褐色	ローム粒子微量
10	褐色	ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
11	褐色	ローム粒子少量
12	褐色	砂中量
13	暗褐色	ローム小ブロック・粒子微量
14	暗褐色	ローム小ブロック少量
15	褐色	ローム小ブロック・粒子少量
16	褐色	ローム小ブロック・炭化粒子少量
17	明褐色	ローム中ブロック中量

第13号溝土層解説

1	暗褐色	ローム中ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子少量
2	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子少量
3	暗褐色	ローム中ブロック中量
4	暗褐色	ローム中・小ブロック少量

第16号溝土層解説

1	暗褐色	ローム小ブロック・焼土粒子微量
2	褐色	ローム中ブロック中量
3	暗褐色	ローム中ブロック中量，ローム小ブロック少量

第17号溝土層解説

1	褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化物・炭化粒子・焼土粒子微量
2	褐色	ローム小ブロック･粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック微量
3	褐色	ローム小ブロック・粒子中量
4	褐色	ローム粒子中量，ローム大・小ブロック少量
5	暗褐色	ローム小ブロック･粒子中量，ローム中ブロック微量
6	暗褐色	ローム小ブロック・粒子少量

第21号溝土層解説

B	1	暗褐色	ローム中ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
	2	褐色	ローム粒子多量，ローム中・小ブロック少量
D	1	暗褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子・焼土粒子微量
	2	暗褐色	ローム小ブロック・粒子少量，炭化粒子・焼土粒子微量
	3	暗赤褐色	焼土粒子多量，ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
	4	暗褐色	ローム中ブロック・粒子少量，炭化粒子・焼土粒子微量
	5	褐色	ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，炭化粒子少量

第22号溝土層解説

A	1	黒褐色	炭化粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
	2	褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子・焼土粒子微量
BCDF	1	暗褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子・焼土粒子微量
	2	褐色	ローム中・小ブロック中量，ローム粒子少量
	3	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子少量
	4	暗褐色	ローム粒子中量，炭化粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック微量

第23号溝土層解説

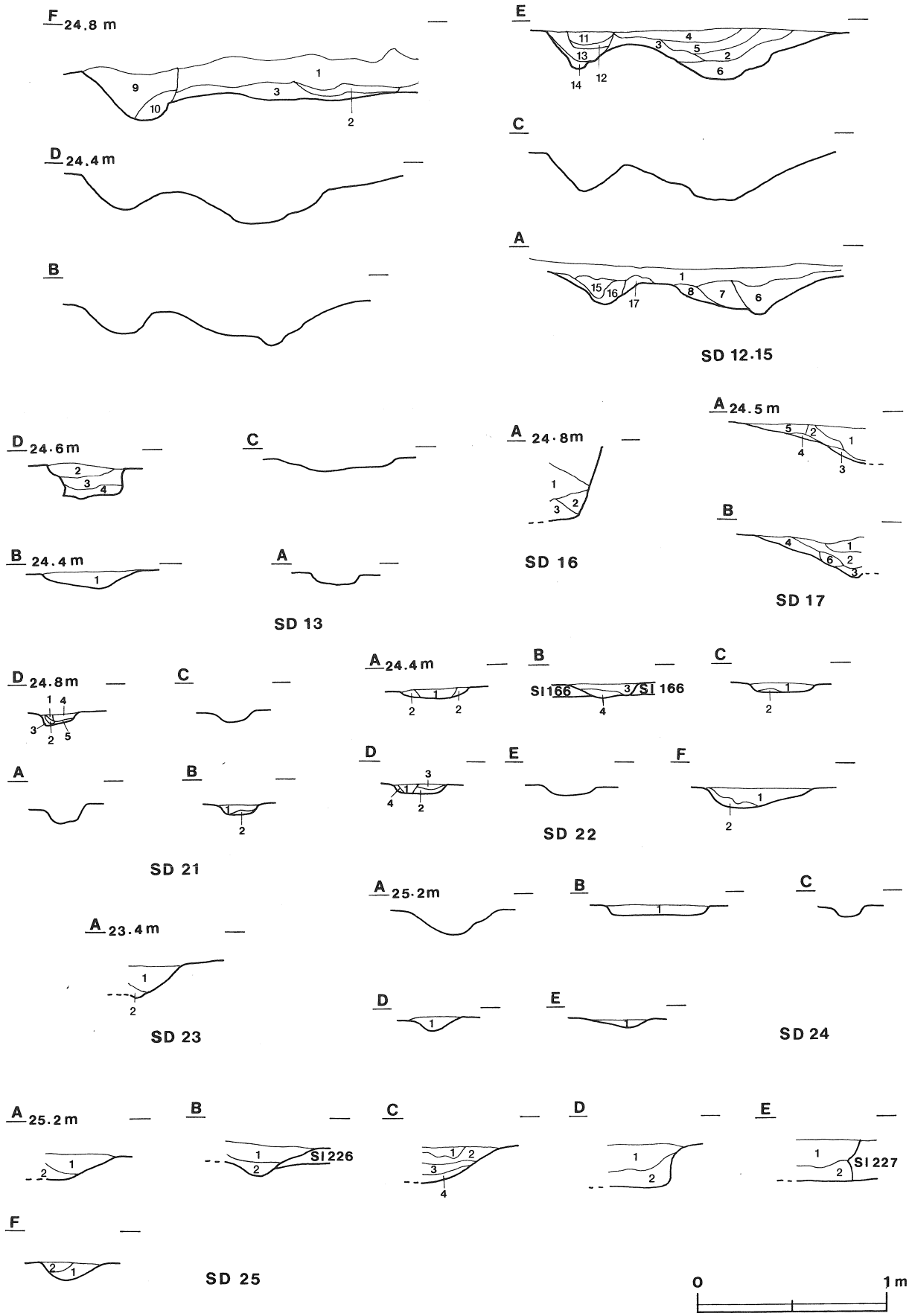
1	暗褐色	焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
2	黒褐色	焼土粒子・粘土小ブロック少量

第24号溝土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量

第25号溝土層解説

1	暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
4	暗褐色	ローム小ブロック微量

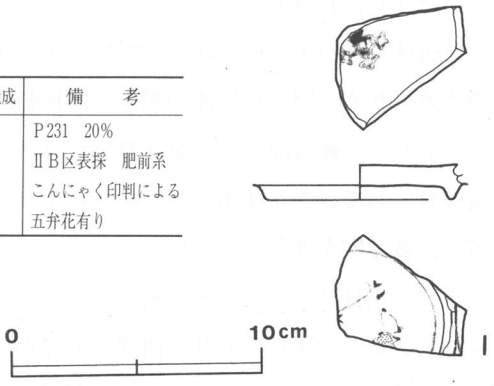


第416図　第12・13・15～17・21～25号溝土層断面図

（5）遺構外出土遺物

遺構外出土遺物観察表(近世)

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第417図 1	染付皿 磁　器	D［7.4］ E　0.5	高台部から底部にかけての破片。平底。三角高台。	水挽き整形。透明釉。	砂粒 明緑灰色 普通	P231　20% ⅡB区表採　肥前系 こんにゃく印判による 五弁花有り



第417図　遺構外出土遺物実測図（中近世）

第4節　まとめ

当遺跡からは，平成10年度の調査により，旧石器時代，縄文時代の遺物及び，奈良時代，平安時代，中・近世の遺構と遺物が確認された。ここでは，奈良・平安時代の集落について，また，旧石器時代及び縄文時代の遺物について若干の考察を加え，まとめとしたい。

1　奈良・平安時代の集落変遷について

今回の調査において，竪穴住居跡134軒及び掘立柱建物跡38棟が確認された。時期は，掘立柱建物跡1棟が不明であるほかは，遺構の形態や出土土器から，奈良・平安時代（8世紀前葉から10世紀前葉）に限定されている。また，当遺跡は，常陸国河内郡衙推定地や，河内郡の郡寺とみられる九重廃寺跡と隣接している。当集落が奈良時代の律令成立時期に，掘立柱建物群を伴う計画的な集落として成立したと考えられることから，河内郡衙や九重廃寺と強く関連している集落であることが推測される。

（1）奈良・平安時代の集落変遷について

当遺跡は，平成9年度からの調査が継続中であり，集落跡として，全体の性格を把握するにはまだ資料が十分とは言えないが，今回の調査で確認された，奈良・平安時代に比定される竪穴住居跡134軒及び掘立柱建物跡37棟の中で，時期が明確なものを8期に区分し，また，前回（平成9年度）の調査結果も含め，各期ごとの住居跡や集落の性格について若干の検討を行ってみたい。

○Ⅰ期　奈良時代前期（8世紀前葉）・・・（第418・419図）

当遺跡の東部で4軒，西部で1軒の，合計5軒の竪穴住居跡が確認された。前回（平成9年度）の調査では，北部で竪穴住居跡3軒と掘立柱建物群が確認されている。竪穴住居跡の規模は，長軸3.48～5.82m，短軸3.40～5.50mで，中小の竪穴住居跡が混在している。主軸方向は，1軒を除いてほぼ同軸（N－0°とN－7°－Wの間）となっている。また，これら該期に比定される竪穴住居跡の竈は，すべて北壁に構築されている。なお，東部に位置する竪穴住居跡から刀子と灰釉陶器が出土していることから，東，西部に散在する竪穴住居跡は，官人居宅あるいは河内郡衙に関係のある一つの集落であると推測される。古墳時代の竪穴住居跡が確認されていないことから，この時期が集落の形成期と思われる。

○Ⅱ期　奈良時代中期（８世紀中葉）・・・（第418・419図）

東部で４軒，北東部で１軒，西部で６軒の，合計11軒の竪穴住居跡が確認された。前回の調査では，北部に竪穴住居跡６軒が掘立柱建物群を囲むように配置されているのが確認されている。西部では，明らかな密集傾向が認められる。竪穴住居跡の規模は，長軸3.65～5.43m，短軸3.32～4.16mで，中小の竪穴竪穴住居跡が混在している。主軸方向にもかなりのバラつきがみられる。また，すべて北壁に竈をもつ竪穴住居跡である。竈の補強材として，甕が使用されるようになったのがこの時期からで，この傾向はⅦ期まで続く。該期は竪穴住居跡の拡散傾向が顕著になっている。

○Ⅲ期　奈良時代後期（８世紀後葉）・・・（第418・419図）

東部で10軒，北東部で６軒，西部で７軒の，合計23軒の竪穴住居跡が確認された。前回の調査では，北部に竪穴住居跡24軒が確認されている。北東部では新たに掘立柱建物群が構築されている。Ⅱ期から引き続き，竪穴住居跡の拡散傾向は顕著で，当遺跡では，比較的人工密度の高い時期といえる。竪穴住居跡の規模は，長軸3.20～7.34m，短軸2.94～6.85mで，大・中・小の竪穴住居跡が混在している。特に，Ⅱ期と比べ大形の竪穴住居跡が北東部で１軒，西部で２軒，合計３軒が確認された。３軒の規模は，長軸6.16～7.34m，短軸6.65～6.85mとほぼ等しく，また，主軸方向もほぼ同軸となっている。北東部の掘立柱建物群は，大きく分けると，東西棟で南面する１群と，南北棟で東面する１群とで構成される。東壁に竈をもつ竪穴住居跡は，東部と西部でそれぞれ１軒確認されている。西部と北部に規模及び形状の酷似した竪穴住居跡が確認されたこと，出土遺物は，Ⅰ期から該期にわたって外地からの搬入品が目立つこと，刀子や円面硯等が出土していることから，この時期，掘立柱建物群を伴う計画的な集落構造を持つ集落として繁栄していたと考えられる。

○Ⅳ期　平安時代前期（９世紀前葉）・・・（第420・421図）

東部で５軒，北東部で１軒，西部で６軒の，合計12軒の竪穴住居跡が確認された。北部の掘立柱建物群は廃絶されるが，新たに東部で７棟，北東部で３棟の掘立柱建物跡が確認されている。前回の調査では，北部に竪穴住居跡13軒が確認されている。Ⅲ期に増加の傾向にあった北東部に減少傾向がみられる。竪穴竪穴住居跡の規模は，長短軸3.67～4.82m，短軸3.20～4.38mで，中小の竪穴住居跡が混在している。主軸方向にもかなりのバラつきがみられる。また，北壁に竈をもつ竪穴住居跡の他に，西壁に竈をもつ竪穴住居跡１軒が確認された。調査Ⅲ区の掘立柱建物跡は，５間×２間の身舎に１面の庇が取付く側柱建物である。今回の調査から，掘立柱建物跡を平面的構造によって分類すると，２間×２間の側柱建物12棟，３間×２間の側柱建物跡８棟，４間×２間の側柱建物跡４棟等となっており，今回，本跡（５間×２間）と同じ構造の掘立柱建物跡は確認されていない。調査Ⅴ区の掘立柱建物群は，調査区域外にどのように掘立柱建物跡が存在したかは不明であるが，現状では「Ｌ」字型に配置されているのが確認されている。

○Ⅴ期　平安時代前期（９世紀中葉）・・・（第420・421図）

東部で７軒，北東部で４軒，西部で７軒の，合計18軒の竪穴住居跡が確認された。前回の調査では，北部に住居跡14軒が確認されている。竪穴住居跡の規模は，長軸2.36～4.70m，短軸2.16～4.30mで，Ⅳ期同様，中・小の竪穴住居跡が混在している。主軸方向にもかなりのバラつきがみられる。また，西部で西壁に竈をもつ竪穴住居跡１軒，東部で東コーナーに竈をもつ竪穴住居跡１軒が確認されたが，その他は北壁に竈をもつ竪穴住居跡である。なお，Ⅲ期と比べ，Ⅳ・Ⅴ期は，集落の縮小傾向が続いている。その理由として，調査区域外に集落の主体が移った可能性もあり，現状では様相は把握できないが，該期以後，掘立柱建物跡はほとんど確認できず，Ⅳ期までの掘立柱建物群を伴う計画的な集落構造をもつ集落は衰退したものと推測される。

○Ⅵ期　平安時代前期（９世紀後葉）・・・（第420・421図）

東部で９軒，北東部で４軒，西部で13軒の，合計26軒の竪穴住居跡が確認された。前回の調査では，北部に竪穴住居跡８軒が確認されている。西部と東部に明らかな密集傾向が認められ，当遺跡では，Ⅲ期に次ぐ繁栄期と位置づけられる。竪穴住居跡の規模は，長軸2.80～5.92m，短軸2.10～5.66mで，規模に差がみられる。また竈の位置も，東壁に竈をもつ竪穴住居跡４軒，西壁に竈をもつ竪穴住居跡１軒，南東コーナー部に竈をもつ竪穴住居跡１軒と，規格化されていないようである。なお，竈袖部の補強材に，甕や鉢の他に瓦を使用している例がみられる。この傾向は，Ⅶ期にも継続される。また，棚状の段差をもつ竪穴住居跡は，東部で３軒確認されている。当遺跡の棚状の段差をもつ竪穴住居跡は，10軒確認され，時期はⅢ～Ⅵ期に限定されている。しかし，棚状の段差が竈の両脇にあるものが６軒，どちらか片方にあるものが４軒と，その位置に違いがみられる。

○Ⅶ期　平安時代前期（９世紀末葉から10世紀初頭）・・・（第422・423図）

東部で３軒，北東部で２軒，西部で10軒の，合計15軒の竪穴住居跡が確認された。他調査区の竪穴住居跡の減少が認められる中で，西部の竪穴住居跡の増加が目立ち，総軒数の66％を占めている。竪穴住居跡の規模は，長軸2.80～5.25m，短軸2.55～4.14mで，Ⅳ期と同様，規模にバラつきがみられる。主軸の方向は，主に北西を向いているものが多い。また，西部で，東壁と西壁の２か所に竈をもつ竪穴住居跡２軒，北東コーナーに竈を持つ竪穴住居跡１軒が確認されているが，他の竪穴住居跡は，すべて北壁に竈をもつ構造となっている。

○Ⅷ期　平安時代前期（10世紀前葉）・・・（第422・423図）

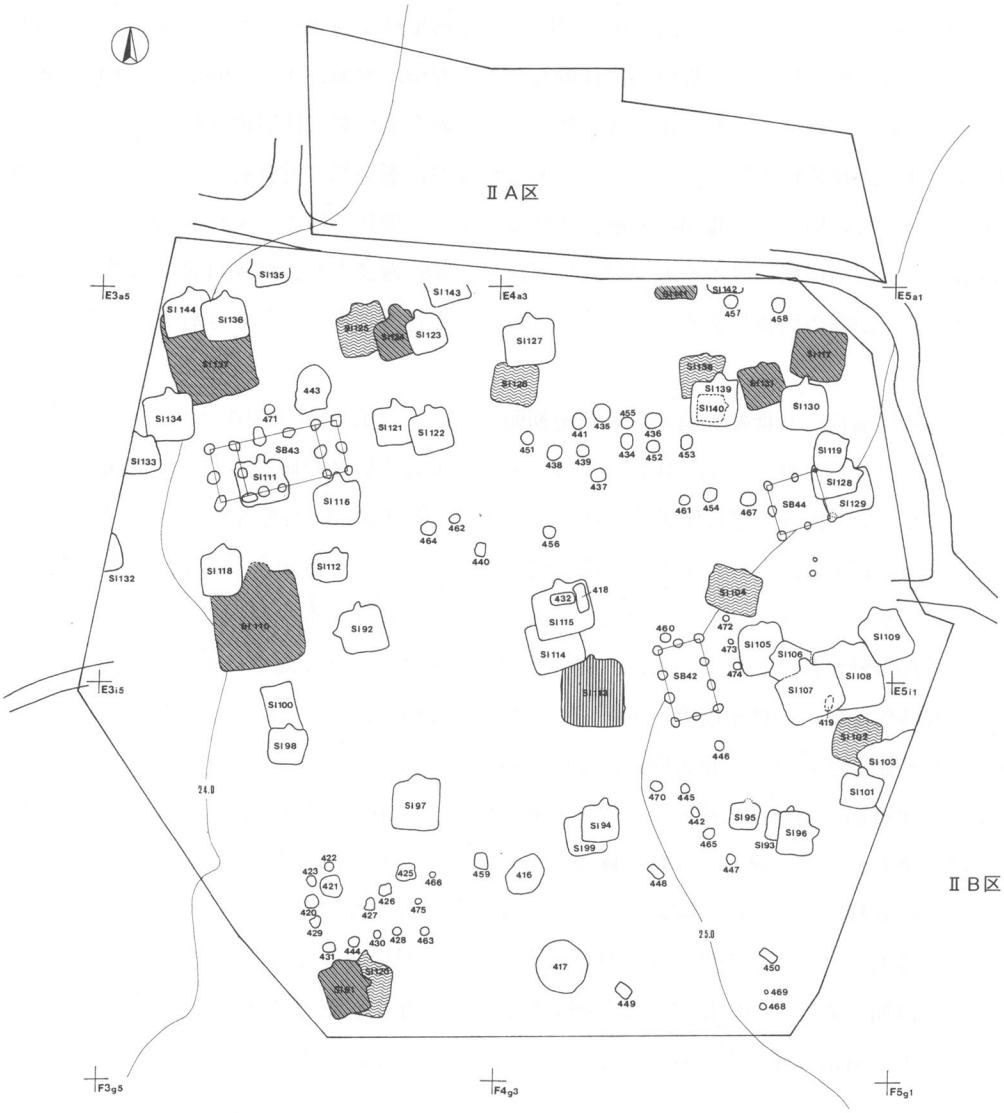
北東部で，８軒確認された。主軸方向は，１軒を除いて，Ｎ－０°とＮ－37°－Ｅの範囲で北東方向を向いている。また，北東部の竪穴住居跡の中には，長軸5.90～6.94m，短軸4.92～6.24mと，比較的大形で，床にベッド状の段差をもつものも現れ，３軒が確認された。すべて北壁に竈をもつ竪穴住居跡である。また，確認された竪穴住居跡８軒の中で，灰釉陶器が出土した竪穴住居跡６軒，緑釉陶器が出土した竪穴住居跡５軒が確認されている。該期は，今までの竪穴住居跡の規模に比べ大形であることや，これまで以上に外地からの搬入品が目立つ点，該期を過ぎて竪穴住居跡及び掘立柱建物跡の存在が確認されないこと等から，当遺跡における集落変遷の中でも，集落の様相が大きく変化した時期であることが推測される。

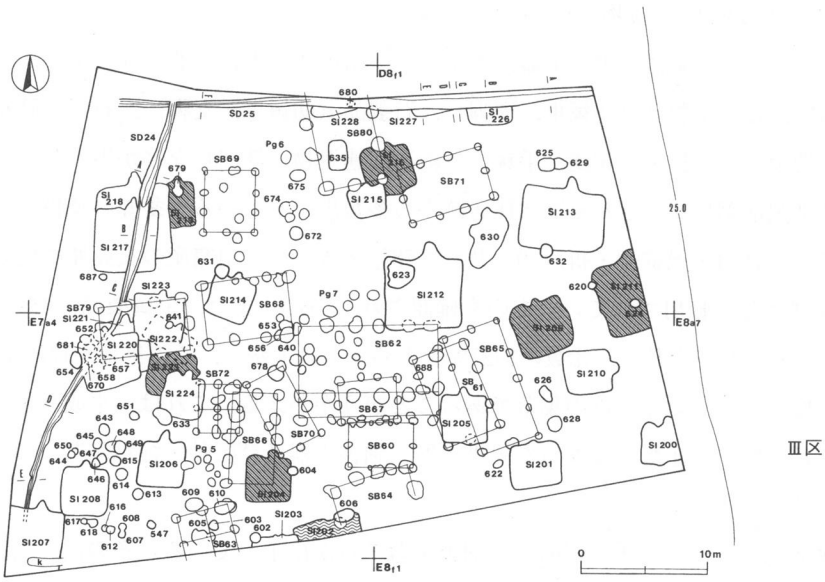
（３）奈良・平安時代の遺物について

今回の調査では，土師器（墨書土器，風字硯），須恵器（墨書土器，刻書土器，円面硯，鉄鉢模倣品），灰釉・緑釉陶器，瓦，土製品（紡錘車，支脚），石製品（紡錘車，支脚），石器（砥石），金属製品（鉄鏃，短刀，刀子，帯金具，火打金，銅鋺，手鎌），鍛冶関連遺物（鉄滓）などが出土している。特に，緑釉陶器は，北東部の10世紀前葉に比定される竪穴住居跡から多数出土している。愛知県猿投産の皿，椀である。灰釉陶器は，猿投産（黒笹14・黒笹90・折戸10・井ヶ谷78号窯式）や二川窯産の長頸瓶や椀及び皿で，中には，竪穴住居跡の竈支脚として転用されていたものも確認されている。また，金属製品は総数178点を数えるが，短刀・刀子が一番多く，49点を数え，総数の約27％を占める。以上から，この集落が郡衙や郡寺などと強く結びつき，高い文化程度を誇っている人々の集落であることがうかがえる。これは，平成９年度調査と同様の結果となった。ここでは，特に出土数の多かった墨書土器・刻書土器及び灰釉・緑釉陶器について考えてみたい。

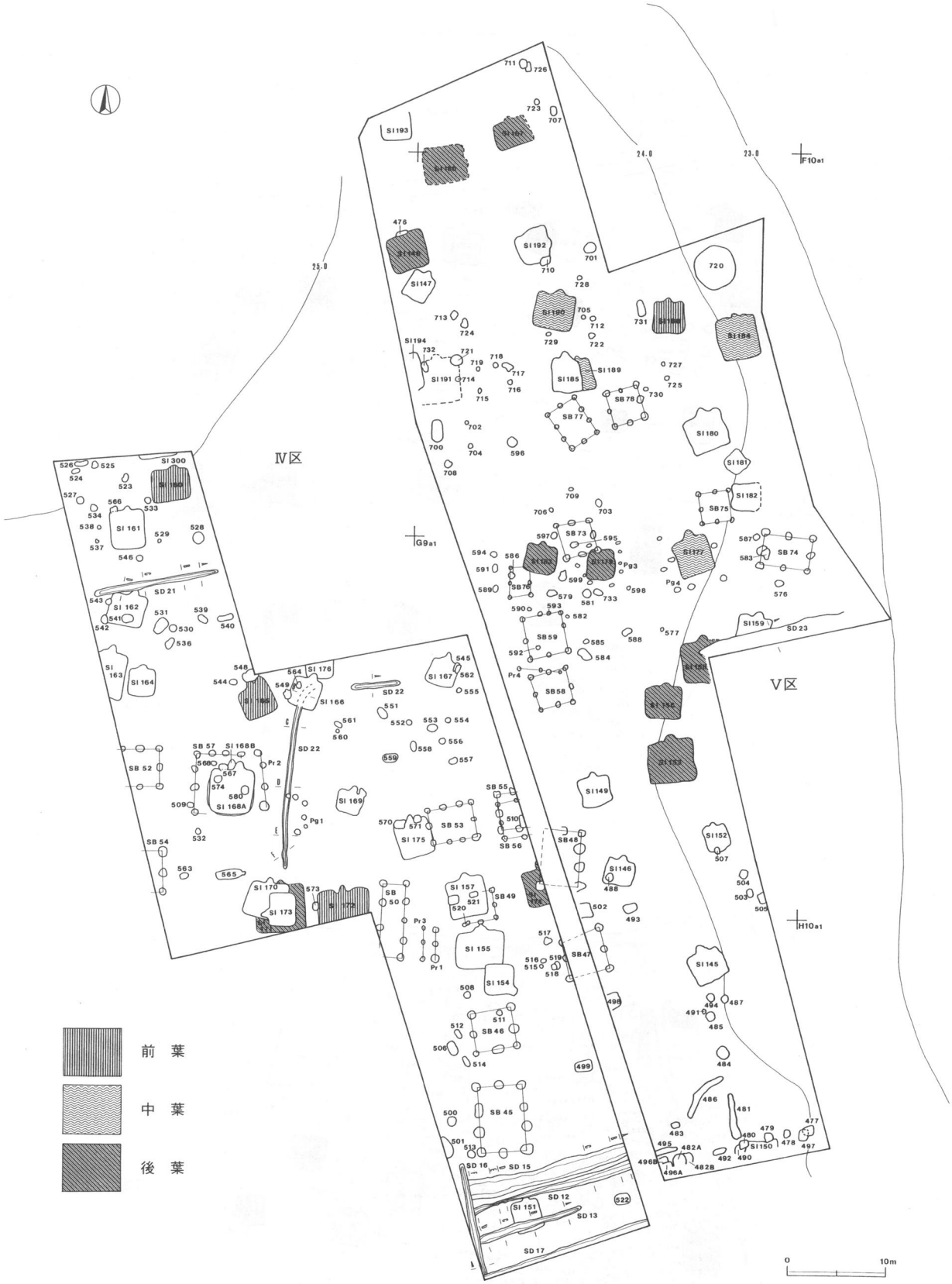
○墨書土器・刻書土器

今回の調査において，墨書土器61点・刻書土器７点が出土している。その内，判読可能なものは36点で，それ以外は判読不能あるいは記号と思われる。各々の墨書土器・刻書土器については，各遺構ごとの出土土器実測図の中に掲載している。

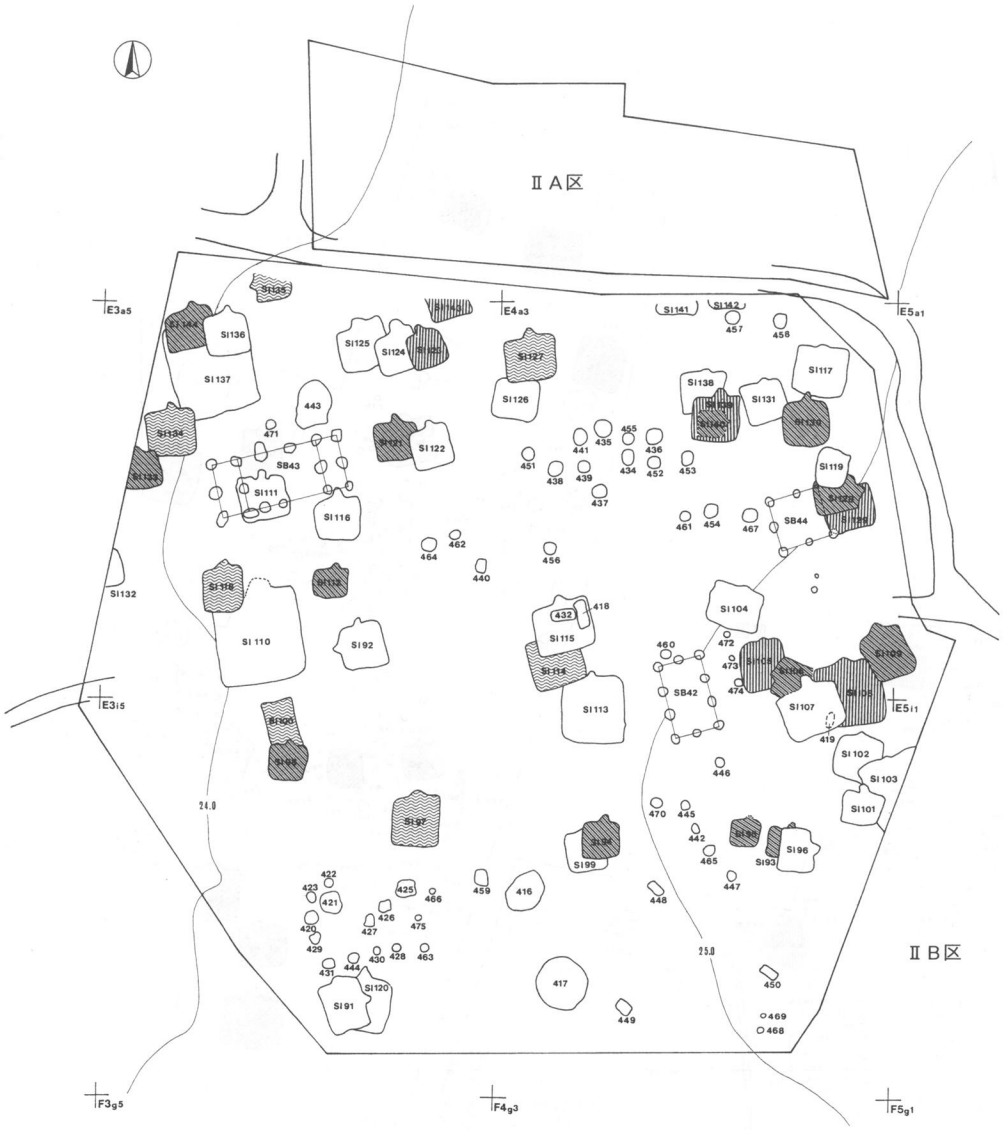


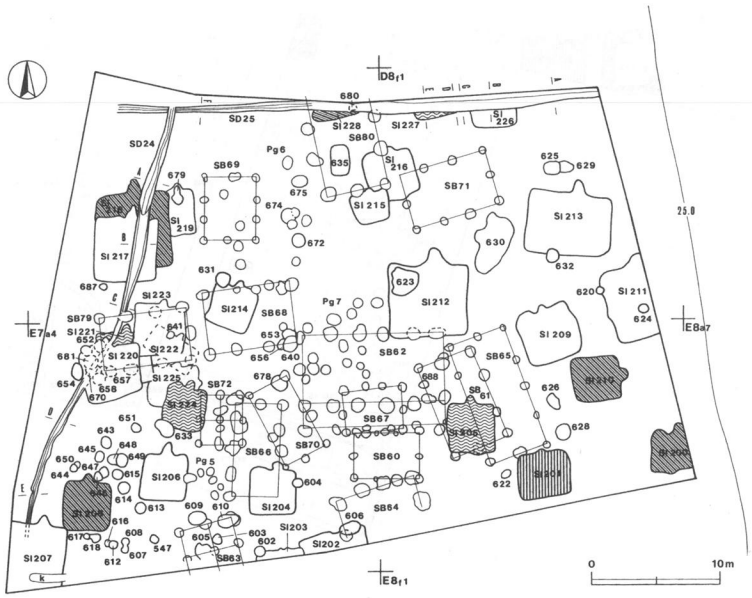


第418図　中原遺跡ⅡB区・Ⅲ区の集落変遷（8世紀）



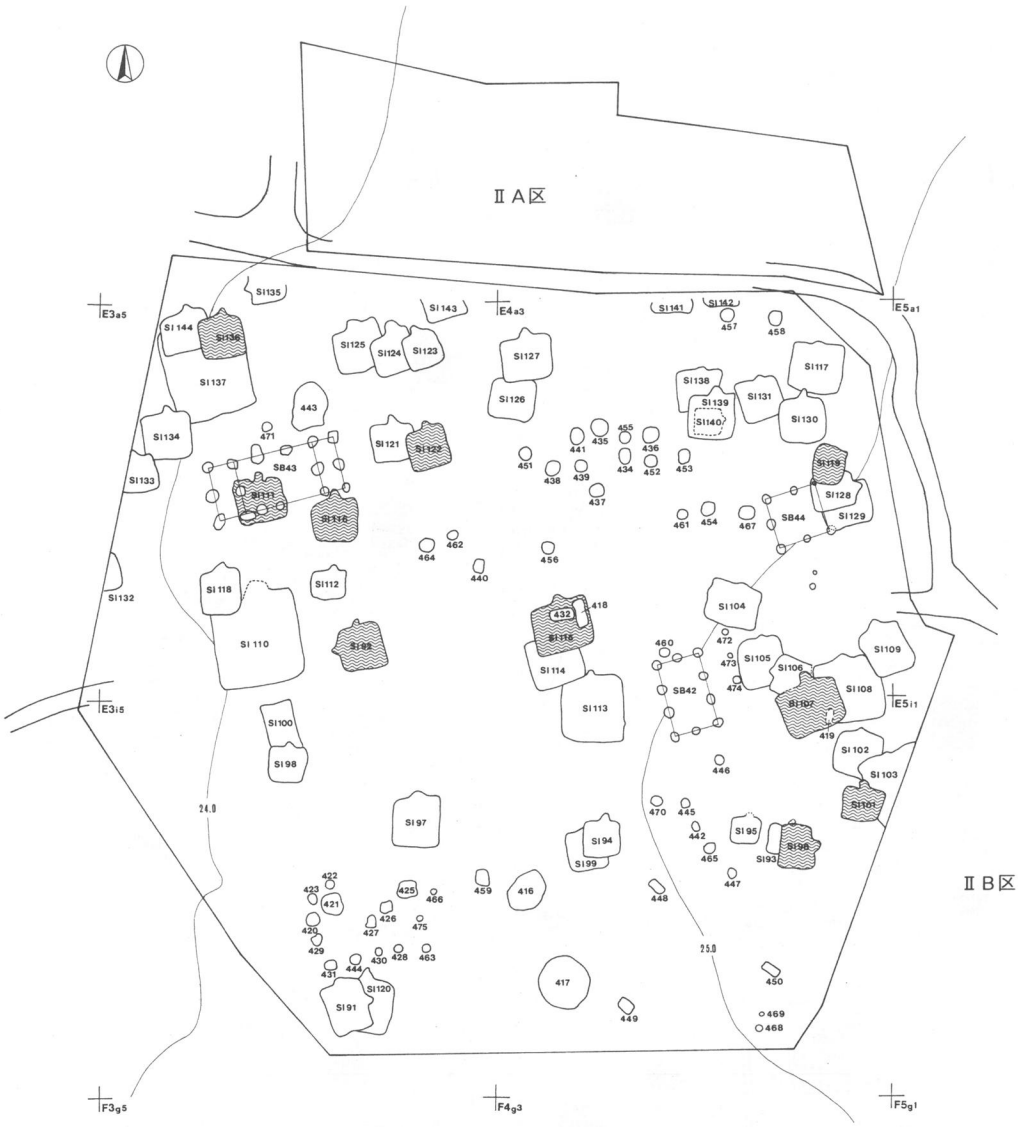
第419図　中原遺跡Ⅳ区・Ⅴ区の集落変遷（８世紀）

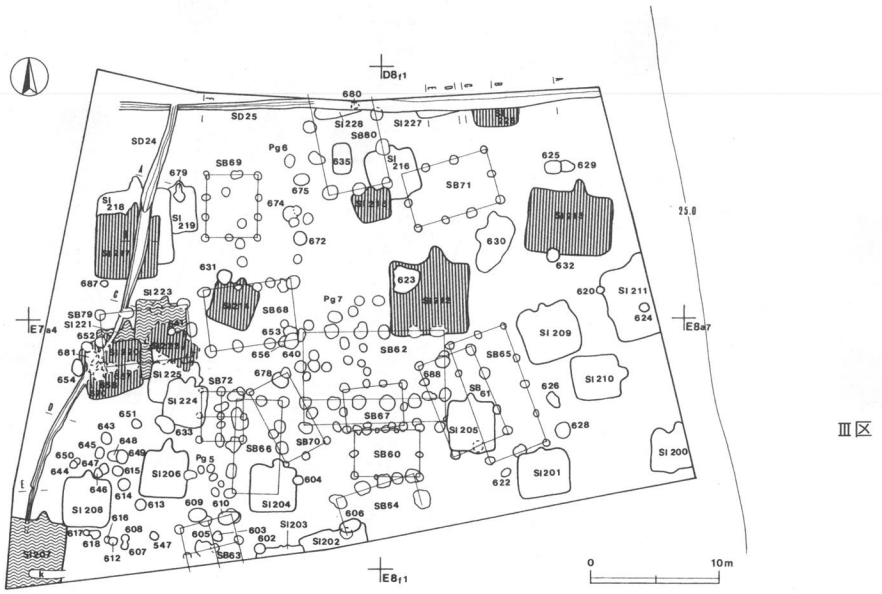




第420図　中原遺跡ⅡB区・Ⅲ区の集落変遷（9世紀）

第421図　中原遺跡Ⅳ区・Ⅴ区の集落変遷（９世紀）





第422図　中原遺跡ⅡB区・Ⅲ区の集落変遷（10世紀）

第423図　中原遺跡Ⅳ区・Ⅴ区の集落変遷（10世紀）

(ア)出土位置について

墨書土器・刻書土器は，全調査区から出土しており，特に，北東部に位置する調査Ⅲ区内の竪穴住居跡からの出土が顕著である。総数68点の内，約半数の33点に上る。調査Ⅲ区内の墨書土器・刻書土器のほとんどが，９世紀後葉から10世紀前葉に比定される竪穴住居跡から出土したものである。また，朱墨の土器も２点出土している（『山』『生』）。竈内からは刻書土器２点が確認されている。（『茎，犬』）。

(イ)文字について

判読可能な墨書土器・刻書土器36点の中で，２点以上出土している文字は，『十』・『生』・『上』と，合わせ文字と思われる『圣』である。『十』は調査Ⅲ区から２点（墨書土器），『生』は調査Ⅲ区から４点（墨書土器），『上』は調査ⅡＢ区・Ⅴ区からそれぞれ１点，調査Ⅲ区から２点が出土している（墨書土器３，刻書土器１）。

(ウ)器種及び部位について

出土した墨書土器・刻書土器の器種別内訳は，坏53点，高台付坏７点，高台付皿５点，長頸瓶１点・皿１点，紡錘車１点となっており，坏が総数の77％を占める。甕や鉢の墨書土器・刻書土器は出土していない。墨書土器・刻書土器が書かれた位置については，口縁部・底部外面がほとんどである。また，合わせ文字と思われる『圣』は，灰釉陶器皿（刻書），土師器坏（墨書），須恵器坏，紡錘車（刻書）と多岐にわたり，その中でも灰釉陶器皿の刻書は，焼成前のものであり，当遺跡の性格を考える上でも貴重な資料であると考えられる。

○灰釉陶器・緑釉陶器

平成10年度調査において，細片も含め，灰釉陶器148点，緑釉陶器32点が出土している。調査区ごとの内訳は，調査ⅡＢ区で灰釉陶器40点，緑釉陶器６点，調査Ⅲ区で灰釉陶器78点，緑釉陶器23点，調査Ⅳ区で灰釉陶器19点，緑釉陶器１点，調査Ⅴ区で灰釉陶器11点，緑釉陶器２点となっている。特に，調査Ⅲ区から出土した灰釉陶器・緑釉陶器が，総数の56％を占める。そのほとんどが，９世紀後葉から10世紀前葉に比定される竪穴住居跡から出土したものである。器種別にみると，灰釉陶器は長頸瓶が多く，続いて椀，皿となっている。緑釉陶器は椀がほとんどで，皿が数点含まれる。また，産地別でみると猿投窯産のものが大半を占め，他に二川窯産など三河地方から搬入されたものもある。

2　その他の時代の遺物について

（１）旧石器時代

今回の調査では，旧石器時代の石器226点が出土し，３か所の石器集中地点を確認することができた。しかし，具体的な生活跡としての遺構を確認することはできなかった。石器集中地点の性格については，製品が少なく，接合できる資料もなかったことから，詳細は不明である。しかし，第５・７号石器集中地点から出土した石器は，剥片が主体で，石核も含まれていることから，石器製作跡の可能性が考えられる。遺物が出土した層位は，ローム層第Ⅲ・Ⅳ層が中心で，特に第５号石器集中地点からは，荒屋型の彫刻刀形石器を代表とする細石刃石器群が確認された。平成９年度の調査では，石器の多くが第Ⅸ層上部から下部で出土しており，また，出土した石器の約12％はナイフ形石器であり，ＡＴ層より古い時期の製作技法をもつものや，瀬戸内型の特徴をもつもの，典型的な基部加工のものなどが確認されていることから，今回の調査区とは文化層の違いがみられた。このことから，当遺跡の旧石器文化は，時期的に幅をもつものであることが推測される。

（２）縄文時代

遺構は確認されなかったが，縄文早期から後期にかけての，関山式，諸磯Ｂ式，浮島Ⅰ～Ⅲ，興津式，五領ヶ台式，阿玉台式，加曽利Ｅ式，称名寺式，加曽利Ｂ式の土器片が採集されている（早期の形式は不明）。採集された土器片総数838点の内，縄文時代の前期に比定される土器片は417点で，特に，縄文前期後葉に比定される土器片は294点にも及んでいる。石器では，石鏃６点，石鏃の未製品１点が出土している。当遺跡の北側に位置する柴崎遺跡をはじめ，縄文時代の遺跡は当遺跡周辺に40か所を数えていることから，当遺跡あるいは周辺に，集落が営まれていたと考えられる。

３　おわりに

以上のように，当遺跡からは，旧石器時代，縄文時代の遺物，奈良・平安時代，中・近世の遺構及び遺物が多数確認された。その中でも，集落全体の変化としては，８世紀前葉から９世紀前葉までの間，掘立柱建物群を伴う集落が存在し，それ以後は，新しい集落が形成され，９世紀後葉にその集落規模は最大となり，その後，減少していく傾向がうかがえる。当遺跡が，常陸国河内郡衙推定地や河内郡の郡寺とみられる九重廃寺跡と隣接していることと，竪穴住居跡から緑釉陶器や灰釉陶器，墨書土器などが多数出土していることから，河内郡衙や九重廃寺と強く関連している集落であることが推測される。

平成９・10年度調査で，具体的な資料の収集と検討がなされることとなったが，中原遺跡の全容については未だ不明な点が多い，当遺跡と郡衙や郡寺との関係や，当遺跡が律令期を経て，何らかの権力を持った集落として繁栄していった可能性等も含め，今後の調査の結果と併せて考えていかなければならないと思われる。

註

（１）竪穴住居跡の大きさを，30㎡以上を大形，30㎡未満20㎡以上を中形，20㎡未満を小形とした。

（２）旧石器の鑑定に関しては，千葉県立中央博物館上席研究員の橋本勝雄氏に御教示を戴いた。

（３）墨書土器・刻書土器の判読に関しては，国立歴史民俗博物館教授の平川南氏に御教示を戴いた。

（４）灰釉陶器・緑釉陶器の鑑定に関しては，愛知県陶磁資料館主任学芸員の井上喜久男氏に御教示を戴いた。

（５）律令期の集落構造については，埼玉県埋蔵文化財調査事業団の田中広明氏に御教示を戴いた。

参考文献

・川津法伸「竈の脇に棚をもつ住居について」『研究ノート』６号　茨城県教育財団　1997年６月
・赤井博之「古代常陸国新治窯跡群の基礎的研究（１）～奈良・平安時代の須恵器編年を中心に～」『婆良岐考古』第20号　1998年５月
・平川南「郡符木簡などからみた末端行政の実態」『律令国家の地方末端支配機構をめぐって　－研究集会の　記録－』奈良国立文化財研究所　1998年
・千葉県文化財センター「佐倉第三工業団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（Ⅵ）佐倉市向原遺跡」『千葉県文化財センター調査報告』第157集　1989年３月
・埼玉県埋蔵文化財調査事業団「住宅・都市整備公団坂戸入西地区土地区画整理事業関係埋蔵文化財発掘調査　報告（Ⅳ）稲荷前遺跡（Ａ区）」『埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書』第120集　1992年３月
・埼玉県埋蔵文化財調査事業団「川本工業団地埋蔵文化財発掘調査報告（Ⅲ）白草遺跡Ⅰ・北篠場遺跡」『埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書』第129集　1993年３月
・茨城県教育財団「研究学園都市計画桜柴崎土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅳ）柴崎遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第93集　1994年９月
・茨城県教育財団「取手都市計画事業下高井特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅲ）東前遺跡・前原遺跡・柏原遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第143集　1999年３月

表８　住居跡一覧表

住居跡番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m)《長軸×短軸》(規模不明は東西軸×南北軸)	壁高(cm)	床面	内部施設 壁溝	主柱穴	貯蔵穴	ピット	入口	棚	竈	覆土	出土遺物	備考 遺構番号・新旧関係(古→新)，時代，その他
91	F 3 e9	N-68°-E	長方形	4.15 × 3.40	24～32	平　坦	一　部	－	－	1	－	－	1	自　然	土師器226, 須恵器27, 金属製品1(不明鉄製品), 炭化米	SI120→本跡　8世紀後葉
92	E 3 g0	N-15°-W	方　形	3.64 × 3.53	13～18	凹　凸	ほぼ全周	－	－	－	－	－	2	自　然	土師器265, 須恵器55, 緑釉陶器1	9世紀末葉～10世紀初頭
93	F 4 a7	[N-8°-E]	[長方形]	[3.20]×(2.28)	16～24	平　坦	－	－	－	－	－	－	1	人　為	土師器20, 須恵器6, 石塊1(雲母片岩)	本跡→SI96　9世紀後葉
94	F 4 a5	N-0°	方　形	2.94 × 2.88	22～32	平　坦	ほぼ全周	－	－	－	－	－	1	人　為	土師器316, 須恵器72, 灰釉陶器1, 緑釉陶器1, 瓦1, 炭化米	SI99→本跡　9世紀後葉
95	F 4 a7	N-8°-W	方　形	2.35 × 2.18	16～25	平　坦	－	－	－	－	－	－	1	－	土師器82, 須恵器35	9世紀後葉
96	F 4 b8	N-88°-E	長方形	3.48 × 2.85	13～25	平　坦	－	－	－	－	－	－	1	人　為	土師器204, 須恵器88, 灰釉陶器1	SI193→本跡　9世紀末葉～10世紀初頭
97	F 4 a1	N-0°	方　形	3.97 × 3.78	40～47	平　坦	一　部	－	－	－	1	－	1	自　然	土師器360, 須恵器346, 灰釉陶器1, 金属製品2(刀子, 手鎌), 陶器3, 石塊1(雲母片岩)	9世紀中葉
98	E 3 j8	N-12°-E	長方形	3.02 × 2.78	32	平　坦	ほぼ全周	2	－	－	1	－	1	人　為	土師器224, 須恵器57, 灰釉陶器2, 金属製品5(刀子1, 釘1, 門1, 不明鉄製品2), 鉄滓1, 石器1(砥石)	SI100→本跡　9世紀後葉
99	F 4 a4	N-9°-W	方　形	3.15 × 3.10	22～24	ほぼ平坦	ほぼ全周	2	－	－	1	－	1	人　為	土師器331, 須恵器2, 金属製品1(不明鉄製品), 炭化種子1	本跡→SI94　9世紀前葉～後葉
100	E 3 i8	N-77°-E	[長方形]	[4.00]×2.57	6～9	平　坦	－	－	－	－	－	－	1	自　然	土師器37, 須恵器21, 土製品1(管状土錘)	本跡→SI98　9世紀中葉
101	F 4 a0	N-11°-E	長方形	3.05 × 2.62	22～24	平　坦	－	－	－	－	－	－	1	自　然	土師器86, 須恵器38, 陶器1	SI102→本跡　9世紀末葉～10世紀初頭
102	E 4 j0	N-8°-E	方　形	3.68 × 3.54	10～12	平　坦	一　部	－	－	－	－	－	1	人　為	土師器336, 須恵器214, 金属製品2(不明鉄製品)	本跡→SI103　8世紀中葉
103	F 4 j0	[N-23°-W]	[方　形]	[5.08]×[5.05]	42	平　坦	一　部	－	－	1	－	－	1	－	土師器266, 須恵器272, 灰釉陶器1, 金属製品5(刀子3, 手鎌, 不明鉄製品), 石製品1(紡錘車), 礫1	SI102→本跡→SI101　8世紀末葉
104	E 4 g7	N-21°-E	長方形	4.18 × 3.38	43～62	平　坦	全　周	4	－	－	1	－	1	自　然	土師器160, 須恵器49	8世紀中葉
105	E 4 h8	N-7°-W	長方形	3.90 × 3.50	50～56	平　坦	全　周	1	－	－	1	－	1	－	土師器403, 須恵器300, 土製品1(支脚), 金属製品3(釘2, 不明鉄製品), 礫2	本跡→SI106　9世紀前葉
106	E 4 h8	N-75°-W	方　形	2.83 × 2.70	32	ほぼ平坦	ほぼ全周	－	－	－	－	－	1	人　為	土師器168, 須恵器153, 灰釉陶器3, 金属製品2(不明鉄製品)	SI105→本跡→SI107　9世紀後葉
107	E 4 i9	N-24°-W	長方形	4.98 × 3.90	30～42	ほぼ平坦	一　部	－	－	2	－	－	1	人　為	土師器408, 須恵器347, 灰釉陶器2, 土製品2(紡錘車, 支脚), 金属製品2(不明鉄製品), 石器1(砥石), 陶器3, 石塊1(雲母片岩)	SI106→本跡, SI108→本跡 SK419→本跡　9世紀末葉～10世紀初頭
108	E 4 h0	N-11°-W	方　形	5.16 × 5.08	30	平　坦	全　周	4	－	－	1	－	1	人　為	土師器545, 須恵器393, 石製品1(紡錘車), 金属製品3(刀子, 不明鉄製品2), 鉄滓1, 陶器1	本跡→SI107, 本跡→SI109　9世紀前葉 SK419→本跡
109	E 4 g0	N-22°-W	長方形	4.00 × 3.40	50	ほぼ平坦	ほぼ全周	－	－	－	1	－	1	－	土師器218, 須恵器210, 金属製品1(不明鉄製品)	SI108→本跡　9世紀後葉
110	E 3 g8	N-5°-W	長方形	7.30 × 6.85	34～50	平　坦	ほぼ全周	4	－	1	1	－	1	人　為	土師器1081, 須恵器1002, 土製品1(支脚), 石製品1(紡錘車), 金属製品4(手鎌1, 不明鉄製品3), 鉄滓1, 陶器2, 礫1	本跡→SI118　8世紀後葉
111	E 3 d8	N-10°-W	方　形	4.00 × 3.74	28～34	ほぼ平坦	－	－	－	－	－	－	1	－	土師器369, 須恵器345, 土製品1(紡錘車), 石器1(砥石), 金属製品2(刀子, 不明鉄製品)	本跡→SB43　9世紀末葉～10世紀初頭
112	E 3 f9	N-0°	長方形	2.72 × 2.35	28～35	ほぼ平坦	一　部	－	－	－	－	－	1	人　為	土師器143, 須恵器77, 瓦1	9世紀後葉
113	E 4 i4	N-0°	方　形	5.37 × 5.05	44～52	ほぼ平坦	ほぼ全周	4	－	－	1	－	1	人　為	土師器157, 須恵器207, 灰釉陶器2, 金属製品1(不明鉄製品), 礫2	本跡→SI114　8世紀前葉
114	E 4 h4	N-14°-W	方　形	4.28 × 3.90	29～40	ほぼ平坦	－	－	－	2	1	－	－	人　為	土師器251, 須恵器240, 石器1(砥石), 金属製品2(刀子, 不明鉄製品)	SI113→本跡→SI115　9世紀中葉
115	E 4 g4	N-17°-W	長方形	4.68 × 3.95	14～24	ほぼ平坦	一　部	－	－	－	－	－	1	人　為	土師器179, 須恵器113, 瓦2, 陶器2, 礫1	SI114→本跡→SK418, SK432 9世紀末葉～10世紀初頭
116	E 3 e9	N-8°-W	方　形	3.65 × 3.58	25～30	ほぼ平坦	ほぼ全周	－	－	－	－	－	1	自　然	土師器325, 須恵器203, 土製品1(紡錘車), 金属製品3(手鎌, 不明鉄製品2)	9世紀末葉～10世紀初頭
117	E 4 b9	N-9°-E	方　形	4.20 × 4.07	30～43	ほぼ平坦	ほぼ全周	－	－	2	1	－	1	人　為	土師器143, 須恵器138, 石器1(砥石), 礫3	本跡→SI130　8世紀後葉
118	E 3 f8	N-0°	長方形	3.70 × 3.15	27	ほぼ平坦	一　部	－	－	－	1	－	1	自　然	土師器145, 須恵器209, 金属製品1(不明鉄製品)	SI110→本跡　9世紀中葉
119	E 4 d9	N-60°-E	方　形	2.75 × 2.55	20～24	ほぼ平坦	－	－	－	－	－	－	1	人　為	土師器283, 須恵器225, 石塊1(雲母片岩), 鉄滓1, 礫6	SI126→本跡　9世紀末葉～10世紀初頭
120	F 3 e0	N-8°-E	長方形	4.90 × 4.20	28～47	平　坦	一　部	4	－	－	－	－	1	－	土師器20, 須恵器4, 金属製品1(不明鉄製品)	本跡→SI91　8世紀中葉
121	E 3 c0	N-8°-W	方　形	3.25 × 3.18	25	ほぼ平坦	ほぼ全周	－	－	－	1	－	1	－	土師器186, 須恵器79, 礫2, 灰釉陶器細片1	本跡→SI122　9世紀後葉
122	E 4 c1	N-16°-W	方　形	3.22 × 3.10	17～25	ほぼ平坦	ほぼ全周	－	－	－	－	－	1	人　為	土師器84, 須恵器65, 灰釉陶器1, 金属製品1(刀子), 鉄滓2	SI121→本跡　9世紀末葉～10世紀初頭
123	E 4 b1	N-24°-W	方　形	3.05 × 2.90	25	ほぼ平坦	半　周	－	－	－	－	－	1	－	土師器84, 須恵器103, 灰釉陶器1	SI124→本跡　9世紀前葉
124	E 3 b0	N-15°-W	方　形	3.50 × 3.30	38～45	ほぼ平坦	一　部	－	－	1	1	－	1	人　為	土師器314, 須恵器276, 金属製品2(刀子), 陶器1	SI125→本跡→SI123　8世紀後葉
125	E 3 a0	N-24°-W	方　形	3.95 × 3.55	22～30	ほぼ平坦	ほぼ全周	－	－	－	－	－	1	人　為	土師器45, 須恵器81, 金属製品1(短刀)	本跡→SI124　8世紀中葉
126	E 4 b3	N-12°-E	方　形	3.65 × 3.32	54～64	平　坦	ほぼ全周	－	－	－	－	－	1	自　然	土師器223, 須恵器80	本跡→SI127　8世紀中葉
127	E 4 b3	N-11°-W	長方形	4.00 × 3.55	12	ほぼ平坦	－	－	－	－	1	－	1	自　然	土師器153, 須恵器70, 金属製品1(不明鉄製品), 陶器3, 石塊1(雲母片岩)	SI126→本跡　9世紀中葉
128	E 4 d9	N-73°-E	[方　形]	3.50 ×[3.25]	42～52	ほぼ平坦	半　周	－	－	－	1	－	1	人　為	土師器115, 須恵器58	SI129→本跡→SI119→SB44　9世紀後葉
129	E 4 e0	N-16°-W	方　形	3.75 × 3.60	40～52	ほぼ平坦	半　周	－	－	－	1	－	－	人　為	土師器161, 須恵器262, 金属製品1(不明鉄製品), 鉄滓1	本跡→SI128→SB44　9世紀前葉
130	E 4 c9	N-16°-W	方　形	3.75 × 3.60	40～52	ほぼ平坦	全　周	－	－	1	1	－	1	人　為	土師器303, 須恵器184, 石製品1(紡錘車), 金属製品2(釘, 手鎌), 鉄滓1, 礫3	SI117→本跡, SI121→本跡　9世紀後葉
131	E 4 b8	N-17°-W	方　形	3.40 × 3.25	32～42	ほぼ平坦	全　周	－	－	－	－	－	1	－	土師器208, 須恵器124	本跡→SI130　8世紀後葉
132	E 3 f5	[N-43°-W]	不　明	2.85 ×(1.50)	32～42	ほぼ平坦	一　部	－	－	－	－	－	－	－	土師器13, 須恵器4	8世紀中葉～後葉
133	E 3 d5	N-19°-W	[方　形]	2.90 ×(2.85)	26～36	ほぼ平坦	一　部	－	－	2	－	－	1	人　為	土師器136, 須恵器125, 金属製品2(釘, 不明鉄製品)	SI134→本跡　9世紀後葉
134	E 3 c6	N-0°	方　形	3.85 × 3.80	30～48	ほぼ平坦	ほぼ全周	4	－	－	1	－	1	自　然	土師器443, 須恵器310, 金属製品4(帯金具, 刀子, 鉄鏃, 不明鉄製品)	SI133→本跡, SI137→本跡　9世紀中葉
135	D 3 j8	N-90°-W	[長方形]	2.70 ×(2.05)	25	ほぼ平坦	－	－	－	－	－	－	1	人　為	土師器174, 須恵器110, 石製品1(砥石), 金属製品2(釘, 不明鉄製品), 礫1	9世紀中葉
136	E 3 a7	N-6°-W	方　形	3.45 × 3.40	32～46	ほぼ平坦	一　部	－	－	2	－	－	1	人　為	土師器346, 須恵器388, 灰釉陶器1, 礫1	SI137→本跡 SI144→本跡　9世紀末葉～10世紀初頭
137	E 3 b7	N-17°-W	長方形	7.34 × 6.65	28～48	ほぼ平坦	ほぼ全周	4	－	2	1	－	1	人　為	土師器284, 須恵器1001, 灰釉陶器2, 土製品1(紡錘車), 瓦1, 金属製品5(刀子3, 鉄鏃, 不明鉄製品)	本跡→SI136→SI144, 本跡→SI134 8世紀後葉
138	E 4 b7	N-4°-W	方　形	3.65 × 3.40	10～20	ほぼ平坦	－	－	－	－	－	－	1	－	土師器198, 須恵器114, 灰釉陶器1, 金属製品1(火打ち金)	本跡→SI139　8世紀中葉
139	E 4 c7	N-0°	方　形	3.90 × 3.60	18～22	ほぼ平坦	一　部	－	－	－	1	－	1	－	土師器220, 須恵器130, 土製品1(管状土錘), 金属製品4(手鎌, 不明鉄製品3), 礫3	SI138→本跡→SI140　9世紀前葉
140	E 4 c7	N-90°-E	[長方形]	[2.80]×[2.10]	－	ほぼ平坦	－	－	－	－	－	－	1	－	土師器32, 須恵器67, 石塊2(雲母片岩)	SI139→本跡　9世紀後葉
141	E 4 a6	[N-8°-E]	－	(1.10)×(3.25)	37～40	ほぼ平坦	－	－	－	－	－	－	－	自　然	土師器32, 須恵器31	8世紀後葉
142	E 4 a7	[N-0°　]	－	(0.62)×(2.85)	30	ほぼ平坦	[全周]	－	－	－	－	－	－	人　為	土師器4, 須恵器1	9世紀代
143	E 4 a1	[N-9°-E]	－	(1.95)×3.30	26～34	ほぼ平坦	[全周]	－	－	2	－	－	－	人　為	土師器33, 須恵器35, 石器1(砥石), 石塊2(雲母片岩)	9世紀前葉
144	E 3 a6	N-12°-W	長方形	3.96 × 3.20	16	ほぼ平坦	－	－	－	－	－	－	1	－	土師器311, 須恵器56	SI137→本跡→SI136　9世紀後葉
145	H 9 b8	N-23°-W	方　形	3.55 × 3.30	35～50	ほぼ平坦	ほぼ全周	－	－	－	1	－	1	自　然	土師器405, 須恵器368, 金属製品2(不明鉄製品), 礫1	9世紀後葉
146	G 9 i6	N-13°-E	長方形	3.07 × 2.72	8～16	ほぼ平坦	－	－	－	－	－	－	1	人　為	土師器124, 須恵器73, 灰釉陶器1, 炭化物	本跡→SK488　9世紀後葉
147	F 9 d1	N-32°-E	方　形	2.74 × 2.48	25～33	ほぼ平坦	－	－	－	－	－	－	1	人　為	土師器111, 須恵器104, 馬歯	9世紀中葉～後葉
148	F 8 c0	N-10°-W	長方形	3.94 × 3.58	30～34	ほぼ平坦	－	－	－	－	－	－	1	自　然	土師器132, 須恵器174, 灰釉陶器2, 石製品1(紡錘車), 陶器1	本跡→SK476　8世紀後葉
149	G 9 g5	N-14°-W	方　形	3.15 × 3.07	20～30	ほぼ平坦	全　周	－	－	－	－	－	1	人　為	土師器89, 須恵器94, 土製品1(支脚), 陶器2, 礫	9世紀後葉
150	H 9 f0	不　明	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	須恵器1	本跡→SK479・480・490　9世紀前葉
151	H 9 h3	N-5°-E	長方形	3.25 × 2.92	40～52	平　坦	ほぼ全周	4	－	－	1	－	1	人　為	土師器209, 須恵器216, 石器1(砥石), 金属製品1(刀子), 土製品1(不明)	本跡→SD 12-13　9世紀前葉～中葉
152	G 9 h8	N-18°-W	方　形	2.55 × 2.53	4～6	ほぼ平坦	一　部	2	－	－	1	－	1	自　然	土師器6, 須恵器1, 金属製品1(不明鉄製品)	本跡→SK507　8世紀中葉～後葉

住居跡番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m)(長軸×短軸)(規模不明は東西軸×南北軸)	壁高(cm)	床面	内部施設							覆土	出土遺物	備考 遺構番号・新旧関係(古→新),時代,その他
							壁溝	主柱穴	貯蔵穴	ピット	入口	棚	竃			
153	G 9 f7	N-5°-W	長方形	4.90 × 4.38	25~30	ほぼ平坦	全周	4	—	—	1	—	1	人為	土師器211, 須恵器138, 石器1(砥石), 石製品3(紡錘車2, 支脚), 金属製品5(鉄鏃3, 紡錘車, 不明鉄製品)	8世紀後葉
154	H 9 b3	N-150°-E	方形	3.15 × 3.00	44~55	平坦	一部	—	—	—	1	—	1	人為	土師器198, 須恵器194, 灰釉陶器1, 石器1(砥石), 石塊3(雲母片岩)	SI155→本跡 9世紀後葉
155	H 9 a2	N-5°-E	長方形	5.00 × 4.30	50~62	平坦	[全周]	3	—	1	1	—	1	人為	土師器866, 須恵器530, 灰釉陶器1, 土製品1(支脚), 石製品1(紡錘車), 金属製品4(短刀, 刀子, 不明鉄製品2)	本跡→SI154 9世紀中葉
156	G 9 e7	N-0°	長方形	3.84 × 3.28	10~12	ほぼ平坦	ほぼ全周	4	—	1	1	—	1	自然	土師器94, 須恵器19, 金属製品3(刀子, 鉄鏃, 不明鉄製品)	8世紀後葉
157	G 9 j2	N-15°-W	方形	4.18 × 4.18	45	平坦	[全周]	—	—	—	1	—	1	人為	土師器191, 須恵器139, 灰釉陶器3, 土製品1(支脚), 炭化材	SB49, 本跡→SK520, 521 9世紀中葉
158	G 9 d8	N-10°-W	[長方形]	4.28 ×(3.10)	25~40	ほぼ平坦	一部	2	—	—	1	—	1	—	土師器69, 須恵器46, 緑釉陶器1, 鉄滓1, 陶器2, 磁器4	本跡→SD23 8世紀後葉
159	G 9 c9	N-10°-E	[長方形]	3.50 ×(2.80)	30~32	ほぼ平坦	一部	—	—	2	—	—	1	自然	土師器28, 須恵器31, 礫3	本跡→SD23 9世紀前葉
160	F 8 i4	N-7°-W	方形	3.48 × 3.40	22~25	平坦	全周	1	—	—	1	—	1	人為	土師器75, 須恵器10, 土製品1(不明土製品), 石器1(砥石), 鉄滓1	8世紀前葉
161	F 8 j3	N-0°	方形	3.85 × 3.60	12~25	平坦	全周	—	—	2	1	—	1	人為	土師器128, 須恵器48, 灰釉陶器1, 緑釉陶器1, 金属製品1(刀子), 石塊2(雲母片岩)	本跡→SK566 ベット状の床 9世紀後葉
162	G 8 b3	N-5°-E	方形	3.70 × 3.55	15~20	平坦	半周	—	—	3	—	—	1	人為	土師器316, 須恵器104, 土製品1(紡錘車), 金属製品3(刀子, 不明鉄製品2), 炭化物	本跡→SK541, 542, 543, SD21 9世紀末葉
163	G 8 d3	N-13°-E	[長方形]	4.86 ×(3.14)	15~20	平坦	一部	—	—	—	—	—	1	人為	土師器210, 須恵器58, 灰釉陶器3, 土製品1(支脚)	9世紀後葉
164	G 8 d3	N-10°-E	方形	2.80 × 2.72	32~40	平坦	全周	—	—	1	1	—	1	人為	土師器159, 須恵器61, 石製品1(紡錘車), 礫2	9世紀末葉
165	G 8 e6	N-32°-W	方形	3.68 × 3.50	48~52	平坦	全周	4	—	1	1	—	1	人為	土師器162, 須恵器61, 金属製品1(刀子), 礫1	本跡→SK548 8世紀前葉
166	G 8 e8	N-12°-E	方形	3.18 × 3.12	15~24	平坦	ほぼ全周	—	—	2	1	—	1	人為	土師器250, 須恵器69, 灰釉陶器1, 石器1(砥石), 石塊1(雲母片岩)	SI176→本跡→SK549, 564, SD22 9世紀末葉
167	G 9 d1	N-15°-E	方形	2.90 × 2.80	45~50	平坦	ほぼ全周	3	—	—	1	—	1	人為	土師器51, 須恵器64	本跡→SK545, 562 9世紀中葉
168A	G 8 g6	N-9°-E	方形	4.70 × 4.30	45~55	平坦	—	—	—	—	—	—	1	人為	土師器637, 須恵器338, 灰釉陶器2, 土製品1(土玉), 石器1(砥石), 鉄滓2	SI168B→本跡→SK567, 574, 580 SB57→本跡 9世紀中葉
168B	G 8 g6	N-6°-W	長方形	4.82 × 4.38	65~72	平坦	一部	4	—	2	1	—	1	人為	土師器261, 須恵器122, 土製品1(支脚), 金属製品1(鉄鏃), 石塊1(雲母片岩), 椀状滓1	本跡→SI168A→SK567, 574, 580 SB57との新旧不明 9世紀前葉~中葉
169	G 8 g9	N-9°-E	長方形	2.82 × 2.45	32~40	平坦	ほぼ全周	—	—	2	1	東棚	1	自然	土師器184, 須恵器157, 灰釉陶器2	9世紀後葉
170	G 8 j7	N-10°-E	[長方形]	[4.32]× 3.70	40~45	平坦	一部	—	—	—	1	—	1	人為	土師器580, 須恵器369, 土製品1(紡錘車), 金属製品1(鉄鏃)	SI171→本跡→SI173 9世紀初頭
171	G 8 j7	N-5°-E	方形	5.15 × 5.10	60	平坦	ほぼ全周	4	—	1	1	—	1	人為	土師器550, 須恵器304, 土製品2(不明), 金属製品3(銅鋺, 鉈尾, 不明), 礫2	本跡→SI170→SI173 8世紀後葉
172	G 8 j9	N-1°-W	[長方形]	5.82 ×(4.08)	18~30	平坦	[全周]	2	—	2	—	西棚	1	人為	土師器537, 須恵器443, 灰釉陶器2, 土製品3(不明), 金属製品1(不明鉄製品), 炭化材, 礫	本跡→SK573 8世紀前葉
173	G 8 j7	N-86°-W	長方形	3.72 × 3.10	12~16	平坦	—	—	—	—	—	—	1	—	土師器296, 須恵器229, 金属製品1(刀子)	SI171→SI170→本跡 9世紀前葉
174	G 9 j4	N-12°-W	[長方形]	3.77 ×(2.88)	28~38	平坦	一部	—	—	1	1	—	1	自然	土師器186, 須恵器216, 土製品1(不明), 金属製品1(刀子)	本跡→SB48 8世紀後葉
175	G 9 h1	N-2°-W	方形	4.00 × 3.70	36~50	平坦	ほぼ全周	—	—	—	1	—	1	人為	土師器244, 須恵器218, 灰釉陶器1, 金属製品2(刀子)	本跡→SB53, SK570, 571 9世紀前葉
176	G 8 d8	不明	[長方形]	3.01 ×(1.60)	30	平坦	[全周]	—	—	—	—	—	—	自然	土師器30, 須恵器12, 金属製品2(不明鉄製品)	本跡→SI166 8世紀代
177	G 9 a8	N-17°-W	方形	4.06 × 3.80	34~40	平坦	—	—	—	1	—	—	1	人為	土師器208, 須恵器318, 土製品1(土錘), 礫3	8世紀中葉
179	G 9 a5	N-0°	方形	3.20 × 2.94	4~6	平坦	—	—	—	—	—	—	—	—	土師器10, 須恵器16, 陶器1	本跡→SB73 P3 8世紀後葉
180	F 9 h8	N-23°-W	長方形	4.18 × 3.80	16~40	平坦	全周	—	—	2	1	—	1	自然	土師器136, 須恵器152, 灰釉陶器1, 金属製品1(手鎌), 礫1	9世紀中葉
181	F 9 i9	N-90°-E	不整方形	2.36 × 2.16	4~6	平坦	—	—	—	—	—	—	1	—	土師器20, 須恵器14	9世紀中葉
182	F 9 i9	不明	[方形]	[2.96]× 2.90	4	平坦	—	—	—	—	—	—	—	—	土師器13, 須恵器14	9世紀中葉
183	G 9 a4	N-12°-E	長方形	3.30 × 2.87	32~35	平坦	ほぼ全周	—	—	—	1	—	1	自然	土師器102, 須恵器71, 金属製品1(不明鉄製品)	8世紀後葉
184	F 9 e9	N-10°-W	方形	4.45 × 4.16	2~12	平坦	全周	—	—	1	1	—	1	—	土師器43, 須恵器17, 土製品1(支脚), 石器2(砥石)	8世紀中葉
185	F 9 f4	N-8°-W	方形	3.24 × 3.12	28~38	平坦	全周	—	—	1	1	西棚	1	自然	土師器443, 須恵器150, 金属製品3(鉄鏃1, 不明鉄製品2), 石器1(砥石)	SI189→本跡 9世紀後葉
186	F 9 a1	N-80°-E	[方形]	[4.40]×[4.30]	—	凹凸	—	—	—	—	—	—	1	—	土師器32, 須恵器46	8世紀後葉
187	E 9 j3	N-17°-W	[方形]	[3.70]× 3.40	5~14	平坦	一部	—	—	1	—	—	1	自然	土師器8, 須恵器26	8世紀後葉
188	F 9 e7	N-0°	長方形	3.80 × 3.25	12~30	平坦	ほぼ全周	—	—	—	1	—	1	自然	土師器39, 須恵器19, 磁器1	8世紀前葉
189	F 9 f5	N-10°-W	[方形]	3.40 ×[3.20]	31~36	平坦	一部	—	—	—	—	—	1	—	土師器13, 須恵器3	本跡→SI185 8世紀中葉
190	F 9 e4	N-10°-E	方形	4.00 × 3.95	30~40	平坦	ほぼ全周	4	—	—	1	—	1	自然	土師器28, 須恵器51, 灰釉陶器1	8世紀中葉
191	F 9 f1	[N-15°-W]	[方形]	[4.30]×[4.20]	—	平坦	—	—	—	—	—	—	1	—		本跡→SI194 本跡→SK714・721・732 奈良・平安時代
192	F 9 c4	N-73°-E	長方形	3.60 × 3.26	10~12	平坦	ほぼ全周	—	—	—	—	—	1	人為	土師器17, 須恵器42, 金属製品1(不明鉄製品)	本跡→SK-710 9世紀後葉
193	E 8 j0	[N-18°-W]	[方形]	3.40 ×[3.40]	8~13	平坦	[全周]	—	—	—	—	—	—	—	土師器7, 須恵器25, 灰釉陶器1, 陶器1	9世紀後葉
194	F 9 f1	[N-10°-W]	—	3.80 ×(0.60)	25~33	平坦	[全周]	—	—	—	—	—	—	人為	須恵器5	SI191→本跡 奈良・平安時代
200	E 8 c6	N-5°-W	[長方形]	3.38 ×(2.41)	32~65	平坦	一部	—	—	1	—	—	1	人為	土師器153, 須恵器53, 金属製品1(刀子)	9世紀後葉
201	E 8 d4	N-13°-W	長方形	4.13 × 3.66	60~76	平坦	全周	4	—	—	1	—	1	人為	土師器375, 須恵器239, 石製品1(支脚), 金属製品4(短刀, 刀子, 鉄斧, 不明金銅製品), 鉄滓1	SB-65→本跡 9世紀前葉
202	E 7 e0	N-8°-W	[長方形または方形]	5.43 ×(1.04)	44~50	凹凸	一部	—	—	2	—	—	1	人為	土師器197, 須恵器63, 鉄滓1, 炭化材	本跡→SI203, SB64, SK606 8世紀中葉
203	E 7 e9	N-7°-W	[長方形または方形]	3.88 ×(0.92)	18~24	ほぼ平坦	—	—	—	—	—	—	1	人為	土師器207, 須恵器79, 灰釉陶器1, 石製品1(紡錘車), 石器1, (砥石)	SI202→本跡→SK602 8世紀後~9世紀前葉
204	E 7 d8	N-2°-E	方形	3.64 × 3.52	45~50	平坦	全周	2	—	1	1	—	1	自然	土師器47, 須恵器40,	SB66・70→本跡→SK604 8世紀後葉
205	E 8 c2	N-2°-W	長方形	4.28 × 3.74	52~55	平坦	全周	3	—	—	1	—	1	人為	土師器752, 須恵器974, 灰釉陶器3, 土製品1(支脚), 金属製品12(門2, 短刀, 紡錘車, 刀子3, 手鎌2, 不明3), 鉄滓3	SB61・62・65→本跡 9世紀中葉
206	E 7 c6	N-10°-E	方形	4.14 × 3.89	50	ほぼ平坦	ほぼ全周	2	—	3	1	—	1	人為	土師器427, 須恵器426, 灰釉陶器3, 石製品1(紡錘車)	本跡→Pg5 8世紀末葉
207	E 7 e4	N-10°-E	[長方形または方形]	(5.25)×(4.14)	66	平坦	一部	4	—	2	1	—	1	自然	土師器345, 須恵器222, 灰釉陶器5, 土製品1(支脚), 金属製品2(不明), 炭化材, 礫	SI208→本跡 9世紀末葉
208	E 7 d5	N-0°	長方形	3.73 × 3.32	30~37	平坦	ほぼ全周	—	—	2	—	—	1	人為	土師器447, 須恵器136, 灰釉陶器1, 金属製品1(不明), 鉄滓, 炭化材	本跡→SI207 9世紀後葉
209	E 8 a4	N-15°-W	方形	4.79 × 4.56	54~60	平坦	ほぼ全周	3	—	3	1	—	1	人為	土師器344, 須恵器254, 灰釉陶器1, 土製品1(不明), 石製品1(紡錘車), 礫1	8世紀後葉
210	E 8 b5	N-82°-E	長方形	4.00 × 3.55	45~50	平坦	全周	—	—	3	1	—	1	人為	土師器531, 須恵器102, 灰釉陶器1, 緑釉陶器1, 椀状滓1, 炭化米, 礫8	ベット状の床を持つ 9世紀後葉
211	D 8 j5	N-15°-W	[長方形または方形]	6.16 ×(3.53)	50~61	平坦	半周	2	—	1	1	—	1	人為	土師器276, 須恵器237, 金属製品6(短刀, 釘, 不明4), 礫2	本跡→SK620, 624 8世紀後葉
212	D 8 j1	N-0°	長方形	6.94 × 6.24	30~34	平坦	全周	4	—	—	1	—	1	人為	土師器1249, 須恵器663, 灰釉陶器10, 緑釉陶器2, 土製品1(支脚), 金属製品3(刀子, 鉄鏃, 不明), 瓦1(平瓦)	SB62→本跡→SK623 ベット状の床を持つ 10世紀前葉
213	D 8 h3	N-7°-E	方形	6.62 × 6.09	15~20	平坦	ほぼ全周	2	—	—	1	—	1	人為	土師器604, 須恵器328, 灰釉陶器1, 緑釉陶器1, 土製品1(土錘), 石器2(砥石), 瓦3(平瓦)	本跡→SK632 ベット状の床を持つ 10世紀前葉
214	D 7 d7	N-15°-E	方形	3.70 × 3.53	30	平坦	ほぼ全周	—	—	1	1	—	1	人為	土師器325, 須恵器91, 灰釉陶器4, 緑釉陶器2, 土製品1(支脚), 石器2(砥石), 金属製品1(不明), 瓦1(平瓦), 鉄滓1, 炭化種子, 炭化材	SB68→本跡→SK631 Pg6 焼失家屋 10世紀前葉
215	D 7 h0	N-14°-W	長方形	3.18 × 2.48	20~25	平坦	ほぼ全周	—	—	—	—	—	1	人為	土師器193, 須恵器63, 土製品1(不明)	SI216→本跡→SB80 10世紀前葉
216	D 7 h1	N-14°-W	方形	4.10 × 3.76	40~62	平坦	[全周]	—	—	3	1	—	1	人為	土師器224, 須恵器177, 灰釉陶器2, 土製品1(支脚)	SB70→本跡→SI216→SB80 8世紀後葉
217	D 7 i5	N-0°	長方形	5.90 × 4.92	22~32	平坦	ほぼ全周	2	—	4	—	—	1	人為	土師器1241, 須恵器387, 灰釉陶器9, 緑釉陶器8, 金属製品2(短刀, 不明銅製品), 瓦1(丸瓦), 礫1, 炭化物	SI218→本跡→SD24 10世紀前葉
218	D 7 h6	N-4°-E	方形	5.92 × 5.66	22~35	平坦	[ほぼ全周]	2	—	—	—	—	1	人為	土師器400, 須恵器220, 灰釉陶器1, 金属製品1(釘), 鉄滓2	SI219→本跡→SI217→SD24 9世紀後葉

住居跡番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m)(長軸×短軸)(規模不明は東西軸×南北軸)	壁高(cm)	床面	内部施設							覆土	出土遺物	備考 遺構番号・新旧関係(古→新)、時代、その他
							壁溝	主柱穴	貯蔵穴	ピット	入口	棚	竈			
219	D 7 h7	N-0°	[長方形または方形]	3.50 ×(2.40)	32～34	平　坦	[ほぼ全周]	－	－	－	－	－	1	人　為	土師器76, 須恵器64, 鉄滓3	本跡→SI218, SB679, SD24　8世紀後葉
220	E 7 a5	N-5°-W	方　形	4.38 × 4.27	20～30	平　坦	一　部	2	－	－	1	－	1	人　為	土師器32, 須恵器28, 灰釉陶器5, 石製品1(紡錘車), 瓦1(平瓦), 石鏃1(雲母片岩), 鉄滓1	SI221・223, SB78, SK652・657・658・670・681→本跡→SK654・SD24　10世紀前葉
221	E 7 a5	N-8°-E	方　形	4.12 × 4.07	25～33	平　坦	ほぼ全周	－	－	2	－	－	1	人　為	土師器20, 須恵器108, 緑釉陶器1, 石器1(砥石), 炭化物	SI225, SB79→本跡→SI220・222・223→SK657・658・670・SD24　9世紀中葉
222	E 7 a6	N-37°-E	[長方形]	[4.21]×[2.05]	不明	凹　凸	不　明	－	－	－	－	－	1	－	土師器84, 須恵器58, 灰釉陶器2, 緑釉陶器1, 金属製品1(刀子), 石鏃1(雲母片岩)	SI221・223・225, SB79→本跡→SK641　10世紀前葉
223	E 7 a6	N-5°-E	方　形	3.83 × 3.62	12～22	平　坦	一　部	－	－	2	－	－	1	人　為	土師器44, 須恵器200, 灰釉陶器6, 緑釉陶器3, 瓦1(平瓦)	SI221, SB79→本跡→SI220・222, SK641　9世紀末葉
224	E 7 b7	N-11°-E	方　形	3.36 × 3.32	40～45	平　坦	一　部	－	－	1	1	－	1	人　為	土師器84, 須恵器63, 灰釉陶器1, 土製品2(不明), 金属製品2(鉄鏃), 炭化物, 礫	SI225, SB72→本跡→SK633　9世紀中葉
225	E 7 b6	N-6°-E	長方形	3.67 × 3.20	24～30	平　坦	一　部	－	－	2	－	－	2	人　為	土師器136, 須恵器20, 灰釉陶器1	SB79→本跡→SI221・222・224　8世紀後葉
226	D 8 g3	不　明	[長方形または方形]	3.50 ×(1.50)	19～29	平　坦	一　部	－	－	－	－	－	－	自　然	土師器46, 須恵器44, 灰釉陶器1, 鉄滓1, 礫	本跡→SD25　10世紀前葉
227	D 8 f2	不　明	[長方形または方形]	3.51 ×(1.27)	45	平　坦	一　部	－	－	－	－	－	－	－	土師器41, 須恵器32, 礫	本跡→SD25　9世紀中葉
228	D 7 f0	不　明	[長方形または方形]	(3.80)×(1.50)	20～37	平　坦	－	2	－	－	1	－	－	人　為	土師器33, 須恵器10, 土製品1(紡錘車),	本跡→SK680, SD25, SB801より不明　9世紀後葉
300	F 8 h4	不　明	不　明	4.25 ×(0.50)	35	ほぼ平坦	－	－	－	－	－	－	－	人　為	土師器17, 須恵器4	奈良・平安時代

表9　掘立柱建物跡一覧表

掘立柱建物跡番号	位置	桁行方向	規模(長さの単位はすべてm)							柱穴(長さの単位はすべてcm)							主な遺物	備考 遺構番号新旧関係(古→新)・時代その他
			桁間平均距離	桁行柱間		梁間平均距離	梁行柱間	面積(m²)		構造	柱穴	平面形	長径(軸)	短径(軸)	深さ	柱寸法		
42	E 4 i7	N-17°-W	3	5.93	1.92～2.14	2	3.62	1.58～1.92	21.46	側柱	10	楕　円　形	72～84	60～78	42～64	16～24	土師器14, 須恵器11, 石器1(砥石)	9世紀前葉
43	E 3 d9	N-74°-E	5	10.64	1.32～3.82	2	4.28	1.90～2.28	45.53	側柱	16	隅丸長方形・楕円形	65～120	58～89	30～55	18～22	土師器16, 須恵器18	SI111→本跡　10世紀代
44	E 4 e9	N-78°-E	2	4.50	1.64～1.86	2	4.20	1.64～1.82	18.90	側柱	7	円　形	36～98	－	31～74	24～32	土師器17, 須恵器12	本跡→SI128・129　8世紀代
45	H 9 f3	N-4°-W	3	7.00	2.10～2.52	2	4.73	2.30～2.47	33.11	側柱	10	楕円形・円形	87～130	81～102	20～97	15～24	土師器13, 須恵器7	9世紀中葉
46	H 9 c3	N-80°-E	2	4.39	1.97～4.39	2	4.20	1.85～2.37	18.44	側柱	7	楕円形・円形	70～114	65～86	24～72	19～25	土師器9, 須恵器4	SK511との新旧不明　9世紀代
47	H 9 a5	N-18°-W	2	4.48	－	－	－	－	－	－	6	楕　円　形	68～86	60～72	24～52	18～22	土師器19, 須恵器17, 鉄製品1(刀子)	9世紀代
48	G 9 i5	N-0°	3	5.70	1.68～2.20	2	3.98	1.98	12.68	－	6	隅丸長方形・不整円形	82～124	82～104	32～52	12～18	土師器12, 須恵器17	9世紀中葉
49	G 9 j2	N-7°-W	2	4.20	2.07～2.22	2	4.00	1.75～2.27	16.80	－	6	楕円形・円形・不定形	80～124	72～117	25～53	不明	土師器4, 須恵器3	本跡→SI157　8世紀前葉～中葉
50	G 8 a0	N-1°-E	4	7.84	1.90～2.14	1	2.41	2.30～2.54	[18.89]	側柱	8	楕円形・円形・方形	72～84	62～80	22～63	18～24	土師器6, 須恵器8	9世紀前葉～中葉
52	G 8 h3	N-0°	2	4.14	2.00～2.54	(2)	(3.58)	1.58～2.00	(14.82)	側柱	6	楕円形・円形・方形	43～89	38～63	27～58	16～23	土師器18, 須恵器5	9世紀代
53	G 9 h2	N-81°-E	3	4.69	1.45～1.70	2	3.60	1.64～1.95	16.89	側柱	10	楕円形・円形・方形	38～90	20～70	22～51	18～32	土師器24, 須恵器20	SI175→本跡　9世紀中葉以降
54	G 8 i4	不　明	2	4.28	1.92～2.34	－	－	－	(4.50)	不明	3	楕　円　形	83～118	74～103	49～80	10～30	土師器2, 須恵器3	9世紀代
55	G 9 h3	不　明	2	4.00	1.85～2.12	(1)	1.95	1.85～2.05	(12.36)	側柱	5	隅　丸　方　形	78～88	(53～82)	30～50	12～20	土師器2, 須恵器5	本跡→SK510　SB56との新旧不明　9世紀前葉～中葉
56	G 9 h3	不　明	2	3.86	1.90	(1)	2.00	1.94～2.06	(7.72)	側柱	5	楕円形・円形	54	44～54	46～66	14～21	須恵器1	SB55との新旧不明　9世紀中葉以降
57	G 8 g5	N-0°	3	6.00	1.72～2.38	3	4.62	1.50～1.62	[27.72]	側柱	7	楕円形・不整楕円形	73～110	60～88	40～51	不明	土師器15, 須恵器1, 金属製品1(刀子)	本跡→SI168A　SI168B・168B, SK509, 567, 574, 580との新旧不明　9世紀前葉
58	G 9 e4	N-12°-W	2	3.74	1.80～2.04	2	3.52	1.60～1.88	13.16	側柱	8	円　形	42～52	－	5～20	14		9世紀前葉
59	G 9 c4	N-12°-W	2	4.25	1.45～2.60	2	4.04	1.90～2.08	17.17	側柱	8	円　形	44～50	－	34～54	不明	SK592・593との新旧不明	9世紀前葉
60	E 8 c1	N-90°	3	5.10	1.82～1.90	2	3.60	1.80～1.95	18.36	側柱	10	楕円形・円形	34～96	29～84	40～66	16～32	土師器24, 須恵器18	SB62, 64, 67→本跡　9世紀中葉
61	E 8 b2	N-17°-W	3	7.59	2.27～2.65	2	4.50	2.02～2.70	34.16	側柱	10	楕円形・円形	77～91	68～82	44～73	17～20	土師器31, 須恵器27	本跡→SI205, SB62　SB65との新旧不明　9世紀初頭
62	E 7 a0	N-90°	5	10.97	1.90～2.40	2	5.23	2.50～2.80	57.30	側柱	20	楕円形・円形	95～134	68～109	32～78	22～32	土師器155, 須恵器107, 鉄滓1	SB61, 67, 68, SK640→本跡→SI205, 212, SB60
									(79.53)	(庇)		(楕円形・円形)	54～104)	(52～90)	(42～68)			Pg7, SB70との新旧不明　9世紀前葉
63	E 7 e7	N-79°-E	2	4.17	1.97～2.17	(1)	1.15	1.10～1.20	(4.80)	総柱	6	楕円形・円形	71～112	67～100	40～79	18～25	土師器28, 須恵器27,	本跡→SK605・609・610　SK603との新旧不明 9世紀代
64	E 8 d1	N-71°-E	3	6.20	1.82～2.40	(1)	2.51	2.50～2.52	(15.56)	側柱	6	楕円形・隅丸方形	100～148	100～134	72～104	28～32	土師器40, 須恵器22	SI202→本跡→SB60, SK606　8世紀後葉～9世紀前葉
65	E 8 b3	N-20°-W	4	9.81	2.25～2.67	2	4.55	2.25～2.34	44.64	側柱	10	楕円形・円形	56～100	41～74	54～106	不明	土師器1	本跡→SI201, 205　SB61との新旧不明　8世紀後葉以前
66	E 7 c8	N-0°	4	7.46	1.58～2.10	2	3.54	1.60～1.94	26.41	側柱	9	楕円形・不整楕円形	89～137	77～105	27～53	不明	土師器11, 須恵器21	SB70→本跡→SI204, SB72　8世紀中葉
67	E 7 b0	N-86°-E	3	4.47	1.34～1.70	2	3.33	1.50～1.88	14.89	側柱	10	楕円形・円形	62～76	52～70	21～42	16～30	土師器15, 須恵器14	本跡→SB60, 62　8世紀末葉
68	D 7 j8	N-80°-E	3	7.03	2.12～2.58	1	4.67	(4.67)	[32.83]	側柱	7	楕円形・円形	79～117	75～100	29～69	不明	土師器13, 須恵器12	本跡→SI214, SB62, SK640　SK653, 658, Pg6・7との新旧不明　8世紀末葉
69	D 7 h8	N-0°	3	4.87	1.50～1.75	2	4.07	1.83～2.24	19.20	側柱	10	楕円形・円形	52～92	50～68	17～49	12～18	土師器1, 須恵器4	Pg6との新旧不明　8世紀末葉～9世紀前葉
70	E 7 c9	N-26°-W	2	6.38	2.30～4.00	2	3.45	1.76～3.25	22.01	側柱	7	楕円形・円形	61～95	44～82	21～73	18～26	須恵器1	本跡→SI204, SB66, SK678　SB62との新旧不明　8世紀前葉
71	D 8 h2	N-73°-E	3	6.85	2.18～2.50	2	4.12	2.00～2.15	28.22	側柱	9	楕円形・円形	57～80	55～79	38～83	18～23	土師器2, 須恵器3	本跡→SI216　8世紀中葉
72	E 7 b7	N-0°	3	3.96	1.84～3.10	3	3.25	1.50～17.8	12.87	総柱	9	楕円形・円形	52～116	50～64	42～74	18～22	土師器3, 須恵器6	SB66→本跡→SI224　Pg5との新旧不明　8世紀後葉～9世紀前葉
73	G 9 a5	N-19°-W	2	3.51	1.54～1.70	2	3.42	1.60～1.88	12.00	側柱	7	楕　円　形	68～84	48～64	29～50	12～22		SI179→本跡 SK595・597との新旧不明　9世紀前葉
74	G 9 a0	N-82°-W	2	5.10	2.42～2.64	2	3.32	1.40～1.62	16.93	側柱	8	楕　円　形	72～104	62～82	16～38	14～18		時期不明
75	F 9 j9	N-6°-W	2	3.04	1.44～1.72	2	3.16	1.46～1.70	9.60	側柱	7	円　形	34～50	－	22～40	8～12	土師器8, 須恵器7	9世紀前葉
76	G 9 b3	N-8°-W	2	3.12	1.42～1.64	1	2.18	2.04～2.20	6.81	－	5	円　形	40～44	－	16～44	12～19		本跡→SI183 SK586新旧不明　9世紀前葉
77	F 9 h5	N-37°-W	3	4.42	1.10～1.66	2	3.28	1.44～1.64	14.49	側柱	10	円　形	54～58	－	30～62	不明	土師器1, 須恵器3	9世紀前葉
78	F 9 g6	N-19°-W	2	3.58	1.64～1.86	2	3.42	1.64～1.82	12.24	側柱	8	楕　円　形	44～90	36～82	20～42	不明	土師器3, 須恵器2	9世紀前葉
79	E 7 a6	N-83°-E	3	6.80	2.00～2.70	2	4.15	2.00～2.20	28.22	側柱	10	楕円形・円形	78～124	68～90	32～59	22～30	土師器28, 須恵器40	本跡→SI220～223・225, SK657・658・670, SD24　8世紀前葉
80	D 7 g0	N-11°-W	(2)	5.90	2.37～3.00	2	4.42	2.18～2.26	26.08	側柱	7	楕円形・不整楕円形	87～137	75～107	40～88	18～24	土師器95, 須恵器50	SI215・216→本跡→SD25, SI228, SK635・680との新旧不明　10世紀前葉以降

表10　土坑一覧表

土坑番号	位置	長径方向(長軸方向)	平面形	規模 長径(軸)×短径(軸)(m)	規模 深さ(cm)	壁面	底面	出土遺物	備考 遺構番号・新旧関係(古→新)時代・その他
416	F 4 b3	N-33°-E	楕円形	3.45 × 2.60	27	緩斜	皿状	土師器片6,須恵器片9	
417	F 4 d4	N-47°-W	円形	4.30 × 4.00	270	緩斜	皿状	土師器片397,須恵器片480	
418	E 4 g4	N-13°-W	不整長方形	2.60 × 1.05	24	外傾	平担	土師器片7,須恵器片23	SI115→本跡
419	E 4 h0	N-3°-W	不整長方形	1.40 × 0.52	32	外傾	平担	須恵器片1	本跡→SI108→SI107
420	F 3 c9	N-0°	不定形	1.17 × 1.06	43	外傾	皿状		
421	F 3 c9	N-90°-E	隅丸方形	1.75 × 1.65	65	外傾	平担	土師器片5,須恵器片3	
422	F 3 b9	N-27°-E	楕円形	0.80 × 0.65	38	外傾	皿状		
423	F 3 c9	N-17°-W	楕円形	0.74 × 0.64	14	緩斜	平担		
425	F 4 b1	N-90°	隅丸方形	1.42 × 1.35	53	緩斜	平担	土師器片2	
426	F 3 c0	N-90°	不整方形	1.00 × 0.95	70	外傾	段状		
427	F 3 c0	N-0°	不整長方形	1.06 × 0.82	48	外傾	皿状	土師器片2,須恵器片1	
428	F 4 d1	N-90°	円形	0.74 × 0.72	28	外傾	皿状		
429	F 3 c9	N-61°-E	不整円形	0.90 × 0.83	53	外傾	平担	須恵器片2	
430	F 3 d0	N-37°-W	楕円形	0.68 × 0.60	44	垂直	平担		
431	F 3 d9	N-77°-E	楕円形	0.95 × 0.81	54	外傾	皿状		
432	E 4 g4	N-82°-W	隅丸長方形	2.26 × 0.95	55	外傾	平担		SI115→本跡
434	E 4 d5	N-25°-W	楕円形	1.20 × 1.08	44	垂直	平担	土師器片8,須恵器片2	
435	E 4 c5	N-29°-W	円形	1.44 × 1.34	44	外傾	平担		
436	E 4 c6	N-34°-E	円形	1.36 × 1.25	54	垂直	平担	土師器片75,須恵器片20	
437	E 4 d5	N-10°-W	方形	1.00 × 0.97	40	垂直	平担		
438	E 4 d4	N-90°	不整円形	1.15 × 1.13	42	緩斜	皿状	土師器片25,須恵器片5	
439	E 4 d4	N-56°-W	円形	1.00 × 0.93	20	外傾	平担	土師器片6,須恵器片5	
440	E 4 f2	N-0°	隅丸長方形	1.05 × 0.85	42	外傾	凹凸	土師器片1,須恵器片10	
441	E 4 c4	N-0°	円形	1.15 × 1.12	40	外傾	平担	土師器片36,須恵器片10	
442	F 4 a7	N-0°	楕円形	0.70 × 0.64	64	外傾	皿状		
443	E 3 c9	N-0°	不定形	3.74 × 2.90	55	緩斜	皿状	土師器片471,須恵器片437,土製品2,石塊1	
444	F 3 d0	N-0°	円形	0.90 × 0.85	50	外傾	皿状	土師器片18,須恵器片32	
445	F 4 a6	N-40°-W	楕円形	0.79 × 0.68	75	外傾	皿状	土師器片11,須恵器片10,石塊1	
446	E 4 j7	N-34°-W	楕円形	0.80 × 0.68	92	外傾	平担	土師器片3,須恵器片3	
447	F 4 b7	N-45°-W	円形	0.80 × 0.76	25	外傾	平担	須恵器片1	
448	F 4 b6	N-43°-W	隅丸長方形	1.30 × 0.65	30	外傾	平担		
449	F 4 e5	N-51°-W	長方形	1.20 × 1.05	66	外傾	平担		
450	F 4 d8	N-55°-W	長方形	1.37 × 0.70	28	外傾	平担	土師器片1,須恵器片2	
451	E 4 d3	N-10°-W	長方形	0.95 × 0.82	58	外傾	平担		
452	E 4 d6	N-40°-W	円形	0.95 × 0.90	17	緩斜	平担	土師器片6,須恵器片4	
453	E 4 d6	N-0°	楕円形	1.10 × 0.93	50	外傾	平担		
454	E 4 e7	N-90°	円形	1.18 × 1.15	20	緩斜	凹凸		
455	E 4 c5	N-0°	円形	0.92 × 0.86	20	外傾	皿状	土師器片5,須恵器片4	
456	E 4 e4	N-0°	円形	1.00 × 1.00	26	外傾	皿状		
457	E 4 a7	N-90°	円形	1.10 × 1.05	60	垂直	平担		
458	E 4 a8	N-12°-E	円形	1.15 × 1.05	57	外傾	平担		
459	F 4 b2	N-0°	隅丸長方形	1.22 × 0.90	35	外傾	平担		
460	E 4 h6	N-90°	円形	0.88 × 0.80	28	垂直	平担	土師器片13,須恵器片2	
461	E 4 e6	N-0°	円形	0.84 × 0.82	46	外傾	平担	土師器片1,須恵器片3	
462	E 4 e2	N-0°	円形	0.81 × 0.80	30	緩斜	平担		
463	F 4 d1	N-38°-E	円形	0.67 × 0.61	24	外傾	平担		
464	E 4 e1	N-63°-E	楕円形	1.27 × 1.04	84	垂直	凹凸		
465	F 4 b7	N-57°-E	楕円形	0.99 × 0.87	66	外傾	平担		
466	F 4 b1	N-0°	円形	0.42 × 0.42	30	外傾	皿状		
467	E 4 e8	N-90°	円形	1.20 × 1.15	44	外傾	皿状		
468	F 4 e8	N-14°-E	楕円形	0.60 × 0.48	68	外傾	平担		
469	F 4 e8	N-90°	円形	0.32 × 0.30	35	外傾	平担		
470	F 4 a6	N-90°	円形	0.90 × 0.84	38	外傾	皿状		
471	E 3 c8	N-0°	円形	0.74 × 0.74	52	外傾	皿状		
472	E 3 g7	N-0°	円形	0.55 × 0.50	21	外傾	皿状		
473	E 4 h7	N-49°-E	楕円形	0.52 × 0.46	19	緩斜	皿状		
474	E 4 h7	N-0°	円形	0.68 × 0.64	61	緩斜	平担		
475	F 4 c1	N-0°	円形	0.42 × 0.42	20	外傾	段状		

土坑番号	位置	長径方向(長軸方向)	平面形	規模 長径(軸)×短径(軸)(m)	規模 深さ(cm)	壁面	底面	出土遺物	備考 遺構番号・新旧関係(古→新)時代・その他
476	F 8 c0	N-90°	長楕円形	1.20 × 0.58	25	外傾	平担		SI148→本跡
477	H 0 f1	N-60°-E	隅丸楕円形	[1.20]× 0.98	45	垂直	平担	須恵器片2	SK 497→本跡
478	H 9 f0	N-17°-W	隅丸楕円形	1.00 × 0.80	30	外傾	平担		
479	H 9 f0	N-17°-W	隅丸楕円形	1.15 × 1.08	44	垂直	平担	土師器片2,須恵器片1	SI150→本跡
480	H 9 f9	N-75°-E	隅丸楕円形	1.05 × 0.90	41	外傾	平担		SI150→SK 490→本跡
481	H 9 f9	N-15°-W	隅丸楕円形	3.92 × 0.83	65	緩斜	凹凸		
482A	H 9 g7	N-16°-W	隅丸楕円形	1.45 ×(1.15)	19	外傾	平担		SK 482B→本跡
482B	H 9 g8	N-10°-W	隅丸楕円形	0.97 ×(0.74)	10	緩斜	平担		本跡→SK 482A
483	H 9 f7	N-76°-E	隅丸長方形	1.10 × 0.70	70	内傾	平担	土師器片10,須恵器片13	
484	H 9 d9	N-17°-W	楕円形	1.55 × 1.19	51	外傾	平担	土師器片12,須恵器片6	
485	H 9 c8	N-36°-W	楕円形	1.04 × 0.93	35	緩斜	皿状	土師器片3,須恵器片7	
486	H 9 e8	N-43°-E	不定形	5.83 × 0.62	36	垂直・緩斜	凹凸		
487	H 9 c9	N-0°	楕円形	0.92 × 0.90	48	外傾	平担	土師器片18,須恵器片5	
488	G 9 i6	N-20°-E	楕円形	0.93 × 0.80	40	外傾	皿状	土師器片4,須恵器片2	SI146→本跡
490	H 9 f9	N-15°-W	[隅丸長方形]	(1.05)× 0.92	30	垂直	平担		SI150→本跡→SK 480
491	H 9 c8	N-90°	円形	0.50 × 0.47	18	外傾	皿状		
492	H 9 g8	N-78°-E	長方形	1.46 × 0.60	54	外傾	平担	土師器片2,須恵器片1	
493	G 9 j6	N-76°-E	不整長方形	1.52 × 1.10	19	垂直	平担	土師器片2,須恵器片5	
494	H 9 c8	N-90°	円形	0.74 × 0.68	20	外傾	平担		
495	H 9 g7	N-77°-E	長方形	(2.00)× 0.66	25	外傾	平担		
496A	H 9 g7	N-15°-W	[不整長方形]	(0.92)×(0.50)	30	外傾	平担		SK 496B→本跡
496B	H 9 g7	N-16°-W	[不整長方形]	(0.67)×(0.56)	20	緩斜	平坦		本跡→SK 496A
497	H10f1	N-6°-W	長方形	1.40 × 1.20	44	垂直	平担	土師器片3,須恵器片1	本跡→SK 477
498	H 9 c6	N-14°-W	[不整長方形]	1.60 ×(0.77)	30	外傾	平担	土師器片1,須恵器片1	
499	H 9 d5	N-70°-E	長方形	1.96 × 1.37	47	外傾	平担	土師器片12,須恵器片15	
500	H 9 f2	N-56°-W	円形	1.29 × 1.18	28	外傾	皿状		
501	H 9 f1	N-20°-W	[不整円形]	(2.74)×(0.99)	62	緩斜	凹凸		
502	G 9 j5	N-12°-W	[不整長方形]	1.70 ×(0.80)	16	外傾	平担		
503	G 9 j9	N-32°-W	楕円形	1.03 × 0.77	23	緩斜	平担		
504	G 9 i9	N-90°-W	楕円形	0.96 × 0.86	34	緩斜	平担	須恵器片4	
505	G 9 j0	N-23°-W	[不整長方形]	1.00 ×(0.95)	12	緩斜	平担	土師器片7	
506	H 9 d2	N-17°-W	隅丸長方形	1.65 × 0.87	20	緩斜	皿状	土師器片6,須恵器片5	
507	G 9 i8	N-0°	円形	0.66 × 0.64	12	緩斜	皿状		SI152→本跡
508	H 9 b2	N-16°-E	円形	0.68 × 0.61	27	外傾	皿状	土師器片2	
509	G 8 g5	N-70°-W	楕円形	0.80 × 0.60	73	外傾	凹凸	須恵器片1	
510	G 9 h3	N-20°-W	[長方形]	1.59 ×(0.77)	74	垂直	平担	土師器片2,須恵器片1	SB 55→本跡
511	H 9 c3	N-65°-E	楕円形	0.92 × 0.81	22	緩斜	平担	土師器片1,須恵器片1	SB 46との新旧不明
512	H 9 d2	N-21°-E	隅丸長方形	1.16 × 0.62	10	緩斜	皿状		
513	H 9 g2	N-54°-W	楕円形	1.20 × 1.00	19	垂直	平担		
514	H 9 d2	N-17°-W	隅丸長方形	1.20 × 0.66	11	緩斜	皿状		
515	H 9 b4	N-0°	円形	0.40 × 0.38	55	垂直	平担		
516	H 9 b4	N-75°-E	楕円形	0.55 × 0.46	20	垂直	平担	土師器片1,須恵器片1	
517	H 9 a4	N-70°-E	不整楕円形	1.08 × 0.90	12	緩斜	平担		
518	H 9 b4	N-72°-E	長方形	[1.02]× 0.90	32	緩斜	平担		SK 519→本跡
519	H 9 b4	N-27°-W	[隅丸長方形]	1.10 ×[0.72]	28	外傾	平担	土師器片7,須恵器片7	本跡→SK 518
520	G 9 j2	N-79°-E	台形	1.40 × 1.15	20	外傾	平担		SI157→本跡
521	G 9 j2	N-74°-E	長方形	1.11 × 0.80	20	外傾	平担		SI157→本跡
522	H 9 h6	N-68°-E	楕円形	2.02 × 1.48	48	緩斜	平担	土師器片7,須恵器片7	
523	F 8 i3	N-9°-W	不整楕円形	1.30 × 0.98	54	外傾	階段		
524	F 8 i2	N-78°-E	楕円形	1.25 × 0.62	28	外傾	平坦		
525	F 8 i2	N-53°-E	不整楕円形	1.02 × 0.85	14	緩斜	平担		
526	F 8 h2	N-90°	楕円形	1.69 × 0.72	45	垂直	平担	土師器片3,須恵器片1	
527	F 8 j2	N-23°-W	円形	0.96 × 0.95	20	緩斜	階段	土師器片7,須恵器片1	
528	G 8 a5	N-82°-E	円形	1.22 × 1.18	68	垂直	平担	土師器片3,須恵器片3	
529	G 8 a4	N-46°-E	円形	0.41 × 0.37	17	垂直	平担		
530	G 8 c4	N-50°-E	円形	0.88 × 0.88	40	垂直	平担	土師器片1，須恵器片3	
531	G 8 c4	N-43°-E	不定形	1.96 × 1.38	58	垂直	平坦		
532	G 8 h5	N-0°	円形	0.56 × 0.54	46	垂直	平坦		

土坑番号	位置	長径方向(長軸方向)	平面形	規模 長径(軸)×短径(軸)(m)	規模 深さ(cm)	壁面	底面	出土遺物	備考 遺構番号・新旧関係(古→新)時代・その他
533	F 8 j4	N-86°-W	円形	0.79 × 0.78	27	緩斜	皿状	土師器片1	
534	F 8 j2	N-34°-W	不整円形	0.74 × 0.74	29	緩斜	階段		
536	G 8 c4	N-54°-E	楕円形	1.25 × 0.90	54	外傾	平坦		
537	G 8 a2	N-8°-W	不定形	0.48 × 0.48	32	垂直	平坦		
538	F 8 j2	N-81°-E	不整楕円形	0.40 × 0.35	45	外傾	平担		
539	G 8 c5	N-34°-W	隅丸長方形	1.05 × 0.50	10	緩斜	平担		
540	G 8 c6	N-81°-E	隅丸長方形	1.57 × 0.54	10	緩斜	平担		
541	G 8 c3	N-46°-E	円形	1.12 × 1.09	20	外傾	平坦		SI162→本跡
542	G 8 c3	N-34°-W	楕円形	1.03 × 0.92	43	外傾	平担		SI162→本跡
543	G 8 b3	N-17°-E	円形	0.98 × 0.90	30	外傾	平担	土師器片8	SI162→本跡
544	G 8 d6	N-83°-W	円形	1.00 × 0.93	21	緩斜	平坦	土師器片5,須恵器片2	
545	G 9 d2	N-15°-E	隅丸台形	1.35 × 0.63	15	外傾	平担		SI167→本跡→SK 562
546	G 8 a3	N-81°-E	円形	0.80 × 0.72	36	垂直	平担		
547	E 7 e6	N-48°-W	不整円形	0.97 × 0.78	33	外傾	階段		
548	G 8 d6	N-76°-W	[楕円形]	(1.98)× 1.30	70	外傾	平坦	土師器片4,須恵器片4,金属製品1(不明銅製品)	SI165→本跡
549	G 8 e7	N-25°-W	不整方形	1.51 × 1.35	30	外傾	平坦		SI166→本跡
551	G 8 e0	N-52°-W	楕円形	1.51 × 0.95	12	緩斜	平担		
552	G 8 e0	N-41°-E	円形	0.79 × 0.77	10	緩斜	平担		
553	G 9 e1	N-83°-W	楕円形	1.23 × 0.92	28	緩斜	平担		
554	G 9 e1	N-57°-W	円形	0.89 × 0.82	28	外傾	凹凸		
555	G 9 d2	N-90°-E	楕円形	0.70 × 0.60	14	緩斜	皿状	土師器片3	
556	G 9 f1	N-62°-E	楕円形	0.77 × 0.65	34	外傾	皿状		
557	G 9 f2	N-90°-E	楕円形	1.37 × 0.88	12	緩斜	平担	土師器片3	
558	G 8 f1	N-7°-W	楕円形	1.25 × 0.83	21	緩斜	平担	土師器片2	
559	G 8 f0	N-89°-W	楕円形	1.86 × 1.24	20	緩斜	平担		
560	G 8 f9	N-0°	円形	0.42 × 0.42	90	外傾	皿状	須恵器片2	
561	G 8 e9	N-55°-W	楕円形	1.12 × 0.70	20	外傾	平担		
562	G 9 d2	N-5°-E	[隅丸方形]	1.22 ×(0,90)	45	外傾	皿状		SI167→SK 545→本跡
563	G 8 i5	N-75°-E	楕円形	1.60 × 1.17	28	緩斜	平坦	土師器片9,須恵器片11	
564	G 8 d8	N-18°-E	楕円形	1.04 × 0.77	54	外傾	凹凸	土師器片19,須恵器片1	SI166→本跡
565	G 8 i6	N-81°-E	不整楕円形	3.55 × 1.23	17	緩斜	凹凸	土師器片9,須恵器片5	
566	F 8 j3	N-74°-E	(楕円形)	1.00 × (0.85)	19	外傾	凹凸	土師器片3,須恵器片1	SI161→本跡
567	G 8 g6	N-88°-W	(楕円形)	0.85 × (0.35)	45	外傾	凹凸	土師器片14,須恵器片4	SI→168A・B→本跡
568	G 8 f5	N-12°-W	円形	0.60 × 0.60	45	外傾	皿状	土師器片2,須恵器片5	
570	G 8 h0	N-42°-E	不整長方形	1.61 × 1.47	42	垂直	平担	土師器片5,須恵器片9,礫1	SI175→本跡
571	G 9 h1	N-41°-E	不整台形	0.97 × 0.92	45	外傾	平担	土師器片10,須恵器片9	SI175→本跡
573	G 8 j8	N-0°	方形	0.90 × 0.80	23	緩斜	凹凸	土師器片4,須恵器片2	SI172→本跡
574	G 8 g5	N-60°-E	円形	0.95 × 0.89	29	外傾	皿状	土師器片3	SI168A・B→本跡
576	G 9 b0	N-90°	楕円形	0.93 × 0.81	24	緩斜	皿状		
577	G 9 c7	N-90°	楕円形	0.42 × 0.38	32	外傾	皿状		
579	G 9 b4	N-83°-W	隅丸長方形	1.00 × 0.70	9	緩斜	平担		
580	G 8 g6	N-0°	円形	0.82 × 0.71	31	外傾	平担	土師器片93,須恵器片16	SI168A・B→本跡
581	G 9 b5	N-90°	楕円形	1.07 × 0.88	21	緩斜	平担	土師器片1	
582	G 9 c5	N-0°	円形	0.40 × 0.37	35	外傾	皿状		
583	G 9 a0	N-45°-E	不整楕円形	0.85 × 0.75	25	緩斜	皿状	土師器片2	SB 74→本跡
584	G 9 d5	N-48°-W	不整長方形	1.60 × 0.80	30	緩斜	凹凸	土師器片1	
585	G 9 c5	N-0°	円形	0.52 × 0.52	20	緩斜	皿状		
586	G 9 b3	N-0°	円形	0.80 × 0.78	34	外傾	皿状		SB 76との新旧不明
587	G 9 a9	N-0°	円形	0.74 × 0.74	17	緩斜	平担		
588	G 9 c6	N-62°-E	楕円形	1.05 × 0.64	39	垂直	平担		
589	G 9 b3	N-0°	円形	0.72 × 0.70	15	緩斜	平担		
590	G 9 b4	N-60°-W	楕円形	0.55 × 0.39	36	外傾	皿状		
591	G 9 a3	N-16°-W	楕円形	0.86 × 0.75	38	緩斜	皿状		
592	G 9 c4	N-60°-W	不整楕円形	0.45 × 0.36	32	外傾	皿状	土師器片1,須恵器片1	
593	G 9 c4	N-47°-E	不整円形	0.50 × 0.48	34	外傾	平担		SB 59→本跡
594	G 9 a3	N-46°-W	不整円形	0.73 × 0.70	57	外傾	皿状		
595	G 9 a5	N-65°-E	楕円形	0.80 × 0.55	31	外傾	平担		
596	F 9 h3	N-65°-W	不整円形	1.05 × 1.00	24	緩斜	平担		

土坑番号	位置	長径方向(長軸方向)	平面形	規模 長径(軸)×短径(軸)(m)	規模 深さ(cm)	壁面	底面	出土遺物	備考 遺構番号・新旧関係(古→新)時代・その他
597	F 9 j4	N-40°-W	円形	0.54 × 0.52	48	外傾	平担		
598	G 9 b6	N-37°-E	不整楕円形	0.45 × 0.33	11	緩斜	皿状		
599	G 9 b4	N-30°-E	不定形	1.18 × 0.82	60	外傾	凹凸		
602	E 7 e8	N-1°-W	円形	1.36 × 1.34	35	緩斜	平担	土師器片41,須恵器片14	SI203→本跡
603	E 7 e7	N-39°-E	円形	0.83 × 0.76	29	外傾	平担	土師器片4,須恵器片8	SB63との新旧不明
604	E 7 d9	N-7°-E	(円形)	0.58 ×(0.54)	49	緩斜	皿状	土師器片4,須恵器片1	SI204→本跡
605	E 7 e7	N-20°-E	(円形)	(1.27)× 1.22	48	外傾	平担	土師器片24,須恵器片18,石塊1(雲母片岩)	SB63→本跡
606	E 7 e0	N-70°-W	楕円形	1.75 × 0.90	44	緩斜	やや凹凸	土師器片50,須恵器片10,緑釉陶器片1	SI202→本跡, SB64→本跡
607	E 7 e5	N-78°-W	楕円形	0.69 × 0.62	39	外傾	皿状		SK608との新旧不明
608	E 7 e5	N-37°-E	楕円形	0.79 × 0.70	20	緩斜	皿状		SK607との新旧不明
609	E 7 d7	N-80°-W	楕円形	1.45 × 1.09	23	外傾	平担	土師器片7,須恵器片1	SB63→本跡
610	E 7 e7	N-78°-E	楕円形	1.79 × 1.11	23	緩斜	平担		SB63→本跡
612	E 7 e5	N-9°-E	楕円形	0.72 × 0.59	30	外傾	平担	土師器片7,須恵器片2	SK616→本跡
613	E 7 d6	N-0°	円形	1.07 × 1.04	24	緩斜	平担	土師器片4,須恵器片2	
614	E 7 d6	N-0°	円形	1.18 × 1.14	32	外傾	平担	土師器片5	
615	E 7 d5	N-60°-E	円形	1.18 × 1.08	23	外傾	平担	土師器片17,須恵器片5,瓦1	
616	E 7 e5	N-90°-E	楕円形	0.54 × 0.44	34	外傾	皿状		本跡→SK612
617	E 7 e5	N-66°-E	(楕円形)	(0.70)× 0.57	64	緩斜	皿状	須恵器片1	SK618→本跡
618	E 7 e5	N-6°-W	(楕円形)	0.81 ×(0.68)	52	垂直	皿状		本跡→SK617
620	D 8 j5	N-6°-W	楕円形	0.50 ×(0.38)	63	外傾	皿状		SI211→本跡
622	E 8 d3	N-50°-E	楕円形	1.17 × 8.60	49	緩斜	皿状		
623	D 8 j1	N-51°-W	不定形	4.60 × 4.08	18～22	外傾	凹凸	土師器片110,灰釉陶器片6,土製品1(支脚),金属1(手鎌),骨粉	SI212→本跡
624	D 8 j6	N-0°	円形	0.57 × 0.57	44	緩斜	皿状		SI211→本跡
625	D 8 h4	N-87°-E	隅丸長方形	1.34 × 1.00	44	外傾	平担	土師器片3	SK629→本跡
626	E 8 b4	N-41°-W	楕円形	1.40 × 0.88	60	外傾	凹凸		
628	E 8 c4	N-27°-E	楕円形	1.35 × 1.18	46	外傾	凹凸		
629	D 8 h4	N-85°-W	隅丸長方形	(1.02)× 0.85	14	緩斜	平担	土師器片9,須恵器片5	本跡→SK625
630	D 8 i3	N-25°-E	不整楕円形	4.63 × 2.90	134	緩斜	凹凸	土師器片2,須恵器片1,礫1	
631	D 7 j7	N-8°-E	楕円形	1.20 × 1.03	84	外傾	皿状	土師器片51,須恵器18	SI214→本跡 10世紀前葉
632	D 8 i4	N-14°-W	楕円形	1.50 × 1.28	25	緩斜	平担	土師器片18,須恵器片6,鉄滓1	SI213→本跡
633	E 7 c7	N-59°-W	楕円形	1.68 × 1.22	46	緩斜	平担	土師器片21,須恵器片25,緑釉陶器片1,土製品1(紡錘車)	SI224→本跡 9世紀後葉
635	D 7 g0	N-3°-W	隅丸長方形	2.47 × 1.54	65	外傾	平担	土師器片159,須恵器片69	本跡→SB8 9世紀後葉
640	E 7 a9	N-0°	円形	1.32 × 1.30	54	外傾	平担	土師器片7,須恵器片8	SB68, SK653・656→本跡 8世紀末葉～9世紀前葉
641	E 7 a6	N-0°	円形	0.63 × 0.63	38	緩斜	皿状		SB79→SI223→SI222→本跡
643	E 7 c5	N-17°-W	楕円形	0.91 × 0.81	52	外傾	皿状	土師器片5,須恵器片3	
644	E 7 c4	N-37°-W	不整楕円形	0.60 × 0.59	59	外傾	皿状		SK650→本跡
645	E 7 c5	N-18°-E	楕円形	0.95 × 0.70	45	外傾	皿状	土師器片3,須恵器片2	
646	E 7 d5	N-32°-W	楕円形	0.87 × 0.74	40	緩斜	皿状	土師器片2,須恵器片1	本跡→SK647
647	E 7 d5	N-34°-W	楕円形	0.72 × 0.57	55	緩斜	皿状	土師器片10,須恵器片2	SK647→本跡
648	E 7 c5	N-8°-E	不整楕円形	0.85 × 0.71	47	緩斜	皿状	土師器片8,須恵器片4,礫1	本跡→SK649
649	E 7 c5	N-2°-W	不整円形	1.02 × 0.95	13	緩斜	皿状		SK648→本跡
650	E 7 c4	N-49°-W	不整楕円形	0.56 × 0.38	50	外傾	皿状		本跡→SK644
651	E 7 c6	N-60°-W	楕円形	0.83 × 0.75	48	緩斜	皿状		
652	E 7 a5	N-0°	円形	0.76 × 0.71	34	緩斜	皿状	土師器片14,須恵器片5	本跡→SI220 9世紀以前
653	E 7 a9	N-73°-E	不整楕円形	1.03 × 0.61	42	緩斜	平担	土師器片3,須恵器片1	SB68→本跡→SK640 8世紀末葉
654	E 7 a4	N-21°-W	不整楕円形	1.55 × 1.03	43	緩斜	凹凸	土師器片1	
656	E 7 a9	N-0°	不定形	0.98 × 0.50	40	緩斜	皿状		SB68→本跡→SK640 8世紀末葉
657	E 7 a5	N-0°	円形	0.94 × 0.94	56	緩斜	皿状	土師器片28,須恵器片12	SB79→本跡→SI220 8世紀中葉～9世紀後葉
658	E 7 b5	N-0°	円形	1.03 × 1.03	60	外傾	平担	土師器片93,須恵器片11,土製品1(不明),礫1	SK670→本跡→SI220 8世紀中葉～9世紀後葉
670	E 7 a5	N-72°-W	楕円形	1.21 × 0.99	31	緩斜	平担	土師器片1	本跡→SI220, SK658・681
672	D 7 i9	N-0°	円形	1.13 × 1.03	24	緩斜	凹凸		
674	D 7 h9	N-0°	円形	1.25 × 1.22	14	緩斜	平担		SB79→本跡→SI220, SK658・681 8世紀中葉～9世紀後葉
675	D 7 h9	N-67°-W	楕円形	1.17 × 1.03	27	緩斜	皿状	土師器片4,須恵器片4	
678	E 7 b8	N-36°-W	(楕円形)	(1.42 × 1.16)	22	緩斜	平担		本跡→SB70
679	D 7 h6	N-5°-W	不定形	1.50 × 0.88	25	緩斜	皿状		SI219→本跡
680	D 7 f0	N-5°-W	不定形	0.60 × 0.46	26	緩斜	皿状		SD25→本跡
681	E 7 a5	N-0°	円形	1.13 × 1.09	41	緩斜	平担		SK670→本跡→SI220 8世紀中葉～9世紀後葉
687	D 7 j5	N-70°-W	楕円形	0.50 × 0.43	44	外傾	平担		

土坑番号	位置	長径方向(長軸方向)	平面形	規模 長径(軸)×短径(軸)(m)	規模 深さ(cm)	壁面	底面	出土遺物	備考 遺構番号・新旧関係(古→新)時代・その他
688	E 8 b1	N-76°-W	楕円形	0.84 × 0.72	26	緩斜	凹凸		
700	F 9 h1	N-5°-W	隅丸長方形	2.26 × 1.06	45	緩斜	平担	土師器片12,須恵器片11	
701	F 9 c5	N-75°-E	楕円形	1.31 × 0.95	32	外傾	平担		
702	F 9 h2	N-0°	円形	0.39 × 0.39	35	外傾	平担		
703	F 9 j5	N-37°-W	円形	0.85 × 0.80	21	外傾	皿状		
704	F 9 h2	N-0°	円形	0.50 × 0.46	56	垂直	平担		
705	F 9 e5	N-90°	楕円形	0.41 × 0.34	16	緩斜	皿状		
706	F 9 j4	N-34°-W	円形	0.45 × 0.43	30	外傾	皿状		
707	E 9 i4	N-20°-W	長方形	1.15 × 0.64	35	垂直	平担		
708	F 9 i1	N-16°-W	楕円形	0.85 × 0.76	34	緩斜	皿状		
709	F 9 i5	N-55°-E	楕円形	0.58 × 0.49	29	緩斜	平担		
710	F 9 c4	N-72°-E	長方形	1.04 × 0.85	57	垂直	平担		SI192→本跡
711	E 9 h3	N-6°-W	隅丸長方形	0.78 × 0.63	25	垂直	平担		SK726→本跡
712	F 9 e5	N-0°	円形	0.48 × 0.48	53	垂直	平担		
713	F 9 e1	N-0°	不定形	1.08 × 0.75	83	垂直	皿状	土師器片3,須恵器片1	
714	F 9 f2	N-90°	円形	0.55 × 0.53	61	外傾	皿状		SI191→本跡
715	F 9 g2	N-0°	不整円形	0.45 × 0.45	44	外傾	皿状	須恵器片2	
716	F 9 f3	N-49°-W	楕円形	0.62 × 0.55	33	緩斜	皿状		
717	F 9 f3	N-53°-E	不定形	1.05 × 0.68	95	垂直	平担	土師器片2	
718	F 9 f3	N-61°-E	円形	0.55 × 0.50	33	緩斜	皿状		
719	F 9 f2	N-27°-W	楕円形	0.42 × 0.36	34	外傾	平担		
720	F 9 c8	N-18°-W	円形	4.37 × 4.11	239	緩斜	平担	土師器片193,須恵器片156	
721	F 9 f2	N-90°	楕円形	1.44 × 1.16	48	外傾	平担		SI191→本跡
722	F 9 e5	N-90°	不整楕円形	0.68 × 0.51	45	外傾	皿状		
723	E 9 i4	N-37°-W	楕円形	0.49 × 0.44	32	外傾	皿状		
724	F 9 e2	N-34°-W	不定形	0.78 × 0.68	84	外傾	皿状	土師器片3,須恵器片1	
725	F 9 f7	N-0°	隅丸方形	0.45 × 0.45	32	外傾	平担	土師器片4,須恵器片1	
726	E 9 h3	N-18°-W	[長方形]	1.12 × 0.70	28	垂直	平担		SK711→本跡
727	F 9 f7	N-30°-W	楕円形	0.47 × 0.38	53	外傾	皿状	土師器片1	
728	F 9 d5	N-50°-E	円形	0.55 × 0.52	24	外傾	皿状		
729	F 9 e4	N-11°-E	不整円形	0.52 × 0.49	38	外傾	皿状		
730	F 9 g6	N-88°-E	楕円形	0.45 × 0.34	29	外傾	皿状		
731	F 9 e6	N-14°-W	長方形	1.53 × 0.76	33	垂直	凹凸		
732	F 9 f1	N-18°-W	不整長方形	1.14 × 0.72	14	緩斜	平担		SI191→本跡
733	G 9 b5	N-75°-W	楕円形	1.06 × 0.62	31	緩斜	皿状		

表11　柱穴列一覧表

柱穴列番号	位置	方向	柱穴(長さの単位はすべてm) 柱穴	平面形	長径(軸)	短径(軸)	深さ	柱間距離	主な遺物	備考 遺構番号・新旧関係(古→新) 時代
1	H 9 a1	N-4°-E	3	円形	0.66~0.71	−	0.38~0.46	1.48~1.58		9世紀代
2	G 8 g7	N-7°-W	4	円形	0.76~1.16	−	0.13~0.44	1.50~2.00		9世紀前葉～中葉
3	H 9 a1	N-4°-E	3	楕円形	0.43~0.46	0.30~0.36	0.23~0.32	1.45~1.68		9世紀代
4	G 9 d4	N-81°-W	3	円形	0.36~0.40	−	0.32~0.40	2.02~2.10	土師器片1	9世紀前葉

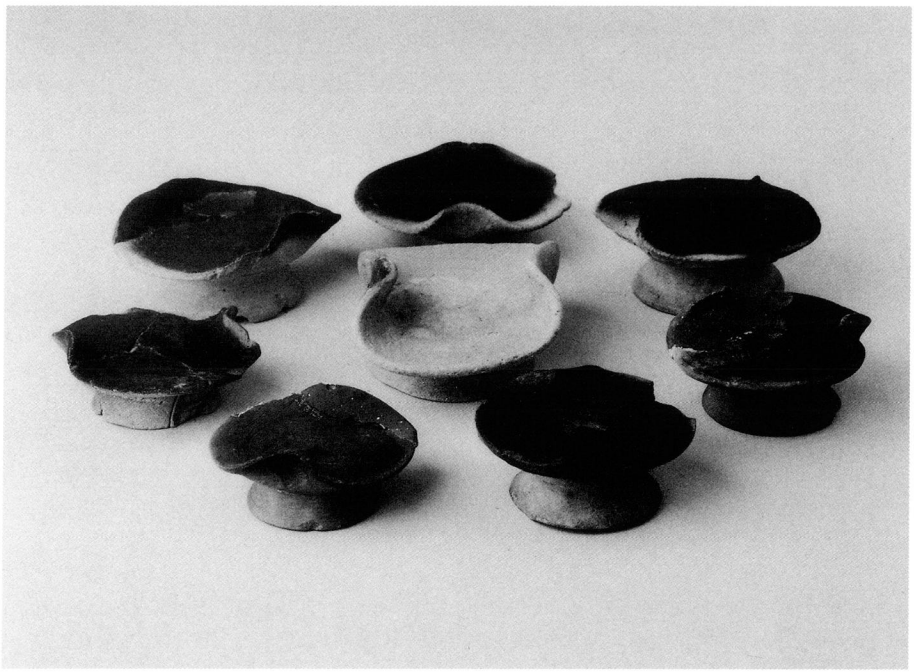
表12　柱穴群一覧表

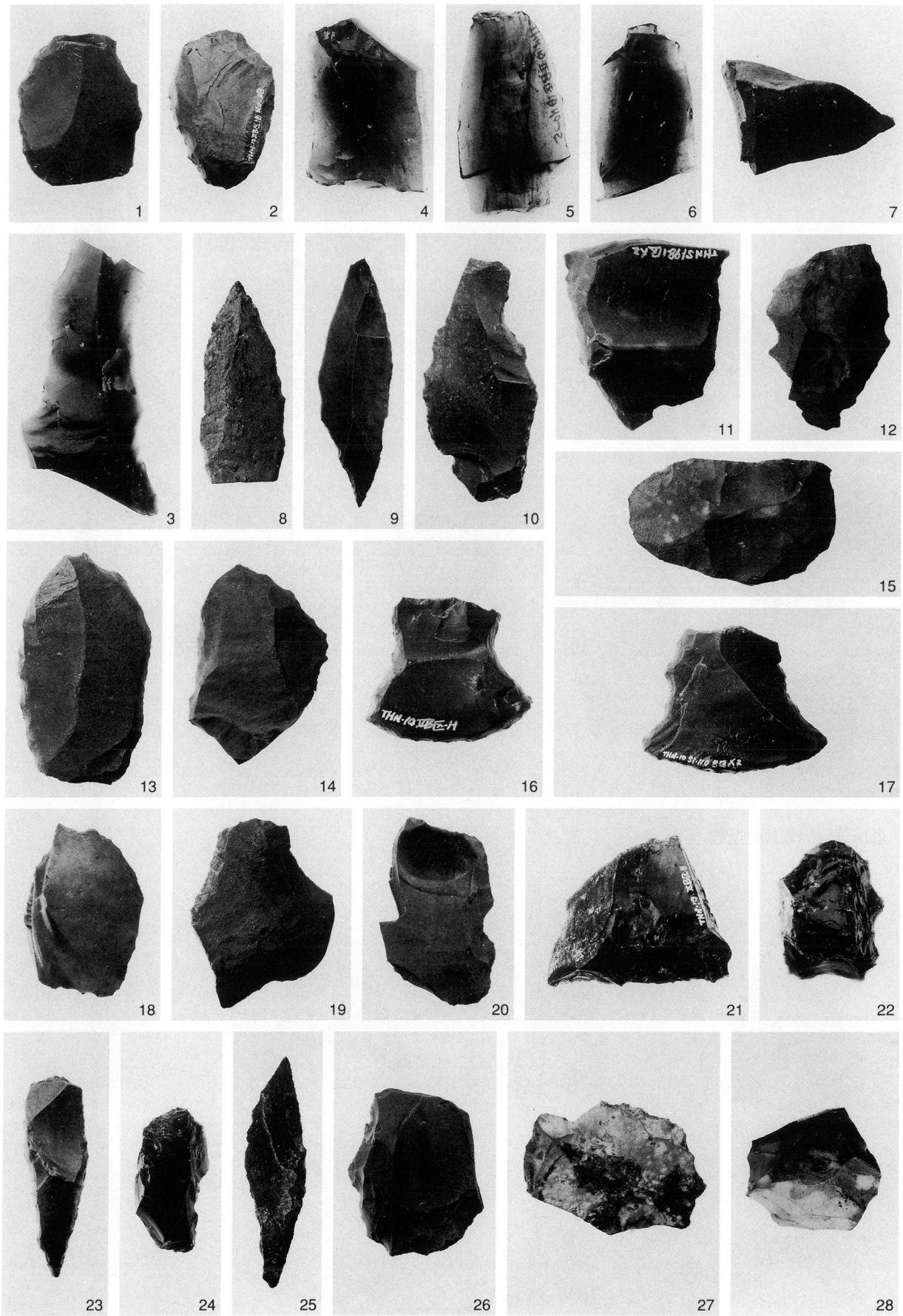
柱穴群番号	位置	柱穴(長さの単位はすべてm) 柱穴	平面形	長径(軸)	短径(軸)	深さ	主な遺物	備考 遺構番号・新旧関係(古→新) 時代
1	G 8 h8	5	楕円形・円	0.55~0.80	0.40~0.72	0.24~0.54	土師器片14, 須恵器片19	
3	G 9 a5	9	楕円形・円	0.32~0.52	0.30~0.54	0.06~0.40	土師器片7, 須恵器片3	8世紀後葉
4	G 9 a8	7	円・不整楕円形	0.62~0.65	0.38	0.16~0.46		8世紀中葉
5	E 7 d7	8	楕円形・円・不整楕円形	0.50~1.18	0.48~0.64	0.28~0.51	土師器片4, 須恵器片7	SI206→本跡(P8)
6	D 7 i8	11	楕円形・円・不整楕円形	0.70~1.05	0.58~0.79	0.25~0.72	土師器片16, 須恵器片20	SI214, SB68, SK674→本跡(P2・4・6・7) SB69との新旧不明
7	E 7 a0	15	楕円形・円	0.56~1.14	0.50~0.94	0.17~0.68	土師器片6, 須恵器片8	SB62・68との新旧不明

表13　溝一覧表

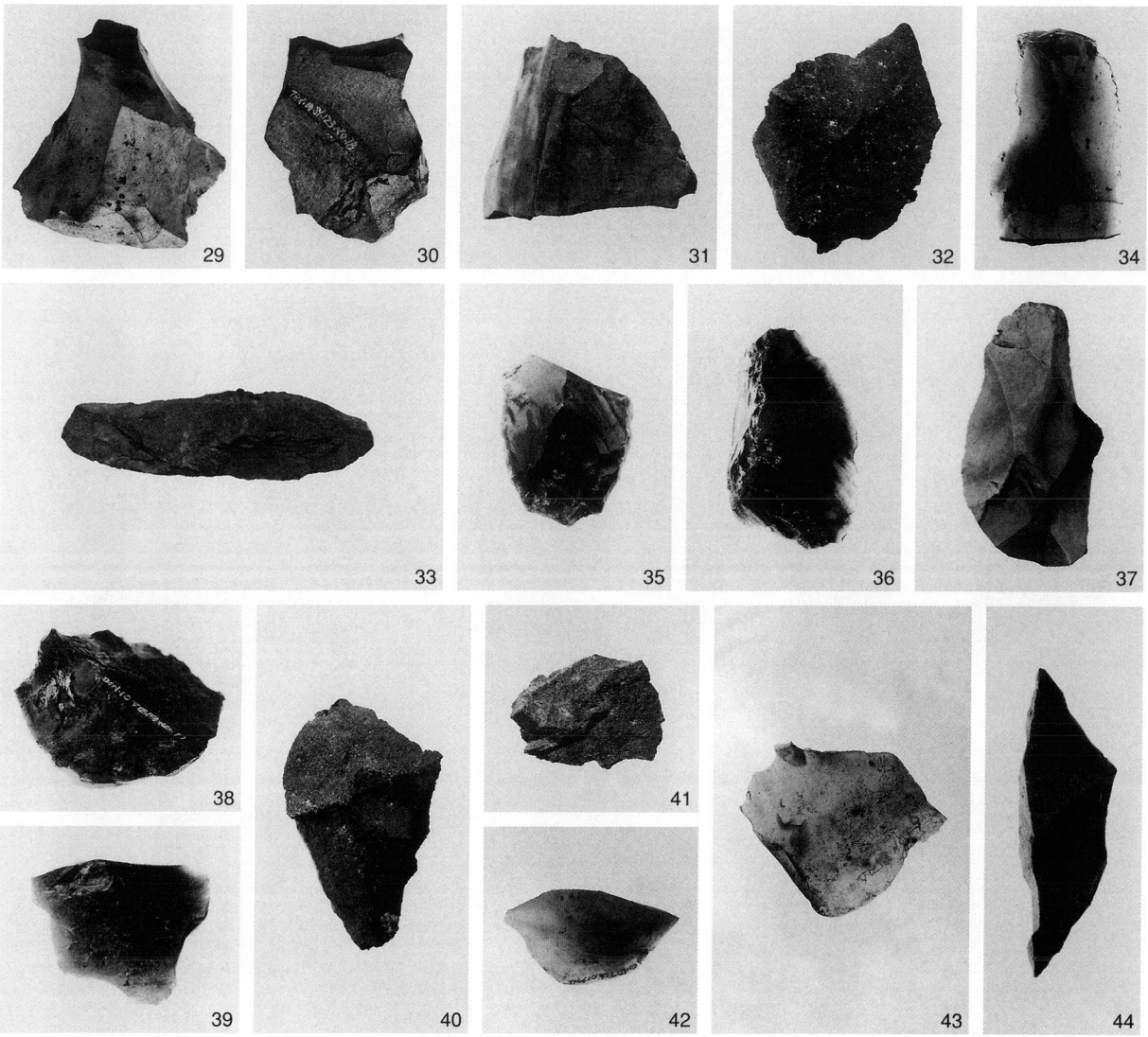
溝番号	中心位置	主軸方向	規模 長さ(m)	規模 上幅(m)	規模 下幅(m)	規模 深さ(cm)	壁面	断面	出土遺物	備考 遺構番号・新旧関係(古→新)時代　その他
12	H 9 g2 ～ H 9 f6	N-75°-E	16.7	0.64～0.90	0.10～0.30	28～40	緩斜	Ⅲ状		区画溝　SI151→本跡→SD 16
13	H 9 i2 ～ H 9 h5	N-73°-E	11.0	0.37～1.20	0.20～0.85	13～18	緩斜	Ⅲ状		区画溝　SI151→本跡→SD 16
15	H 9 f2 ～ H 9 e6	N-75°-E	16.7	1.53～2.10	0.22～0.46	50～55	緩斜	Ⅲ状		区画溝　本跡→SD 16
16	H 9 f2 ～ H 9 j2	N-11°-W	12.8	(0.33 ～ 0.62)	0.08～0.30	60	緩斜	Ⅲ状		区画溝　SD 12・13・15・17→本跡
17	H 9 e6 ～ H 9 i2	N-70°-E	17.9	(0.50 ～ 0.90)	(0.30 ～ 0.60)	(20～22)	緩斜	Ⅲ状		区画溝　SD 16→本跡
21	G 8 a4 ～ G 8 b2	N-77°-E	13.0	0.35～0.42	0.16～0.26	12～18	緩斜	Ⅲ状		区画溝　SI162→本跡
22	G 8 d0 ～ G 8 i7	N-3°-E N-85°-E	(22.1)	0.50～0.78	0.31～0.46	10～13	緩斜	Ⅲ状		区画溝　SI166→本跡
23	G 9 c7 ～ G 10b2	N-76°-E	15.6	(1.00 ～ 1.90)	－	(18)	緩斜	Ⅲ状	土師器片21，須恵器片23，陶器細片 2	区画溝　SI158・159→本跡
24	D 7 f5 ～ D 7 e3	N-23°-E	34.9	1.03～0.21	0.06～0.76	10～28	緩斜	Ⅲ状		区画溝　SI207・217・218・220・221→本跡
25	D 7 f4 ～ D 8 f4	N-88°-E	38.1	0.58～0.94	0.10～0.27	17～44	緩斜	Ⅲ状		区画溝　SI226～228→本跡→SD 24

写　真　図　版

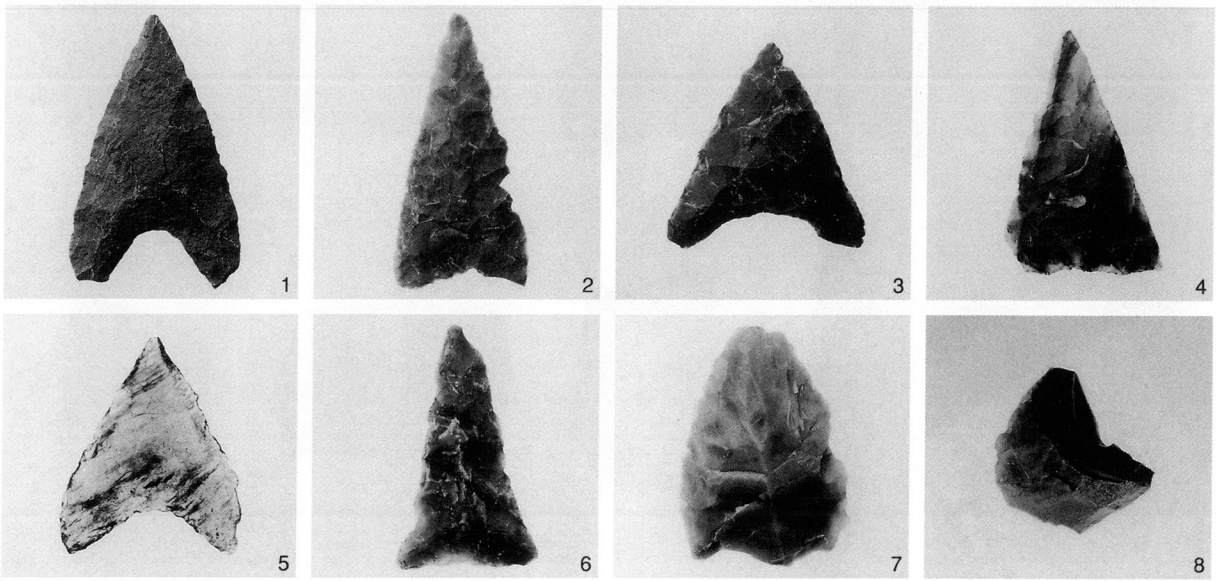




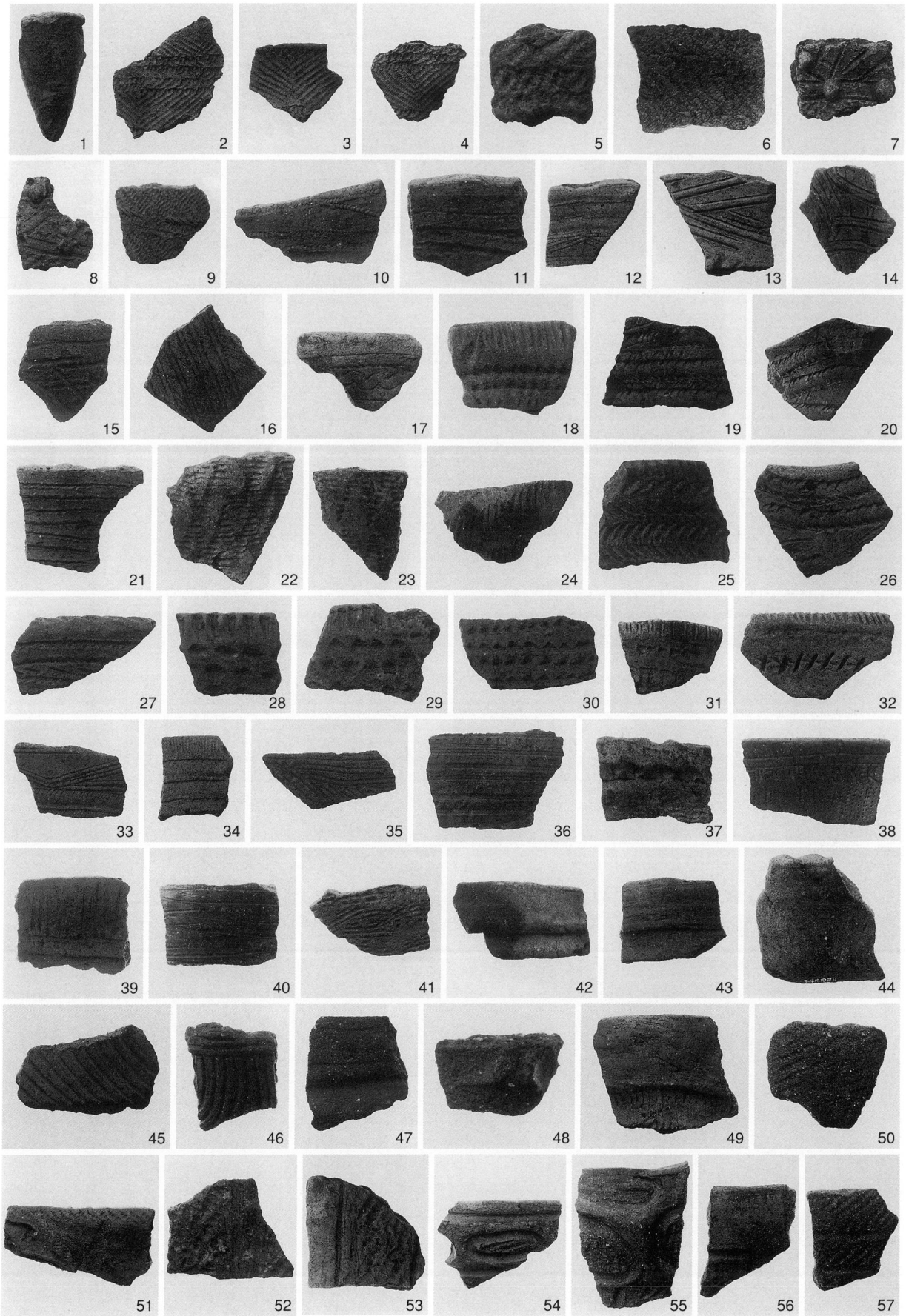
旧石器時代出土遺物（1）



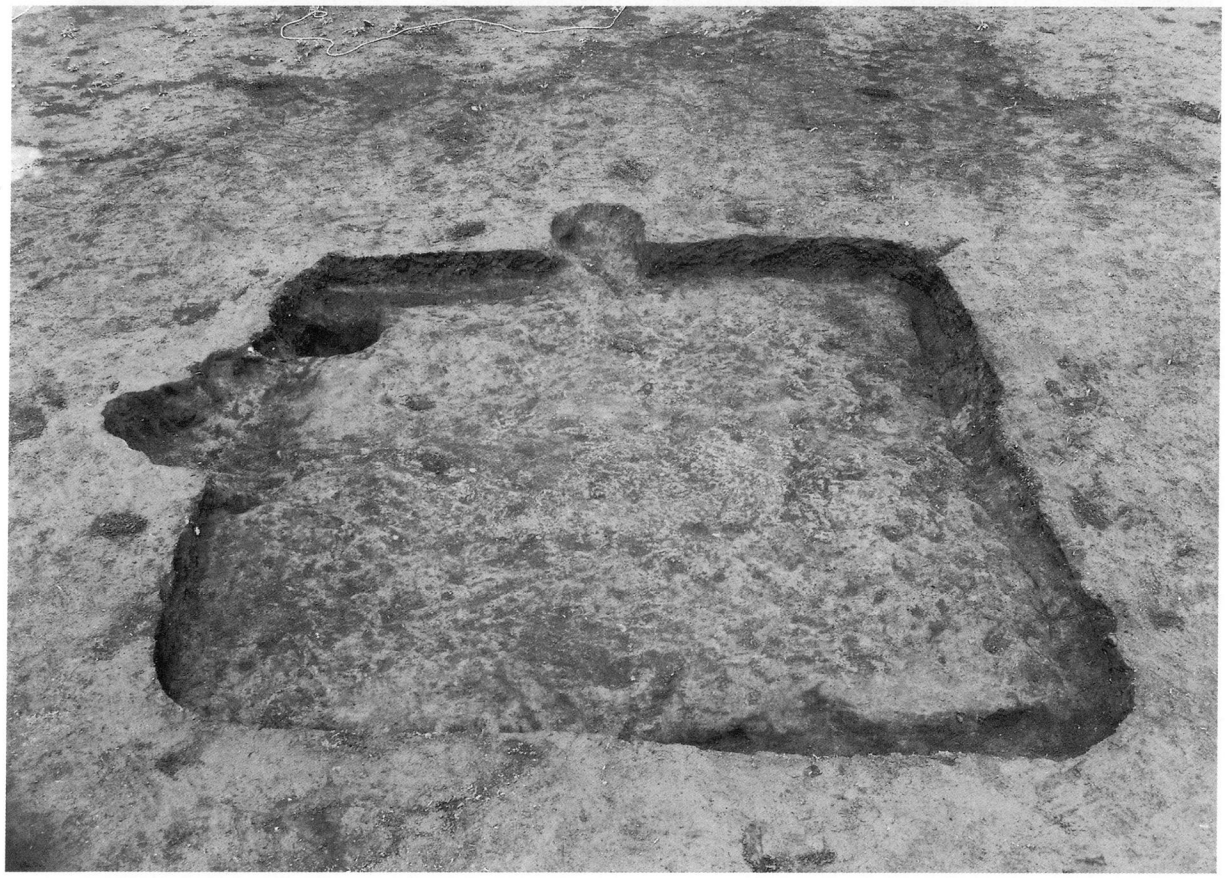
旧石器時代出土遺物（２）



縄文時代出土遺物（石器）

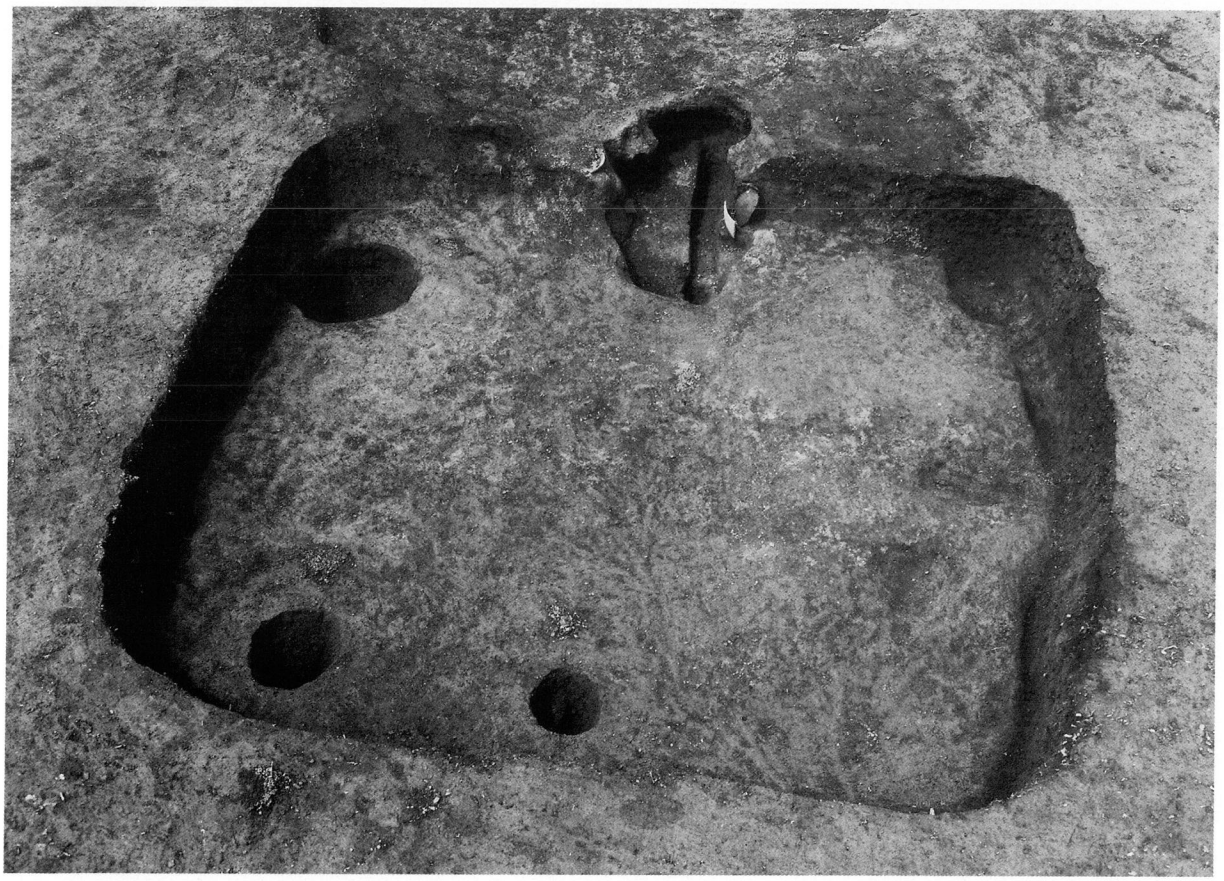


縄文時代出土遺物（縄文土器）



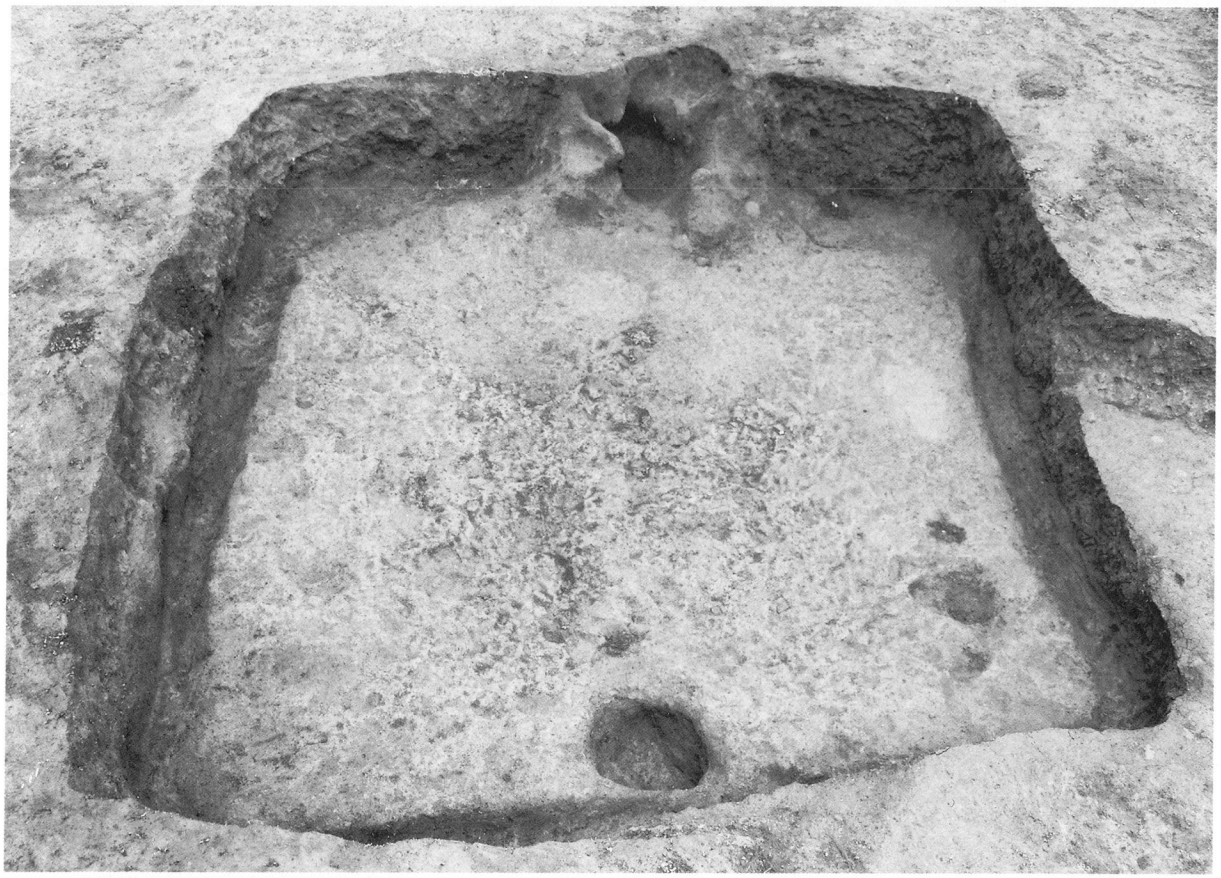
第91号住居跡竈遺物出土状況，第92号住居跡

第94号住居跡竈遺物出土状況，第93・96号住居跡



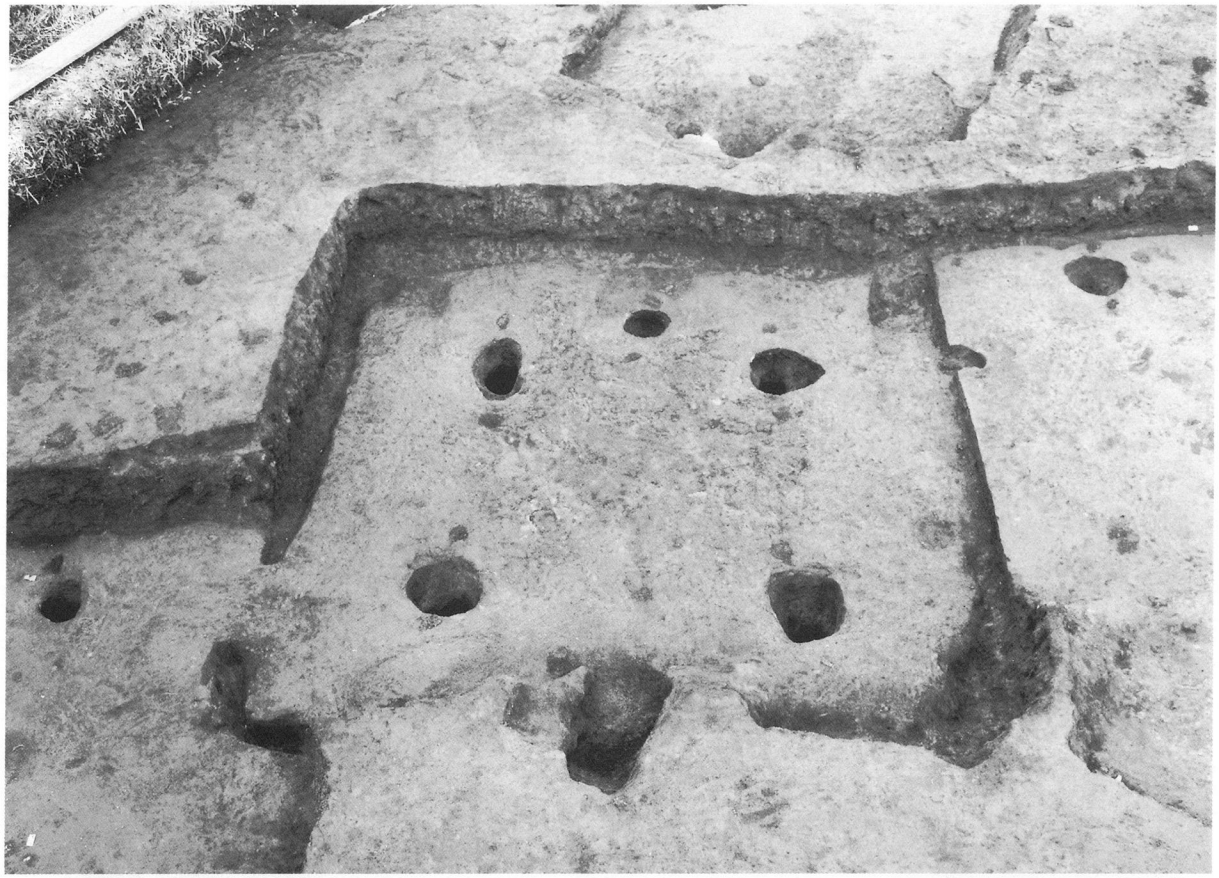
第97号住居跡，第98号住居跡

第94・99号住居跡，第102号住居跡

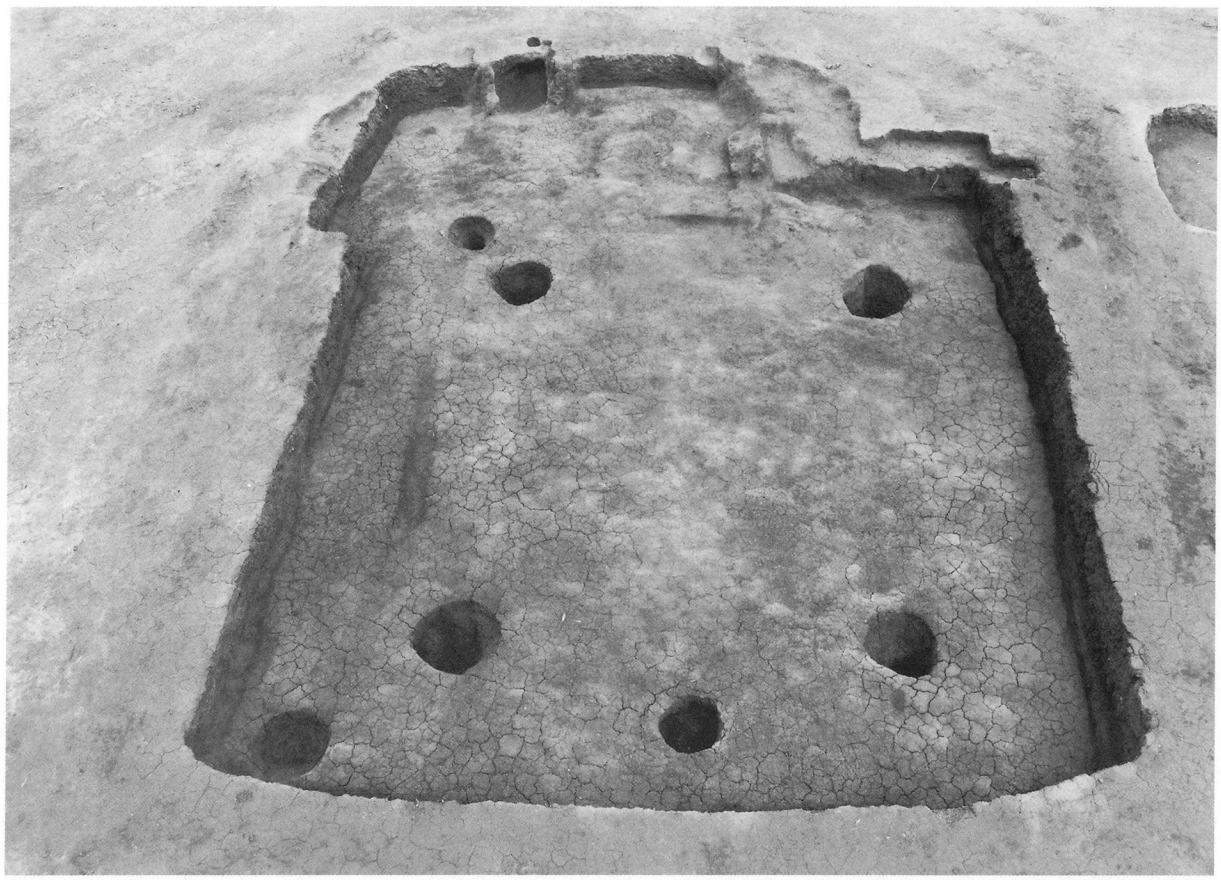


第104号住居跡，第105号住居跡

第106号住居跡竈遺物出土状況，第107号住居跡竈遺物出土状況

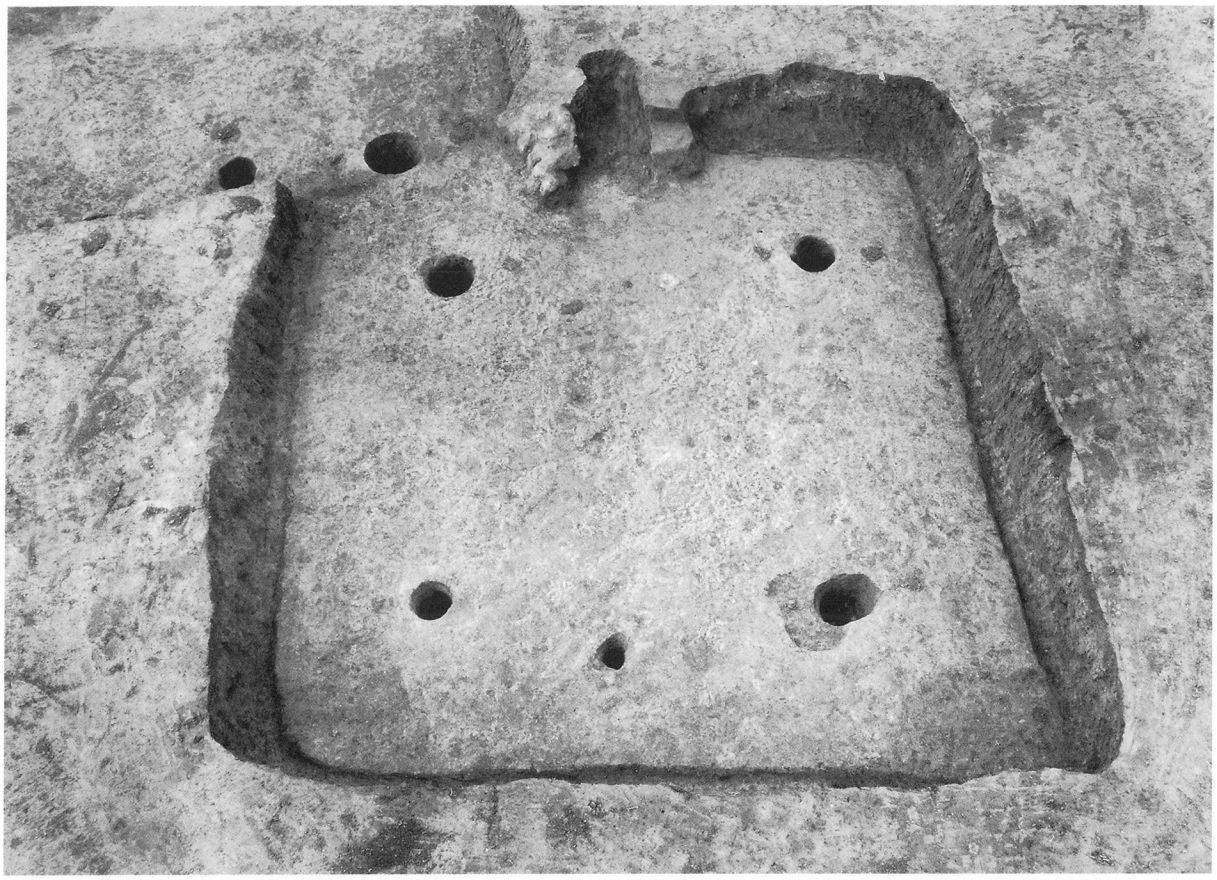


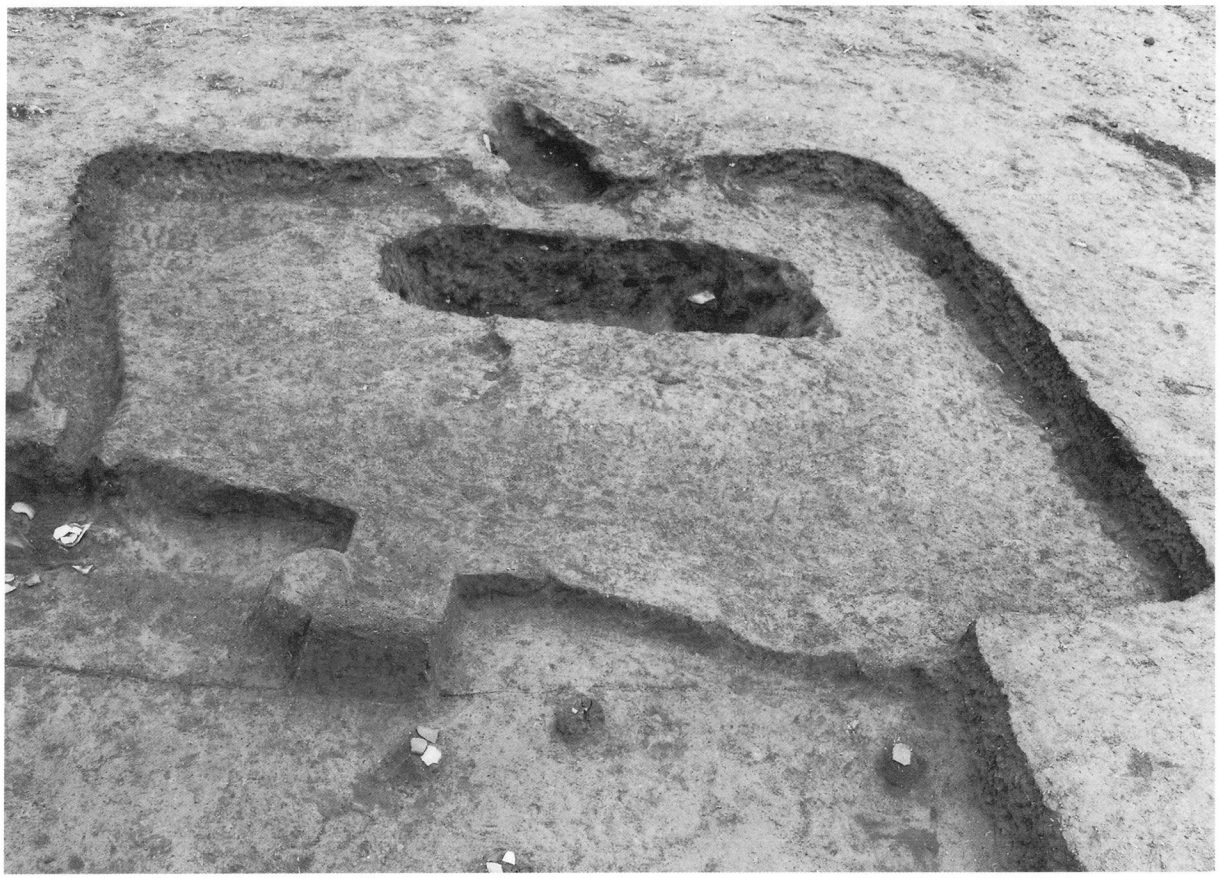
第108号住居跡，第109号住居跡



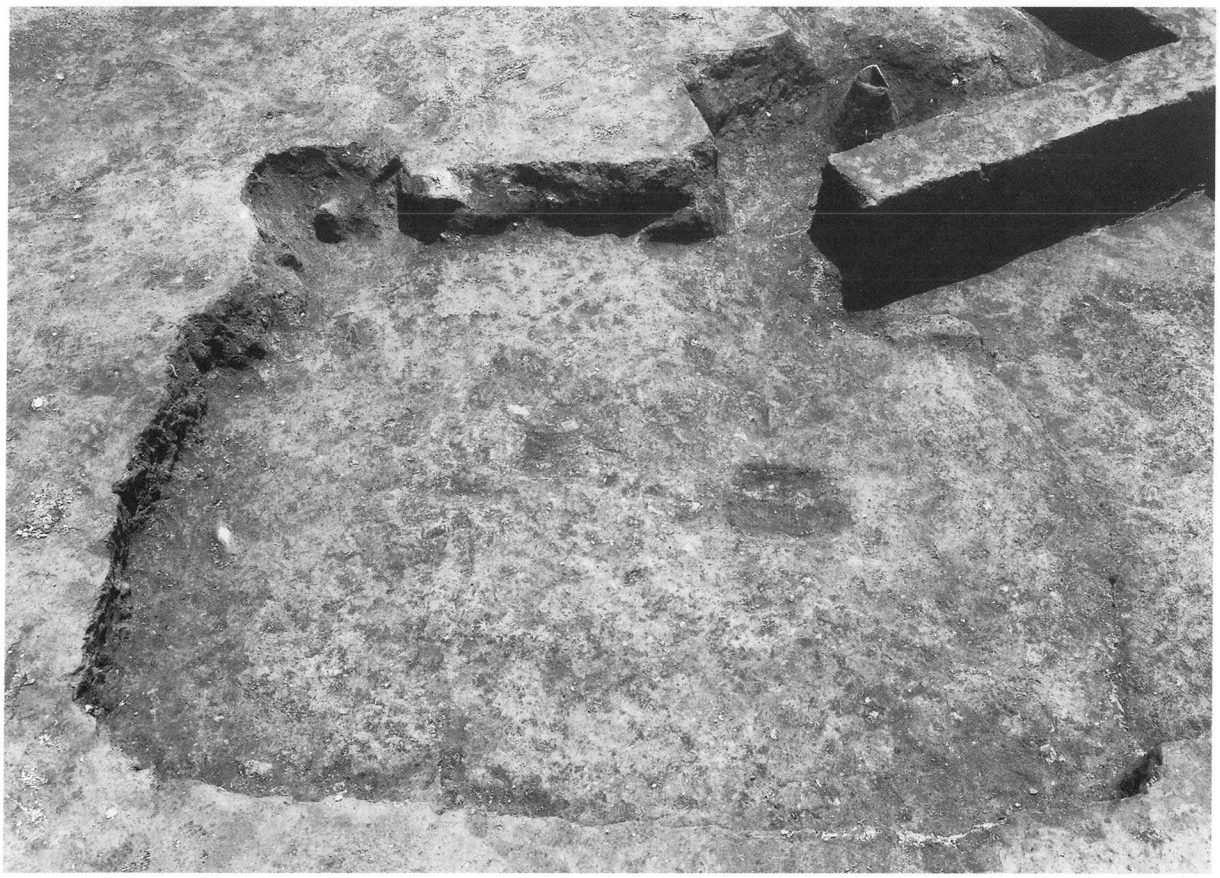
第110・118号住居跡，第111号住居跡

第112号住居跡，同竈遺物出土状況

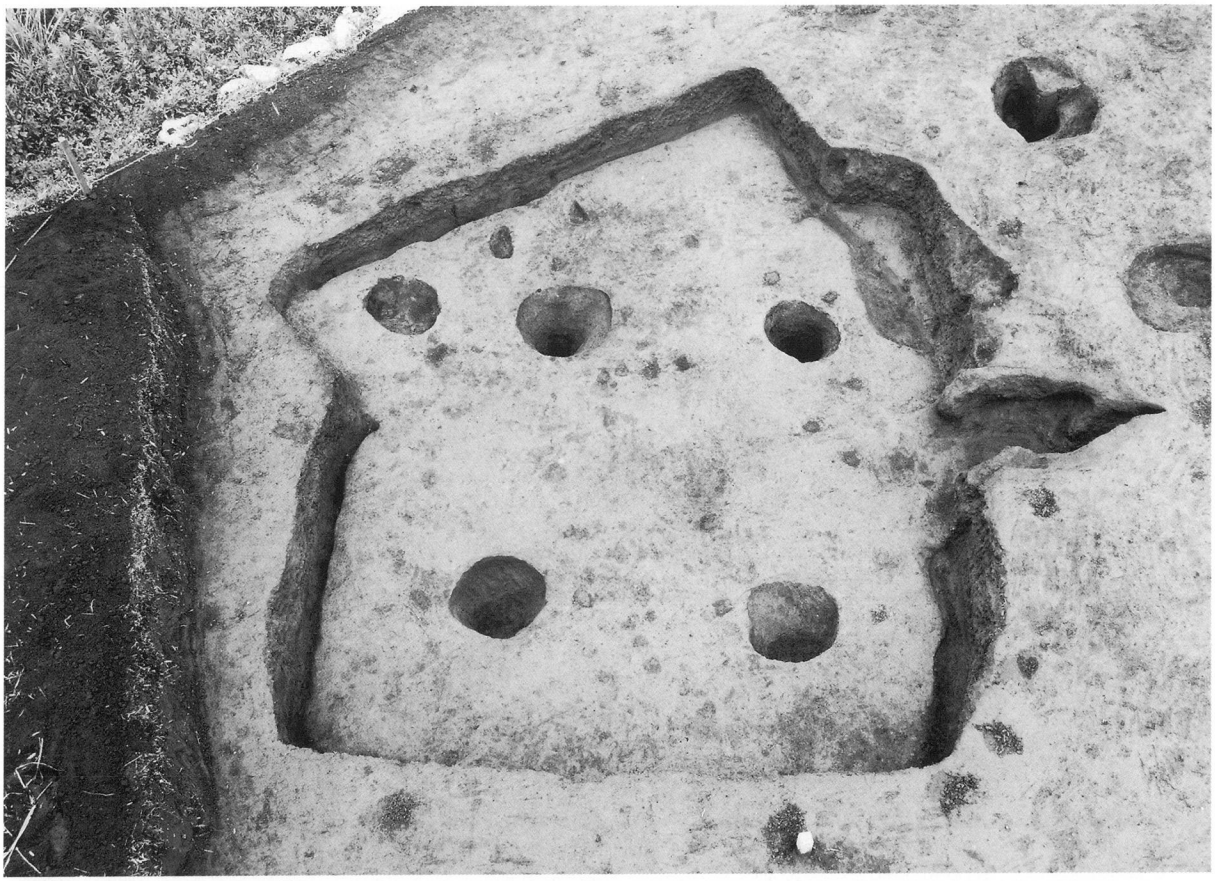




第113号住居跡，第115号住居跡



第117号住居跡，第119号住居跡



第90・120号住居跡，第121号住居跡

第123号住居跡，第124号住居跡

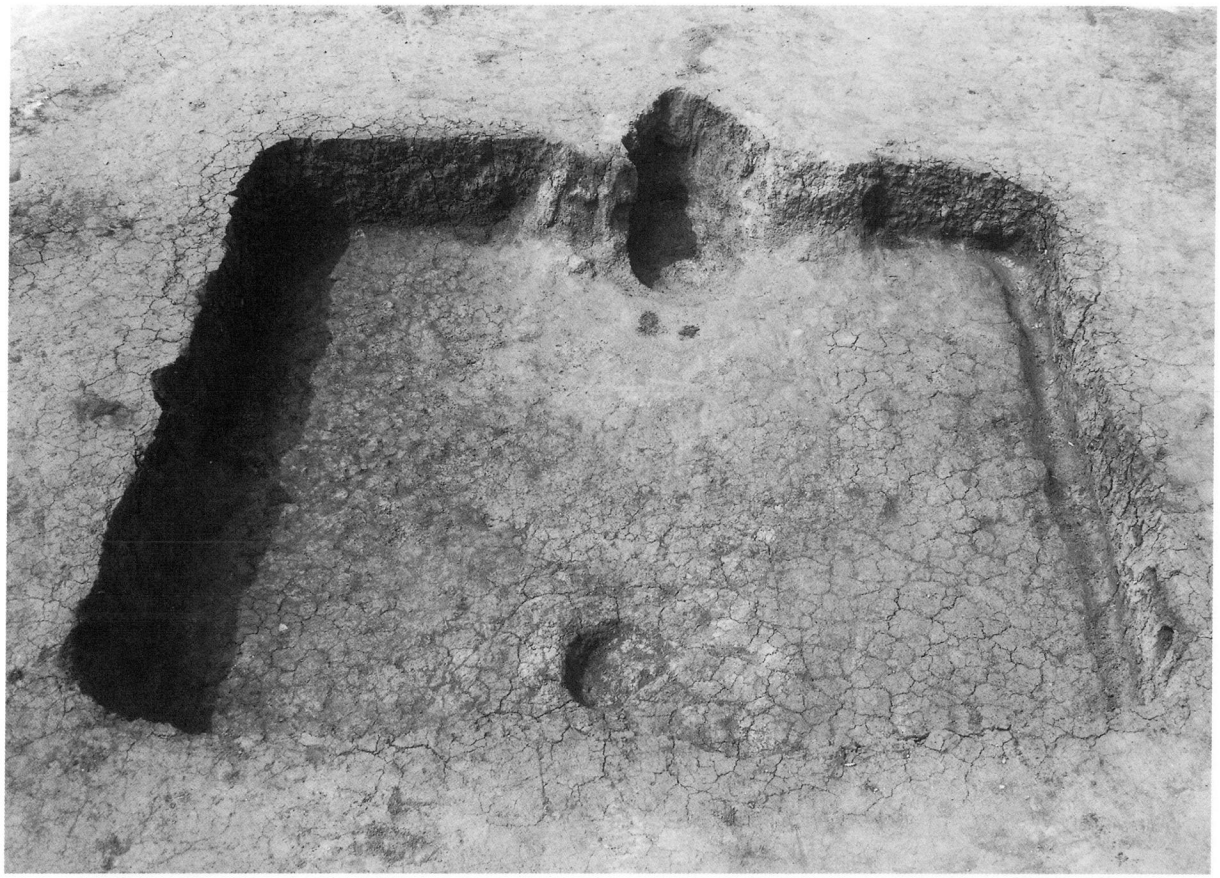
第126号住居跡，第127号住居跡

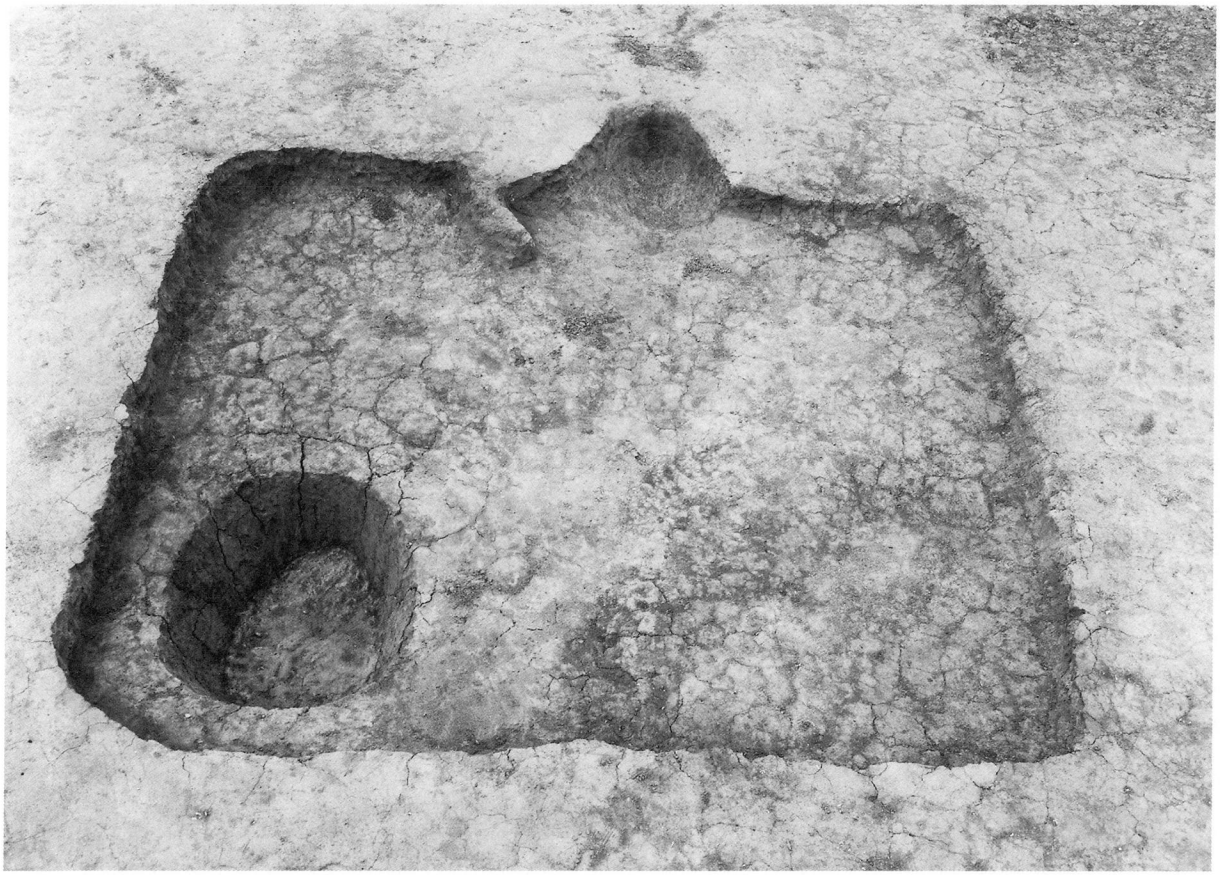
第128号住居跡，第130号住居跡

第131号住居跡，第133号住居跡

第134号住居跡，第136・137・144号住居跡

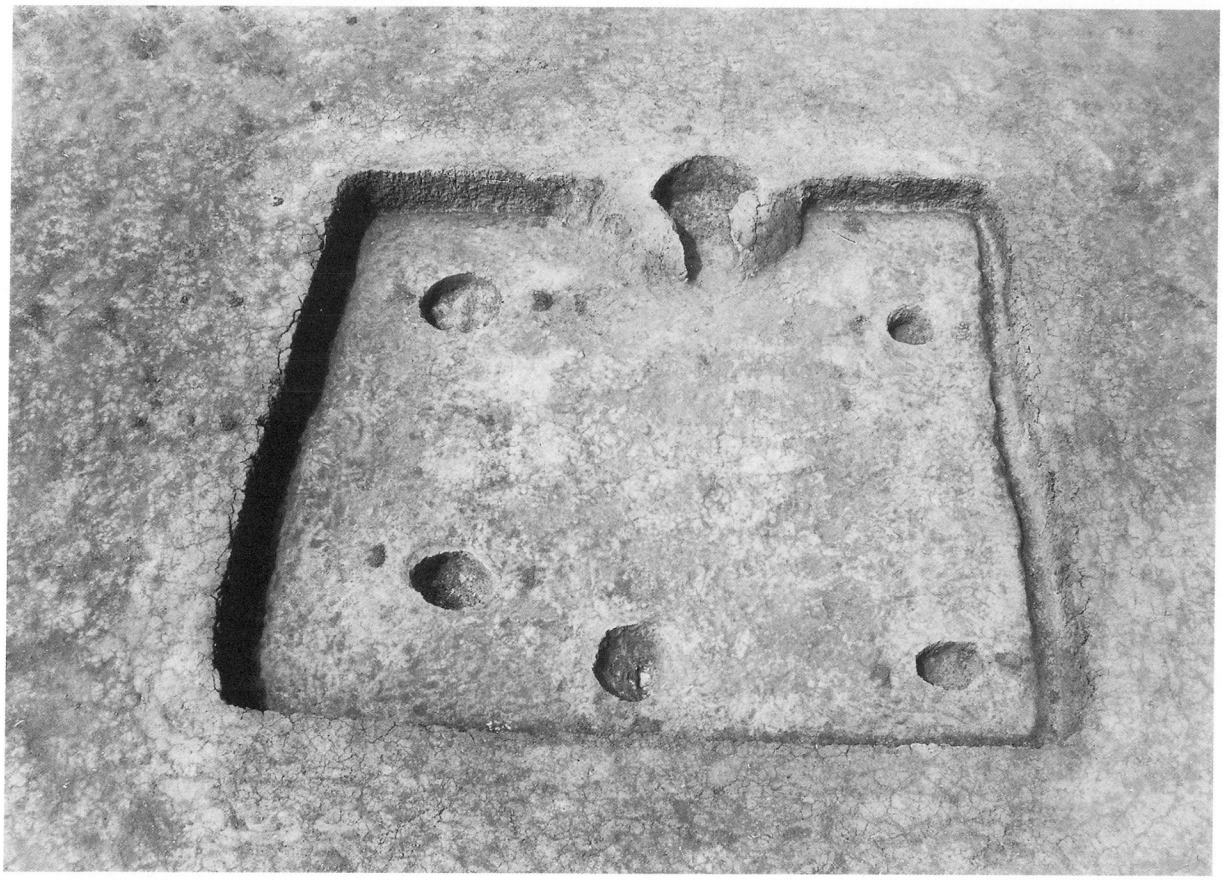
第138号住居跡，第139号住居跡



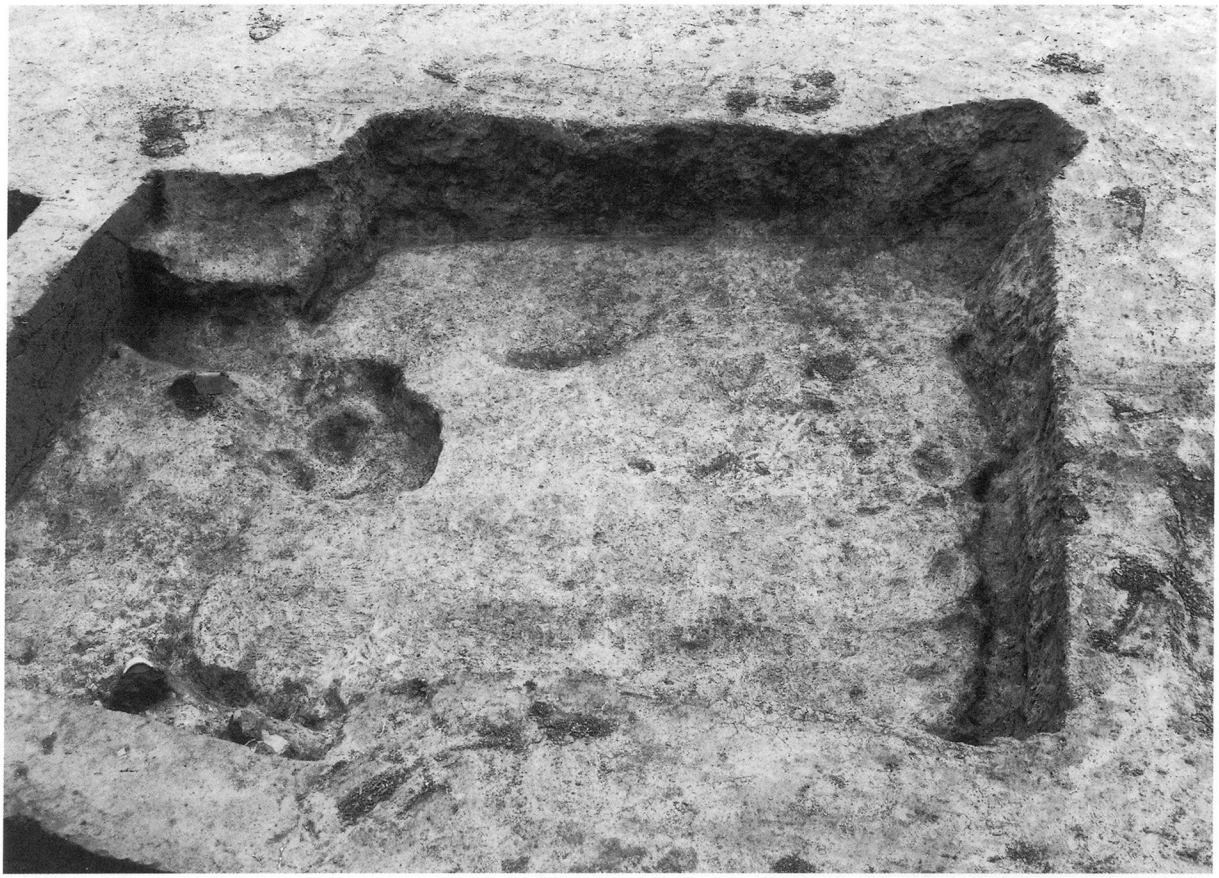


第145号住居跡，第146号住居跡

第146号住居跡竈遺物出土状況，第149号住居跡

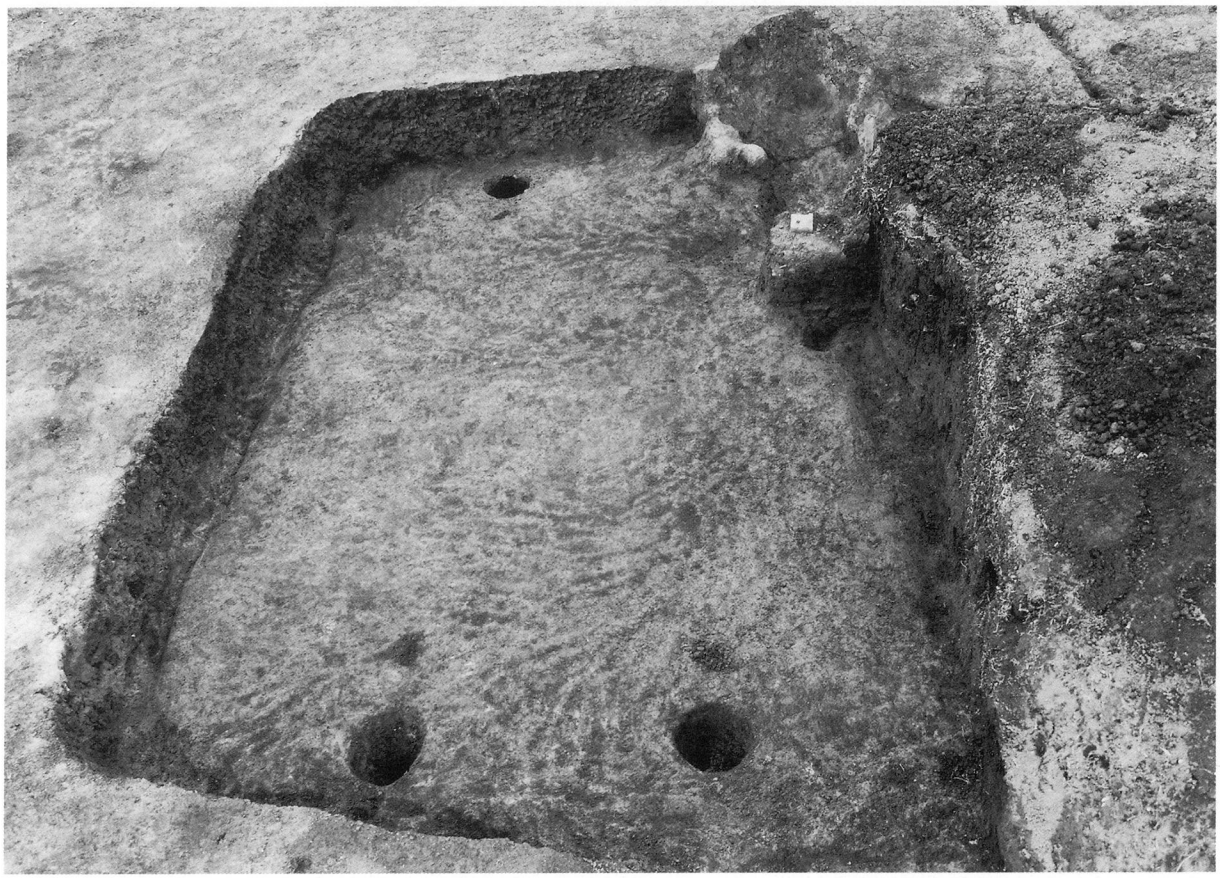


第151号住居跡，第153号住居跡

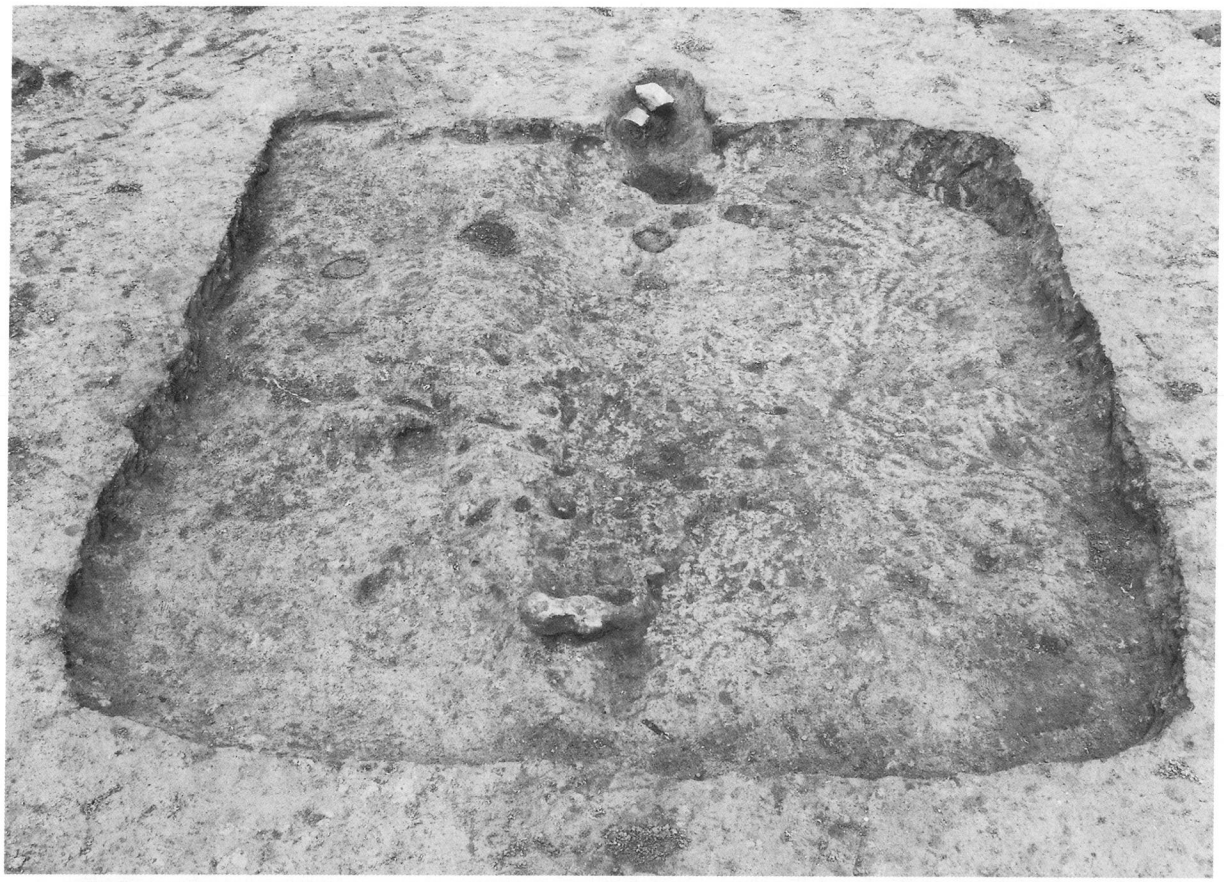


第154号住居跡，同竈遺物出土状況

第155号住居跡，同竈遺物出土状況

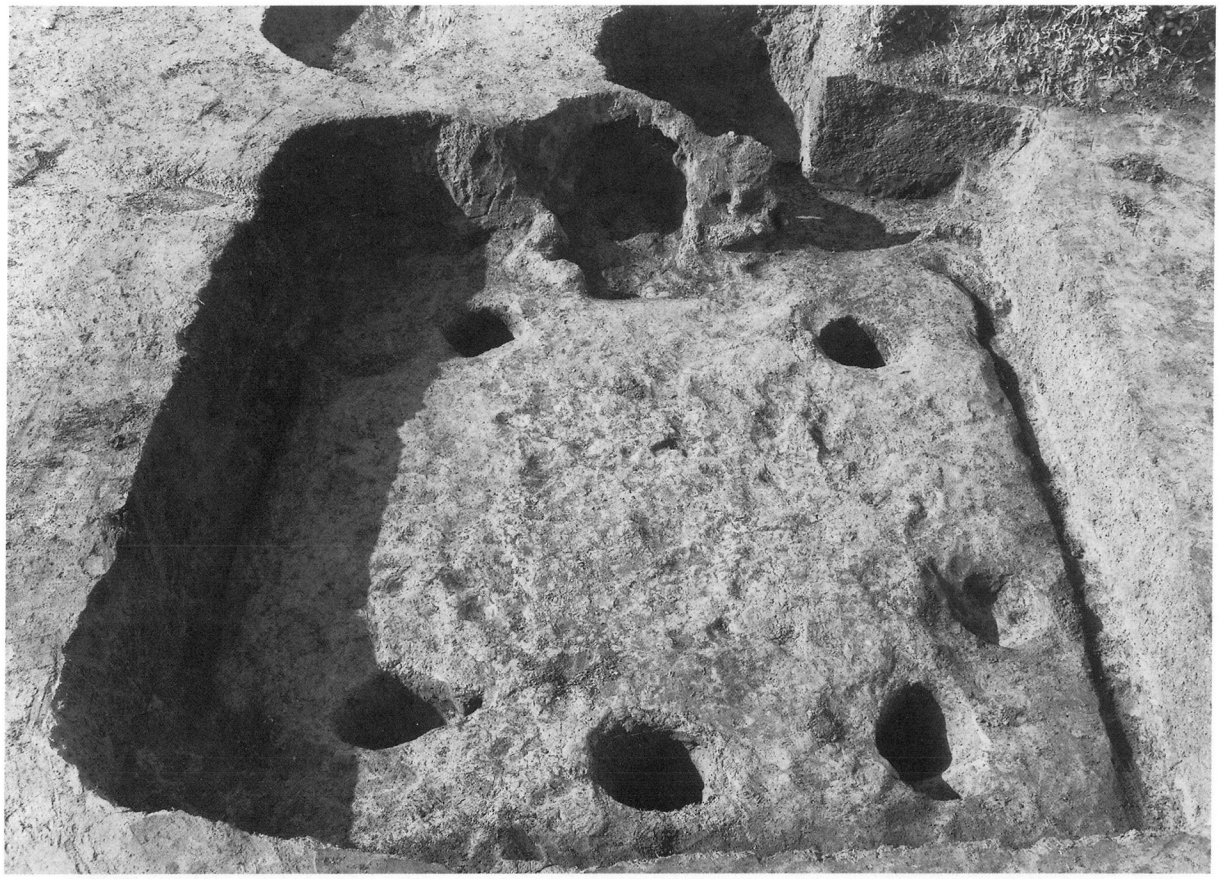


第157号住居跡，第158号住居跡竈遺物出土状況

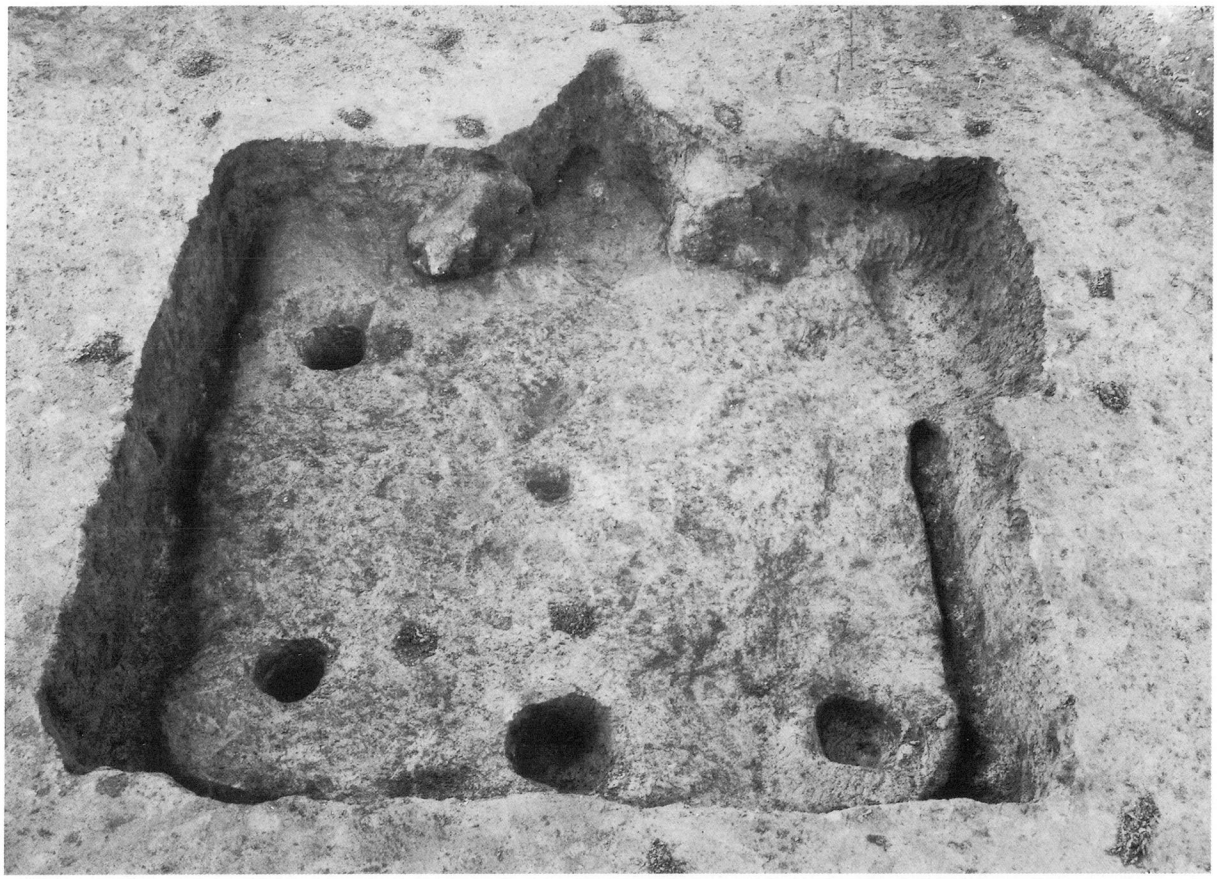


第161号住居跡，第162号住居跡

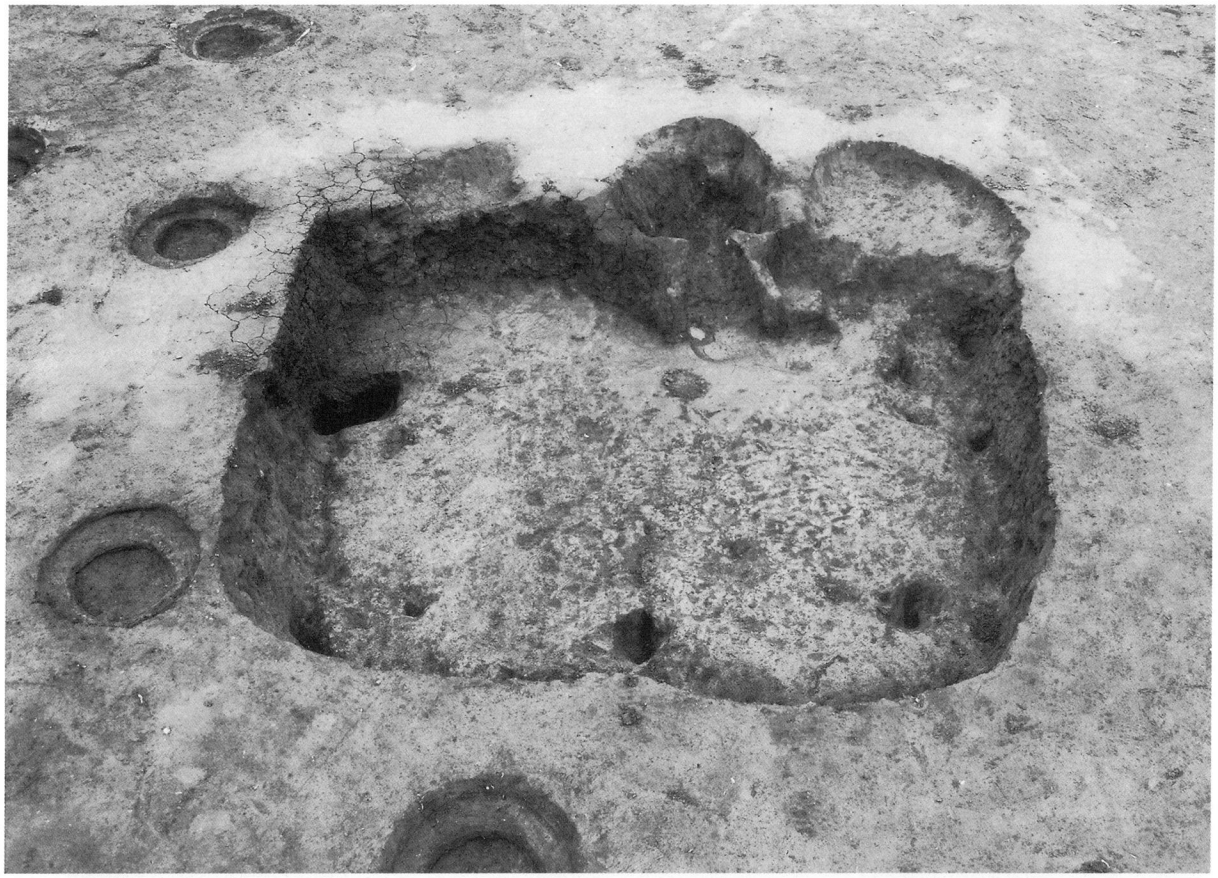
第164号住居跡竈西袖遺物出土状況，同竈東袖遺物出土状況



第165号住居跡，第166号住居跡



第167号住居跡，第168号住居跡



第169号住居跡，第170・171号住居跡

第171号住居跡遺物出土状況，同銅鋺出土状況